

連歌屋遺跡 1

太宰府市文化財調査報告書

連歌屋遺跡1・2・3・4・6・7・8次調査

大町遺跡2次調査

天満宮参道6次調査



2003

太宰府市教育委員会

連歌屋遺跡 1

太宰府市文化財調査報告書

連歌屋遺跡1・2・3・4・6・7・8次調査

大町遺跡2次調査

天満宮参道6次調査

2003

太宰府市教育委員会

序

今回報告いたします連歌屋遺跡群は、太宰府天満宮周辺でおこなった埋蔵文化財の発掘調査であります。

連歌屋遺跡周辺は、現在では天満宮周辺に広がる町屋地区であり、商と住が共生しながら町並みを形作ってきました。

今回の調査では平安時代の区画を示す遺構や、中世の建物や溝跡、近世の建物跡、文字を記した土器など、今まで存在が知られていなかった、町屋地区の成立にかかわる貴重な遺構や遺物が発見されました。

今後、本報告が周辺地域の歴史的環境を復元する作業の基礎資料として、また広く文化遺産の保存と啓発に活用していただければ幸いに存じます。

また、調査及び整理に参加されました作業員の皆様、調査にご理解ご協力いただきました地元地区ならびに関係機関の皆様に対して、厚く御礼申し上げます。

平成 15 年 3 月

太宰府市教育委員会
教育長 關 敏 治

1. 本書は、太宰府市教育委員会が平成元年から平成10年度に実施した連歌屋遺跡第1・2・3・4・6・7・8次調査、大町遺跡2次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。付編として天満宮参道6次調査の鳥居の解体修理調査を収録している。
2. 本書に掲載した資料の調査に関わる経緯については、各章に記載している。
3. 本書に掲載した資料の整理は、主に平成13、14年度に実施した。
4. 周辺調査区の配置については本文中の周辺遺跡図を参照されたい。
5. 遺構および遺物の実測及び図の浄書は、調査、整理・執筆担当の他、森田レイ子・島鈍子・酒井三保子・森部順子・松本理栄子・阿部浩子・境一美・松隈里恵子・森若知子・井上由紀子・平島義孝・深江暁子・坂本雄介・長直信がおこなった。なお、連歌屋遺跡第4次調査の遺物整理については、中島恒次郎の指導のもと、平島、坂本が行い、遺物原稿については高橋学が必要な部分を補足した。
6. 遺物の写真撮影は山村信榮、高橋がおこなった。
7. 出土した金属製品の保存処理は下川可容子が担当した。
8. 本書に掲載される遺構番号は、以下の要領で理解される。なお遺構の性格を表記する記号については、SB 御立柱建物跡、SA 欄柵跡、SI 住居跡、SK 土坑、ST 墳墓、SD 溝、SX その他の遺構 などであり、略号として以下のように記載している。



9. 本書の執筆は山村、井上信正、深江、高橋、坂本がおこなった。分担については目次に記載している。また、編集は山村がおこなった。
10. 出土遺物および図面、写真等の記録は太宰府市教育委員会が保管している。
11. 本書で用いる分類は以下の文献に記載されている。

陶磁器

太宰府市教育委員会（2000）『太宰府築坊跡 XV』

上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」（1982）『貿易陶磁研究』No.2

森田勉「14～16世紀の白磁の分類と編年について」（1982）『貿易陶磁研究』No.2

中世須恵器

荻野繁春（1985）「西日本における中世須恵器系陶器の生産資料と編年」『福井考古学会誌』3

瓦

太宰府天満宮（1988）『太宰府天満宮』

太宰府市教育委員会（1995）『太宰府天満宮 III』

太宰府市教育委員会（1997）『筑前国分寺跡 I』

目次

第1章 調査環境（山村）	1
第2章 歴史と環境（山村）	3
第3章 調査の報告	5
（1）連歌屋遺跡第1次調査（山村）	5
（2）連歌屋遺跡第2次調査（山村）	69
（3）連歌屋遺跡第3次調査（井上、深江）	107
（4）連歌屋遺跡第4次調査（高橋、坂本）	123
（5）連歌屋遺跡第6次調査（山村）	154
（6）連歌屋遺跡第7次調査（山村）	185
（7）連歌屋遺跡第8次調査（山村）	187
（8）大町遺跡第2次調査（山村）	214
第4章 調査の総括（山村）	219
第5章 附編 太宰府天満宮参道6次調査（山村）	221

写真図版

- （1）連歌屋遺跡第1次調査
- （2）連歌屋遺跡第2次調査
- （3）連歌屋遺跡第3次調査
- （4）連歌屋遺跡第4次調査
- （5）連歌屋遺跡第6次調査
- （6）連歌屋遺跡第7次調査
- （7）連歌屋遺跡第8次調査
- （8）大町遺跡第2次調査
- （9）太宰府天満宮参道第6次調査

第1章 調査環境

1. 調査の概要

本報告のうち連歌屋遺跡6・7次調査は市施行の小島居小路線道路改良工事に伴って、その他は住宅、集合住宅および店舗等の建替えに伴って発掘調査を実施した。詳細については各章で述べている。

2. 整理作業の体制

本報告の整理に係わる本書発行年次の体制は以下の通りである。

(平成14 / 2002年度)

総括	教育長	關 敏治
庶務	教育部長	白石純一
	文化財課長	木村和美
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	神原 稔
	事務主査	藤井泰人
	主任主事	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利
	技術主査	山村信榮
		中島恒次郎
	主任技師	井上信正
		高橋 学
		宮崎亮一
	技師(囑託)	下川可容子
		森田レイ子
		柳 智子
		渡邊 仁

整理の流れや分類基準に関する参考文献については詳細に既述しており、以下の文献をご参照いただきたい。

『太宰府・佐野地区遺跡群Ⅰ』1989 太宰府市教育委員会

『大宰府条坊跡XV』陶磁器分類編 2000 太宰府市教育委員会



fig1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

- 1 連歌屋遺跡 (集落)
- 2 大町遺跡 (集落)
- 3 天満宮参道遺跡6次
- 4 太宰府天満宮遺跡 (寺院)
- 5 天満宮参道遺跡
- 6 馬場遺跡 (集落)
- 7 新町遺跡 (集落)
- 8 奥園遺跡 (集落)
- 9 三条遺跡 (集落)
- 10 原遺跡 (寺院、山城、集落)
- 11 浦の田遺跡 (墳墓)

第2章 歴史と環境

連歌屋遺跡は太宰府市の北東部、宝満山裾の標高約50mの花崗岩風化土上に堆積した礫層を基盤とする緩斜面上にあり、遺跡の北と西側は博多湾に注ぐ御笠川に画される。東は現太宰府天満宮の境内と接している。

周辺には天満宮境内の丘陵を隔てた北側に宝満山遺跡群が、東側は御笠川越しに原遺跡群という天台系の寺院を主体とした中世遺跡群に囲まれている。南には大町、馬場、奥園、新町遺跡とさらに中世を主体とする集落関連遺跡が連続して、大宰府条坊エリアに続いている。

遺跡の始りは本報告にもあるがチャート製の石核が出土しており、旧石器段階にまで遡る可能性があるが、遺構や遺物包含層がはっきり形成されているのは、新町遺跡3次調査で確認された縄文晩期後葉の黒川式期を待たなければならない。本報告においても当該期のもと考えられる土器片や石鍬片の出土が報告されており、当時の生活ステージとして周辺が利用されていたことがわかる。

その後の弥生、古墳時代に付いては報告例がなく、不明な状況である。8次調査では上限が7世紀後半に置かれる須恵器の坏の出土が報告され、8世紀に属す須恵器は周辺で点的に散見されるようになる。しかし、本格的に人手により土地に手が加わるのは大宰府条坊第3期に当たる12世紀段階のことと見られ、本報告の1、6次調査では当該期の南北の区画溝が検出されている。

それ以降は活発に盛り土整地と遺構の形成がおこなわれ、安楽寺境内前面に一大集落が展開する。中世後半にも言おうが遺構が散見され、14世紀前半に生活痕跡が急速になくなる周辺遺跡群とは異なる様相を示している。中世都市としての大宰府が終焉を迎えた後は、このエリアが一定程度、地域の中核を担ったものと考えられる。近世の黒田藩体制に至って宿駅に指定され、門前町として発展を遂げた下地が中世にあったことは間違いない。

近世には地誌などに収録された絵図などによれば本遺跡周辺は天満宮の権官司家の小島居家の屋敷があり、北側には藩が置いた代官屋敷（または御造営奉行所）、その東側に御倉所などが展開する。代官屋敷の道を挟んで向かいには連歌屋が置かれ、本地域の地名の由来となっている。

近代には神仏分離によって社家が解体され、屋敷が細分化され、鱧の寝床式の土地割りが進行したものと考えられる。一時期は1次調査地点に村役場が置かれ、地域の中核を成していた。

この街区を南北に貫く道は東西方向に延びる天満宮の表参道の中央から北に分岐した道で、近世後半の段階から、道沿いには小規模な店舗が並んでいた状況が見られ、近代以降の様相も参道とは多少様相が異なる地域を対象とした商業地域として発展した模様である。現代の通りの様相はその雰囲気を引き継ぐが、小規模店舗が次第に撤退している状況がある。

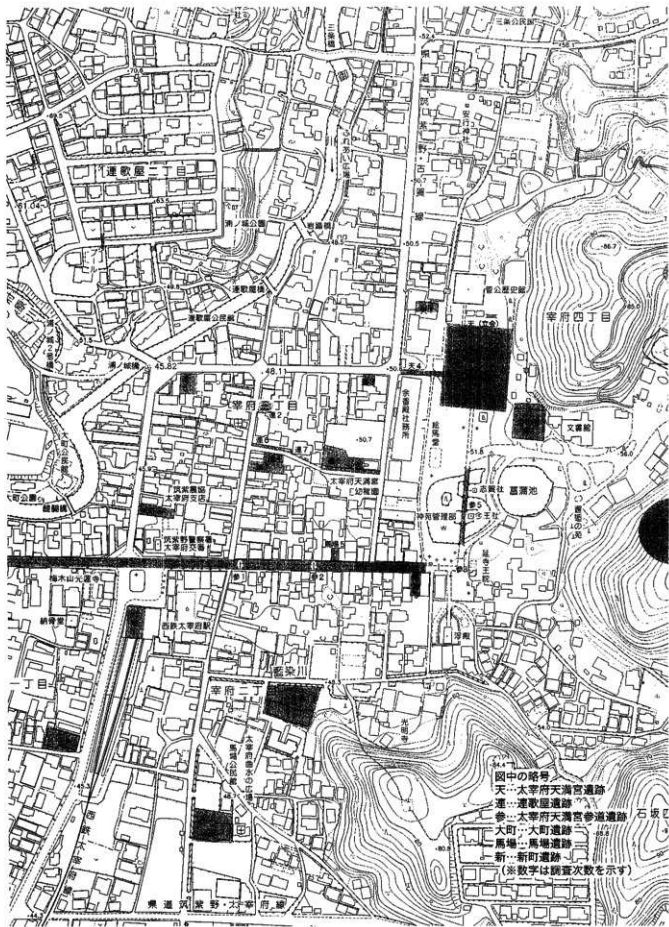


fig2 連歌屋遺跡周辺調査区図 (1/3,000)

第3章 調査の報告

(1) 連歌屋遺跡 第1次調査

1. 調査の経緯

調査地は、太宰府市府前3丁目1179-2に所在する。ここは太宰府天満宮の参道から北へ100m程の、通称「小鳥居小路」に面した地点である。土地は間口が狭く奥に長い短冊形地割を呈す。

当該地番の地権者の申請に基づき平成2年4月より発掘調査を実施した。後に調査された4次調査は本調査区の北隣に位置する。調査は山村信榮が担当した。

連歌屋遺跡1次調査抄(1990年)

- 4.16 重機による表土除去
- 4.17 検出遺構面の調査着手
- 4.21 トラバース測量
- 4.25 清掃後、空中写真撮影
- 5.9 全体図実測。東地区暗灰土掘り下げ
- 5.10 東地区灰色土掘り下げ
- 5.11 東地区2面ピット等掘り下げ
- 5.15 CB6、7区周辺茶灰土掘り下げ後、遺構検出し掘り下げ
- 5.16 実測後、東より茶褐土、黒灰土掘り下げ
- 5.22 実測、写真撮影し、重機で東地区を埋め西地区の黒灰土上面を検出
- 5.23 西地区茶灰土掘り下げ後、遺構検出、掘り下げ
- 5.26 淡灰土上面検出し遺構掘り下げ
- 5.28 全体を清掃し写真撮影。機材撤収
- 5.30 重機により埋め戻し、調査終了

2. 調査の概要

連歌屋遺跡1次調査は調査区内で排土を移動したため、東西約半分づつのエリア(区)に分けて調査区を設定し、間口奥の東側から調査を着手した。

遺構は文化層に伴って大きく3群に分けた堆積(本来は整地土か)土壌を除去した段階(1~3面)でそれぞれ検出された。1面を被覆する土層は黒灰土であり、2面を覆う層は暗灰土、茶灰土によるa面と、灰色土2、茶褐土、黒色土などによるb面に細分される。遺構の形成時期はだまかに1面が近世から近代、2面が中世、3面が平安後期に帰属する。東区では検出状態で1、2面相当の遺構が同一面で検出された。

3. 遺構

掘建柱建物

1SB001 (fig5.pla4-2) 調査区の東側で検出された建物で、5つのピットから成りさらに北側に延伸しているものと想定している。柱間は梁間が2.1と2.0mで桁間が2.45と2.4mで桁間が若干広い。柱穴は底に平たな石が礎盤として敷かれている。建物の振れはN-10°43'-Eで北に対し東に振れており、現在の土地区割りに近い。ピットからは鎌倉期までの土器片が出土している。



※ドットは礎盤状の石を示す。

fig3 連歌屋1次調査略図 (1/150)

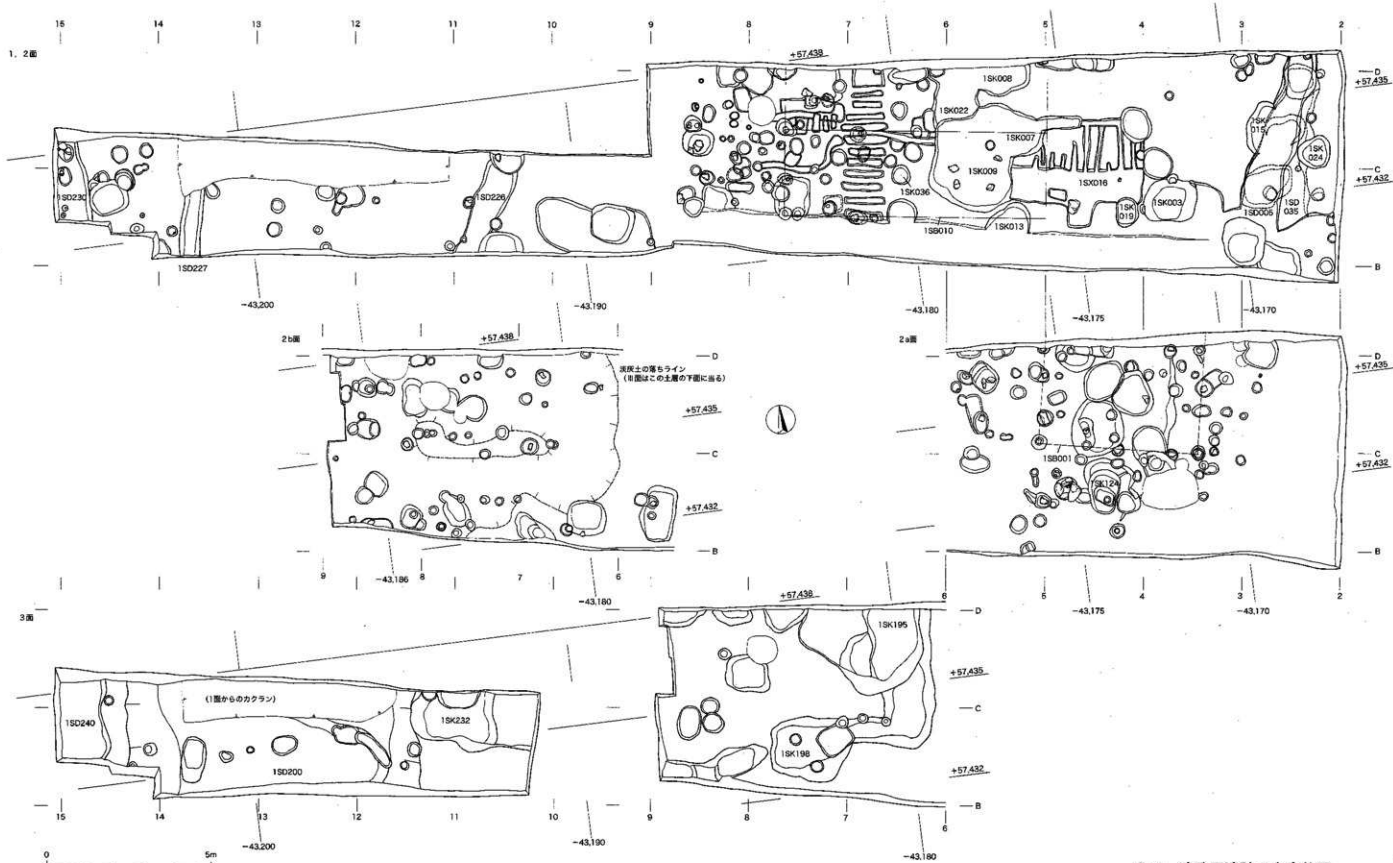


fig4 連歌屋遺跡1次全体図

1SB010 (fig5 ,pla1-2) 調査区の中央付近で検出された建物で、8つのピットから成りさらに北側に延伸しているものと想定している。柱E-d間は近世遺構の掘り込みで遺存していない。柱間は1.95から2.65mで1SB001と異なり南北間が若干広い。柱穴は底に平たな石が礎盤として敷かれている。建物の振れはN-7° 42' -Eで北に対し東に振れている。ピットからは鎌倉後半期までの土器片が出土している。

土坑

1SK003 (fig6) 調査区の東側で検出された、平面形が隅丸方形プラン、断面形状がすり鉢形をなす形状を持つ。多量の炭や炭灰片と共に近代の遺物が廃棄されていた。

1SK007 (fig6) 調査区の東側で検出された、平面形が隅丸方形プランをなす形状を持つ。1SK009を切って形成される。炭灰片と共に近代の遺物が廃棄されていた。

1SK008 (fig6) 調査区の北東側で検出された、平面形が楕円形プランをなす形状を持つ。1SK022を切って形成される。近代の遺物が廃棄され、牡蠣ガラなどの食物残さいなども含んでいる。

1SK009 (fig6) 調査区の中央付近で検出された、平面形が方形プランをなす形状を持つ。1SK022を切って形成される。近代の遺物が廃棄されていた。

1SK013 (fig6) 調査区の南東側で検出された、平面形が楕円形プランをなす形状を持つ。近代の遺物が廃棄される。

1SK015 (fig6) 調査区の東側で検出された、平面形が楕円形をなす形状を持つ。1SD005に切られる。近世の遺物が混入するが、本来は中世に属す遺構である。

1SK019 (fig6) 調査区の南東側で検出された、長辺が80cmほどの楕円形をなす形状を持つ。中世に属す遺構である。

1SK022 (fig6) 調査区の中央付近で検出された、平面形が方形プランをなす形状を持つ。1SK022を切って形成される。近代の遺物が廃棄されていた。本遺構と1SK008,009は連続して形成された可能性がある。

1SK024 (fig6 ,pla 6-1) 調査区の東端で検出された、直径1mほどの楕円形をなす形状を持つ。中世に属す遺構である。

1SK036 (fig6) 調査区の中央付近で検出された、直径60cmほどの円形をなす形状を持つ。中世に属す遺構で焼土塊が出土している。

1SK124 (fig7) 調査区の東側の2a面で検出された遺構で、1SB001の南側に位置する。長辺1.2mほどの長楕円形を成す。14世紀前半頃までの遺物を含む。

1SK195 (fig7) 調査区中央付近の3面で検出された遺構で、長辺が4mほどの方形プランを呈す。平安後期までの遺物が出土している。

1SK198 (fig7) 調査区中央付近の2b面で検出された遺構で、2mほどの方形プランを呈す。平安後期までの遺物が出土している。

溝跡

1SD005 (fig8 ,pla5-1) 調査区西側で検出された南北に伸びる溝で、1SD035を切って形成される。北に対して東に約21°振れている。深い所で約30cmを測り、埋土は下から茶色土、暗灰土、茶灰土の順に堆積し、最終埋没は出土遺物から14世紀前半頃と推定される。

1SD035 (fig8) 調査区西側で検出された南北溝で、1SD005に切られる。1SD005より北に対す

る振れは小さい。暗灰土によって埋没し、13世紀後半までの遺物が出土している。1SD005は本遺構の掘り直しによるものとも見られる。北に対して東に約8°振れている。

1SD200 (fig8 ,pla5-2) 調査区の西端の最下面で検出された遺構で、調査区が狭いことから溝に特定した遺構とは断じがたいが、後述の6次調査において同様の幅広い帯状の遺構が認知されたことから溝とした。幅約6m、深さ約50cm。調査時点では遺物包含層の窪みと考えていた為、遺物は大半が淡灰土として取り上げてしまっている。壁面から混入したと考えられる中近世の遺物が若干見られるが、出土遺物の傾向から基本的に古代後半期に属するものと考えられる。

1SD226 (fig8) 調査区西よりの2a面で検出した幅約1m 深さ約20cmの南北溝で北に対し東に約28°振れている。その振れは1SD005に近い。

1SD227 (fig8) 調査区西側の2a面で検出した幅約60cm 深さ約20cmの南北溝で北に対し東に約9°振れている。埋土中から瓦質土器など鎌倉後半期までの遺物が出土している。

1SD230 (fig8) 調査区西端の2a面で検出した幅約1m以上、深さ約20cmの南北溝で真北に近い方向を持つ。西の立ちあがりには調査区外で不明。1SD240を切って形成され黒灰土で埋没する。鎌倉期までの遺物を含み、素焼製の仏像（懸け仏）が出土している。

1SD240 (fig8,pla5-2) 調査区西端の1SD230に切られる形で検出され、1SD200埋土に似た淡灰土で埋没する。ほとんど遺物は出土していないが、埋没土から平安後期以降の所産と考えられる。

その他の遺構

1SX016 (fig5 ,pla4-1) 調査区東側で検出された方形の掘りこみで、北側の内側に10本以上の連子状の小溝が並んでいる。床や遺構壁面に被熱の痕跡などはない。出土遺物から近世遺構の所産と考えられる。遺構の方向は現在の地割に沿っている。

1SX042 (fig5) 調査区中央付近で検出された埋土が近似した11の小溝と方形の土坑とからなる遺構。溝の方向は1SX016に直交するが、連子状の形状は似ており両者はなんらかの関連があるのかもしれない。

1SX232 (fig7) 調査区西側の3面で検出された遺構で、北と東側はさらに調査区外に広がっている。西側2.6mほどが一段深くなっている。

4. 出土遺物

1SK003 出土遺物 (fig9)

肥前系磁器

碗 (1) 1は口径8cm、高さ4.8cmの丸形の小碗。2色のプリント柄が外面に施される。

国産陶器

碗 (2) 2は高台径が3.9cmで黄釉が施された筒碗で高台に切り込みがあり、外底に「白川」の押印と「藤田」の墨書が施される。

ガラス製品

瓶類 (3～8) ガラス製の瓶類でいずれも型による成形でつくられ、3には「SAUCE」「TN&COMPANY」、6の底には「S」字のエンブレムが凸文字で描かれる。1はソース瓶、5はラムネ瓶、5はインク瓶、他は薬瓶か。

1SK007 出土遺物 (fig9.10 ,pla 6-2.7-1)

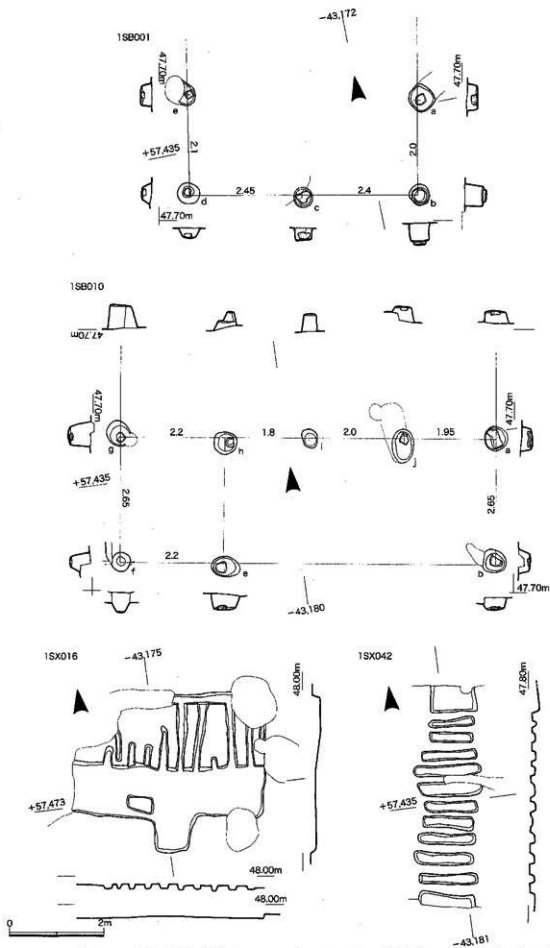


fig5 連歌屋1次掘立柱建物(001,010)、その他の遺構(016,042)実測図(1/80)

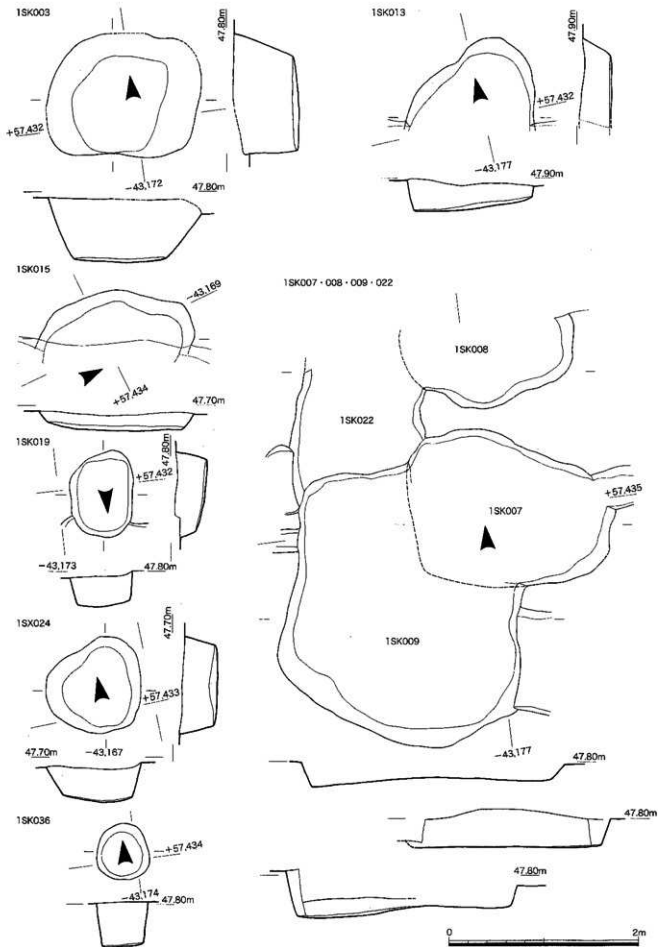


fig6 連歌屋1次土坑(003,007,008,009,013,015,019,022,024,036) 実測図1 (1/40)

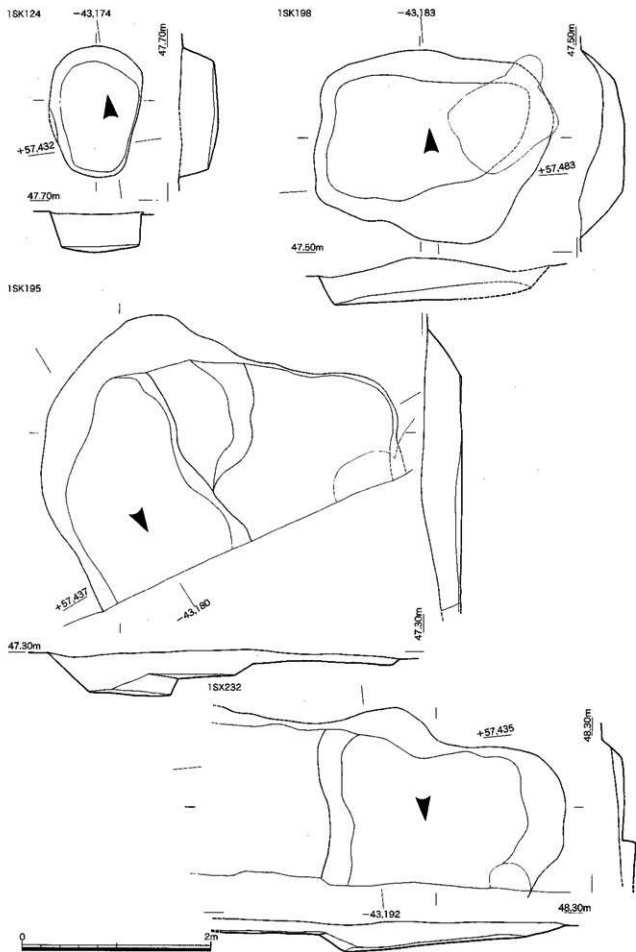


fig7 連歌屋1次土坑(124,195,198) 2、その他の遺構(232) 2実測図(1/40)

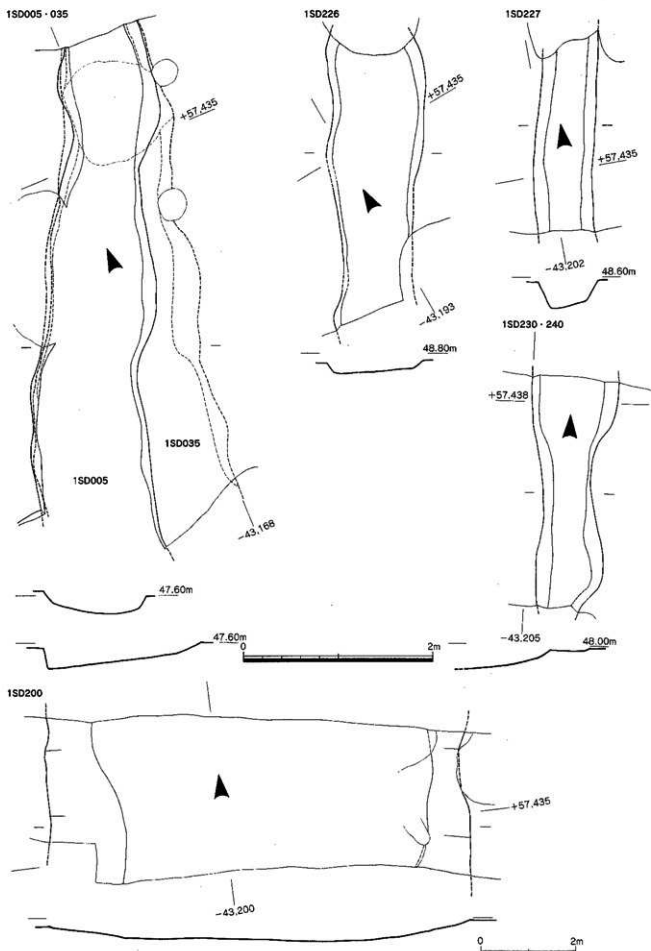


fig8 連歌屋1次溝 (005,035,200,226,227,230,240) 実測図 (1/40,1/80)

中国産磁器

龍泉窯系青磁

碗(1~2) 1は外面に線描きの細連弁、内面に弧状の線描きがあり、上田B-III類に相当する碗である。2は口縁外面に雷文の線描きがある上田C-II-b類に相当する碗である。

肥前系磁器

碗(3~5) 3~5は端反碗で3、4は濃紺の科学呉須を使用した印判手のもの。

皿(6~11) 7と9は12cm台の、他は9~10cmほどの小皿で、9は緑と紺色で描かれる。7の網浜文も濃紺の科学呉須で描かれている。10と11は薄手の小皿で内型による文字模様が隆起線で表現される。

国産陶器

すり鉢(12~14) いずれも光沢のある茶色の鉄釉が施される。12と13は玉縁口縁を持つ。高取焼などの筑前産と考えられる。

土瓶(16~18) 胴部は小片しかないが、黒茶、緑、黄色の三彩の山水土瓶で、15はその蓋である。京都横俣で博多瓦町周辺や野間血山など筑前内でも生産された製品。

行平(19) 丸みを持つ底の部分で、外面に回転を利用したヘラ削りの痕跡がある。

灯火具(20) 高環状の形状を持つもので、茶褐色の釉が施される。

茶入れ(21) 表面が薄い黄色に発色する素地を持ち黒色の釉を施す。胴中央でくびれ、瓢箪型を呈し、底に「吉」の墨書を持つ。8次黒灰土出土の肥前系染付の底部にも同様の墨書が見られる。

火鉢(22) 火鉢や香炉などの調度具の装飾された脚部の破片で、型で成形され、茶色の釉が施される。

素焼玩具類

ここで紹介する素焼製品は型を用いて成形された製品で、淡い橙褐色を呈す製品で面類など20cmを超える大型の製品も含んでいる。博多での生産と考えられる。

面類(23~24) 23は大黒ないし恵比寿面の耳たぶ部分で、24は口元の部分に相当する。

レリーフ類(25,26) 裏面の縁の部分がヘラで平坦に成形された半面式のレリーフ様の製品で、25は着物袖と魚の鱗が表現され、恵比寿などのモチーフが考えられる。26はモチーフは不明だが表面には黒色の顔料が残る。

種別不明製品(27) 弧状と放射状の隆起線で構成され、既知のモチーフとしては犬の前掛けが似ている。

瓦類

軒丸瓦(28) 梅鉢文の瓦当面を持つ。周縁が幅広い。

軒平瓦(29) 唐草文の部分の文様を残す軒平瓦の瓦当面で、中心飾りは不明だが丸瓦とのセットであれば梅花文と考えられる。

ガラス製品

瓶類(34,36) 34は小瓶の首の部位で、36はワイン瓶の底部部分。

種別不明製品(33,35) 33は天上部に穴があいた蓋か。35は環状の把手部分。

1SK008 出土遺物 (fig11 ,pla7-2)

肥前系磁器

皿(1,2) 1は口径10.5cmの小皿で体部には花卉状に押圧痕がある。内底は濃いコバルトブルーの科学呉須を用いた印判手の草花模様が描かれる。2は凹型高台の皿でこれにも花卉状の押圧痕がある。外底部に「中」と思われる墨書が残る。

1SK003



1



2



3



4



5



6



8

T&C COMPANY

1SK007



1



2



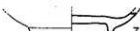
3



4



5



6



7



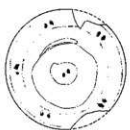
8



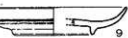
9



10



11



12



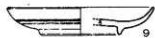
13



14



15



16



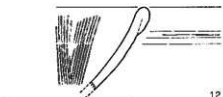
17



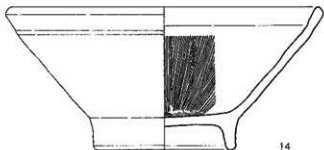
18



19



20



21



fig9 連歌屋1次土坑(003,007)出土遺物実測図1(1/3)

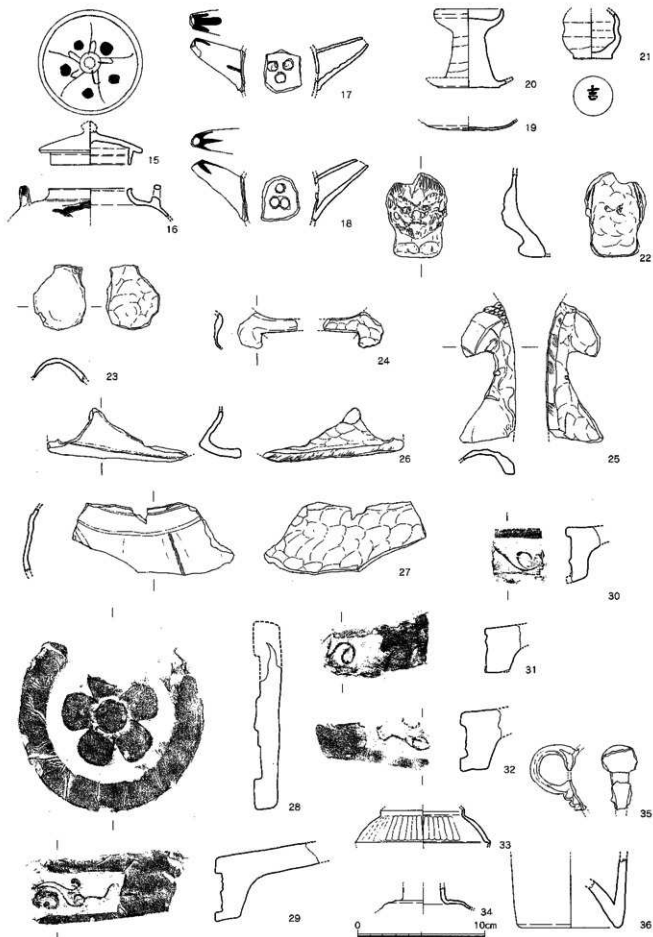


fig10 連歌屋1次土坑(007)出土遺物実測図2(1/3)

紅皿(3) 型押し成形の白磁の紅皿で外面下半は露胎する。

国産陶器

皿(4) 口径9.3cmの朝顔形に開く小皿で、茶褐色の鉄釉が施され、内底部は弧状に釉が掻き取られる。

土師質土器

鉢(5) 白灰色を呈し、粗い砂を含む胎土を持つ。形状は箱なりで、外面には叩きによると考えられる条線が残る。火桶などの調度具か。

瓦類

軒平瓦(6,7) 中心飾りに梅鉢文をあしらう瓦当文様を持つもので、6は棧瓦である。

ISK009 出土遺物 (fig11.12.13 .pla8-1・2)

土師器

小皿(1,2) 口径が6.4cmで均一に薄く、淡茶色の胎土を持つ。糸切り底。口縁端部には何箇所も連続した油煙の痕跡が残り、灯明皿として使用されたことがわかる。

肥前系磁器

坏(3,4) 3は口径7.3cmで、胴部外面の横線は濃いコバルトブルーで描かれるが、上位の連続三角文は手描きで、下半部の剣頭文はプリントによる。4は口径6.4cmで内面に「小間物仕入所」の文字がプリント呉須で描かれる。

皿(5,6) 5は口鏤を施す菊皿で、内底に網浜文を施す。6は朝顔形に開く体部を持ち内底に型による文字文様を描く口径9.4cmの小皿である。

仏飯(7) 高さ6.2cmで高坏状を呈す仏飯で、坏部外面にややくすんだ呉須で文様が描かれる。

徳利(8) 高さ10cm前後くらいになるものと思われる徳利形を成すもので、神酒瓶とも考えられる。

暗青色の科学呉須で横方向に不連続な線が描かれる。

国産陶器

椀(9~10) 9は口径12.6cmの黄釉の下にスタンプを押して褐色の彩色をした文様をもつ椀で、胎土は黄白色で褐色の砂粒を含む。京都系の製品と考えられる。10は茶褐色の鉄釉を施したもので、内底部は円弧状に釉を掻き取る。

土瓶(11) 土瓶の注口で灰色の胎土に透明の釉が掛けられる。

蓋(12) 落し蓋状の形状をなし、黄色釉に紐の部分のみに緑の釉が掛けられる。

行平(13,14) 13は型で形成された黄褐色の釉がかかる把手で、中空構造で先端に穴が開けられる。

14は内面のみに緑灰色の釉が掛けられた蓋で、外面中央には「とびカンナ」といわれる連続したカンナ傷が装飾として残される。

大裏(15) 中世の中国陶器裏I類と同様の口縁部形状を持つもので、黄灰色の釉が全体に自然に掛かる。

壺(16) 内底部に砂状の堆積物が付着し、内面には釉が施されないもので、脚が欠損した痕跡が見られることから、蜜ない香炉のような器種が想定される。外底部には重ね焼きの痕跡と「中」の文字を含む墨書が見られる。

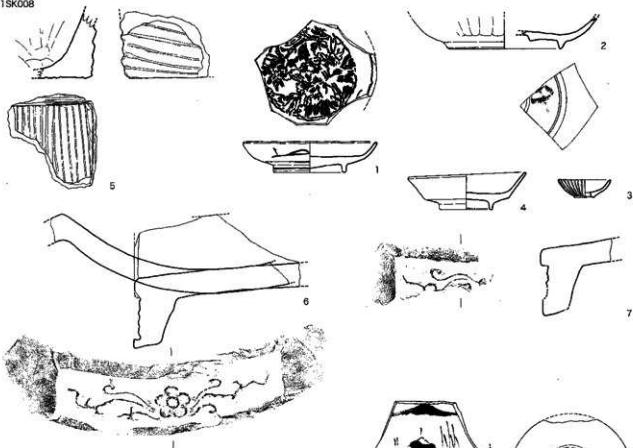
灯火具(17) 高坏状を呈し赤褐色の胎土を持つ。高さは5cm程度か。

植木鉢(18) L字の口縁に筒型の胴部、穿孔された底部に三脚が付く。口縁から外面に若草色の釉を施す。

土師質土器

涼炉(19,20) 高さ10cm強の素焼の涼炉。19には胴部下半に円形の風口があり、懸け手の突起は

1SK008



1SK009

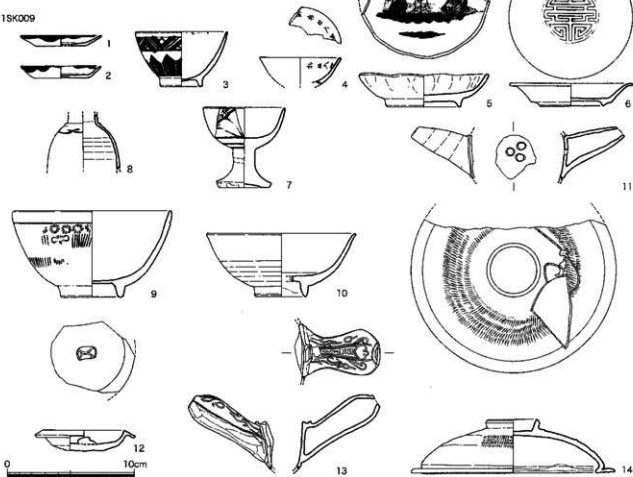
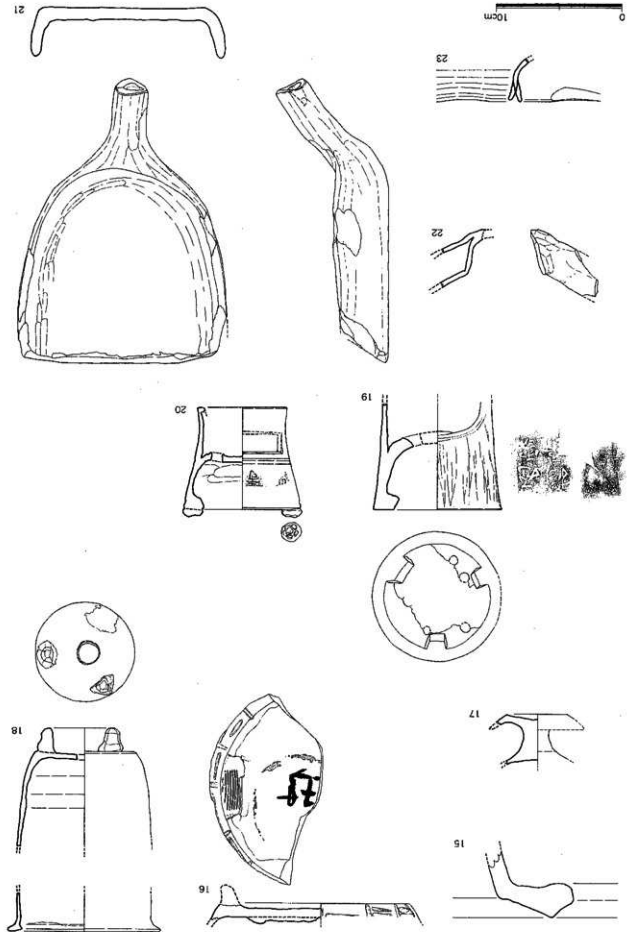


fig11 速歌屋1次土坑(008,009)出土遺物実測図3(1/3)

fig12 連歌屋1次土坑(009)出土遺物类别图4 (1/3)



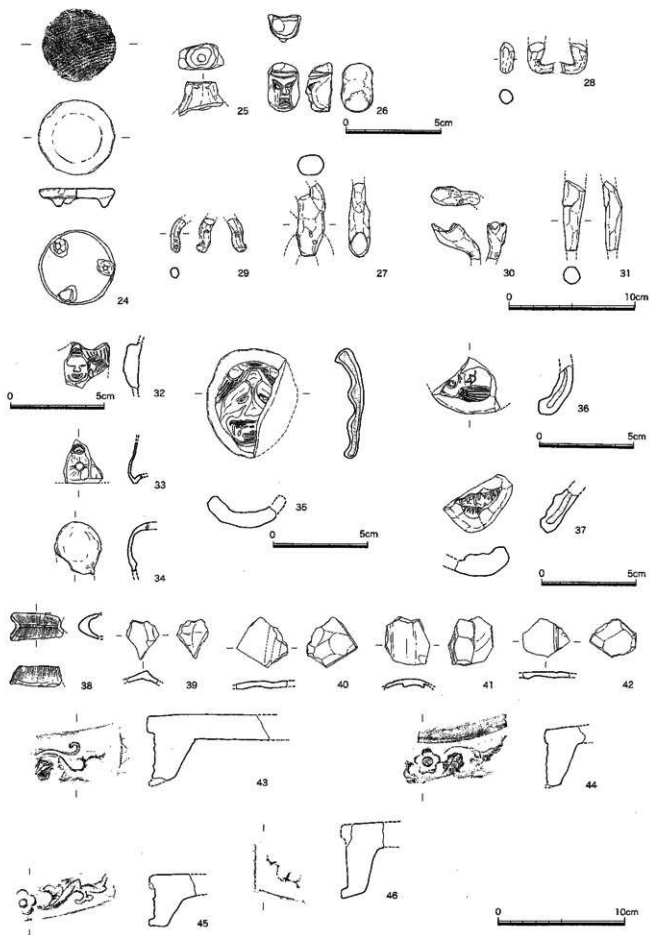


fig13 速歌屋1次土坑(009)出土遺物実測図5 (1/3,1/2)

口縁形成時に削り出して造形される。胴部は縦方向に磨きの痕跡があり、その上から方形の押印が2箇所と「飛雪」などの文字が押印される。口縁内側に煤が付着している。20の懸け手は口縁上面に粘土塊が貼付され、風口は方形を成す。外面に「寿」凸文字が見られる。

ほうろく(22,23) 鉢に把手が付いた形状を成すもので、23の体部外面には煤が付着している。

瓦質土器

火すくい(21) 塵取り形を呈す道具で板状の粘土を折り曲げて把手を付けたもので、把手の先端は浅い削りこみがある。

窯道具

ハマ(24) 静止糸切りで円盤状にしたものに円錐状に粘土塊を三箇所に貼付したもので、窯道具のハマと考えられる。ISK013でも出土している。

素焼玩具類

笛(25) 笛の噴き口部分の破片で、素焼に分類したが、側面にわずかに薄い透明釉が付着している。
手ひねり人形類(26～31) 人なりの形をした粘土塊を手でひねって造形した人形で、26の頭部のみが型を用いたものである。兵隊をモチーフとしたもので、5次調査では様々な格好をしたものがセットで出土し、日露戦争の場面をつくる箱底道具の一つであることがわかっている。博多では「いけどうろろ」、箱崎では「人形飾り」といわれる盆飾りであり、町屋の通り文化を背景とした装飾道具である。30は獣形とも考えられる。

人形類(32～34) 32は鯛を抱く恵比寿の小人形で、33は俵乗り大黒の俵部分である。34は小人形人形の後頭部か。

型類(35～37) 35は般若、36、37は魚のような造形を呈す。型の縁は丸みを持ち、合わせ型ではないことがわかる。江戸では製品として型が流通していたことが知られており、型の出土をもって生産の証とはできない。

箱底道具(38) 藁屋根を表現したもので、型を用いて成形され裏面に指押さえの跡がある。外面に釉の付着がみとめられる。胎土は淡褐色で素焼状態といえる。

種別不明製品(39～42) 型ものの人形の破片と考えられ、淡茶褐色を呈す。裏面に指押さえの跡が残る。

瓦類

軒平瓦(43～46) 黒色に燻された平瓦の瓦当面で、44、45の中心飾りは梅鉢文である。

ISK011 出土遺物 (fig14)

黒釉陶器

天目椀(1) 口径が9cm 台に復元できる天目椀で、胎土はやや粗めで灰茶色を呈し、釉は下地に茶色の鉄釉が掛けられ、その上に光沢のある黒色の釉が施される。中国産と考えられる。

ISK013 出土遺物 (fig14)

肥前系磁器

椀(1,2) 1は口径が12cmに復元される端反椀で、紺色の呉須で圏線や胴外面には宝珠文などを描く。2は小型の筒椀でコバルトブルーの科学呉須を用い雷文などを手描きする。

小坏(3) 浅い盃様の形状で、内面に紺と金の顔料で彩色される。

紅皿(4) 型もので外面に放射状の隆起線がある。釉は透明で外面にはほとんど掛からない。

国産陶器

小皿(5) 茶褐色の鉄釉を施すもので、口縁に油煙が残り、灯明皿として使用された。

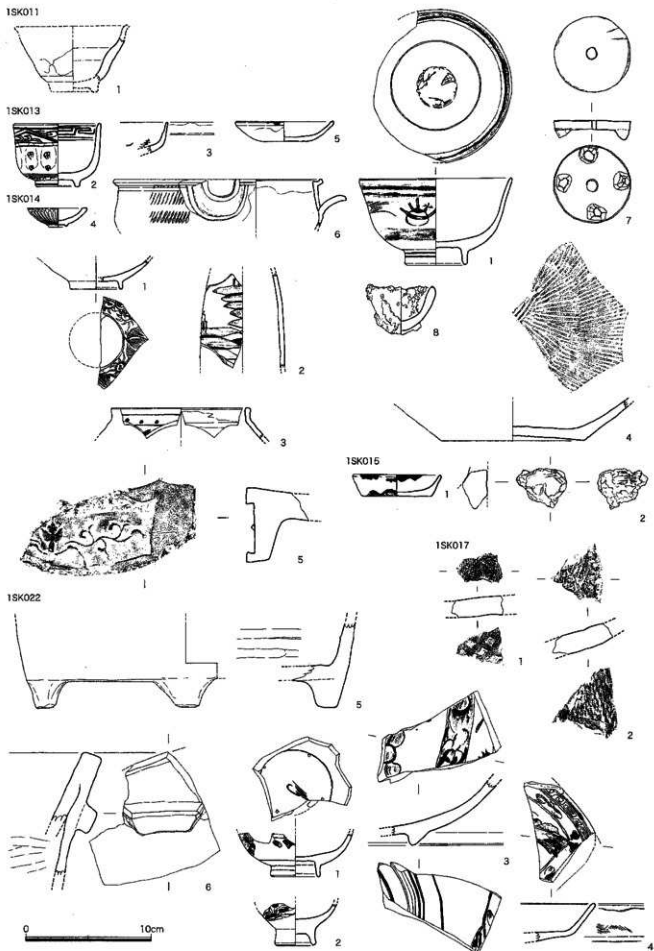


fig14 連歌屋1次土坑(011,013,014,015,017,022)出土遺物実測図6(1/3)

行平(6) 半筒状の注口が付いたもので、口縁端部は蓋を受けるために反りあがっている。内面のみ
に施釉され、外面体部には「飛びカンナ」の装飾が見られる。

窯道具

ハマ(7) 径6cmの円盤に四つの突起が粘土塊を貼付して造られている。突起の先端は欠損している。
突起のない面は糸切りの痕跡があり、さらにその表面にはアルミナと思われる付着物がある。この状況
から凹型高台などの製品に使用された窯道具と見られる。

土製品

埴塼(8) 砲弾形を呈し、胎土は灰色の須恵質を呈す。内外面に黒色、赤茶色などのガラス質の皮膜
が広がり、内面に緑青が部分的に付着している。小規模な銅製品の鋳造に係わる道具か。

1SK014 出土遺物 (fig14)

肥前系磁器

椀×蓋(1) 薄手の体部と高台を持つ。濃いマリブルーの呉須で外面に文様が描かれる。

徳利(2) 細長く張りのない胴部を持つ。科学呉須と思われるマリブルーの呉須で波と帆掛け舟が
描かれる。

国産陶器

土瓶(3) 頂部の蓋受けの部位であり、口縁端部から内面にかけては釉がふき取られる。外面には長
石を主とする顔料が盛り上がった状況で付着する「イッチン描き」の技法で装飾される。筑前産の可能
性がある。

すり鉢(4) 全面に茶褐色の釉が施されるすり鉢の底部片で、内底部は使用により磨り減っている。
茶褐色の胎土で硬質である。

瓦類

軒瓦(5) 中心飾りに花文で唐草文が対象形に展開する。棧瓦の可能性もある。

1SK015 出土遺物 (fig14)

土師器

小皿b(1) 口径7cm、器高1.7cmで糸切り底を持つ。口縁部などには油煙が付着する。

土製品

焼土塊(2) 褐色を呈し、植物繊維の痕跡が見られる。

1SK017 出土遺物 (fig14)

瓦類

平瓦(1,2) 須恵質の平瓦で1は正格子、2は縄目の叩きを持つ。

1SK022 出土遺物 (fig14 ~ 17, pla9-1)

肥前系磁器

丸椀(1) 胴部が丸い椀で、内底部に四つの目跡が残る。

環(2) やや高台が高い形状の環で、外面に淡い青色の呉須で草花文が描かれる。

色絵大皿(3) 内傾する三角の高台を持つ。紺色の呉須以外に赤、緑、黒の彩色が施される。

鉢(4) 平面形が菱形で、断面形状は朝顔形に開く。紺色の呉須で雷文や山水が描かれる。

土師質土器

赤七輪(5,6) 橙色を呈す素焼きの製品で、外面はなでて仕上げられる。5は脚が付けられ、6は波
状の口縁部と外面に扇形の把手が付けられる。焼きの感じなどから同一固体の可能性もある。

瓦類

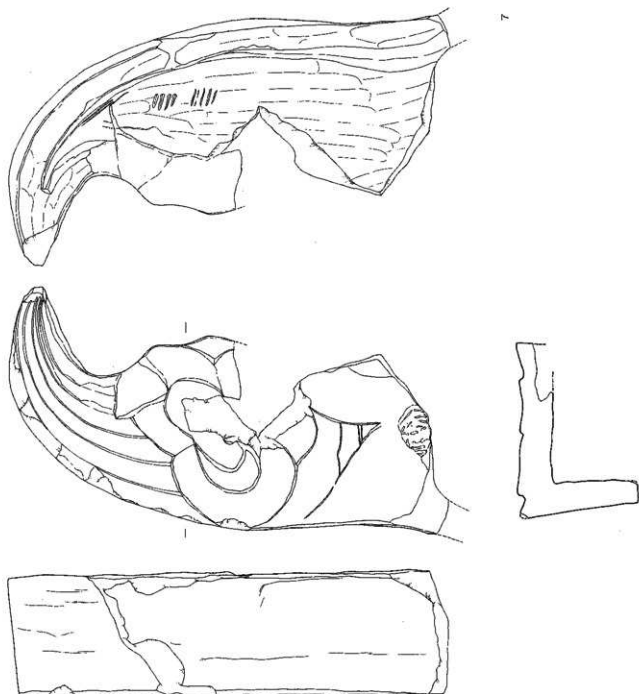


fig15 速歌屋1次土坑(022)出土遺物実測図7(1/3)

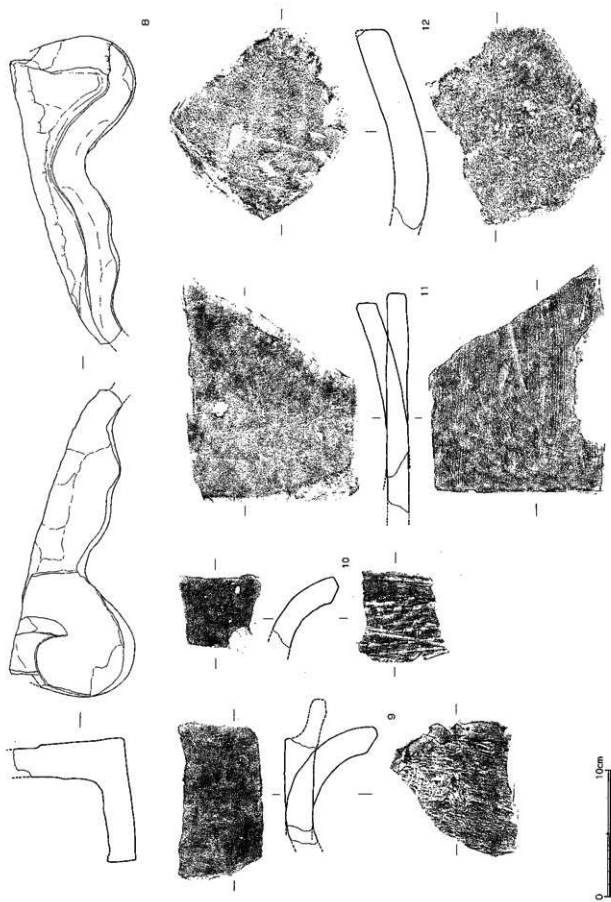


fig16 連歌屋1次土坑(022)出土遺物実測図8(1/3)

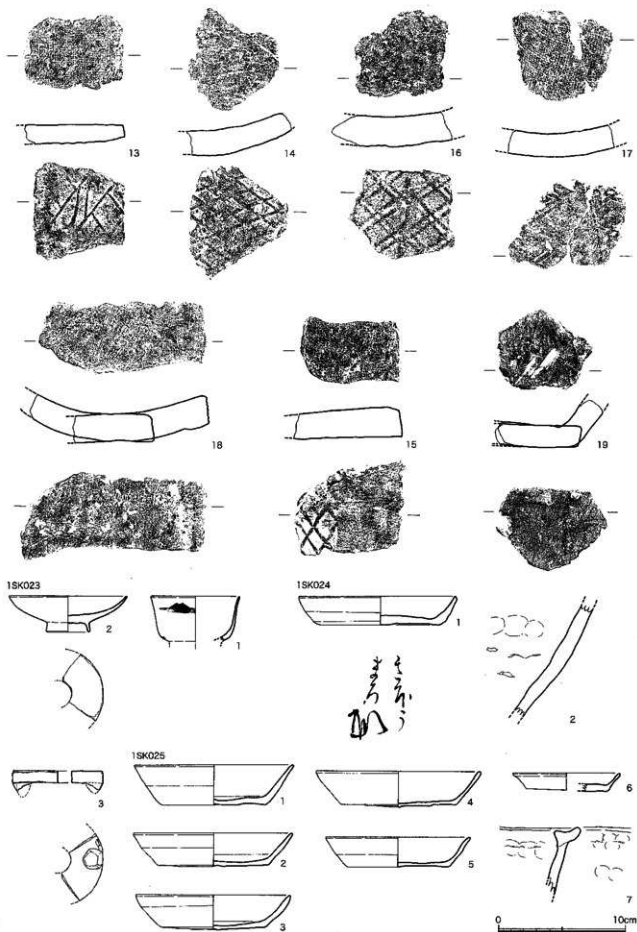


fig17 連歌屋1次土坑 (022,023,024,025) 出土遺物実測図9 (1/3)

道具瓦 (7,8) 棟先に置かれた波形や雲形を呈す道具瓦で、厚さ約 2cm の粘土板を素材として成形されている。8 は燻しの掛かり具合が均一でない。近世以降の所産。

丸瓦 (9,10) 内面に粗い布の痕跡があり、外面はなでて仕上げられる。側端部は面取りにより尖り気味に成形される。表面には均等に燻しが掛かり黒色化している。近世以降の所産。

平瓦 (11 ~ 18) 11 はいわゆる瓦質の焼きで裏面はハケ状工具でナデたままで仕上げられる。他のものより薄手で、近世以降の所産と考えられる。この他のものは古代後半から中世に属するものと見られ、須恵質の破片が大半を占める。斜格子、二重格子の叩きは天満宮境内出土のものに共通する。

サン瓦 (19) いわゆる瓦質の焼きで屈曲部分にあたる。近世以降の以降の所産。

ISK023 出土遺物 (fig17)

肥前系磁器

環 (1) 口径が 7cm に復元されるストレートに開く体部を持つ環で、紺色の呉須で山水が描かれる。

国産磁器

小皿×蓋 (2) 口径が 9.3cm の白磁で、皿ないし蓋になるもので、軸は高台の端部のみがふき取られる。

窯道具

ハマ (3) 直径が 7.2cm に復元されるドーナツ状を呈し、粘土塊を貼り付けており、その先端は欠損している。盤の両面には糸切りの痕跡が残る。この連歌屋遺跡では焼台のトチンは出土せず。このハマは製品購入に付随して搬入、廃棄されたものと考えられる。

ISK024 出土遺物 (fig17 .pla9-2)

土師器

環 a (墨書) (1) 口径 12.6cm、器高 2.3cm で底部に糸切りと板目の圧痕が見られる。外底部に墨書があり「きおまろ」という文字とそれに続いて花押が書かれたものと考えられる。

国産陶器

甕(常滑×備前) (2) 灰褐色を呈し、内面には粗いナデの下に押痕と粘土紐の接合の痕跡が見られる。

ISK025 出土遺物 (fig17)

土師器

環 a (1 ~ 5) 糸切り底に板状圧痕が残る 1/3 から完形の環で、復元された口径は 11.4 ~ 13.0cm で、器高は 2.3 ~ 3.2cm の幅がある。淡橙色を呈す。

小皿 a (6) 糸切り底で口径 8.5cm、器高 1.5cm を測る。淡橙色を呈す。

土師質土器

鍋 (7) 短く反り上がった L 字の口縁を持つ。内外面には指頭圧痕が残るが、粘土紐の接合部位は完全にはなくなっていない。灰褐色を呈すが、一部は熱を受け変色している。

ISK026 出土遺物 (fig18)

土師器

環 (1) 口径 10.7、器高 2.6、底径 5cm を測る。回転糸切りが底に残る。淡黄褐色を呈す。内外面ともにロクロによるナデの軌跡は残らない。広義の環 b に区分される。

ISK033 出土遺物 (fig18)

土師器

小皿 (1) 口径 7.2、器高 1.6、底径 4cm を測る。回転糸切りが底に残る。淡黄褐色を呈す。

石製品

滑石製石鍋加工品 (2) 断面形状ではカーブを描き、もとは石鍋であったと考えられる。成形され方形

を呈し、端に5mmほどの穿孔がある。

1SK036 出土遺物 (fig18)

土師器

坏 (1~6) 1は口径10.7、器高2.4、底径6.6cmを測り、2は口径11、器高2.1、底径7.1cmを測り、底径に対し口径が大きい広義の坏bに区分される。5は上方に立ちあがり、他とは形状が異なる。1のみが灰色系で他は橙色系の色調を呈す。

小皿a (7~14) 口径が6.2から7.2cm、器高は0.9から1.3cmを測る。14のみが灰色系で他は橙色系の色調を呈す。

土製品

焼土塊 (15~23) 部分的に平滑な面を残すものもあるが、大半は植物繊維を含む焼土の塊で灰褐色を呈す。

1SK069 出土遺物 (fig18)

土師器

小皿a (1) 1は口径8.0、器高1.7、底径5.4cmを測り、外底部には糸切りの痕跡に板状圧痕が残る。胎土は淡灰色を呈すが、芯には黒灰色を呈す層がある。

1SK109 出土遺物 (fig18)

土師質土器

鉢 (1) 径が15.7cmの脚を持つ鉢の脚部片と思われる。

瓦類

平瓦 (2,3) 須恵質の平瓦で2は目の大きな二重格子の叩きを残す。平安後期から中世の所産か。

1SK124 黒色土出土遺物 (fig18)

土師質土器

鉢 (1) 1は口径14.8、器高5.5cmを測り、底部側面に短い脚が付く形状を成す。平安後期以降の所産か。

瓦類

平瓦 (2~5) すべて須恵質の焼きで2と4には目の小さな罫目の叩きが残る。

1SK139 出土遺物 (fig19)

瓦類

平瓦 (1,2) 須恵質の焼きで格子目の叩きが残る。

1SK141 茶灰土出土遺物 (fig19)

石製品

不明石製品 (1) 緑灰色を呈す泥岩の塊で、搬入石材であり、何らかの製品の素材であった可能性がある。

1SK143 暗灰土出土遺物 (fig19)

土師器

小皿a (1) 1は口径8.2、器高1.0、底径7.0cmを測り、外底部には糸切りの痕跡に板状圧痕が残る。赤橙色を呈す。

須恵質土器

鉢 (2) 口縁端部が玉縁状をなし、上に立ちあがる形状を成す。東播系の鉢である。

石製品

滑石製不明製品 (3) 本来の形状がわからないほど全体が磨耗している。縁は弧を描く。

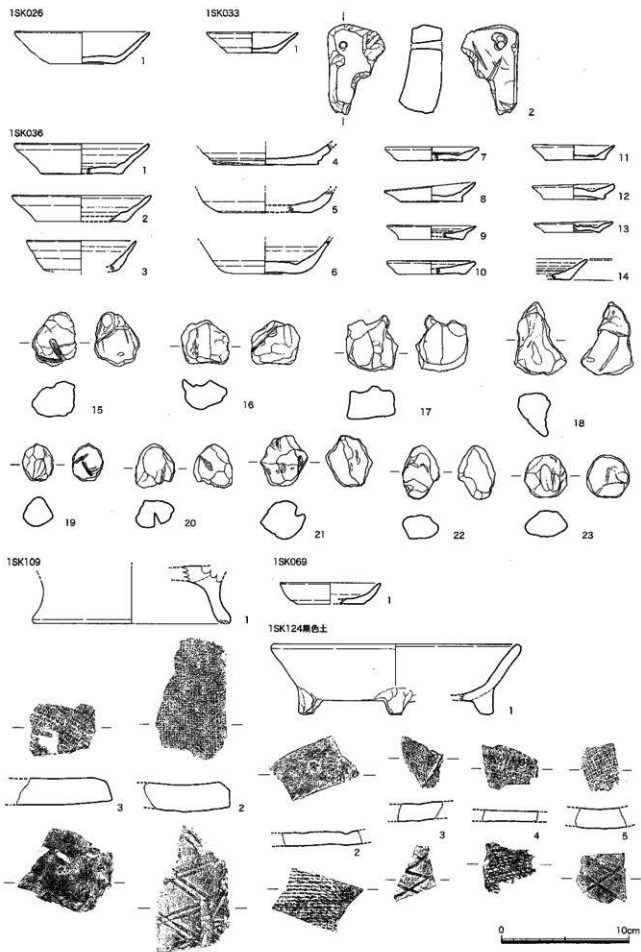


fig18 連歌屋1次土坑(026,033,036,069,109,124)出土遺物実測図10 (1/3)

1SK144 暗灰土出土遺物 (fig19)

土師器

丸坏 (1) 口径が 16.2cm で外面に押し出しの指頭圧痕と内面にコテ当ての痕跡が残る。見込みの中央には螺旋状の条線が残る。

1SK154 出土遺物 (fig19)

土製品

焼土塊 (1~8) 本来の面を残すものがなく元の形状は不明。胎土に植物繊維の痕跡が顕著に見られる。

1SK157 出土遺物 (fig19)

土師器

小皿 b (1) 口径 7.5、器高 1.8、底径 5.6cm の法量を持ち淡橙黄色を呈す。

瓦質土器

鉢 (2) 内面には横方向のハケ状工具によるナデの軌跡を残し、口縁端部上面に平坦面を持つ。こね鉢ないしすり鉢の口縁と思われる。

瓦類

平瓦 (3) 須恵質で薄手の平瓦で目の細かい縄目の叩きを持つ。

石製品

丸石 (4~10) 泥岩と思われる灰色の小石で、検出面や包含層にはこの手の石は含まれないことから、出土した背景に人為性が働いた可能性がある。

1SK158 出土遺物 (fig19)

土師器

坏 a (1) 口径 14.2、器高 3.0、底径 10.7cm の法量を持ち底部は糸切り痕が残る。淡橙褐色を呈す。

坏 b (2) 口径 14.0、器高 2.1、底径 9.6cm の法量を持ち底部は糸切り痕が残る。体部にはロクロによるナデの軌跡が残される。

小皿 a (3.4) 1は口径 8.7、器高 0.9、底径 6.3cm で、2は口径 7.6、器高 1.1、底径 5.0cm で1は灰色系、2は褐色系の色調を示す。

小皿 b (5.6) 口径は 6cm 台で器高は 1cm 台、底径は 3.8cm で、器壁が薄く、発色は黄味を帯びた白色系である。

大皿 (7) 器壁の厚さが 1cm ほどある盆状の口縁部片で、淡橙色を呈す。

土製品

香炉脚部 (8) 柱状部の中央に屈曲があり、下部先端はつま先のような折り返しがある。淡黄褐色を呈す。

瓦類

平瓦 (9,10) 須恵質で薄手の平瓦で目の細かい縄目の叩きを持つ。

1SK159 出土遺物 (fig20)

石製品

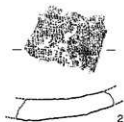
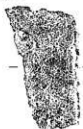
丸石 (1~4) 泥岩と考えられる石材で、楕円形を呈す。1SK157 出土の小石同様に周辺ではこの手の小石は出土していない。

1SK195 出土遺物 (fig20)

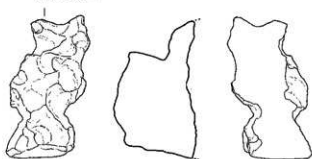
黒色土器 B

小皿 a (1) 口径 10.4cm の丸底を呈すもので、底にヘラ切りの痕跡が見られる。内面全体と外面体部

15K139



15K141素灰土



15K143赭灰土



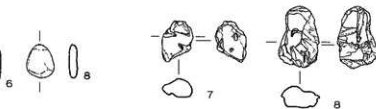
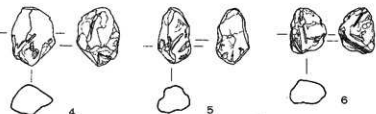
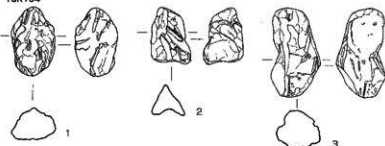
15K144赭灰土



15K157



15K154



15K158



0 10cm

fig19 連歌屋1次土坑(139,141,143,144,154,157,158)出土遺物実測図1 1 (1/3)

に手持ちのヘラミガキが見られる。漆黒色を呈す。

石製品

滑石製加工品(2) 筒形の環状を呈す。底径は4.9cmを測る。

ISK197 出土遺物 (fig20)

土師器

丸环c(1) 口径16.2cm、器高5.2cmで高台径は7.0cmを測る。内面にコテ当て痕があるが、押し出しに伴う指押さえの痕跡は顕著でない。

ISK198 出土遺物 (fig20)

瓦類

平瓦(1~3) 格子目のタタキを有す平瓦で、1と2は瓦質で3は土師質を呈す。

ISK199 出土遺物 (fig 20)

土製品

脚付器台(1) 柱状の製品で芯は直線的な中空。外面はヘラ削りによって成形される。

ISK222 出土遺物 (fig20)

須恵質土器

脚付鉢(1) 鉢の脚部と考えられるもので、指によって成形される。

ISK223 出土遺物 (fig20)

土師器

环a(1~7) 外底部にはすべて回転イト切りと板状圧痕の痕跡が見られる。体部にはナデの痕跡のみが見られる。橙褐色を呈す。

丸环(8) 口径は15cmを測る。外底部には板状圧痕があり、内面の口縁端部下にはコテ当て痕が見られる。

碗c(9~11) 口径が15cm後半代で器高は5.4cmから5.8cmを測る。半球形の体部にわずかに外反する口縁を持つ。10は八字に開く高台で、他は下方にやや屈曲する高台を持つ。

小皿a(12~15) 口径は8.7から10.7cmで器高は1.0から1.4cmを測る。黄橙色を呈す。

小皿c(16,17) 16は口径10.6、器高2.8、高台径6.1cmで体部の伸びが長い形状を成す。17は口径9.4、器高1.3、高台径7.4cmで、両者とも淡黄褐色を呈す。

鉢c(18) 口径20.7、器高3.7、高台径14.7cmに復元されるもので、断面三角形の高台が付く。

白磁

皿(墨書)(19) VないしVI類の皿で露体する外底部に「上」ともう一文字が墨書されている。

瓦類

平瓦(20,21) 斜格子目のタタキを有す須恵質の平瓦。

丸瓦(22) 斜格子目のタタキを有す須恵質の丸瓦。

ISK234 出土遺物 (fig21)

瓦類

平瓦(1) 斜格子目のタタキを有す須恵質の平瓦。

ISD005 出土遺物 (fig21 ,pla10-1)

土師質土器

鉢(1) 内面にはハケ状工具によるナデが見られる。口縁端部は三角形を呈す。

鍋(2) 上に若干反ったT字の口縁を持つ。外面は厚く煤が付着する。ISK024 出土のものに近似する。

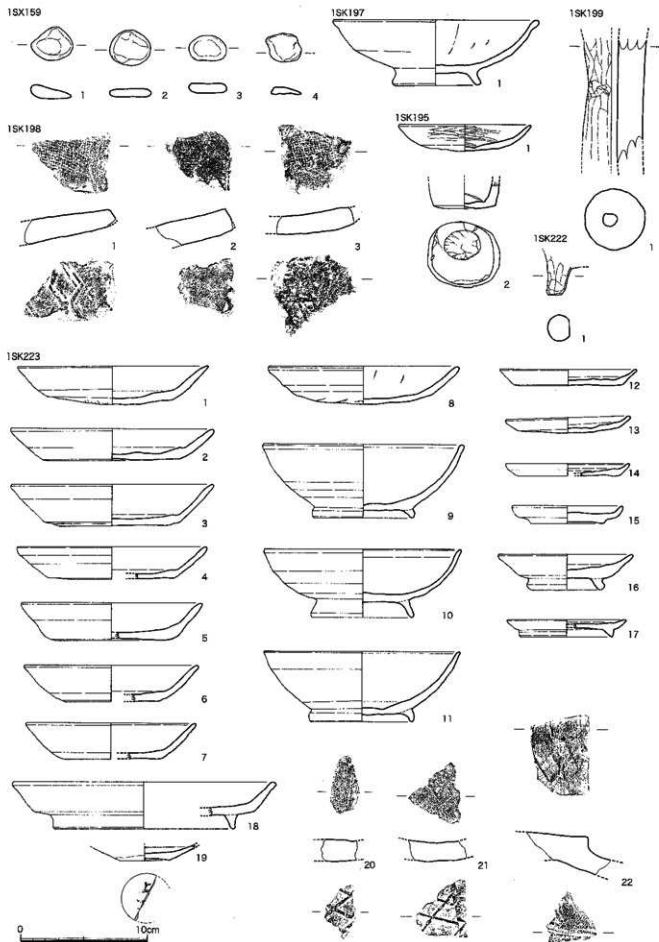
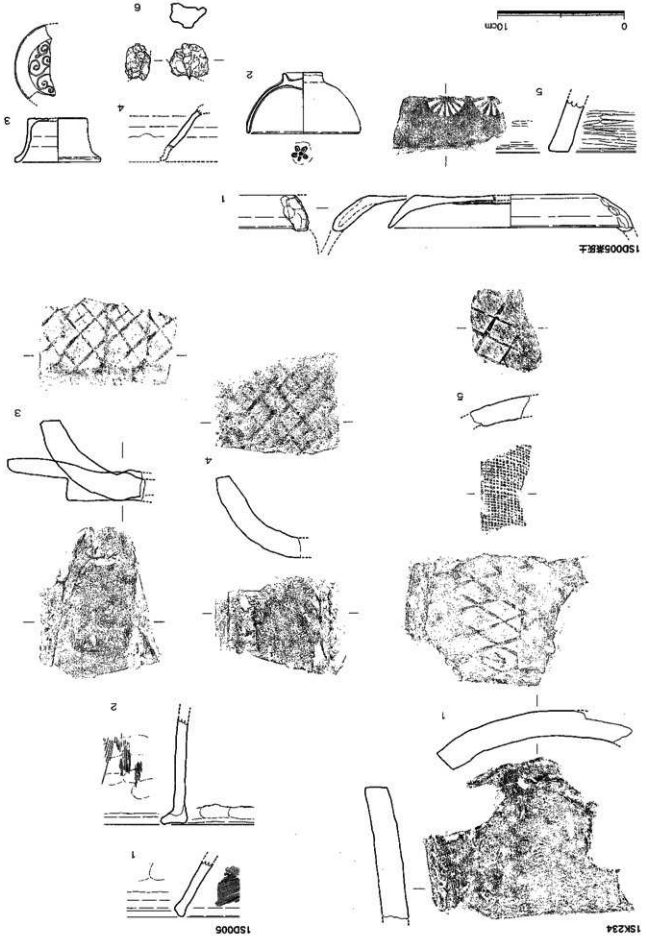


fig20 連歌屋1次その他の遺構(159)、土坑(195,197,198,199,222,223)
出土遺物実測図12(1/3)

fig21 連歌屋1次土坑(234)、溝(005)、出土遺物実測図1(1/3)



瓦類

丸瓦 (3.4) 正格子目のタタキを有す。格子中に十字を入れている。須恵質を呈す。

平瓦 (5) 斜格子目のタタキを有す須恵質の平瓦。

1SD005 茶灰土出土遺物 (fig21 ,pla10-1)

土師器

1SD005 の茶灰土中で多量の土師器の坏 a と小皿 a が出土している。復元を含め、計測可能なものは小皿 a は 83 個体で口径 7.4 ~ 8.6cm、器高 0.9 ~ 1.6cm、底径 5.7 ~ 7.4cm の幅があり、平均値は口径 8.1、器高 1.1、底径 6.5cm を測る。坏 a は 52 個体が計測可能で口径 13.1 ~ 11.6cm、器高 2.2 ~ 3.1cm、底径 7.5 ~ 9.8cm の幅があり、平均値は口径 12.5、器高 2.6、底径 8.5cm を測る (表 4 参照)。内底のナデと板状圧痕が大半に残されており、大宰府土器編年の XIX 期に属す。

大坏 (1) 口径が 19.3cm に復元される坏で、把手を取り付けた痕跡がある。内底に広く焦げた跡があり、焙烙のような用途が考えられる。

龍泉窯系青磁

小椀 (2) 口径 9.0、器高 4.8、底径 3.2cm を測り、半球径の胴部を持つ。内底には型を用いたことによる隆起線による 5 弁の花模様が浮き出される。釉は暗い緑色で厚く掛かっている。

青白磁

坏 (3) 型によって成形されたもので、口径 6.8、器高 3.4、底径 4.6cm を測る。外底部には渦文様が隆起線で表現される。釉は水色に近い発色をする。

黒釉陶器

天目椀 (4) 胎土は茶褐色で黒褐色の釉が掛かる。中国産と見られる。

瓦質土器

火鉢 (5) 上面に平坦面を持ち、手持ちのミガキによって器面が仕上げられる。外面に菊花文がスタンプによって押印される。燻しは表面全体に行き渡る。芯は白灰を呈す。

金属製品

滓 (6) 多孔質の素地にガラス状の皮膜が付着する。

1SD021 出土遺物 (fig22)

肥前系磁器

蓋 (1) 口径が 10.0cm に復元され、口縁端部が内側に折り返される形状を持つ。ややくすんだ青色の呉須で何重もの圏線を外面に描く。

国産陶器

坏×皿 (2) 茶褐色の鉄釉が掛けられ、内底部を円弧状に釉を剥ぎ取る。

瓦質土器

桶 (3) 口縁端部に向かって厚みのある形状を持つ。口縁部上面にまでハケ状工具でナデられる。かなり口径の大きな桶状を呈す容器と考えられる。

土製品

円盤状 (4) 光沢のある茶褐色の陶器を円形に加工品したもの。玩具とする意見もある。

手ひねり人形 (兵士) (5) 頭部のみ片面の型で成形され、体部は粘土紐をつくねて成形されている。背中側に錆びた針金の先端が見えている。頭部の帽子部分には黒色の顔料が残る。日露戦争の日本兵の人形で、箱庭道具である。

1SD035 暗灰土出土遺物 (fig22)

土師器

- 环 (1,2) 1は口径11.2、器高2.3、底径6.8cmで、法量上は皿との中間形態といえる。黄橙色を呈す。2は底径5.4cmを測り、全体に均一な薄手でbタイプの环になる可能性もある。
- 小皿a (3,4) 3は口径7.4、器高1.3、底径5.3cmで、淡黄褐色を呈す。4は焼成時(前)の変形が著しいが、口径は8.6cm前後か。淡黄褐色を呈す。

瓦類

- 丸瓦 (5) 厚みが約1.5cm程度のやや薄手の丸瓦で須恵質を呈す。

1SD226 出土遺物 (fig22)

土師質土器

- 鉢×鍋 (1) 口縁端部が玉縁状を呈す。淡乳灰色を呈す。

土製品

- 土錘 (2) 明橙色の土師質のもので、破片も含めこの1点のみが出土している。

石製品

- 不明滑石製品 (3) 立方体の素材に正方形とハート形の彫り込みを施す。弧状の工具先端の痕跡が残されており、彫り込みが途中で終わっているように見える。

瓦類

- 丸瓦 (4) 硬い須恵質のもので布目痕跡のある反対の面はナデで仕上げられ、焼成時に他の瓦付着している。

1SD227 出土遺物 (fig22)

須恵質土器

- 鉢 (1) 直線的に開く体部にやや厚みのある撥型の口縁端部が続く。東播系の製品と思われる。

瓦質土器

- 釜 (2) 羽釜の肩の部分と考えられ、内面はナデ、外面にはナデの上にハケ状工具で綾杉文のような装飾が施される。器面のみが燻されて灰黒色を呈し、胎土芯は白灰色を呈す。

石製品

- 不明加工品 (3) 円盤状に加工された滑石のかけらで、全体形は不明。

1SD230 出土遺物 (fig22 ,pla10-2)

緑釉陶器

- 椀 (1) 高台の付く椀で内底部と体部の境に段がつく。橙色系の胎土にやや暗い緑色の釉が掛かる。

国産陶器

- 甕 (2) 内外面にハケ状工具のナデが残る。胎土は灰色系を呈す。

土製品

- 棒状製品 (3) 土師質を呈す柱状のもので、断面では口字に粘土が接合された状況が観察される。土器焼成の道具との指摘がある製品である。

- 素焼人形 (4) 蓮華座に乗り合掌する仏の坐像で、下部に方形の突起とヘソ辺りに円形の穿孔がある。部分的に白色の顔料が付着する。後背面には造形はなくユビ押さえの痕跡がある。片割のみの型成形の製品で、懸け仏のような製品の可能性もある。原8次で大型のものが出土している。

瓦類

- 平瓦 (5) 正格子のタタキを持つ須恵質の平瓦である。

1SD240 出土遺物 (fig22)

縄文土器

粗製鉢 (1) 内底も平坦な形状を持つ粗製深鉢の底部片で径は 10.4cm に復元できる。

1SX016 出土遺物 (fig23)

肥前系磁器

碗 (1) 丸碗の体部片と思われ、青紺色の呉須で外側に文様が描かれる。

白磁

碗 (2) 薄い器壁で外反する口縁を持つ。国産のものであろう。

瓦質土器

火鉢 (3) 内傾する口縁の内側に嘴状の突起を有す。燻しによる黒色の部位は偏在する。内面には煤が付着する。

土製品

焼土塊 (4,5) 橙茶色を呈し、5mm 台の大きめの白色砂粒を含む。4 には平滑な面がある。

1SX028 出土遺物 (fig23)

龍泉窯系青磁

碗 (1) 口径が 11.6cm に復元され、体部外面にはへう描きで連弁が表現される。釉調は光沢のある淡青緑色を呈す。上田分類の B-II-a タイプに属す。

1SX031 出土遺物 (fig23)

黒釉陶器

天目碗 (1) 口径が 11.0cm に復元され、胎土は黒色粒を含む灰黒色を呈す。釉は茶色の下地に重ねて光沢のある黒色の釉が掛けられる。中国産と考えられる。

1SX043 出土遺物 (fig23)

土師器

小皿 a (1,2) 口径が 7.6cm に復元され、1 は器高が 0.9、2 は 1.7cm を測る。淡黄褐色を呈し、2 の口縁部には油煙が付着する。

土製品

瓦玉 (3) 須恵質の瓦を径 2.5cm ほどの円筒状に加工したもの。

土玉 (4) 径が 2cm ほどの球形を成す。淡赤褐色を呈す。

石製品

丸石 (5) 2.2 × 1.8cm 大で黒色の泥岩で那智黒石に似ている。搬入素材である。

瓦類

丸瓦 (6,7) 厚さ 1.5 ~ 2cm の須恵質を呈すもので、1 は二重の斜格子、2 は目の小さな斜格子のタタキを持つ。

1SX057 出土遺物 (fig23)

土製品

棒状土製品 (1) 長さ 8.2cm が残る土師質の棒状の土製品である。断面形状は蒲鉾状を呈す。用途は不明である。

1SX086 出土遺物 (fig23)

土製品

人形 (1) 内面にユビ押さえの痕跡が見られる型を用いた人形の破片で、裾部に横沈線が入る立像の着物裾の部分と考えられる。

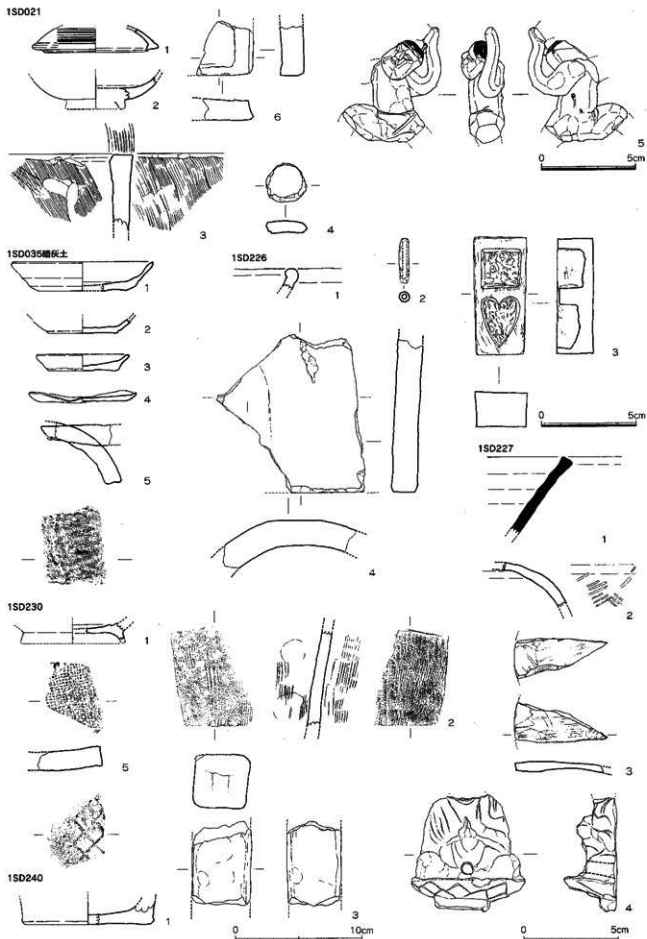


fig22 連歌屋1次溝 (021,035,226,227,230,240) 出土遺物実測図2 (1/2,1/3)

石製品

丸石 (2~4) 泥岩と思われる灰色を呈す小判形の小石で、搬入石材である。

コア (5) 2.0 × 1.6 × 1.6cm の赤茶色を呈すチャートを素材とする石核で、外皮を残し、縦長い幅 5mm ほどの剥片を取っている。マイクロ・コアの可能性はある。

1SX094 出土遺物 (fig23)

瓦質土器

火鉢 (1) 丸みのある胴部上位に沈線下に菊花文のスタンプを連続して押印する。玉葱形の火鉢の口縁部片と考えられる。外面が黒灰色、内面が灰白色を呈す。

1SX104 出土遺物 (fig23)

金属製品

金属塊 (1) 3.4 × 2.4 × 1.6cm の多孔質の塊。淡灰褐色を呈す。

1SX116 出土遺物 (fig23)

鉄製品

釘 (1) 0.8mm 角の方柱状の角釘片。

1SX146 出土遺物 (fig23)

緑釉陶器

蓋 (1) 口縁端部に段を持つ形状を成し、淡茶色の素地に淡緑色の釉が内外面に掛けられる。

1SX176 出土遺物 (fig 23)

土師器

小皿 a (1) ヘラ切りの底部処理を残すもので、口径 10、高さ 1.5、底径 7.8cm を測る。

土師質土器

風炉 (2) 脚付きの風炉の破片と考えられる。ナデによって仕上げられ橙褐色を呈す。

1SX187 出土遺物 (fig23)

瓦類

平瓦 (1) 斜格子のタタキを持つ平瓦で須恵質を呈す。

1SX121 出土遺物 (fig23)

土師器

坏 b (1,2,4) 1 は口径が 11.5、器高 2.4、底径 6.2cm に、2 は 11.4cm に復元される。内面にロク口によるナデの軌跡を残す。器壁は 4mm ほどで均一で薄い。黄褐色系の色調を呈す。4 は小片であるがこの類に属す可能性はある。

小皿 a (3) 口径 7.0、器高 1.4、底径 4.4cm の小皿で、黄褐色系の色調を呈す。

石製品

丸玉 (5,6) 泥岩と思われる楕円形の丸石。一つの遺構から複数出土する傾向がある。

1SX122 出土遺物 (fig23)

土製品

焼土塊 (1~3) 約 3cm 大で植物繊維の痕跡を残す。面などはない。

石製品

丸石 (4) 泥岩と思われる約 3cm 大の楕円形の丸石。

1SX193 出土遺物 (fig24)

土製品

瓦玉(1) 灰白色を呈す瓦質の瓦を素材とする2cm大のもの。

1SX194 出土遺物 (fig24)

土製品

瓦玉(1) 灰白色を呈す瓦質の瓦を素材とする2cm大のもの。

1SX208 出土遺物 (fig24)

瓦類

平瓦(1~3) 斜格子のタタキを持つ須恵質の平瓦で、1のタタキ目には直線が組み合わされる。

1SX212 出土遺物 (fig24)

土師器

椀c(1) 高台径が6.5cmほどに復元される椀で、底が厚め。

瓦類

丸瓦(2) 斜格子のタタキを持つ須恵質の丸瓦で、タタキ目中に方形の枠があり文字が伴うタイプ。文字は「安楽寺」か。

石製品

砥石(3) 花崗岩製のもので、欠損しているが本来は方柱状を成すものと考えられる。

滑石製加工品(4) 厚さ1.5cmほどの板状のもので、断面形状は平坦ではない。本来の形状や用途などは不明である。

1SX213 出土遺物 (fig24)

土製品

焼土塊(1) 淡黄褐色を呈し、多孔質で植物繊維の痕跡が見られる。被熱により一部が灰褐色に変色する。

金属製品

鉛滓(2) 多孔質で黒褐色を呈す小片である。

1SX214 出土遺物 (fig24)

中国陶器

褐釉小皿(1) 口径9.0、器高2.7、底径3.0cmを測る小皿で、口縁端部には浅い沈線があり、外底部は雑な割りこみが施される。マットな茶褐色の釉が施される。口縁内側に重ね焼きによる付着物が見られる。

須恵質土器

甕(2) く字に屈曲する口縁を持ち、口縁端部には沈線が、胴部外面に格子タタキの痕跡があり、内面は工具によるナデの痕跡がみとめられる。表面は黒灰色を呈すが胎土の芯は白灰色を呈す。

1SX217 出土遺物 (fig24)

須恵質土器

甕(1) く字に屈曲する口縁を持つ。内外面ともにナデの痕跡で占められる。淡黒灰色を呈す。

土製品

瓦玉(2) 須恵質の瓦を素材とし、打ち欠かれて2.3×3.0cmの楕円形を呈す。

1SX218 出土遺物 (fig24)

瓦類

軒平瓦(1) 須恵質で瓦当面に連続三角文を有す軒平瓦である。

平瓦(2) 須恵質で目の大きな斜格子のタタキを有す。2cmの厚みを持つ。

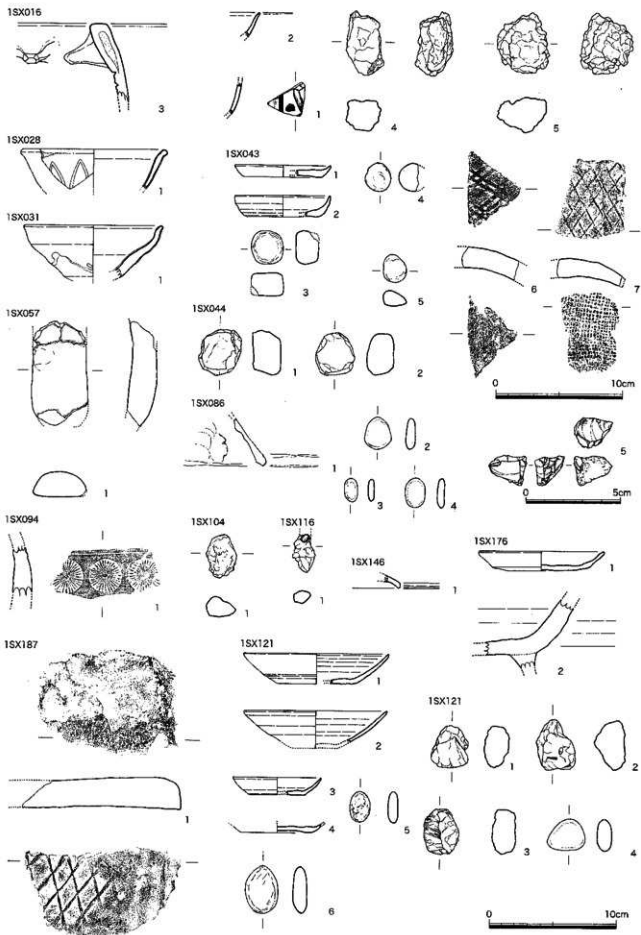


fig23 連歌屋1次その他の遺構(016,028,031,043,044,057,086,094,104,116,121,122,146,176,187) 出土遺物実測図1 (1/2,1/3)

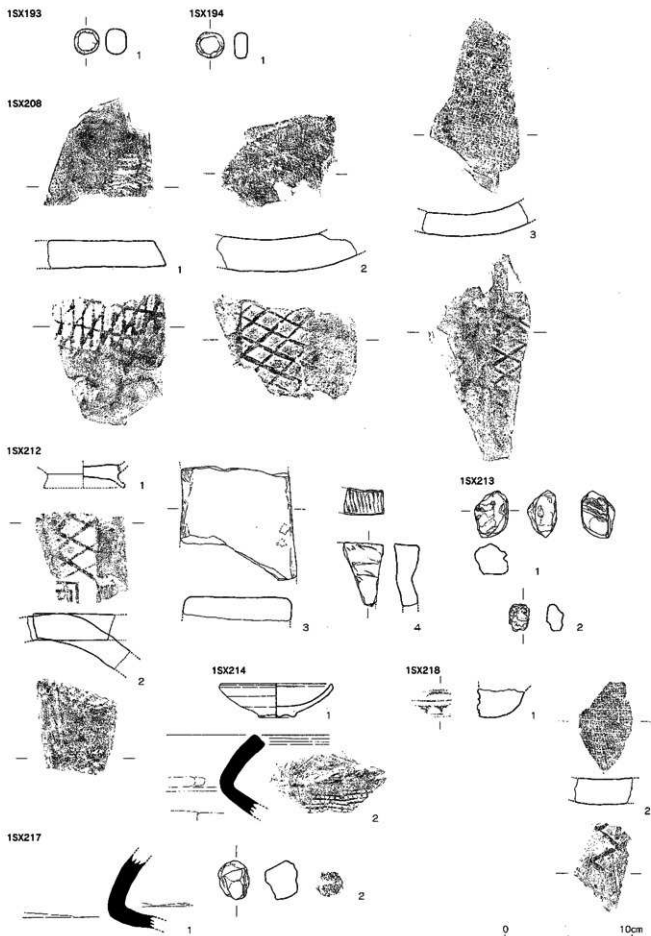


fig24 連歌屋1次その他の遺構(193,194,208,212,213,214,217,218)出土遺物実測図2(1/3)

ISX224 出土遺物 (fig25)

土師質土器

脚付皿 (1) 皿部は口径 10.2、器高 2.8cm を測る。先端が外に屈曲する脚が取り付けられる。

ISX229 出土遺物 (fig25)

瓦類

平瓦 (1) 二重の斜格子のタタキを有す平瓦片で、土師質を呈す。

ISX232 出土遺物 (fig25)

須恵器

甕 (1) 外面は格子目のタタキ痕、内面は平行の刻みを持つ当て具痕がある。青灰色を呈すが外面は一部が赤みを帯びる。

瓦類

丸瓦 (2) 須恵質で目の大きな斜格子のタタキを有す。

平瓦 (3,4) 須恵質で 3 は斜格子に直線を組み合わせ、4 は二重の斜格子のタタキを有す。

石製品

石鐮 (5) 緑色片岩を素材とし、片面に原石の表皮を残した状態で四方から打ち欠いて成形している。法量は 11.7 × 5.4 × 2.1cm で長さ、幅ともに小さめで縄文晩期以降の傾向を示す。

淡灰土出土遺物 (fig25.26 ,pl11-2)

土師器

椀 c × 皿 c (1) 高台径が 6.0cm で、体部下が屈曲する。淡黄褐色を呈し白色傾向を示す。

脚付鉢 (2) 径が 10.3、高さ約 2cm の高い高台を有す。淡黄褐色を呈し白色傾向を示す。

小皿 a (3,4) 底はヘラ切り後に板状圧痕が残る。3 は口径 9.2、器高 1.4、底径 7.0cm に、4 は口径 9.1、器高 1.1、底径 6.8cm に復元される。3 は黒灰色、4 は淡黄褐色を呈す。

盤 (5) 底径が 13.6cm に復元される。底部はイト切り後に板状圧痕が残る。

黒色土器 B

椀 c (6) 球形の胴部に短く外に反る高台を持つ。内外面に手持ちのミガキが施される。

須恵質土器

甕 (7) ラッパ状に開き、端部が上方に屈曲する口縁を持つ。表面は暗茶褐色を呈す。

瓦類

平瓦 (8 ~ 12) 須恵質で 8 は二重格子、他は斜格子のタタキを有す。

灰色土 2 出土遺物 (fig26)

肥前系磁器

徳利 (1) 下膨れの胴部を持つもので、紺色の呉須で圏線と松などを描く。内面に軸は施されない。

土師質土器

鍋 (2) 上方に反りぎみの L 字口縁を持つ。外面には煤が付着している。

ほうろく (3) 破片の為本来の角度が明確でない。口縁はくちばし状に成形され、内面にハケ状工具の痕跡が残る。

茶褐色出土遺物 (fig26)

瓦類

平瓦 (1 ~ 7) 須恵質で厚みが 2cm 前後の平瓦で、3 は斜格子に直線の組み合わせ、5 は二重斜格子、6 は正格子、他は斜格子のタタキの痕跡を持つ。

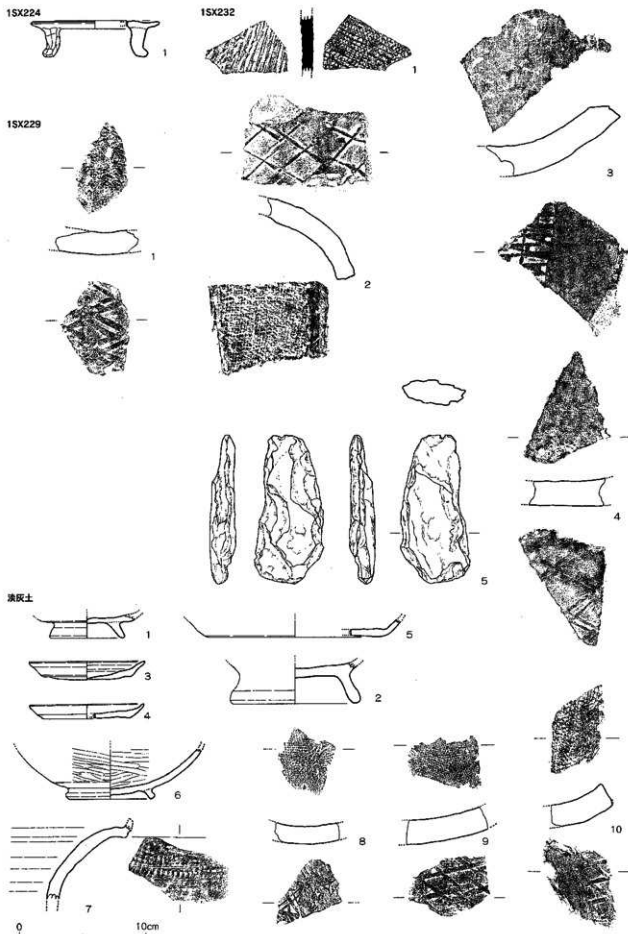


fig25 連歌屋1次その他の遺構 (224,229,232) 3、淡灰土出土遺物実測図 (1/3)

暗灰土出土遺物 (fig27 .pla11-1)

土師器

坏 a (墨書) (1) 1は口径 12.2、器高 2.3、底径 8.9cm に復元され、底部はイト切り後板状圧痕が残る。見込みには習書と見られる墨書が残される。

鍋 (2) ゆるい屈曲のある口縁を持つ大型の鍋で、口縁端部外面に煤が付着する。内面下半部は器面荒れが著しく、煮炊による疲労の痕跡と考えられる。

国産磁器

小坏 (3.4) 3は筒型を呈し、外面に濃い青色の科学呉須による文様が描かれる。4は口縁端部が外反する器形を持つ。色絵で金と黒色で彩色が施される。

肥前系磁器

小皿 (5) 凹型高台を持つ口径 11.2cm の皿で、内底に三箇所のハリの目跡があり、明紺色の科学呉須で花蝶文が描かれる。

国産陶器

ほうろく (6) 把手部分であり、型成形による。茶褐色の釉が施される。内面は透明釉。

灯火具 (7) 高環状の灯火具で、茶褐色の釉を施す。坏部は片口になっている。

緑釉ミニチュア蓋 (8) 直径 3.6、高さ 1.1cm を測る。外側は型により成形され、下面は円盤状の粘土塊が貼付される。黄色釉に緑釉が三箇所斑点状に施される。

土製品

土玉 (9) 土師質のもので、径 2cm ほどのいびつな球形を呈す。

暗茶灰土出土遺物 (fig 27)

土師器

丸坏 (1) 回転を利用したナデが内外面に残される、丸底の坏と考えられるもので、内底に墨書の文字の一部が残されている。

瓦質土器

火鉢 (2) 桶型を呈す火鉢の底部付近の破片で、タガを表現した台形状の凸帯の上に四つ菱文のスタンプが連続して押印されている。内面にはハケ状工具の痕跡が残る。燻しは外面のみ見られ、マットな黒色を呈す。

土製品

おはじき (3) 型を用いた成形によるもので、大根がモチーフである。乳白色の粘土を用いる。

石製品

水晶用途不明品 (4) 磨り白のような中央のへこんだ円盤状を呈すもので、本来の全体形状はわからない。

西地区灰色土出土遺物 (fig27)

瓦類

軒丸瓦 (1) 須恵質で周縁と朱文帯の部分の破片である。

丸瓦 (2.3) 2は須恵質、3はもろい瓦質を呈し、斜格子のタタキ目を持つ。

平瓦 (4.5) 須恵質で斜格子のタタキ目を持つ。

灰色土 1 出土遺物 (fig 28)

土師器

小皿 b (1) 口径 6.5、器高 1.4、底径 3.8cm に復元され、底部はイト切りを残す。

国産磁器

椀(2) 斜め上方に伸びる口縁を持つもので、外面に鉄を用いた錆び手の土掛けをおこなう。

肥前系磁器

椀(3) 薄手の丸椀と考えられ、淡青色の呉須で彩色される。

土師質土器

鍋(4~6) 4と6は素口縁で、5は厚みのあるL字口縁を持つ。外面に煤が付着する。

土製品

焼土塊(7) 淡黄橙色を呈し、繊維質の痕跡が見られる。面は見られない。

瓦玉(8) 瓦質の素材を加工したもので、2.6×2.3×2.5cmの法量を持つ。

瓦類

平瓦(9) 正格子に「安」の文字が見られるタタキを有す。文字は「安楽寺」か。瓦質で軟質。

丸瓦(10) 須恵質で二重の斜格子のタタキを有す。

黒茶灰土出土遺物 (fig 28)

龍泉窯系青磁

椀(1) I類の椀の底部片で、内底に「大吉」の文字をあしらった花文のスタンプが押される。

瓦類

丸瓦(2) 正格子に部分的に十字が入られたタタキを有す。焼は瓦質を呈す。

平瓦(3) 二重の斜格子を持つもので、瓦質を呈す。

黒灰土出土遺物 (fig 28)

土師器

小皿(1) 口径15.2、器高2.2、底径4.8cmに復元され、底はイト切りで水引きにより斜め上方に口縁が引き出される形状を持つ。

黒色土器 B

鉢(2) 端部に厚い形状を成すもので、内外面に手持ちのミガキを有す。

国産陶器

甕(3,4) 3はL字に屈曲する口縁端部を持つ常滑産の甕の口縁で褐色を呈し、上面に緑色の釉が掛かる。4は平行タタキの痕跡が残る甕の底部片で、備前ないし常滑産のものと考えられる。

土製品

瓦玉(5,6) 約3cm大のもので、5は須恵質、6は土師質を呈す。

瓦類

平瓦(7,8) 厚さが2cmほどの平瓦片で、7は土師質で「寺」字のタタキを有し、8は須恵質を呈し、斜格子に文字の部分が見られるタタキを持つ。

石製品

権(9) 滑石を素材とするもので、横から上面に貫通する穿孔が施される。法量は5.0×3.3×2.1cmを測る。

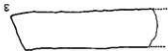
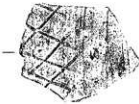
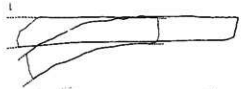
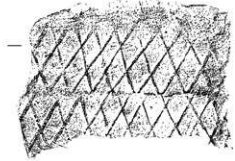
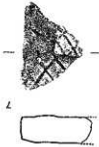
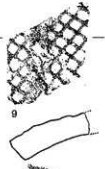
茶灰土出土遺物 (fig 29)

須恵器

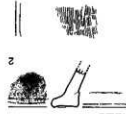
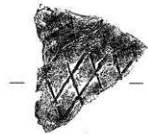
甕(1,2) 1はラッパ状に開く口縁端部の破片で、淡灰褐色を呈す。2は格子目のタタキがあり、淡灰褐色を呈す。

壺d(3) 肩が張る瓶状の形状を持ち、肩の屈曲部に三角の張りつけ凸帯を有す。淡青灰色を呈す。

fig26 連歌屋1次淡灰土、茶褐土、灰色土2出土遺物実測圖 (1/3)



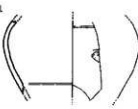
茶褐土



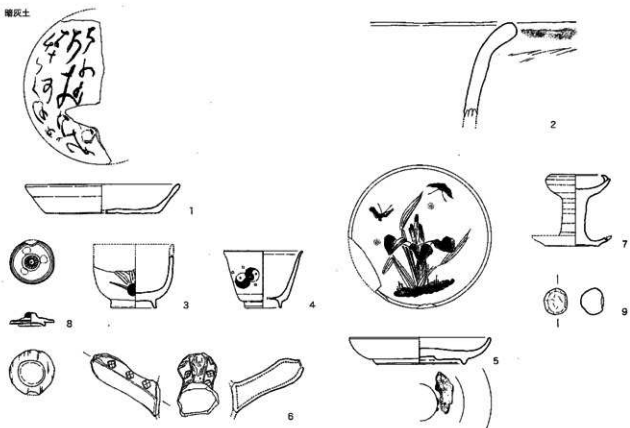
灰色土2



淡灰土



暗灰土



暗茶灰土



西地区灰色土

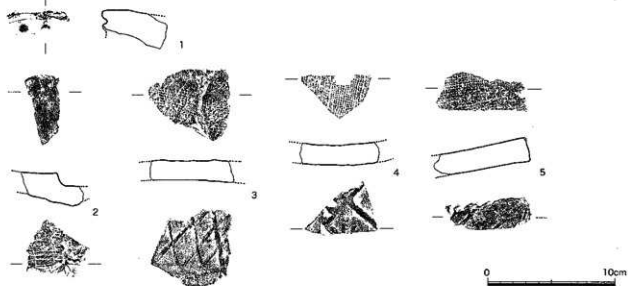


fig27 連歌屋1次暗灰土、暗茶灰土、西地区灰色土出土遺物実測図(1/3)

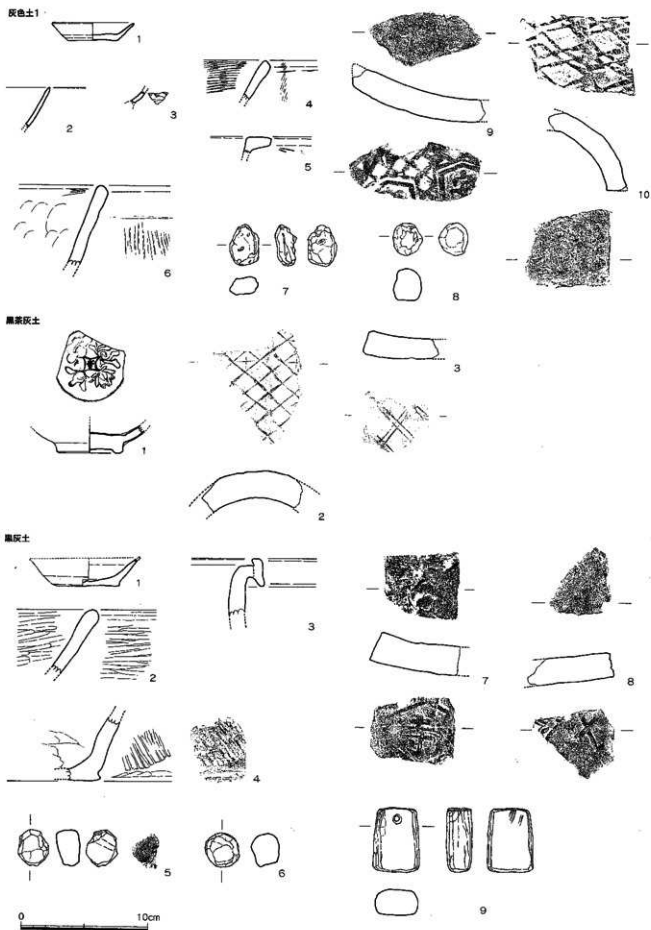
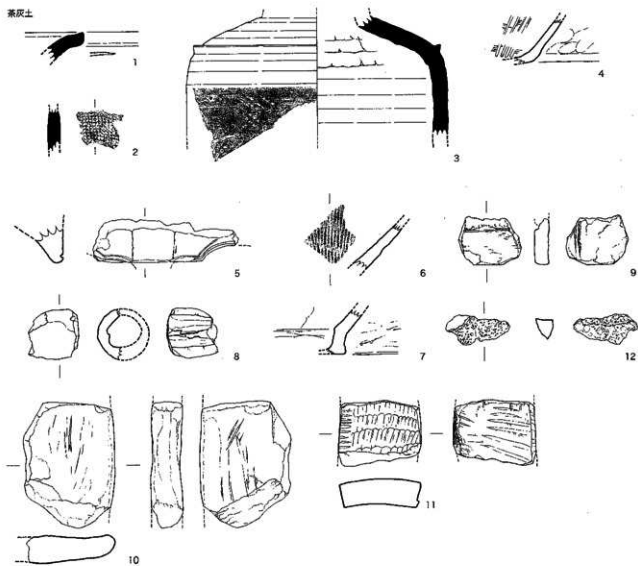


fig28 連歌屋1次灰色土1、黒茶灰土、黒灰土出土遺物実測図 (1/3)

茶灰土



表土

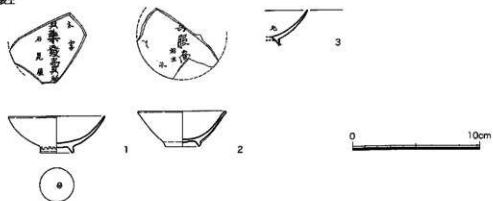


fig29 連歌屋1次茶灰土、表土出土遺物実測図 (1/3)

瓦質土器

すり鉢(4) 内面には下地にハケが施され幅広の摺り目が放射状に刻まれる。煙しはなく淡灰褐色を呈す。

土師質土器

火鉢(5) 大型の火鉢の脚部であり、左右に刺り手がありそのカーブに沿って沈線が施される。

国産陶器

すり鉢(6) 暗赤褐色を呈し、摺り目は交錯して施される。

縄文土器

粗製深鉢(7) 底部片で一旦上方に立ちあがり、外側に開く形状を持つ。内面には工具によるナデの痕跡が残る。底は平底か。

土製品

鞆羽口(8) 直径が4cmほどに復元される筒状のもので、外面には煤が付着する。内面は凹凸があり滑らかなカーブは描かない。

石製品

石鍋加工品(9,11) 石鍋のカーブを残す破片の割れ口を加工して平坦にしたもので、用途は不明。

砥石(10) 砂岩製の板状を呈すもので、3面が利用されている。

金属製品

スラグ(12) 部分で赤灰色、灰褐色、茶褐色、黒褐色などを呈す。多孔質である。

表土出土遺物 (fig29)

国産磁器

小坏(1~3) 盃と思われ、1は口径7.6、器高2.7、底径2.9cmに復元され、内面の見込みに「太宰」「貝葉発売所」「石見屋」などの銀文字がある。外面高台部には科学呉須でジグザグ模様を施される。2は口径7.0、器高2.7、底径2.8cmに復元され、見込みに「呉服商」「稻次」などの金文字が見られる。

5. 小結

検出された遺構の内、建物や溝については検出長が短いこともあって数値的には10度単位の振れがあるが、大半が南北方向の方位に制約を受けていることがわかった。遺物の廃棄は鎌倉末から南北朝初期頃と近世末、近代に顕著な状況があった。建物は前者に伴い、掘立柱だが礎盤を伴い、当該期における地域の一つの中核エリアである観世音寺周辺の建物群と同様の手法が用いられていることがわかった。この時期には現地形の間口と奥の位置で南北の区画に係わると考えられる溝、1SD230.005が存在し、現地形との相関が気になる所である。

また、南北の区割りの発生は最下層の1SD200の存在が大きい。調査当初は大きな窪みと見ていたが、後年おこなった6次調査においても最下面で6SD050が検出され、本エリアを貫く遺構であることを示している。安楽寺天満宮西側の緩斜面での区割りの発生が12世紀前後(大宰府編年XII期前後)に遡る可能性を示している。

表1 連歌屋1次 遺構一覧(1)

S番号	遺構番号	遺構性格	地積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
1	1SK001	掘立柱建物	S-106,117,122,146 からなる	143→10			C3
2		廃棄土壌			明治～昭和前半?		D3
3	1SK003	廃棄土壌			明治～昭和前半?		B3
4		廃棄土壌		4→3	明治～昭和前半?		B3
5	1SD005	溝		5→15	13c 末～14c 前半		3ライン
6		廃棄土壌					C4
7	1SK007	廃棄土壌		9→7			C5
8	1SK008	廃棄土壌					C5
9	1SK009	廃棄土壌					C5
10	1SK010	掘立柱建物	S-87,89,98,101,116,121,137				C6
11	1SK011	廃棄土壌					C3
12		廃棄土壌					C2
13	1SK013	廃棄土壌					B5
14	1SK014	廃棄土壌					B5
15	1SK015	土壌		5→15	13c 末?		C2
16	1SK016	不明(簗子杖横並溝群)					B4
17	1SK017	土壌					D4
18		ビット		17→18			D4
19	1SK019	土壌			14c		B4
21	1SD021	溝状連続土壌					C4
22	1SK022	廃棄土壌					C5
23	1SK023	廃棄土壌					B5
24	1SK024	廃棄土壌		35→24→83			C2
25	1SK025	土壌		25→5	13c ?		B2
26	1SK026	土壌?			13c～14c		B7
27		ビット		28→27			C8
28	1SK028	ビット(礎石あり)		28→27	14c～15c		C8
29		土壌					B8
31	1SK031	ビット			14c～15c		B8
32		ビット		?	?		D6
33	1SK033	土壌		32→33	14c～15c		D6
34		ビット					D6
35	1SD035	溝			13c		B・C2
36	1SK036	土壌			14c～15c		B6
37		ビット群					C8
38		ビット					C7
39		ビット群			13c		B7
41		ビット					C7
42	1SK042	溝状連続土壌			明治～昭和前半		C6
43	1SK043	たまり状	淡茶灰色土				C7
44	1SK044	ビット群			13c～		C6
46		ビット			近世～近代		C6
48		溝	黄色土ブロック混じり		14c～		C7
49		溝	黄色土ブロック混じり				C7
51		溝	黄色土混じり				C6
52		ビット(百づめ)					B6
53		ビット群			14c～		C6
54		ビット群			13c～		C6
56		ビット			14c 前半～		B7
57	1SK057	ビット		57→26			B7
58		ビット群			14c～		B7
59		ビット群			13c～		C7
61		ビット			14c～		B8
62		ビット群			14c～		B8
63		ビット			?		B8
64		ビット			?		C8
66		溝状連続土壌			?		C7
67		ビット			13c 中頃		C2
68		ビット			13c 前半		D2
69	1SK069	土壌			13c 前半?		D2
71		土壌			13c～14c		B3
72		土壌			近世		B2
73		ビット		72→73			B3
74		ビット			14c～		B2
76		ビット			14c～		D8
77		ビット			13c 中頃～		D7
78		ビット群			14c～		C8
79		ビット群					C7

表2 連歌屋1次 遺構一覧2

S番号	遺構番号	遺構性状	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
81		ピット	堆積土				D6
82		ピット	褐色土	82→2	13c～		D2
83		土壌			XVII～(13c～)		C2
84		ピット			13c～		D2
86	1SX086	ピット			11c～		C6
87		ピット群			13c?		B6
88		ピット			13c～		B7
89		ピット群			12c～		B7
91		ピット		91→26	13c～		B7
92		ピット			16c?		B7
93		ピット		93→37	近世		B8
94	1SX094	ピット?		94→43	14c～		C7
96		ピット群		96→43	13c～		C7
97		ピット			13c～?		C8
98		ピット		98→79	13c～		C7
99		ピット			14c～		C7
101		ピット群		101→42	14c～		C5
102		ピット		102→5	14c～		B2
103		土壌		103→2・112	13c～		C2
104	1SX104	ピット群			13c～		C3
106		ピット(礎石あり)					C3
107		土壌		107→3	14c前半～		B3
108		ピット(礎石あり)		107→108	14c前半～		C3
109	1SK109	土壌			11c～		C4
111		ピット			14c前半～		B4
112		ピット群					C4
113		ピット群					B4
114		ピット					D4
116	1SX116	ピット(礎石あり)					C5
117		ピット(礎石あり)			14c後半～		C5
118		ピット(礎石あり)			14c前半～		B4
119		ピット			14c後半～		C5
121	1SX121	ピット(礎石あり)					C5
122	1SX122	ピット(礎石あり)					C5
123		ピット群		123→122			C5
124	1SK124	土壌			14c後半		B4
126		ピット			12c～		C4
127		土壌			14c～		C4
128		ピット群			?		D5
129		ピット群			13c～		C5
131		土壌			11c～		C5
132		ピット			13c～		C5
133		ピット			14c～		C5
134		ピット			近世?		B4
136		土壌			14c後半～		B5
137		ピット(礎石あり)			?		B5
138		ピット			?		B5
139	1SK139	土壌		139→107・126			C4
141	1SK141	土壌		141→119・136	14c後半～		B5
142		土壌		124→142			B4
143	1SK143	土壌			13c～		C4
144	1SK144	土壌		144→127	12c～		D4
146	1SK146	ピット(礎石あり)		126→146			B4
147		ピット		147→124			B4
148		ピット?		148→113・124			B4
149		土壌		149→139→126	14c～		C4
151		ピット			13c末～		C8
152		ピット(礎石あり)					B6
153		ピット(礎石あり)		154→153			C6
154	1SK154	土壌		154→153	14c前～		C6
156		ピット			16c		B6
157	1SK157	土壌			14c前～		C8
158	1SK158	土壌					C7
159	1SX159	ピット			16c		C6
161		ピット群			14c後～		C6
162		ピット群			13c～		C7
163		ピット群					B7
164		ピット群					B8

表3 連歌屋1次 遺構一覧3

S番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
166		ピット群					C6
167		ピット（礎石あり）					C7
168				168→158			C7
169		ピット			13・4c～		C8
171		ピット群					C8
172		ピット					C7
173		ピット					C8
174		ピット群					C7
176	1SX176	ピット					B7
177		ピット群			11c～		B8
178		ピット					D7
179		ピット群					B5
181		ピット群					B6
182		ピット群					B7
183		土壌		183→181	13c～?		B6
184		土壌					B6
186		土壌					B7
187	1SX187	ピット群			11c～		C6
188		ピット群			11c～		C7
189		土壌			13c～		B5
191		ピット（礎石あり）			11c～		C6
192		炭灰土の残み		195→192	11c～		C7
193	1SX193	ピット群			12c		B7
194	1SX194	ピット群			11c?		B8
195	1SX195	土壌		192→195	11c前		C6
196		溝			11c?		B8
197	1SX197	土壌			11c～		B7
198	1SX198	土壌			11c～		C8
199	1SX199	土壌			11c～		B7
200	1SD200	溝	炭灰土		10～11c		B12・13
201		土壌			13c～		B14
202		ピット（礎石あり）			13c～		B14
203		ピット（礎石あり）			14c～		B14
204		ピット群					C14
206		ピット群					B14
207		ピット群			11c～		B13
208	1SX208	ピット			12c～		B13
209		ピット			14c～		B12
211		ピット（礎石あり）					B11
212	1SX212	ピット			11c～		B12
213	1SX213	ピット群			11c～		B11
214	1SX214	ピット群			14c～		B11
216		ピット（礎石あり）					B10
217	1SX217	ピット群			11c～		B12
218	1SX218	ピット群			12c～		B13
219		ピット			11c～		B10
221		土壌			14c～		B10
222	1SK222	土壌					C10
223	1SK223	土壌					B9
224	1SX224	たまり状					B9
226	1SD226	溝					B10
227	1SD227	溝					B13
228		ピット（礎石あり）					B14
229	1SX229	ピット					B12
230	1SD230	溝		240→230	～14c		B・C14
231		ピット群			～14c		C11
232	1SX232	たまり状	炭灰土		11c～		B10
233		ピット			～11c		B12
234	1SK234	土壌		232→234			C10
240	1SD240	溝		240→230	11c?		B・C14

表4 連歌屋1次 遺物計測表

連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-5-10-001	土師焼	小瓶	1	12.4	1.2					口
E-5-10-002	土師焼	小瓶	1	12.3	2.9	8.5				口
			平均	12.4	2.9	8.4				
連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-5-10-003	土師焼	小瓶	8	10.7	7.0					口
E-5-10-004	土師焼	小瓶	8	10.1	5.9					口
E-5-10-005	土師焼	小瓶	8	10.4	7.4					口
E-5-10-006	土師焼	小瓶	8	10.1	6.2					口
E-5-10-007	土師焼	小瓶	8	10.2	6.5					口
E-5-10-008	土師焼	小瓶	8	10.7	7.0					口
E-5-10-009	土師焼	小瓶	8	10.4	7.4					口
E-5-10-010	土師焼	小瓶	7	11.6	6.0					口
E-5-10-011	土師焼	小瓶	8	12.2	6.8					口
E-5-10-012	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-013	土師焼	小瓶	7	11.8	8.3					口
E-5-10-014	土師焼	小瓶	8	13.9	6.9					口
E-5-10-015	土師焼	小瓶	8	11.9	6.9					口
E-5-10-016	土師焼	小瓶	8	11.1	7.1					口
E-5-10-017	土師焼	小瓶	8	11.6	6.5					口
E-5-10-018	土師焼	小瓶	8	12.7	7.1					口
E-5-10-019	土師焼	小瓶	8	11.3	6.3					口
E-5-10-020	土師焼	小瓶	7	10.8	6.4					口
E-5-10-021	土師焼	小瓶	8	11.6	6.7					口
E-5-10-022	土師焼	小瓶	8	10.0	10.6					口
E-5-10-023	土師焼	小瓶	8	10.6	10.7					口
E-5-10-024	土師焼	小瓶	8	10.2	6.5					口
E-5-10-025	土師焼	小瓶	8	10.6	14.7					口
E-5-10-026	土師焼	小瓶	8	11.1	6.6					口
E-5-10-027	土師焼	小瓶	8	10.6	12.6					口
E-5-10-028	土師焼	小瓶	8	10.8	14.7					口
E-5-10-029	土師焼	小瓶	8	11.4	6.4					口
E-5-10-030	土師焼	小瓶	8	11.2	6.3					口
E-5-10-031	土師焼	小瓶	8	11.4	6.3					口
E-5-10-032	土師焼	小瓶	8	11.2	6.4					口
E-5-10-033	土師焼	小瓶	8	11.2	6.6					口
E-5-10-034	土師焼	小瓶	7	11.1	6.7					口
E-5-10-035	土師焼	小瓶	8	11.3	8.5					口
E-5-10-036	土師焼	小瓶	8	11.3	8.5					口
E-5-10-037	土師焼	小瓶	8	11.2	6.3					口
E-5-10-038	土師焼	小瓶	8	11.2	6.3					口
E-5-10-039	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-040	土師焼	小瓶	8	11.2	6.3					口
E-5-10-041	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-042	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-043	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-044	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-045	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-046	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-047	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-048	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-049	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-050	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-051	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-052	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-053	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-054	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-055	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
E-5-10-056	土師焼	小瓶	8	11.3	6.4					口
			平均	11.2	6.6					
連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-19-001	土師焼	小瓶	9	12.8	8.6					口
			平均	12.8	8.6					
連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-19-002	土師焼	小瓶	1	11.7	2.6	8.5				口
			平均	11.7	2.6	8.5				
連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-24-001	土師焼	小瓶	8	11.9	6.4					口
E-24-002	土師焼	小瓶	8	11.9	6.4					口
			平均	11.9	6.4					
連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-71-001	土師焼	小瓶	8	12.0	6.6					口
E-71-002	土師焼	小瓶	8	12.0	6.6					口
			平均	12.0	6.6					
連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-82-001	土師焼	小瓶	7	11.7	11.3					口
E-82-002	土師焼	小瓶	8	11.7	11.3					口
			平均	11.7	11.3					
連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-124-001	土師焼	小瓶	1	12.0	2.6	7.2				口
E-124-002	土師焼	小瓶	1	12.0	2.6	7.2				口
			平均	12.0	2.6	7.2				
連歌屋1次 遺物計測表										
遺物番号	土器名	種類	数量	口径	高さ	底径	底面形状	内径	取付位置	備考
E-243-001	土師焼	小瓶	1	14.8	3.0	9.5				口
			平均	14.8	3.0	9.5				

表5 連歌屋1次 出土遺物一覧表1

52	土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)、小皿b?
国 産 陶 器	陶輪:漆	

53	土 師 器	小皿a(イト)
土 師 質 土 器	白火鉢、土瓶、火鉢、赤火鉢	
肥前系陶磁器	染付:小杯、印版手小杯、皿 プリント色絵小杯	
国 産 陶 器	染物:漆、小杯(漆器「藤田」) 鉄輪:磨り鉢	
国 産 磁 器	香利、磨り研鉢状	
瓦 類	軒平瓦、平瓦	
そ の 他	ソース瓶、薬瓶、インク瓶	

55茶色土	土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	碗:口	
国 産 陶 器	土器?	
中 国 陶 磁 器	陶輪:漆	
瓦 類	磁片(古代)	

55黒灰土	土 師 器	环a(イト)、环b?、小皿a(イト)、小皿b(イト)
越前系青磁	碗:口	
長沙窯系青磁	碗:口	
龍泉窯系青磁	碗:1、1a、日本、皿2c、磁片 包胎器:小皿皿1Aa	
阿波系青磁	碗:11b、磁片	
土 師 質 土 器	古磁片?	
須恵系土器	鉢(灰濠系)	
瓦 質 土 器	火鉢	
国 産 陶 器	陶輪:土瓶(近世)、罎(備前×京焼)	
白 磁	碗:X、磁片 磁輪:磁片	
青 白 磁	罎(印)、合子、茶分類	
中 国 陶 器	罎:陶輪製?	
黒 輪 陶 器	天目碗	
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶磁器	
金 属 製 品	漆	
瓦 類	瓦瓦(格子・古代)、丸瓦(古代)	
そ の 他	紙	

55①	土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
土 師 質 土 器	鉢	
瓦 類	磁片	

55②	土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
青 白 磁	合子	

55③	龍泉窯系青磁	碗:茶1碗皿b
-----	--------	---------

55④	土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
瓦 類	平瓦(格子・古代)	

56	土 師 器	小皿a(イト)
土 師 質 土 器	白火鉢	
瓦 質 土 器	罎、火鉢	
白 磁	輪:V~VII	
肥前系陶磁器	染付:丸輪	
国 産 陶 器	鉢、陶輪、鉄輪製り鉢	
瓦 類	軒平瓦(近世-)、丸瓦(近世-)	
そ の 他	コンクリート片、レンガ	

57	龍泉窯系青磁	碗:皿b、上田分製B-IV、上田分製C-II 皿:磁片
阿波系青磁	碗:磁片	
土 師 質 土 器	白火鉢、七輪サン、赤火鉢	
瓦 質 土 器	磨り鉢	
龍 芦	埋輪器入れ(書書「音」)	
肥前系陶磁器	染付:印版手丸鉢、磁板鉢、碗、小杯、重ね鉢、皿 色絵:皿、碗	
国 産 陶 器	埋輪:瓶、罎、火鉢?、灯火具 鉄輪製り鉢、磨り鉢 山水土版、行平、刷毛手裏?、筆瓶	
国 産 磁 器	埋輪	
土 製 品	土人形(個?)	
瓦 類	軒平瓦(近世-)、軒丸瓦(近世-) 丸瓦(格子・古代)	
そ の 他	ガラス製品(ワインボトル、磁子)	

58	土 師 器	环a(イト)
土 師 質 土 器	罎、鉢	
肥前系陶磁器	染付皿、色絵陶輪	
国 産 陶 器	埋輪:皿、印版手皿、白面手丸鉢? 土瓶	
国 産 磁 器	碗、埋輪(書書「中」)、紅磁、香利	
瓦 類	平瓦(近世)、丸瓦(格子・古代)、丸瓦(近世)	

59	土 師 器	环b
龍泉窯系青磁	碗:皿b、皿、皿2c(s-18aに類似)、皿2c	
土 師 質 土 器	大罎、赤七輪、七輪サン、ほうろく、白七輪、赤火鉢 小皿白火鉢(陶師灰土のもの同一か)	
瓦 質 土 器	ほうろく、大罎?	
中 国 陶 器	鉢:?	
肥前系陶磁器	染付:丸輪、磨り、仏瓶、罎	
国 産 陶 器	埋輪:磁木鉢、書(書書)、香利 埋輪:行平、灯火具、香利 土瓶、行平、象嵌皿、鉄輪製	
国 産 磁 器	皿、罎	
土 製 品	土人形:土瓶、立罎、罎・型、大罎・型 ひねり人形(尺澤犬)、土型(磁子)、ハマ	
瓦 類	軒平瓦(近世)、平瓦(二重格子・古代) 丸瓦(格子・古代)、平瓦(格子・古代)	
そ の 他	カキ殻	

表6 連歌屋1次 出土遺物一覧表2

S-11	
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)
土師質土器	鏝?
黒土器	天目杓
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶磁器?
肥前系陶磁器	染付:鉢、白磁手小皿、丸瓶、皿、石皿手盥?
陶産陶器	楚輪:漆刷、鏝
陶産磁器	磁
瓦	瓦、平瓦、平瓦、近瓦瓦
その他	ガラス製品(H)、コンクリート片

S-13	
土師質土器	小型白火鉢(S-9、暗灰土のものか何一か) 「白火鉢(御焼)」、ほうろく、火鉢サン
陶産陶器	行平、行平蓋、瓶、紅皿、緑輪小鉢、菊輪小皿
白磁	漆器:杯、鉢
肥前系陶磁器	染付:丸瓶、漆茶碗
	色絵小皿
土製品	埴輪
その他	突器皿、ガラス製品(器)

S-14	
土師質土器	彫行鉢?、大甕
陶産陶器	鉄輪磨り鉢、三島子甕?
中国陶器	鏝:磁片
肥前系陶磁器	染付:漆刷、杓
瓦	軒平瓦(瓦出)、丸瓦(御子・古代)

S-15 灰化土	
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)
瓦質土器	磨り鉢、磁片
瓦	瓦瓦

S-15	
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)、小皿b(イト)
阿波系陶磁器	鏝:磁片
土師質土器	鏝?
肥前系陶磁器	染付:磁片
土製品	粘土機
瓦	磁片

S-16	
土師器	小皿a(イト)
龍泉系青磁	鏝:皿a
土師質土器	火鉢
須恵質土器	鉢(倉庫系)
白磁	鏝:V、磁片
肥前系陶磁器	染付:磨向?
陶産磁器	機、小坪
石製品	石瓶、磨り加工品
土製品	粘土機、瓦瓦
瓦	平瓦(御子・古代)、丸瓦(二重御子・古代) 平瓦(近世)

S-17	
須恵器	皿3
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)、小皿c
黒色土器	鉢
瓦	丸瓦(磨目)、丸瓦(磨子)

S-18	
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)
黒色土器	鉢
須恵質土器	鉢(東屋系)
瓦	丸瓦

S-19	
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)、大皿
瓦	磁
龍泉系青磁	鏝:皿a、磁片
白磁	鏝:磁片 皿:IV×未分類、磁片 曹物:磁片
中国陶器	鏝:調和機 鉢:1 色絵機:黄地鉢?、盤、磨粉機
瓦	平瓦(御子・古代)、平瓦(二重御子・古代) 平瓦(磨目)

S-20	
白磁	鏝:VIII 曹物:磁片
龍泉系青磁	鏝:1

S-21	
土師器	坪
陶産陶器	鉄輪皿、行平
肥前系陶磁器	染付:器、機
土製品	予巾わり入部(兵士)、埴輪?、陶器加工品(円筒)
瓦	平瓦(近世?)

S-22	
須恵器	鏝
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)
土師質土器	赤火鉢、七輪サン、磨り鉢?
白磁	機:IV
肥前系陶磁器	染付:丸瓶、方皿、廣茶碗 色絵:小瓶、皿 丸瓶
陶産陶器	磨り鉢、鉢、磨粉機、土瓶、行平?
陶産磁器	磨粉機、紅車
石製品	石瓶
瓦	調和瓦、平瓦(近世?)、平瓦(二重御子・古代) 磁片

S-23	
土師器	坪a(イト)、小皿a(イト)
阿波系青磁	鏝:磁片
土師質土器	白七輪(磨粉)
中国陶器	鏝:磁片
肥前系陶磁器	染付:小瓶、丸機
陶産陶器	急須、磨粉機、磨粉機?
陶産磁器	磁
土製品	発泥瓦(Hマ)
瓦	平瓦(近世?)

S-24	
土師器	坪、坪a(磨目)、坪a(イト)、小皿a(イト)
龍泉系青磁	鏝:1(s-223に適合)
陶産陶器	鏝(磨粉×滑滑)
白磁	鏝:皿?
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶磁器
肥前系陶磁器	染付:磁片
瓦	丸瓦(古代)

表7 連歌屋1次 出土遺物一覧表3

S-25
須 磨 器 高坏罐
土 師 器 环a(イト)、小皿a(イト)
土 師 質 土 器 鏡
中 国 陶 器 铁厨櫃? 黄铜盤
瓦 瓦 類 丸瓦(古代)

S-26
土 師 器 环a(イト)、环a×b(イト)
龍泉窯系青磁 碗: I, I-4
白 磁 碗: IV, VIII

S-27
土 師 器 环a(イト)、小皿a(イト)
瓦 瓦 類 鏡
同安窯系青磁 碗: 破片
白 磁 碗: 破片
輸入陶磁器 未分類: 朝鮮系加輪陶器?
瓦 瓦 類 破片

S-28
須 磨 器 鏝
土 師 器 环a(イト)、小皿a(イト)、丸环
龍泉窯系青磁 碗: I, IV, 上田分類B-Ba
白 磁 碗: Va
磁 胎: 小皿?
輸入陶磁器 朝鮮系加輪陶器×鏡
中 国 陶 器 碗: 破片
瓦 瓦 類 磁胎: 周輪器×鏡、盤Ⅱ×Ⅲ

S-29
土 師 器 小皿a、丸环
白 磁 碗: VI×VII、V-2×VIII-4
磁 胎: VI×VII
中 国 陶 器 铁厨櫃? 黄铜盤
瓦 瓦 類 丸瓦(格子・古代)

S-31
土 師 器 环a(イト)、小皿a(イト)、鉢?
龍泉窯系青磁 碗: B-b、皿-2c
瓦 瓦 類 土 器 鏡
中 国 陶 器 碗: 高輪吧?、破片
鉢: I, V-1
磁 胎: 黄铜盤
黒 輪 陶 器 天目碗

S-32
土 師 器 环a(イト)
土 師 質 土 器 鏡
白 磁 碗: 破片
瓦 瓦 類 丸瓦(格子・古代)、平瓦(古代)

S-33
土 師 器 环a(へう)、小皿a(イト)、小皿b
瓦 瓦 類 鏡
同安窯系青磁 碗: 破片
須磨質土器 鏝
瓦 瓦 類 鉢?
白 磁 碗: IV, I?, 破片
石 製 品 滑石製加工品、丸石
瓦 瓦 類 丸瓦(格子・古代)

S-34
土 師 器 环a(イト)、小皿a(イト)
同安窯系青磁 碗: 破片
白 磁 碗: IV
瓦 瓦 類 平瓦(古代)

S-35 龍泉土
土 師 器 环a(イト)、环a×b(イト)、小皿a(イト)
瓦 瓦 類 丸瓦(古代)、平瓦

S-36
土 師 器 环b(イト)、小皿a(イト)
土 師 質 品 磁土塊

S-37
土 師 器 环a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁 碗: 破片
同安窯系青磁 碗: I
中 国 陶 器 碗: 周輪器
瓦 瓦 類 平瓦(古代)、平瓦(格子・古代)、平瓦(磁胎)

S-38
土 師 器 环a?, 环d(イト)

S-39
土 師 器 环a(へう)、环a(イト)
同安窯系青磁 碗: 破片
白 磁 皿: V×VII
瓦 瓦 類 丸瓦(格子・古代)、平瓦

S-41
土 師 器 环a(イト)、环d?, 小皿a(へう)、丸环
龍泉窯系青磁 碗: 破片
須磨質土器 鏝
白 磁 皿: III
石 製 品 丸石

S-42
須 磨 器 鏝
土 師 器 环a(イト)、环b(イト)、鉢c
同安窯系青磁 碗: 破片
土 師 質 土 器 鏝
国 産 陶 器 漆刷、御輪器×鉢、山水土版
中 国 陶 器 鉢: 高輪鉢
肥前系陶磁器 漆刷? 磁料、丸輪?
石 製 品 柱化木、丸石
土 師 質 品 手ひねり人形
瓦 瓦 類 平瓦(格子・古代)、平瓦(磁胎?)

S-43
土 師 器 环a(イト)、小皿a(イト)、小皿b(イト)
龍泉窯系青磁 碗: 皿?, 上田分類D
磁 胎: 环Ⅱ-1、鉢
瓦 瓦 類 土 器 鏝
同 産 陶 器 山水土版
国 産 陶 器 菊皿
白 磁 碗: 破片、皿
磁 胎: Ⅱ-1、Ⅲ?, 破片
石 製 品 丸石
土 師 質 品 瓦玉、土玉
瓦 瓦 類 丸瓦(格子・古代)、丸瓦(二重格子・古代)

表8 連歌屋1次 出土遺物一覧表4

S-44

土 師 器	環a(イト)、小皿a(イト)、丸杯
土 製 品	瓦瓦
瓦 類	平瓦(格子・古代)

S-46

土 師 器	環a(イト)、杯b?
土師質土器	鉢?
瓦 質 土 器	磁片
石 製 品	丸石
土 製 品	焼土塊

S-48

土 師 器	環a(イト)、丸杯
瓦 質 土 器	鉢

S-49

土 師 器	環a(イト)、小皿a(イト)
土師質土器	磁片
白 磁 器	輪：磁片
瓦 類	磁片

S-51

須 恵 器	甕
土 師 器	環a(イト)
黒色土器	鉢?
瓦 類	磁片
石 製 品	丸石
瓦 類	丸瓦、平瓦

S-52

土 師 器	小皿a(イト)
黒色土器	輪
緑 色 陶 器	器×甕(近世)
石 製 品	丸石、obf
瓦 類	平瓦(近世)、丸瓦(格子・古代)、平瓦(古代) 平瓦(格子・古代)

S-53

土 師 器	環a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	輪：磁片
土 製 品	瓦瓦
瓦 類	平瓦(格子)

S-56

土 師 器	環a(イト)、小皿
土師質土器	C包鉢、鉢?
白 磁 器	輪：磁片

S-57

土 師 器	環a(イト)
瓦 類	磁片
白 磁 器	輪：皿×VIII
土 製 品	棒状土製品

S-58

土 師 器	環a(イト)
龍泉窯系青磁	他物類：甕?
土師質土器	磁片

S-59

土 師 器	環a(イト)、大皿
中 國 陶 器	他物類：箱形甕×鉢
石 製 品	丸石
瓦 類	平瓦(格子・古代)

S-61

土 師 器	環a(ヘウ)、環a(イト)、環a×b
石 製 品	丸石
土 製 品	瓦瓦

S-62

須 恵 器	甕
土 師 器	小皿a(ヘウ)、環a(イト)
龍泉窯系青磁	礎×甕
白 磁 器	皿：VI

S-63

土 師 器	環a
瓦 類	磁片
白 磁 器	磁片：甕 (III系)

S-64

土 師 器	環a(イト)、環a(ヘウ?)
白 磁 器	甕：甕
中 國 陶 器	他物類：甕
石 製 品	丸石
瓦 類	平瓦(古代)

S-66

土 師 器	小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	他物類：浅形碗
阿波窯系青磁	輪：磁片
白 磁 器	皿：VI?
瓦 類	磁片(格子・古代)

S-67

土 師 器	環a(イト)、小皿a(イト)
白 磁 器	輪：皿、II-1×3
中 國 陶 器	甕：菊輪甕

S-68

土 師 器	環a(イト)、小皿a(イト)、輪c
瓦 類	丸瓦(格子)

S-69

土 師 器	環a(イト)、小皿a(イト)
瓦 類	平瓦(二重格子・古代)、丸瓦(二重格子・古代)

S-71

土 師 器	環a(イト)、小皿a(イト)
-------	----------------

S-72 同巻十

土 師 器	環a(イト)
土師質土器	磁片
龍泉窯系青磁	磁片：甕
白 磁 器	輪：磁片 甕：未分類磁片
肥前系陶磁器	染付：丸輪
龍泉窯系青磁	磁片
瓦 類	平瓦(近世)

表9 連歌屋1次 出土遺物一覧表5

S-72 虎標

土 師 器	環a? (イト)、小皿a (イト)
肥前系陶磁器	小皿

S-73

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
飯倉系青磁	椀: 田
土師 質土器	鉢?
須賀質土器	鉢 (飯桶形)
白 磁	漆器: 環IX

S-74

土 師 器	小皿a (イト)、環a (イト)
-------	------------------

S-76

土 師 器	環a (イト)、丸環
瓦	器 枕
白 磁	枕: IV
中国 陶器	包脚櫃: 漆?
輸入陶磁器	包脚櫃: 包脚櫃の蓋×棧
石 製 品	丸石

S-77

土 師 器	環a (イト)、環a (ヘウ)
土師 質土器	鉢?、鍋?
白 磁	蓋: II × III
瓦	瓦 平瓦 (橋子・古代)、丸瓦 (古代)

S-78

土 師 器	環a (イト)、小皿a × b (イト)
飯倉系青磁	椀: I
瓦	瓦 平瓦 (橋子)

S-79

土 師 器	環a
瓦	瓦 平瓦 (二重橋子・古代)、丸瓦 (古代)

S-81

土 師 器	環a (イト)、環a (ヘウ)
瓦	瓦 平瓦 (橋子・古代)

S-82

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
-------	------------------

S-83

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
瓦	瓦 平瓦

S-84

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
中国 陶器	器: 包脚櫃?

S-86

土 師 器	丸環、漆器
白 磁	枕: V ~ VII、XI-4
中国 陶器	蓋: 破片
石 製 品	テヤート、丸石
土 製 品	土人形: 漆
瓦	瓦 平瓦 (橋子)

S-87

土 師 器	小皿a (イト)、丸環
石 製 品	丸石

S-88

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
瓦	瓦 破片

S-89

土 師 器	小皿a、小皿c、丸環
白 磁	皿: I?
瓦	瓦 平瓦 (橋子・古代)

S-91

土 師 器	環a (イト)
黒色土器B	椀
白 磁	枕: V

S-92

土 師 器	環×皿b?, 環a (イト)、環a (ヘウ)
-------	------------------------

S-93

土 師 器	環a (ヘウ)、環a (イト)
白 磁	漆器: 破片
瓦	瓦 丸瓦 (二重橋子)

S-94

土 師 器	環a (ヘウ)、環a (イト)
飯倉系青磁	椀: 破片
瓦 質土器	火鉢
須賀陶器	包脚櫃
瓦	瓦 破片

S-96

土 師 器	環a (イト)
白 磁	枕: V
石 製 品	テヤート・丸石

S-97

土 師 器	環a (イト)
白 磁	枕: 破片
石 製 品	丸石
瓦	瓦 破片

S-98

須 賀 器	破片
土 師 器	小皿a (イト)
石 製 品	丸石
瓦	瓦 平瓦 (二重橋子・古代)

S-99

須 賀 器	蓋2
土 師 器	環a (イト)、皿c
白 磁	枕: V × VIII

S-101

土 師 器	環a (イト)、小皿a (イト)
中国 陶器	包脚櫃: 破片
石 製 品	丸石
瓦	瓦 破片

S-102

土 師 器	小皿a (イト)
瓦	瓦 平瓦 (橋子・古代)

S-103

土 師 器	小皿a (イト)
-------	----------

表10 連歌屋1次 出土遺物一覧表6

S-104	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
龍泉洞系青磁	轆: 上田分類B非a × D-II、破片
金属製品	金属塊

S-106	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)

S-107	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
瓦	類: 破片

S-108	
土 師 器	埴a (イト)

S-109	
土 師 器	埴a (イト)、丸埴?
土師質土器	鉢
白 磁	類: IV
瓦	類: 平瓦 (二重格子・古代)、丸瓦

S-111	
土 師 器	埴a (イト)

S-112	
土 師 器	埴a (イト)
白 磁	類: 破片
	類: 破片
石 製 品	丸石

S-113	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
瓦	類: 丸瓦 (格子)

S-114	
土 師 器	埴a
土師質土器	煎×鉢

S-116	
土 師 器	小皿a (イト)
金属製品	銅釘
瓦	類: 平瓦 (二重格子)

S-117	
土 師 器	埴a (イト)
藍色土器B	破片

S-118	
土 師 器	埴a (イト)

S-119	
土 師 器	埴a (イト)
龍泉洞系青磁	轆: B非a × D-II
土師質土器	煎×鉢
瓦 質 土 器	類

S-121	
土 師 器	埴a × b (イト)
石 製 品	丸石

S-122	
土 師 器	埴a (イト?)
石 製 品	丸石
土 師 器	埴土塊

S-123	
土 師 器	埴a (イト)
瓦	類: 平瓦 (古代)

S-124 黒色土	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
土師質土器	煎×鉢
中 國 陶 器	甗: 破片
瓦	類: 平瓦 (格子)、平瓦 (圓目)

S-124 褐色粘砂	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
龍泉洞系青磁	轆: B非a × D-II
瓦	類: 丸瓦 (格子・古代)

S-126	
白 磁	類: IV

S-127	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、丸埴
瓦	類: 平瓦 (格子)、丸瓦

S-128	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)

S-129	
土 師 器	小皿a (イト)
瓦 質 土 器	煎×鉢

S-131	
土 師 器	丸埴

S-132	
土 師 器	小皿a (イト)

S-133	
土 師 器	埴a (イト)、小皿b (イト)、小皿a (イト)
須恵質土器	類?
瓦 質 土 器	煎
石 製 品	石鏡、丸石
瓦	類: 破片

S-134	
土 師 器	埴a (イト?)、小皿a (イト)
龍泉洞系青磁	轆: II
瓦 質 土 器	煎×鉢
瓦	類: 平瓦 (近世)、丸瓦 (格子)

S-136	
須 恵 器	破片
土 師 器	小皿a (イト)
須恵質土器	鉢
瓦 質 土 器	種?
白 磁	類: V
石 製 品	丸石
土 製 品	佛土塊
瓦	類: 平瓦 (格子・古代)、濠洲瓦?

S-137	
土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)

表 11 連歌屋 1 次 出土遺物一覧表 7

S-128

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
中国陶器	他種種：陶輪盤
瓦	類 丸瓦、平瓦(種子・古代)

S-130

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
瓦	類 平瓦(種子・古代)

S-141 灰灰土

土 師 器	环a(イト)、丸环、小皿a(ヘウ)、小皿a(イト)
龍泉洞系青磁	類：Bb
阿波国系青磁	類：11b、破片
高麗青磁	象腿：海瓶
須惠質土器	鉢(飯椀系)
白 磁	類：IV、破片 書地：坏区
中国陶器	器：陶輪盤 鉢：破片 罎：陶輪盤?
基輪陶器	天目物
国産陶器	鉢
肥前系陶磁器	磁片：黒
石 製 品	彩色埴
瓦	類 丸瓦

S-141

土 師 器	环a(イト)、环a(ヘウ)
白 磁	類：IV-VI

S-142

須 惠 質 磁 片	
土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)、小皿a(ヘウ)、丸环
瓦	類 平瓦(種子)

S-143 陶灰土

須 惠 質 罎	
土 師 器	小皿a(イト)、环a(イト)、丸环c?
瓦	類 輪
龍泉洞系青磁	類：Bb、B
須惠質土器	鉢(飯椀系)
白 磁	類：IV、破片
中国陶器	罎：陶輪盤 罎：陶輪盤?
石 製 品	漆刀型加工品
瓦	類 丸瓦(種子・古代)、平瓦(種子・古代)

S-144 陶灰土

土 師 器	环a(イト)、环a(ヘウ)、小皿c?、小皿a(ヘウ)
	丸环
黑色土器B	類?
白 磁	類：II、破片

S-145

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
綠 磁 陶 器	罎

S-147

土 師 器	环a(ヘウ)
瓦	類 平瓦(種子・古代)

S-148

土 師 器	环a(イト?)、小皿a(イト)
-------	-----------------

S-149

土 師 器	环a(イト)
黑色土器A	類
土師質土器	鉢

S-151

土 師 器	小皿a(イト)
阿波国系青磁	類：I
白 磁	書地：坏区

S-152

土 師 器	环a(イト)、环a(イト?)、小皿a(ヘウ)
-------	------------------------

S-153

土 師 器	环a(イト)、輪c?
瓦	類 輪

S-154

土 師 器	小皿a(イト)、輪c
土師質土器	鉢?
黒重質土器	鉢
白 磁	類：V?、V-1b×2b×4c、破片 書地：水柱×罎
中国陶器	鉢：陶輪盤?
土 製 品	埴土塊
瓦	類 平瓦(二重種子・古代)、丸瓦(種子・古代)

S-156

土 師 器	脚付鉢、环a(イト)
須惠質土器	鉢(飯椀系)
中国陶器	他種種：陶輪盤?

S-157

土 師 器	环a(イト)、小皿b(イト)、丸环c
黑色土器A	類?
龍泉洞系青磁	類：I
阿波国系青磁	類：1、11b、1×B、Bb、破片
須惠質土器	鉢
白 磁	類：IV、VII、V-1×VIII-2、破片
中国陶器	器：陶輪盤、罎 罎：陶輪盤
石 製 品	石輪、丸石
瓦	類 平瓦(種子・古代)、平瓦(備部・古代)

S-158

須 惠 質 罎	
土 師 器	环a(イト)、环a(ヘウ)、环b?、小皿a(イト)
	大皿(イト)、丸环c
黑色土器B	類
龍泉洞系青磁	類：Bb
阿波国系青磁	類：1-2b、破片
須惠質土器	鉢
白 磁	書地：破片
青 白 磁	類?
中国陶器	器：陶輪盤 鉢：陶輪盤?
土 製 品	手巾ぬり人形?
瓦	類 平瓦(近世)、平瓦(備部)

S-159

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
石 製 品	丸石
瓦	類 丸瓦(種子・古代)

表12 連歌屋1次 出土遺物一覧表8

S-161

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
陶安楽系骨磁	類:破片
土師質土器	類
瀬産陶器	類:破片?
瓦	類 平瓦(格子・古代)、平瓦(二重格子)

S-162

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
土師質土器	類?
須恵質土器	類(東播磨)
中 国 陶 器	類:陶輪跡?
	他:銅鏝? 鉄輪鏝
瓦 師 器	天目碗
石 製 品	丸石
土 製 品	瓦玉
瓦	類 丸瓦(二重格子・古代)、平瓦(格子・古代)

S-163

土 師 器	环a(ヘウ)、环a(イト)
土師質土器	類
須恵質土器	類(東播磨)
白 磁	類:VII

S-164

土 師 器	丸坪
土師質土器	類?
石 製 品	柱北木
瓦	類 破片

S-165

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
須恵質土器	類(東播磨)
白 磁	類:破片
瓦	類 平瓦(二重格子)

S-167

土 師 器	环a(イト?)、小皿a(ヘウ)
土師質土器	類?
瓦	類 平瓦(格子)

S-168

土 師 器	丸坪
瓦	類 平瓦(古代)

S-169

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
中 国 陶 器	類:陶輪跡
瓦	類 平瓦(格子・古代)、丸瓦(格子・古代)

S-171

土 師 器	环a(イト)、小皿a(ヘウ)、丸坪c
土師質土器	類:鉢
白 磁	類:破片
瓦	類 丸瓦(格子・古代)

S-172

土 師 器	丸坪c、丸坪
-------	--------

S-173

須 恵 系 磁	
土 師 器	环a(ヘウ)、丸坪、丸坪c、小皿a(イト)
土師質土器	類?
輸入陶磁器	類:朝鮮系陶磁器?×類
そ の 他	ガラス小容器(瓶入?)

S-174

土 師 器	小皿a(イト)、丸坪
中 国 陶 器	類:陶輪跡

S-176

須 恵 系 磁	
土 師 器	丸坪、小皿a(ヘウ)
黒色土器B	類
土師質土器	類:御付鉢

S-177

土 師 器	环a(イト)、小皿a(ヘウ)
黒色土器B	類×類
瓦 質 土 器	類
白 磁	類:II・5×IV-IIb、破片
	類:III
中 国 陶 器	類:陶輪跡
瓦	類 破片

S-178

土 師 器	小皿a(ヘウ)、丸坪
土師質土器	類?

S-179

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
中 国 陶 器	類:陶輪跡
瓦	類 破片(古代)

S-181

須 恵 系 磁	
土 師 器	环a(イト)
肥前系陶磁器	類
瓦	類 群丸瓦(巴文)

S-182

土 師 器	小皿a(イト)
須恵質土器	類(東播磨)

S-183

須 恵 系 磁	
土 師 器	碗c、小皿a
瀬産系骨質磁	類:II
土師質土器	類:御付鉢
須恵質土器	類?
白 磁	類:IV
	類:小皿V-1、I×VIII
中 国 陶 器	類:破片
石 製 品	丸石
土 製 品	加工土器片
瓦	類 破片(古代)

S-184

土 師 器	环a
須恵質土器	類:御付鉢
瓦	類 破片

表 13 連歌屋 1 次 出土遺物一覽表 9

S-185	土 師 器 小皿 a (へう)、丸环
須恵質土器	鉢?
縄文土器	漆鉢
瓦	平瓦 (二重格子)、丸瓦 (格子・古代)

S-187	土 師 器 丸环、椀 c
黒色土器 B	椀
越州窯系青磁	水注×壺
瓦	平瓦 (格子・古代)

S-188	土 師 器 环 a (イト)、丸环
瓦	椀

S-189	土 師 器 环 a (イト)、小皿 a (イト)
瓦	椀
備前窯系青磁	椀: I、IIa-2c、IIIa-2c (S-9 に替合)
中国産	壺: 胡瓶造?
瓦	平瓦 (格子・古代)

S-191	土 師 器 丸环
-------	----------

S-192	土 師 器 丸环
白 磁	椀: V?

S-193	土 師 器 环 a (イト)、丸环
瓦	椀
白 磁	椀: IV
	皿: 破片
土 師 器	瓦瓦

S-194	土 師 器 环 a (へう)、丸环
土 師 器	瓦瓦
瓦	破片

S-195	須 恵 質 器 环
土 師 器	小皿 a (へう)、丸环、丸环 c
黒色土器 B	椀?
土 師 質 土 器	鉢
石 製 品	磨石類加工品

S-196	土 師 器 环 c
須恵質土器	鉢 (椀)
瓦	平瓦 (格子)、丸瓦 (格子)

S-197	土 師 器 丸环 c
黒色土器 B	椀?
瓦	平瓦 (二重格子・古代)

S-198	土 師 器 小皿 a (へう)、小皿 a (イト)、丸环 c、丸环
土 師 質 土 器	鉢
瓦	平瓦 (格子・古代)、平瓦 (二重格子・古代)

S-199	土 師 器 舞台、丸环、膠付鉢?
-------	------------------

S-201	土 師 器 环 a (へう)、环 a (イト)、球 c?, 小皿 a (へう)
備前窯系青磁	椀: I
	皿: 破片
	他器種: 釵皿
阿波窯系青磁	椀: IIIa、破片
土 師 質 土 器	鉢
須恵質土器	鉢
瓦	平瓦 椀?
白 磁	椀: V-4、V-1c・d × 4b・c、破片
	磁石: 書 II
輸入陶磁器	朝鮮系黒陶角器 (壺あり)
瓦	平瓦 (格子)、丸瓦 (古代?)

S-202	土 師 器 环 a (へう)、环 a (イト)、球 c?
瓦	椀
瓦	平瓦 (古代?)

S-203	土 師 器 环 a (へう)、环 a (イト)
瓦	椀
阿波窯系青磁	椀: 破片?
土 師 質 土 器	鉢、壺?
瓦	平瓦 (格子・古代)、平瓦 (格子・古代)

S-204	土 師 器 丸环、小皿 a (イト)、椀 c
黒色土器 B	椀
土 師 質 土 器	鉢?
白 磁	椀: V
瓦	破片 (格子・古代)

S-205	土 師 器 椀 c、环 a (へう)、小皿 a (へう)
須恵質土器	鉢
瓦	平瓦 (古代)

S-207	土 師 器 鉢?, 所 a (イト)、小皿 a (へう)、丸环
須恵質土器	志口壺
白 磁	椀: II、II-4 × 3、V × VII、IV-1、IV-a、破片

S-208	土 師 器 环 a (イト)、丸环
瓦	椀
瓦	平瓦 (格子)

S-209	須 恵 質 器
土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (へう)、小皿 a (イト)、丸环
黒色土器 A	椀
越州窯系青磁	椀: I、I2a-イ
備前窯系青磁	椀: 破片
須恵質土器	鉢?
白 磁	皿: V × VI
瓦	平瓦 (格子・古代)

表 14 連歌屋 1 次 出土遺物一覽表 10

S-211

土 師 器	環 a (イト)、小皿 a (イト)
黒色土器 B	鏡?
土師質土器	鏡?
白 磁 器	輪: V?

S-212

土 師 器	環 a (ヘウ)、環 a (イト)、小皿 a (ヘウ)
	小皿 a (イト)、鏡 c
白 磁 器	輪: V.3a, V~VII
	赤色: 水注?
中国陶器	磁器種: 鏡輪碎片
石 製 品	石鏡、砥石
瓦 類	丸瓦 (文字・古代)

S-213

須 恵 器	鏡
土 師 器	小皿 a (ヘウ)、丸環
黒色土器 B	鏡
土師質土器	鉢?
白 磁 器	輪: IV
	瓶: III?
金属製品	スラッグ
土 製 品	鏡十塊

S-214

土 師 器	丸環?、丸皿? (イト)
須 恵 質 土 器	鏡
白 磁 器	赤色: 環 c
中国陶器	他器種: 鏡輪小皿

S-216

土 師 器	環 a (イト)、小皿 a (イト)、小皿 a (ヘウ)
白 磁 器	輪: 鏡片
瓦 類	平瓦 (橋子・古代)

S-217

土 師 器	皿 a (ヘウ)、丸環
土師質土器	鉢?
須 恵 質 土 器	鏡
白 磁 器	輪: II
土 製 品	瓦土

S-218

土 師 器	環 a (ヘウ)、環 a (イト)、小皿 a (イト)、丸環
	丸環 c
黒色土器 B	輪
瓦 類	鏡片
瓦 類	平瓦 (橋子・古代)、斜平瓦 (古代)

S-219

土 師 器	環 a (イト)、丸環
黒色土器 B	小皿
瓦 類	加 鏡片
青 白 磁 器	合子

S-221

須 恵 器	環、鏡片
土 師 器	環 a (イト)、環 c、小皿 a (ヘウ)、丸環
瓦 類	鏡
土師質土器	鉢?
須 恵 質 土 器	鉢 (鏡?)
白 質 土 器	鉢
白 磁 器	輪: 鏡片
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶器鏡片
瓦 類	平瓦 (橋子・古代)

S-222

土 師 器	環 a (イト)、小皿 a (ヘウ)、輪?
瓦 類	鏡
須 恵 系青磁	輪: I?
瓦 質 土 器	磨付鉢
白 磁 器	輪: 鏡片
	皿: V x VI
瓦 類	平瓦 (橋子・古代)、丸瓦

S-223

土 師 器	環 a (イト)、環 c、小皿 a (ヘウ)、小皿 a (イト)
	丸環
黒色土器 B	輪
黒色土器 B	鏡?
瓦 類	鏡
須 恵 系青磁	鏡: I (S-24 に接合)
同安堂系青磁	鏡: I.1a, II, 鏡片, I
	皿: I.1b, 鏡片
須 恵 質 土 器	鉢
白 磁 器	輪: II, IV, V.2 x VII.4, VIII, IV~IX, 鏡片
	皿: III, V x VI (磁器)、V.1a x VI.1a
中国陶器	器: 陶物器
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶器・鏡
瓦 類	丸瓦 (橋子)、平瓦 (橋子)

S-224

須 恵 器	環
土 師 器	小皿 a (ヘウ)、環 a (イト)、環、磨付皿、輪 c
土師質土器	鏡?
白 磁 器	輪: V?, V
国産磁器	環
瓦 類	平瓦 (古代?)

S-226

須 恵 器	鏡
土 師 器	小皿 a (ヘウ)、小皿 a (イト)、丸環、輪 c
瓦 類	鏡
同安堂系青磁	皿: 鏡片
土師質土器	鉢?
白 磁 器	輪: IV, V, II, V~VII
	皿: VII, 未分類
	磨器: 鏡片
石 製 品	石鏡、滑石製石製品
土 製 品	土牌
瓦 類	丸瓦 (古代)

表 15 連歌屋 1 次 出土遺物一覧表 1 1

S-227	
土 師 器	环a (へう)、环a (イト)、小皿a (へう)、丸环 轆c
龍泉洞系青磁	轆：破片、破片?、龍泉×同安焼片
同安洞系青磁	轆：1b、破片
灰青土器	鉢
瓦 質 土 器	火鉢×蓋
白 磁	轆：IV-1b、VI、II~VII、IV~IX、破片
中 國 陶 器	轆：磁胎磁、磁胎磁?
石 製 品	石鏡
瓦 製 品	平瓦 (格子・古代)、平瓦 (近世?) 丸瓦 (格子・古代)、丸瓦 (二重格子) 丸瓦 (近世?)

S-228	
土 師 器	环a (へう)、小皿a (へう)
西 磁	轆：II

S-229	
土 師 器	丸环、小皿a (へう)
白 磁	轆：IV
瓦 製 品	平瓦 (二重格子)

S-230	
土 師 器	环a (イト)、环a (へう)、环c、小皿a (へう) 丸环
瓦 製 品	轆c
綠 釉 陶 器	轆c
龍泉洞系青磁	轆 (龍泉系)
白 磁	轆：IV-1、IV、VIII、V×VIII、破片 皿：VI、V×VI
土 製 品	角柱状土製品
瓦 製 品	平瓦 (格子・古代)

S-231	
土 師 器	小皿a (イト)、丸环、轆c?

S-232	
深 窓 器	轆
土 師 器	环a (イト)、环c?、小皿a (へう)、小皿a (イト) 丸环、丸环c
黒色土器A	轆
黒色土器B	轆
龍泉洞系青磁	色磁胎、得押?
土師質土器	轆
白 磁	轆：V、V×VII、破片
石 製 品	石鏡 (鏡文)
土 製 品	焼干焼
瓦 製 品	平瓦 (古代)、平瓦 (二重格子・古代) 丸瓦格子 (古代)

S-234	
土 師 器	环a (イト)、小皿a (へう)、丸环
瓦 製 品	平瓦 (格子)

S-240	
土 師 器	环a (イト)
陶 文 土 器	明雲陶器

助灰土	
深 窓 器	轆?、轆
土 師 器	环a (イト)、环b、小皿a (イト)、環b?、唐書土器
瓦 製 品	赤朽、轆
龍泉洞系青磁	轆：1b、2b
同安洞系青磁	皿：破片
同安洞系青磁	轆：破片、!
土師質土器	轆、環?、磨り鉢、七輪×皿、白七輪
白 磁	轆：IV 皿：V~VII
龍泉洞系青磁	染付：皿、轆 色磁：磁胎、小环 丸环、破皮轆、管割
同 安 陶 器	磁胎：鉢、小皿 地輪：皿、行火蓋 赤輪：磨り鉢 緑彩ニニチアア蓋、山水土瓶、行平、土瓶
龍 泉 洞 系 青 磁	皿 (近世)、轆、菊皿
石 製 品	磁石 (鏡)、石鏡、磨石片、柱化木
土 製 品	土瓦
瓦 製 品	平瓦 (古代)、平瓦 (格子・古代)、平瓦 (近世?) 平瓦 (鏡目・古代)、丸瓦 (格子・古代)

茶碗土	
土 師 器	环a (へう)、环a (イト)、环c、小皿a (イト) 丸环、轆?、轆c
黒色土器A	轆
黒色土器B	轆、鉢
龍泉洞系青磁	轆：II?、上指分類B皿
同安洞系青磁	轆：1b、1-a、破片
土師質土器	鉢、磨り鉢
深窓土器	鉢 (龍泉系)
白 磁	轆：IV、IV-a、V.2×VIII-4、V×VII、V~VII、破片
中 國 陶 器	鉢：破片、破片?
輸入陶磁器	朝鮮系加飾陶磁器?
國 産 陶 器	环×皿
石 製 品	石鏡
瓦 製 品	平瓦 (格子・古代)、平瓦 (二重格子・古代) 丸瓦 (格子・古代)、丸瓦 (鏡目)

黒色土	
土 師 器	环a (イト)、小皿a (へう)、小皿a (イト)、丸环
黒色土器B	轆
瓦 質 土 器	轆?
同安洞系青磁	轆：III、破片
白 磁	轆：V-1×VIII-2、VII×VIII
中 國 陶 器	轆：寫字IV、磨り鉢
輸入陶磁器	朝鮮系加飾陶磁器、朝鮮系加飾陶器×轆
瓦 製 品	ワニ瓦?、平瓦 (古代?)

表 16 連歌屋 1 次 出土遺物一覽表 1 2

灰色土 (900506, 900510 分, 鑑定灰色土 1)	
須 恵 器 類	環 a (イト), 環 a (イト・磨面), 環 c
土 師 器	小皿 a (イト), 小皿 b (イト), 小皿 c?, 丸杯
瓦 器 類	椀
備前系青磁	椀: 皿, 皿 b
土師系土器	器?, 椀
備前系土器	鉢 (家康系)
瓦 質 土 器	碗片
白 磁	椀: I, II, IV-1ac, IV, V-1 × VIII-2, V-1 × VIII-2 V-4 × VIII-1+3, VIII, 碗片 皿: VI × VII, 碗片?
中 國 陶 器	香: 四葉窓用 × IV, 碗片 鉢: 短輪鉢 甕: 短輪甕, 樽輪甕? 瓶部類: 鉢×水注, 甕, 黄輪甕
肥前系陶磁器	染付: 碗片
国産陶磁器	甕 (備前×常滑), 短輪甕×鉢
国産磁器	碗片, 椀
石 製 品	石炭片
土 製 品	鉄×燧, 瓦玉
瓦 類	平瓦 (二重格子・古代), 平瓦 (近世) 平瓦 (文字「安樂寺」), 丸瓦 (格子・古代)

赤灰土	
須 恵 器 類	甕, 器 e
土 師 器	環 b, 環 c, 丸杯, 脚付鉢, 大皿
備前系青磁	椀: I, I-4b, II, 碗片 他部類: 香伊
阿波系青磁	椀: I, I-1b, I-1c, 碗片 皿: I-2b
土師系土器	火鉢, 椀?
備前系土器	鉢 (備前系)
瓦 質 土 器	椀, 甕
国産陶器	短輪甕?, 甕輪甕?, 短輪鉢, 甕 (常滑) 皿×鉢, 碗片 (備前×常滑)
白 磁	椀: II, B-3b+4 b × VII-c × VIII-4, IV, V V-2b, V-2a, V-1c-d × V-5b-c × VI-b V-1 × VIII-2, V-2 × VIII-4, V-4 × VIII V-4 × VIII-1+3, IV ~ VII, V ~ VIII VII × VIII-4, VIII, IX, V × XI, XII, XII-1b 碗片 皿: III-2 × II-1, IV, V-2a, V ~ VII V × VI-b × VIII-2, VI × VII, IX-1 薄輪: 皿, 碗片 薄輪: 皿, 碗片 香: 七色鉢, 鉢 甕: 碗片 他部類: 黄輪短輪甕, 脚皿, 甕, 甕×甕
瓦 質 陶 器	天口焼
肥前系陶磁器	染付: 丸椀
金 銀 器 品	金釘
石 製 品	磁片, 滑石製石鏡
土 製 品	磁器口?
瓦 類	平瓦 (格子), 平瓦 (近世)

灰色土 (900525 分, 鑑定灰色土 2)	
土 師 器	環 a (イト), 小皿 a (イト)
土師系土器	鉢, 器?, 甕
肥前系陶磁器	染付: 徳利, 丸椀
備前系青磁	鉢×鉢
瓦 類	丸瓦 (古代), 平瓦 (近世)
西地区灰色土	
須 恵 器 類	環
土 師 器	環 a (イト), 椀 c, 丸杯
備前系土器	椀
越州系青磁	椀: II
瓦 類	軒丸瓦 (古代), 丸瓦 (格子・古代)

黒灰土	
須 恵 器 類	甕
土 師 器	環 a (イト), 環 b, 環 c, 小皿 a (イト), 小皿 c 皿 c, 器 a (イト), 丸杯, 碗 c, 鉢, 甕
備前系土器	鉢, 甕
瓦 類	椀
備前系青磁	椀: I-4b, B-b, I 皿: 大皿 他部類: 甕
阿波系青磁	鉢: 碗片, 皿 皿: 碗片
土師系土器	器?, 器り鉢, 甕
備前系土器	鉢 (備前系), 甕
瓦 質 土 器	鉢
国産陶器	甕 (常滑), 甕 (備前×常滑)
白 磁	椀: II, II × V-1 × VIII-2, IV, V × VII, V, VIII 皿: II, VI
中 國 陶 器	甕: 短輪甕 鉢: 短輪甕
輸入陶磁器	朝鮮系短輪陶磁器
石 製 品	滑石製燧
土 製 品	瓦玉
瓦 類	平瓦 (近世), 平瓦 (格子・文字「安樂寺」) 平瓦 (格子), 丸瓦 (文字「安樂寺」)

赤灰土	
備前系青磁	椀: IV, I
土師系土器	赤火鉢, 器り鉢
国産陶器	甕輪: 器り鉢, 小皿 和椀: 甕 甕, 山火土甕, 短輪土甕
白 磁	鉢: IV
中 國 陶 器	他部類: 短輪短輪甕, 小皿 I-2a
肥前系陶磁器	染付: 徳利, 小杯, 丸椀, 碗片後, 甕
金 銀 器 品	印籠平小皿, プリント包輪小杯
瓦 類	平瓦 (二重格子・古代), 平瓦 (近世~)

表 17 連歌屋 1 次 出土遺物一覧表 1 3

淡灰土	
土 師 器	杯 a (イト)、小皿 a (ヘウ)、小皿 c、皿 a (ヘウ) 皿 c、丸杯、碗 c、鉢?、鉢?、脚付鉢?
黒色土器 A	瓶、瓶?
黒色土器 B	瓶、小皿、鉢
瓦	鉢
緑釉陶器	皿、皿?
白	碗: II、II?、IV、V?、V、V-2、XI-4 鉢: III?、VII-2a、XI-3×7、XI
田舎陶器	甕 (甕的×形物)
肥後系陶磁器	陶茶碗
石 製 品	cb-f
瓦	瓦 (古代)、平瓦 (格子)、丸瓦 (格子) 丸瓦 (格子・古代)

暗赤灰土	
土 師 器	杯 a (イト)、小皿 a (イト)、小皿 c、丸杯 (草書)
黒色土器 A	碗: III
陶安土系青磁	皿: 破片
土師系土器	赤七輪鉢、七輪ヤン
瓦 質 土 器	鉢?、火鉢
田 産 陶 器	脚付鉢?、鉢形ミニチュア、高脚碗?、脚付土管
白	碗: IV、VIII 蓋: 蓋、杯、破片
肥後系陶磁器	染付: 丸碗、皿、プリント壺?、鉢、自販手皿 食器皿?
田 産 陶 器	紅皿
石 製 品	水品加工品
土 製 品	おほじき (大甕)
瓦	平瓦 (格子・古代)、サン瓦 (瓦葺)
そ の 他	コンクリート片

表土	
土 師 器	小皿 a (イト)、杯 c
黒色土系青磁	碗: III、III-2c、IV、上田分銅破片
陶安土系青磁	碗: I-1b、I
土 師 系 土 器	白七輪、赤七輪ヤン、大甕、ほうろく、甕
須恵系土器	鉢 (美濃系)
瓦 質 土 器	すり鉢
白	碗: V-4、V-2b、VIII
中 国 陶 器	色部種: 黄釉鉄胎瓶
肥後系陶磁器	染付: 徳利、高杯、重々碗、色絵陶器、小皿、大鉢 蓋、大皿 (明治草)、色絵大皿 小杯 (「お見聞」流入り) 印輪平: 皿、大鉢、丸輪 プリント: 丸輪、色絵皿 高杯、小杯、陶茶碗
田 産 陶 器	緑釉: 俵器、大皿、鉢?、豆、瓶、鉢 小杯 (流入り) 磁輪: 蓋、甕、大甕 (後脚) 山吹土瓶、兵輪瓶、行平甕、草甕 (草書)、灯火瓶 行平
国 産 磁 器	プリント色絵碗
瓦	平瓦 (黒目)、平瓦 (瓦葺?) 丸瓦 (瓦葺?)、軒丸瓦 (瓦)

(2) 連歌屋 2次調査

1. 調査の経緯

調査地は、太宰府市宰府3丁目1223-5に所在する。こども1次調査地点同様に「小鳥居小路」に面した地点である。土地は間口が狭く奥に長い矩形状地割を呈す。

当該地番の地権者の申請に基づき平成4年4月より発掘調査を実施した。調査は緒方俊輔が担当した。

連歌屋遺跡2次調査日誌抄（1992年）

- 4.13 重機による表土除去。調査区は間口のある西側に設定。
- 4.15 基準点測量。人力により表土除去。
- 4.20 上層遺構検出。やり方の設定。
- 5.6 中層遺構検出。
- 5.7 S-10を検出。
- 5.11 中層遺構実測。一部下層遺構検出、掘り下げ。
- 5.12 中層遺構写真撮影
- 5.16 下層遺構検出
- 5.18 下層遺構実測
- 5.19 重機により調査区反転作業
- 5.20 再度、基準点測量
- 5.25 西区完掘
- 5.26 実測、東区を拡張
- 6.6 埋め戻し終了

2. 調査の概要

連歌屋遺跡2次調査は調査区内で排土を移動したため、東西約半分づつのエリア（区）に分けて調査区を設定し、間口の西側から調査を着手した。

遺構は大きく3層に分けて調査した。1面を被覆する土層は表土であり、2面を覆う層は茶色土、3面を覆う土層を褐色土にわけて調査したが、結果的に茶色土と褐色土は同一の層であり、調査時の検出レベルの違いによって生じたものであった。遺構の形成時期はだまかに1面が近世から近代、2面、3面が中世、平安後期のものを含む。

3. 遺構

掘建柱建物

2SB010 (fig32 .pla 12-1.2) 調査区中央の2面で検出された東西棟の建物で、12のピットから成る。柱間は梁間は不均等で桁間が1.55mである。柱穴に囲まれた空間は一段掘り下げられ赤褐色の粘土が敷かれており、その上面が硬化している。建物の振れはN-6° 0' -Eで北に対し東に振れており、現在の土地区割りに近い方向を持っている。ピットからは江戸後期までの土器片が出土しており、その時期の所産と考えられる。

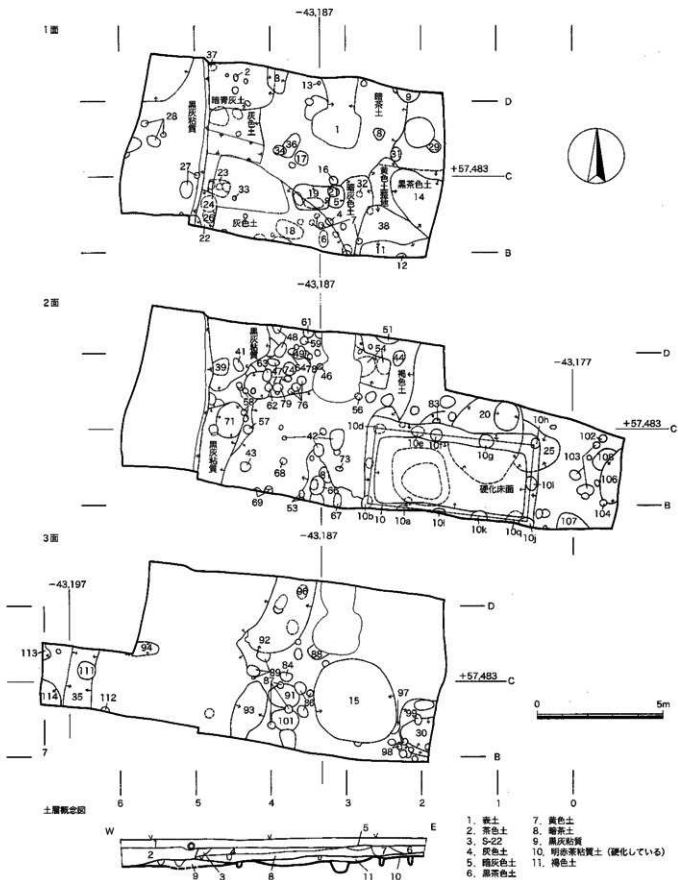


fig30 連歌屋2次調査略図 (1/150)、土層概念図

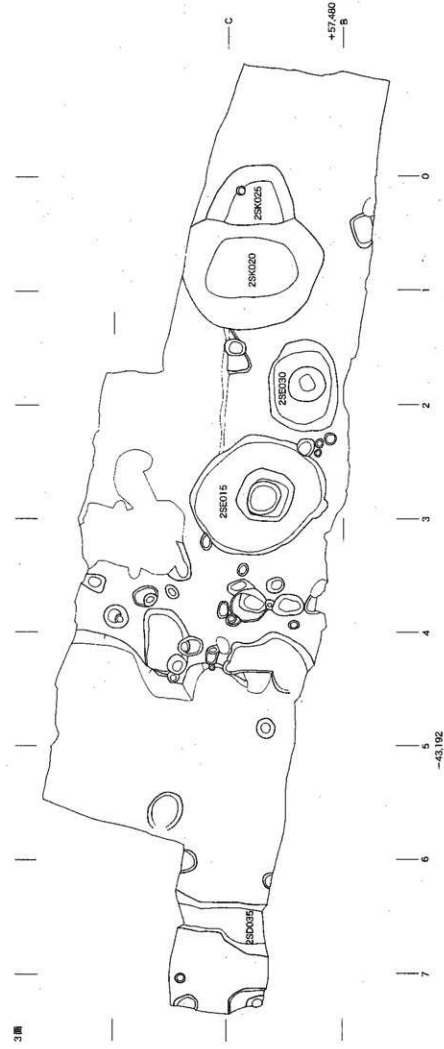
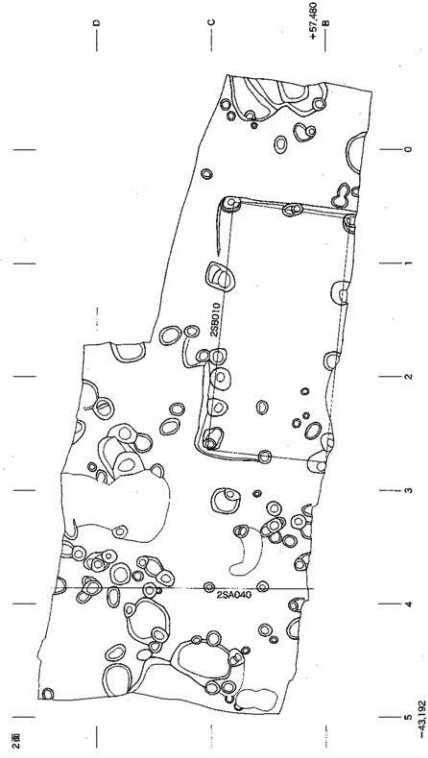
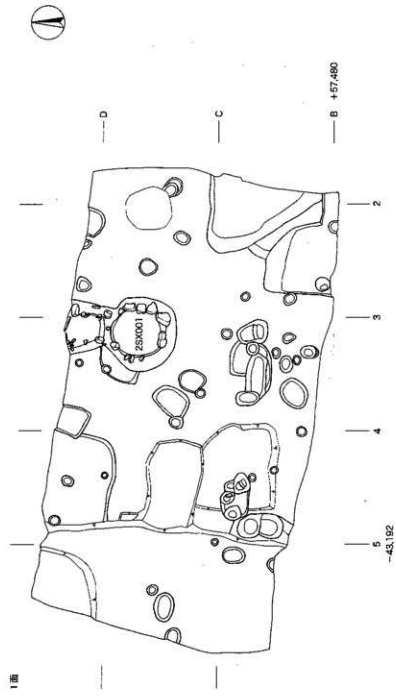


fig31 連歌屋遺跡 2次調査全体図 (1/100)

櫛列

2SA040 (fig33 ,pla15-1.2) 調査区の西側で検出された南北方向の櫛列で、N-0° 42' -E で北に対し東に若干振れている。柱間は 1.5m 前後の数値を示す。ピットからは中世後半期までの遺物が出土している。

井戸

2SE015 (fig33 ,pla18-2.19-1) 調査区中央の 3 面で検出した遺構で、掘り方の径は約 3 × 3.5m の楕円形を呈し、井戸枠の径は約 1.4m である。鎌倉後期までの遺物を含んでいる。瓦片も多く出土した。

2SE030 (fig33) 2SE015 の東隣で検出された遺構で、掘り方の径は約 2.4 × 1.3m の楕円形を呈し、井戸枠の径は約 1m である。平安後期までの遺物を含んでいる。

土坑

2SK020 (fig34 ,pla19-2) 調査区東側の 2SB010 に切られる遺構として検出され、平面形は約 3.7 × 3m の楕円形を呈す。深さ 1m ほどのすり鉢状の断面形状を呈す。江戸後期までの遺物を含み、同時期の廃棄土坑と思われる。

2SK025 (fig34) 調査区東側の 2SK020 に切られる遺構として検出され、平面形は約 2.4 × 1.6m 以上の楕円形を呈すものと考えられる。中世後期の遺物が出土している。

溝跡

2SD035 (fig34 ,pla18-1) 調査区中央の 3 面で検出した遺構で N-9° 20' -E の方向で北に対し東に若干振れている。江戸後期までの遺物を含み、同時期の区画に係わる施設の可能性も考えられる。

その他の遺構

2SX001 (fig35 ,pla17-1.2) 調査区の中央北側の 1 面で検出された遺構で、鍵穴形の掘り方内に周縁に沿う形で花崗岩が並べられており、北側の部分に炭が、南側の部分に焼け土が堆積する。掘り方は約 2 × 3m 以上の規模である。焼成施設と考えられ、窯や「くど」が想定される。出土遺物から近世以降の所産と考えられる。

4. 出土遺物

2SB010 赤茶色粘土出土遺物 (fig36 ,pla20-1)

肥前系磁器

広東型椀 (1) 口径 10.6cm で斜め上方に開く体部を持つ椀で、広東椀タイプのもの。外面に落ち着いた紺色の呉須で網浜文を描く。

端反椀 (2) 口縁部端部が外反する形状で、口縁部内面に雷文帯がある。蓋と組み合うタイプのものである。

小皿×蓋 (3) 口径が 9.6cm に復元されるもので、外面に紺色の呉須で草花文を描く。

皿 (4) 口径が 10cm 前後に復元されるもので、紺色の呉須で團線などを描く。

環 (5) 口径が 6cm 前後に復元されるもので、体部は筒型を呈す。

2SB010 明赤茶粘土出土遺物 (fig36)

土師器

小皿 a (1) 口径 10.0、器高 1.1、底径 7.8cm に復元され、底部はイト切り。内外面に墨書が施される。中世の所産である。

2SB010 ピット d ウラゴメ出土遺物 (fig36 ,pla20-1)

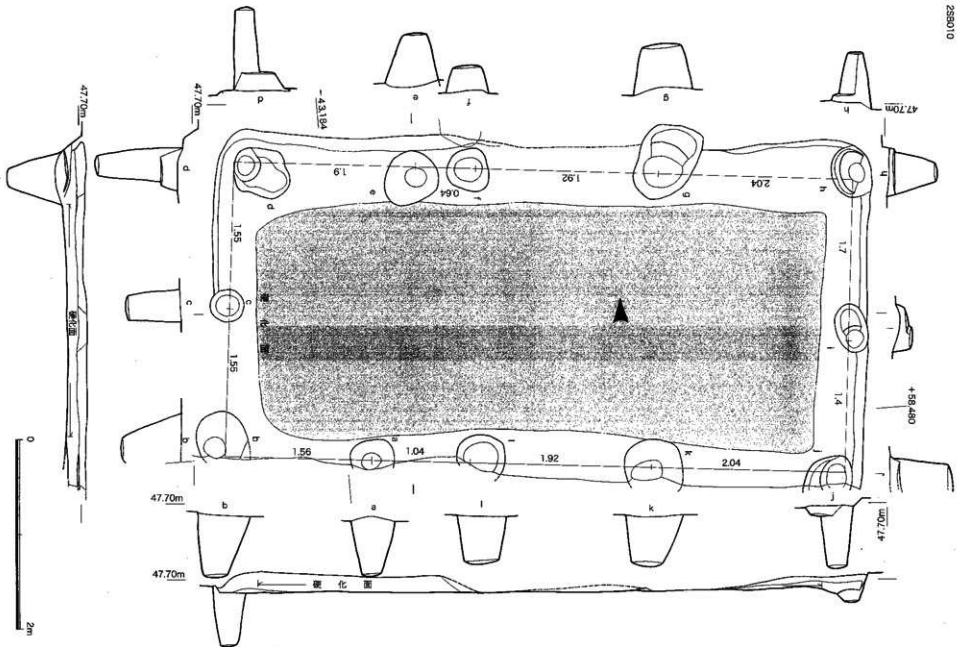


fig32 連歌屋2次掘立柱建物 (010) 実測図 (1/40)

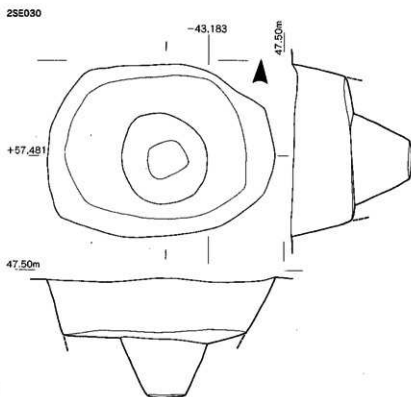
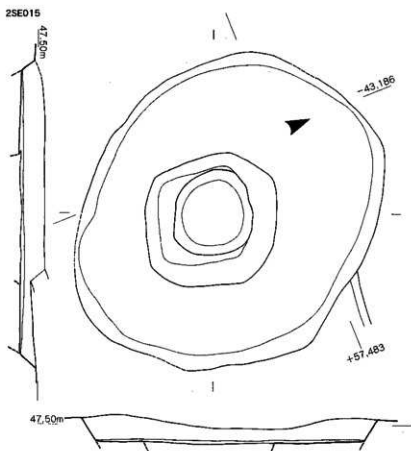
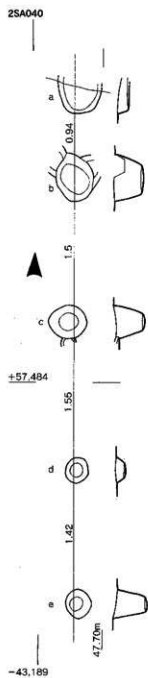
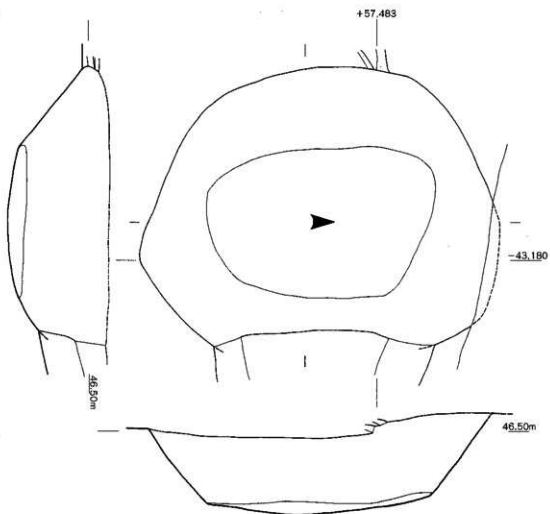
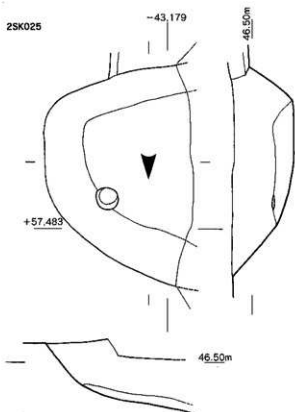


fig33 連歌屋2次櫓列(040)、井戸跡(015,030)実測図(1/40)

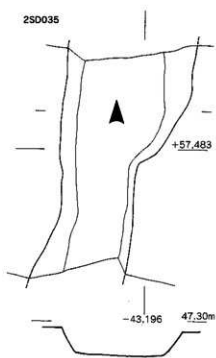
2SK020



2SK025



2SD035



0 2m

fig34 連歌屋2次土坑 (020,025)、溝 (035) 実測図 (1/40)

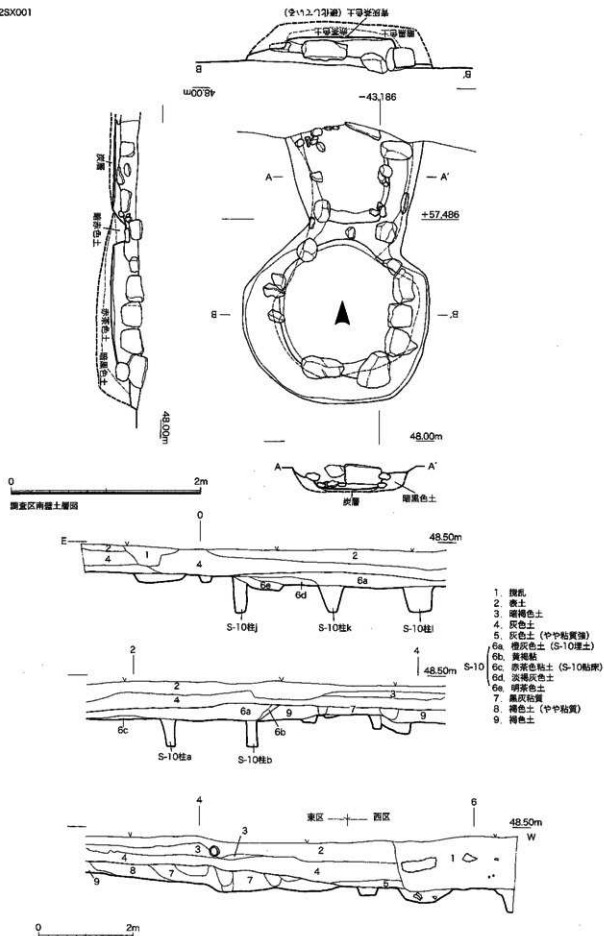


fig35 連歌屋2次その他の遺構 (001) 実測図 (1/40)、南壁面土層図 (1/80)

青白磁

小椀 (1) 底径が4.0cmあり、高台裾が広がり、内底が窪む形状を成す。底の中央に型によると考えられる隆起線による弧状の花弁の装飾が施される。軸調は水色を帯びた透明。中国産で中世の所産か。

肥前系磁器

大皿 (2) 外底に「大明成化年製」の銘がある、高台径が14.0cmの皿。ハリの痕跡はない。紺色の呉須を用い、内面中央に松竹梅の圏線などを描く。

2SB010g 出土遺物 (fig36 ,pla20-1)

肥前系磁器

丸椀 (1) 下半部のカーブから上方に立ち上がる口縁部を持つ。薄い青色の呉須で花文や圏線を彩色する。

鉢 (2) 口径16.6、器高5.3、底径12.8cmに復元され、凹形蛇目高台を有す。くすんだ青色の呉須で唐草や葉文などを描く。

瓦質土器

鉢 (3) 口径27cmに復元され、ストレートな体部に続き短く伸びるL字形の口縁部を持つ。口縁端部のみ幅の狭いミガキがあり、全体は面的に光沢を持つミガキが施される。淡橙色の胎土に薄い黒色の燻しがかかる。

瓦類

軒平瓦 (サン瓦) (4) 中心飾りに3葉の笹葉があり均等唐草が組み合う瓦当文様を持つ。表面には均一に黒色の燻しがかかる。

2SE015 暗褐色土出土遺物 (fig37)

土製品

瓦玉 (1, 2) 1は格子タタキを持つ須恵質の平瓦を素材とするもので、4.8cm程度の円形に打ち欠いて成形している。2は表面の磨耗が著しいが、球形に近い状態まで加工が施される。

石製品

石鏝加工品 (3) 欠損した石鏝の破片の破面を二次的に加工したもので。用途は不明。

2SE015 黒褐色土出土遺物 (fig37 ~ 40 ,pla 20-2.21-1)

土師器

小皿 a (1 ~ 6) 口径8.0 ~ 9.2cm、器高0.7 ~ 1.0cm、底径5.5 ~ 7.3cmで底部は回転糸切り後に板状圧痕が残る。口縁部はやや外反りぎみのものが目立つ。

大皿 (7) 口径22.6、器高2.4cm、底径18.0cmに復元される。底部は回転糸切り後に板状圧痕が残る。内側のナデは粗い。

瓦器

椀 (8) 多少外反する口縁を持つ。手もちのヘラミガキを横方向に施す。黒色化は口縁部に顕著。

瓦質土器

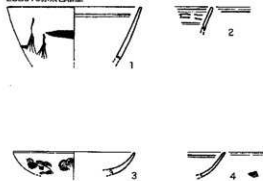
甕 (9,10) 9は平行タタキ、10は格子タタキを有す甕の胴部である。10の内側は指頭痕跡が顕著に残る。

土製品

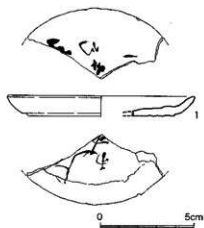
土玉 (11) 土師質の焼きで、2cm大で球形は成さずいびつな形状を呈している。

用途不明 (12) 厚さ約1.5cmの板状を呈す。焼きは瓦質で表面はナデで仕上げられ、アバタ状の小剥離が片面に見られる。

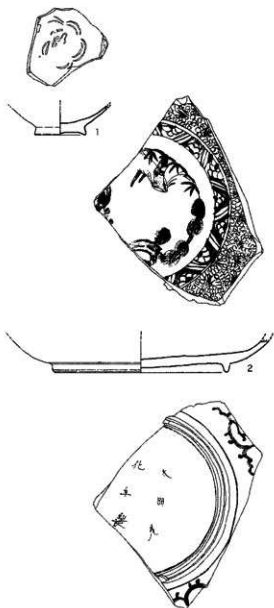
258010赤褐色粘土



258010明赤茶釉



258010ビットロウラゴメ



258010g

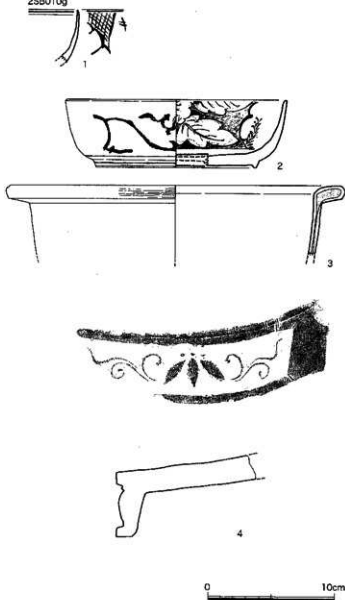
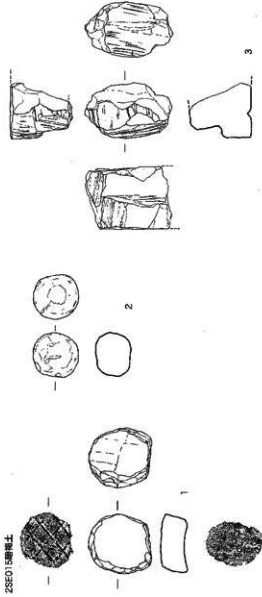


fig36 連歌屋2次掘立柱建物(010)出土遺物実測図(1/3)

25EO15 遺物土



25EO15 遺物土

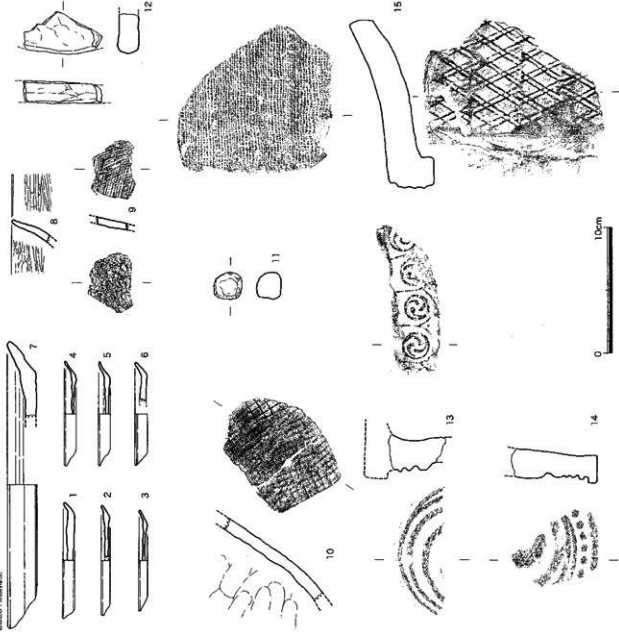
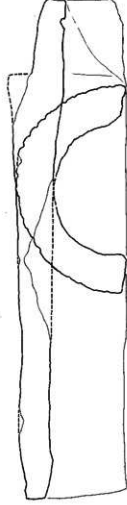
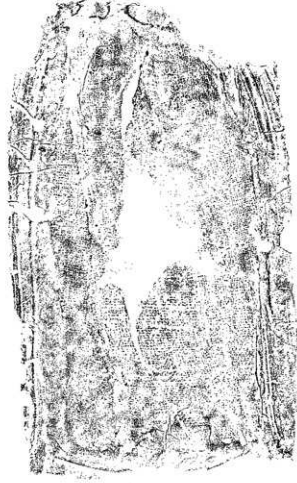


fig37 運歌屋 2 次井戸跡 (015) 出土遺物実測図 1 (1/3)

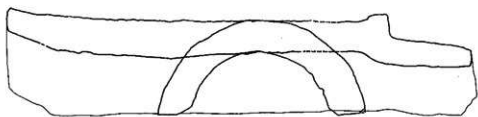
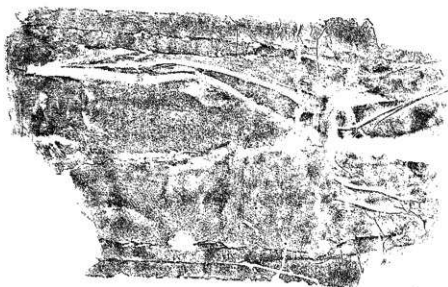


16



0 10cm

fig38 連歌屋2次井戸跡(015)出土遺物実測図2 (1/3)



17

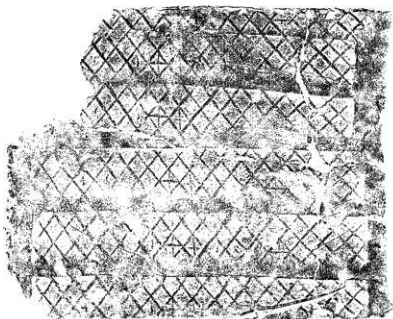


fig39 連歌屋2次井戸跡(015)出土遺物実測図3 (1/3)

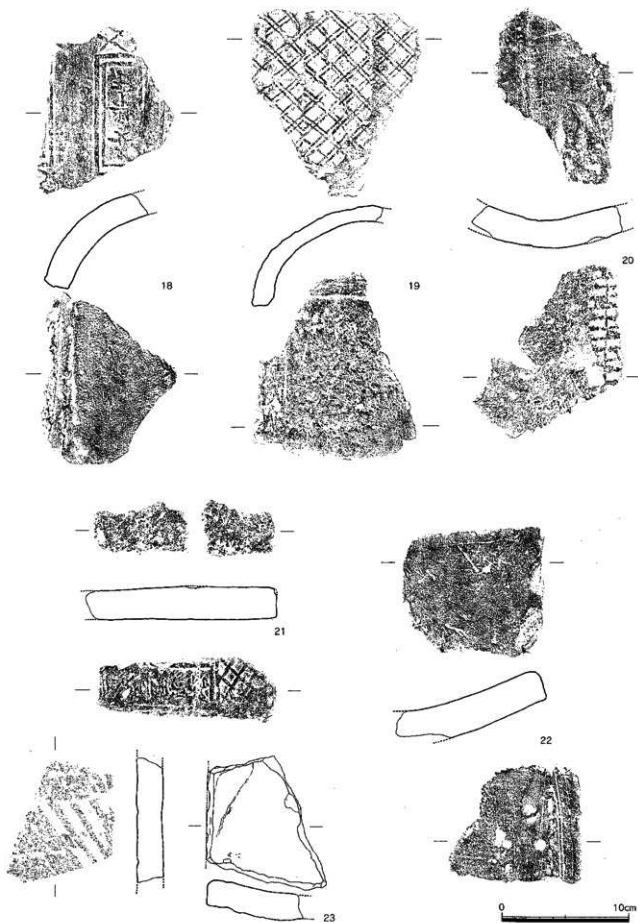


fig40 連歌屋 2次井戸跡 (015) 出土遺物実測図 4 (1/3)

瓦類

軒丸瓦 (15) 瓦当面に剣頭形の区画に巴文が連続して位置される。斜格子タタキが施される。須恵質を呈す。

軒丸瓦 (13, 14) 尾の長い巴文を中心に外側に朱文帯が巡る瓦当面を持つ。須恵質を呈す。

丸瓦 (16～19) 16は長さ39.8、幅16.4、高さ9.0cmの完形の丸瓦で、縦方向の連続した縄目タタキを持つ。17は長さ37.2、幅16.3、高さ8.0cmの完形の丸瓦で、斜格子に十字を入れたタタキを持つ。須恵質を呈す。18は斜格子に「安楽寺」の文字入りのタタキが、19は二重の正格子のタタキが施される。厚みが薄い部分で1.3cmとやや薄手のつくりである。

平瓦 (20～23) 20は斜格子に直線を組み合わせたタタキを持ち、21は斜格子に安楽寺以外の文字と考えられる文字を入れたタタキを持ち、23は太い斜線のタタキを持つ。22は無文である。

2SE015 ウラゴメ出土遺物 (fig 41)

瓦器

椀 (1) 丸いカーブを描く胴下半部片で、外面に粘土板を左右から張り合わせた接着不良の部位が見られる。内面には接着不良による穴をパテ状の粘土で埋めた箇所が見られる。内外面にハケ状工具の条線が残り、外面にはその上に手持ちのミガキが施される。全体に灰白色を呈し、内面は黒灰色を呈す。

須恵質土器

鉢 (2～4) 2はストレートに斜め上に伸びる口縁を持つ。端部は外側に突出気味に張り出す。片口に移行している。3は玉縁気味で上方に多少のびる。4は平底の破片である。やや軟質の須恵質であり東播系のこね鉢と考えられる。

瓦質土器

甕 (5,6) 5は肩の部位で平行タタキがダブリながら施され、6は体部片で外面に格子目のタタキがあり内面は指頭圧痕の上に横方向のハケ状工具のナデが施される。

2SE030 ウラゴメ出土遺物 (fig 41)

瓦類

平瓦 (1,2) 須恵質の平瓦で、1は斜格子タタキを、2は縄目タタキを有す。2は厚さが2.0cmほどあり、8世紀に属す可能性がある。天満宮境内を含めてこの周辺ではあまり出土していない。

2SE030 出土遺物 (fig 41.42)

土師器

図示した土器のほか計測可能な小皿aが5個体出土している。平均値は口径10.5、器高1.3、底径7.9cmで、X期前後の所産と考えられる。

環 (1) 口径13.2、器高3.0cmに復元される。丸底で底部はヘラ切りで口縁端部が外反する。

椀c (2,3) 口径15.2、器高6.1、底径7.5cmに復元され、胴下半部に押し出しのユビ押さえの痕跡が連続して見られ、内面にコテ当ての痕跡が残る。明茶褐色を呈す。3も同様の作りで、口径15.2、器高5.2、底径8.6cmに復元される。淡黄褐色を呈す。

椀×鉢 (4) 深手の器形になるものと考えられ、口縁端部が短く外反し、体部外面は凹凸のあるナデを残す。

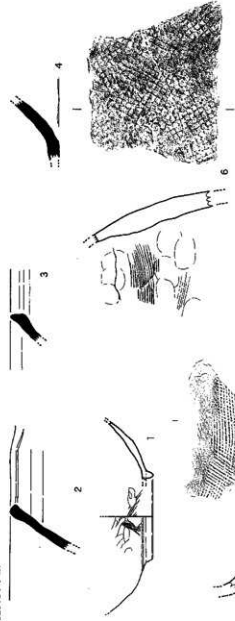
器台 (5) 径3.2cmの器台の筒状部と考えられる。淡黄褐色を呈す。

黒色土器 B

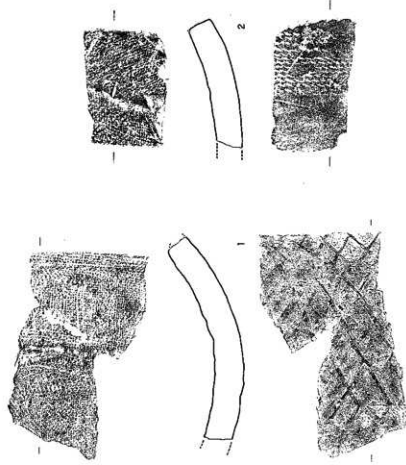
椀 (6) 丸底に短く外に開く高台を付けた形状を成す。内外面に手持ちのミガキを施す。

須恵質土器

28E015ウラゴキ



28E030ウラゴキ



28E030

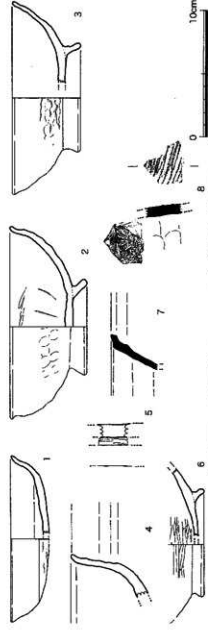


fig41 連歌屋 2次井戸跡 (015,030) 出土遺物実測図 5 (1/3)

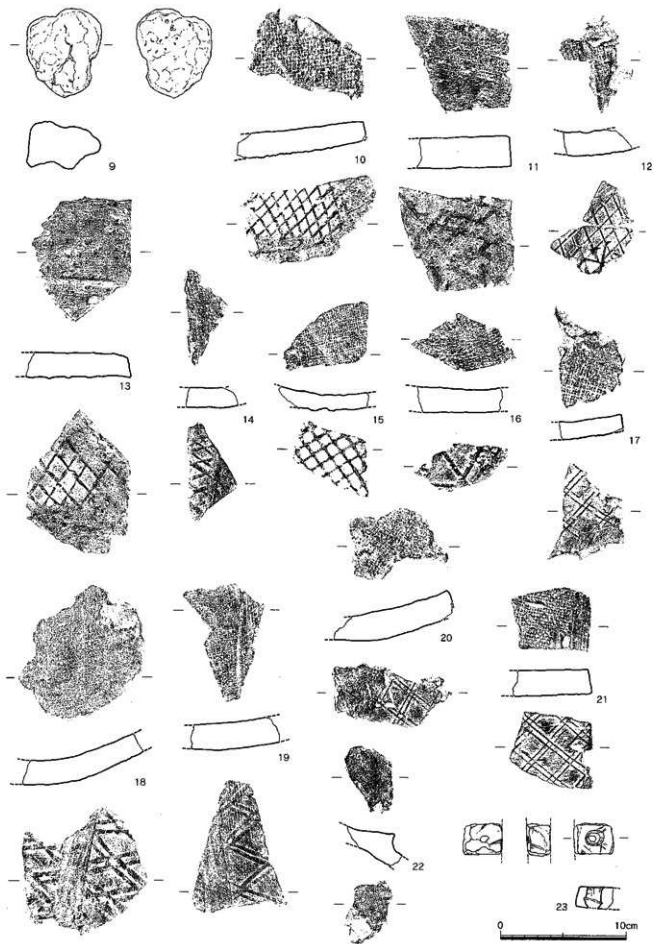


fig42 連歌屋 2次井戸跡 (030) 出土遺物実測図 6 (1/3)

甕(7) 口縁端部片で、外側が厚くなりその中央はナデによって窪む。暗灰色を呈す。

瓦質土器

甕(8) 外面に平行タタキを、内面にナデの痕跡を残す。

土製品

焼土塊(9) 多孔質で淡橙褐色を呈す。面は残っていない。

瓦類

平瓦(10~22) 10~14は斜格子、15は正格子、17と21は二重の正格子、他は二重の斜格子のタタキを持つ。

石製品

滑石製加工品(23) 長方形の素材に片面から穿孔したもので、底面が剥離したために穴が貫通している。

2SK020 黒褐土出土遺物(fig43.44.pla21-2)

磁器

蓋(1) 口径8.9、器高2.8、つまみ径3.9cmに復元される碗の蓋であり、つまみは外に開きぎみに立ちあがる。紺青色の呉須で文様を描く。

肥前系磁器

端反碗(2,3) 2は口径9.9、器高5.1、底径4.4cmに復元される碗であり、口縁が外反する。紺色の呉須で文様を描く。内底に荒磯文を入れている。3は口径10.6、器高6.1、底径4.2cmに復元される。くすんだ青色の呉須で文様を描く。

丸碗(5~12) 6は口径10.2、器高5.3、底径4.2cmに復元される。外面に青色の呉須で草文を描く。5は内底に「寿」の文字を描く。7は口径8.6cmに復元され外面に青色の呉須で蝶花文を描く。8は青色の呉須で網浜文を描く。

広東碗(4) 底の厚い広東タイプの碗で青い呉須で圏線と家屋の絵を描く。

碗(10) 10は半球形の胴部に色絵で内面は赤、外面には赤、黄色、緑、黒の色材が用いられる。

小碗(13) 法量の小さめな小碗になると思われ、浅い胴部の外面に植物の絵柄が青い呉須で描かれる。

皿(14) 外底に割りこみが施されないタイプの皿で、外側にも施軸が及ぶ。高台端部のみ軸がふき取られる。

白磁

小坏(15) 口径が6.8cmに復元される、口縁端部が外反する小坏である。

紅皿(16) 型による成形で、内側から外の口縁端部直下まで施軸される。

陶器

碗(17~19) 17は口径11.3、器高4.1、底径5.0cmに復元される。半球形の丸い胴部を持ち、オリーブ色の軸が施される。軸は内底が円弧状に剥ぎ取られる。胎土部分は赤褐色を呈す。18も黄色色の軸を施す。19は白色の胎土を持ち、底部はシャープなケズリ出しによって身幅が細い高台がつくられる。黄色系の軸を施す。胎土や技法から京都系の製品の可能性がある。

小坏(20,21) 20は口径6.8、器高5.2、底径3.3cmに復元され、21は口径7.0、器高5.2、底径3.3cmに復元される。胎土は茶灰色で軸は緑灰色を呈し、胴部に茶褐色の鉄絵が施される。

水注(油さし)(22) 径1.5cmほどの円筒形の注ぎ口を持つ。体部はあまり丸みを持たない。黒褐色の軸を施す。

土瓶(23) 底径が8.4cmで外開きの体部を持つ。外面はケズリで成形され粘土塊で突起が貼り付け

られる。内面と外面上部に茶褐色の釉が施される。

壺×甕(24) 底径が14.8cmに復元され、工具による成形で平坦な底部を持つ。内底には放射状の押さえたような調整の痕跡がある。内面に黄褐色の釉が施される。

瓦質土器

風炉(25) やや胴が膨らむ形状を持ち、内面に横方向のハケが施される。外面上部に溝状の文様(スタンプか)が施される。外面は光沢のある黒色を呈す。胎土芯は灰褐色を呈す。

土師質土器

鉢(26) 外側にまっすぐ開く口縁を持つ。外面下半部に縦方向のケズリのような痕跡が残る。

七輪サン(27,28) 直径2cmほどの穿孔が施されるもので、橙色を呈す。

土製品

土人形(29) 型を用いた大型の人形の破片で、内面は連続した指頭圧痕が見られ、外面は衣文と考えられる意匠が見られる。

瓦類

軒丸瓦(30) 瓦当面の幅広の周縁にあたる破片であり、爛しがかかっておらず灰褐色を呈す。

軒平瓦(31,32) 三葉の笹の葉と均等唐草文の組み合わせによる瓦当文様を持つ。マットな黒色を呈す。

2SK020 暗褐色土出土遺物 (fig44 ,pla22-1)

土師器

この遺構の土層は基本的に近世に属す堆積層であるが、坏a、坏d、小皿a、小皿b、鉢など中世に位置付けされる遺物の一群が存在する。

坏a(1~6) 1は口径13.0、器高2.0、底径9.2cmに復元される。他は口径が11.6~12.5cm、器高2.5~3.2cm、底径6.9~8.7cmを測る。外底の板状圧痕は5のみがなく、内底と体部の境目の強いナデは2が全面に及んでおらず、5は施されていない。胎土は黄灰白色を呈すが、3と6は赤味を持つ。

坏d(7) 口径12.4、器高3.2、底径5.3cmを測る。外面にはナデの軌跡を残す。

小皿a(8~11) 口径が7.8~8.0cm、器高0.9~1.5cm、底径5.9~6.2cmを測る。外底の板状圧痕は8のみがない。

小皿b(12,13) 口径が7.0cm、器高1.5cm、底径5.4~6.8cmを測る。外底にはイト切りのあとに板状圧痕が残る。

土師質土器

鉢(14,15) 14は口径が23.4、器高6.1、底径13.2cmを測る。外面に連続した指頭痕を持ち、内面には板状工具によるナデが横方向に施される。底部はフラットでなくやや膨れている。淡茶色を呈す。15も内面は同じような工具による横方向のナデが施される。外底部の角はややシャープである。

瓦質土器

火鉢(16,17) 16は方形を呈す火鉢で口縁端部が厚くなる。外面に斜格子模様のスタンプが連続して施されている。17は火鉢の脚部の根元付近の破片で内面はハケ状工具によるナデが残されている。

白磁

皿(18) 口径が8.2cmに復元される。外面下には釉が及んでいない。

国産陶器

甕(19) 灰色から褐色を呈す胎土を持ち、ハケ状工具によるナデが施される。備前ないし常滑の所産か。中世に属す遺物であろう。

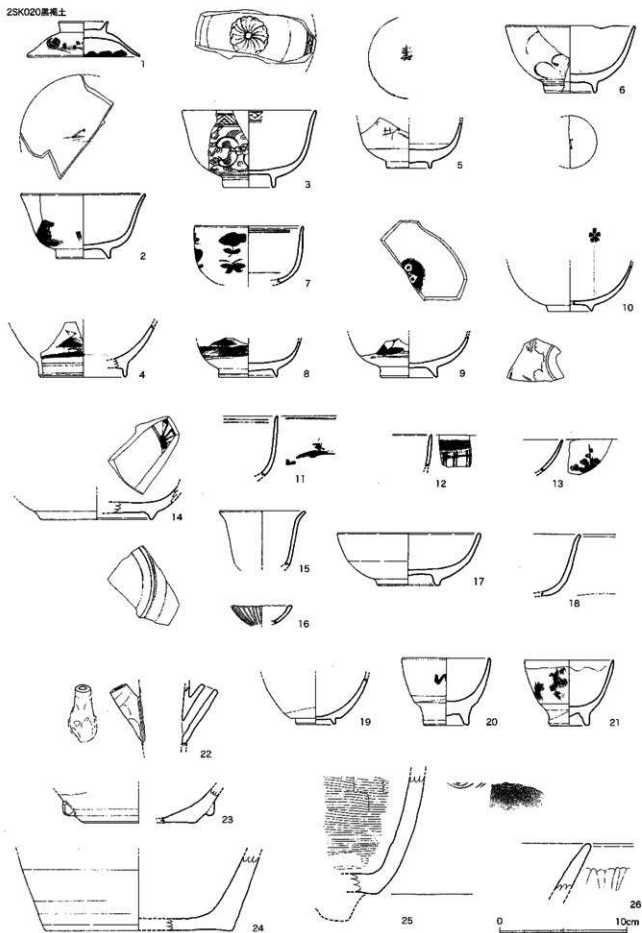
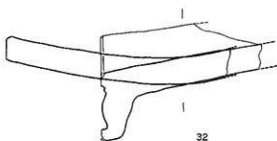
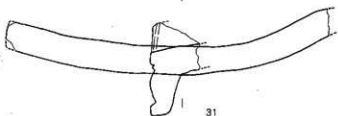
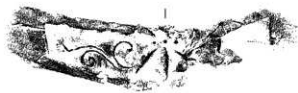
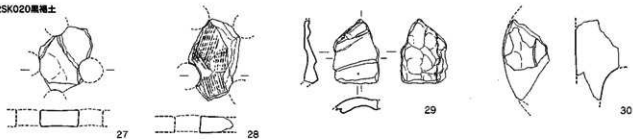


fig43 連歌屋2次土坑(020)出土遺物実測図1 (1/3)

2SK020黒縄土



2SK020黒縄土

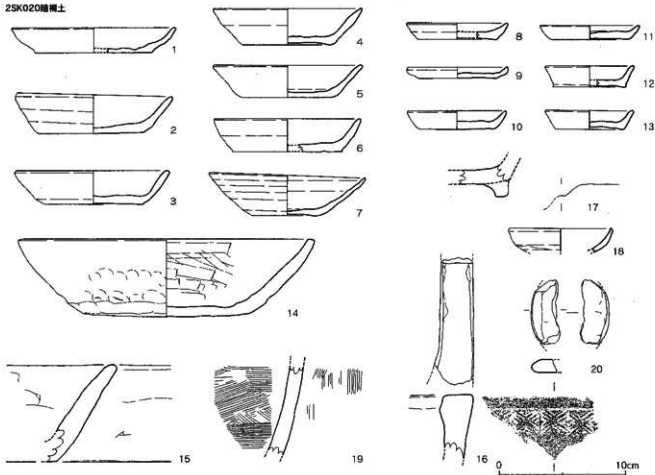


fig44 連歌屋 2次土坑 (020) 出土遺物実測図 2 (1/3)

土製品

焼土塊 (20) 円盤状に成形された形状であったと考えられる。素焼き状態で灰褐色を呈す。

2SK025 出土遺物 (fig45)

土師器

坏 a (1) イト切り底を持ち、斜め上方向に直線的に伸びる体部を持つ。胎土は白灰色を呈す。

小皿 a (2) イト切り底を持ち、短く端部が外に開く口縁を持つ。淡橙色を呈す。

土師質土器

すり鉢 (3) 口縁端部に厚みがあり、上面は平坦な形状を呈す。胴部には縦方向のハケ目が残る。白灰色を呈す。

鍋 (4) 細く丸く収められた口縁端部を持つ。外面は煤が付着している。胎土は灰褐色を呈すが芯は灰黒色を呈す。

火鉢 (5) 桶形の火鉢で胴部下半のタガを表現した凸帯がある。内面はユビ押さえの上にハケを施す。表面は淡黄褐色を呈すが、芯は黒色を呈す。

鉢 (6) 底径が 16cm に復元され、胎土は灰白色を呈し、外底部に板状圧痕を残す。底部の内外面にかすかに墨書の痕跡を残す。外底は眉や眼にも見え、人面を表現した可能性もある。

2SD035 出土遺物 (fig45)

肥前系磁器

丸碗 (1) 下膨れの球形を呈す形状で、くすんだ青色の呉須で團線や模様を描く。

広東碗 (2) 高台径は 5.8cm に復元され、長い高台を持つ。青い呉須で團線や円窓文、内底中央に「寿」の文字などを描く。

国産磁器

碗 (3) やや外開きの細い角高台を持つ。軸はケズリ取りにより高台に及ばない。

瓦質土器

火鉢 (4) 胴部の屈曲部の破片であり、外面にスタンプによりあられ状の朱文が浮き出ている。

土師質土器

火輪サン (5) 厚さ 1.5cm の円盤状で、ナデで仕上げられ、直径 2cm ほどの円形の穿孔を施す。

2SX014 出土遺物 (fig45)

土製品

人形 (1) 型で成形されたもので、獅子の鼻と歯の部分に当たる。大型の面になるものと考えられる。

2SX023 出土遺物 (fig45)

土師器

坏 b (1) 口径 11.3、器高 2.5、底径 5.0cm に復元される。厚さ 3mm 程度の薄手の器壁で体部は内外面ともにロクロによるナデの軌跡を残している。淡黄褐色を呈す。

龍泉窯系青磁

盤 (2) L 字形で波状の割りこみを持つ口縁を持ち、体部に面を持つ。灰白色の胎土に淡緑灰色の釉が掛かる。

緑釉陶器

壺 (3) 肩が張る形状の壺形を呈す。外面は横から斜め方向の、内面は頸部までの部位にミガキを施す。器壁は頸部が 0.8cm、肩部は 1.3cm を測りやや厚めである。

2SX077 出土遺物 (fig45)

中国陶器

环 (1) 胎土は精良で茶褐色を呈す。釉は緑灰色を呈し、薄く掛けられる。

2SX084 出土遺物 (fig45)

土師器

小皿 c (1) 口径 9.2、高さ 3.1、高台径 5.2cm に復元される。腰折れで丸底を呈す。高台は開きぎみで細い。内外面油煙のようなものが付着している。

2SX093 出土遺物 (fig45)

須恵器

蓋 c × a (1) 口縁端部が短く下に折れる形状で、天井部外面には屈曲部のみに環状にヘラケズリが施される。8世紀中頃以降の所産である。

2SX102 出土遺物 (fig45)

土師器

环 c (1) 高さが 3.7cm で体部は直線的に開き、端部は尖らない。外面に墨書が施される。文字ではなく絵画か。

灰色土出土遺物 (fig46.47 ,pla 22-2.23-1)

土師器

皿 (1) 型成形によるもので、内底に梅鉢文、外底に「太宰府神社製」の印が施される。胎土は淡黄白色を呈す。博多瓦町周辺や野間皿山などで生産されていた。

土製品

人形 (2) 前後 2 枚の合わせ型による小恵比須像で、バリを取りナデで仕上げられる。淡褐色を呈す。

肥前系磁器

宋螺形蓋物 (3) 上下で接合する方式の型成形により、巻貝を模した蓋付きになる器で、3つの脚を貼りつける。紺青色の落ち着いた色調の呉須で波と葉などの絵柄が描かれる。長さ 20.3、幅 16.9、高さ 8.7cm を測る。

暗茶土出土遺物 (fig46)

白磁

小椀 (1) 浅手で口縁端部がゆるい L 字に屈曲する口縁を持つ。胎土は白色で微細な黒色粒を含む。釉は灰色味を帯びた白色を呈し、厚めに施されるが、部分的にムラがある。釉調は森田 B 群以降の白磁に似ている。

表土出土遺物 (fig46 ,pla 22-2.23-2)

肥前系磁器

丸椀 (1) 口径 9.4、器高 4.1、高台径 3.6cm を測る。半球径の丸みを持つ胴部で、内底に「さいわ井や」の文字を青色の呉須で書く。

方皿 (2) 高台は円形、口縁は弧を描く方形を呈す方皿。濃い青色の呉須で方形を組み合せ儀を表現した図柄を描く。外底には呉須で書かれた大明成化年製の文字の上に朱書きで「連化」と書かれている。地名や熊股の「連歌」を示すものか。



fig45 連歌屋2次土坑(025)、溝(035)、その他の遺構(014,023,077,084,093,102)
出土遺物実測図(1/3)

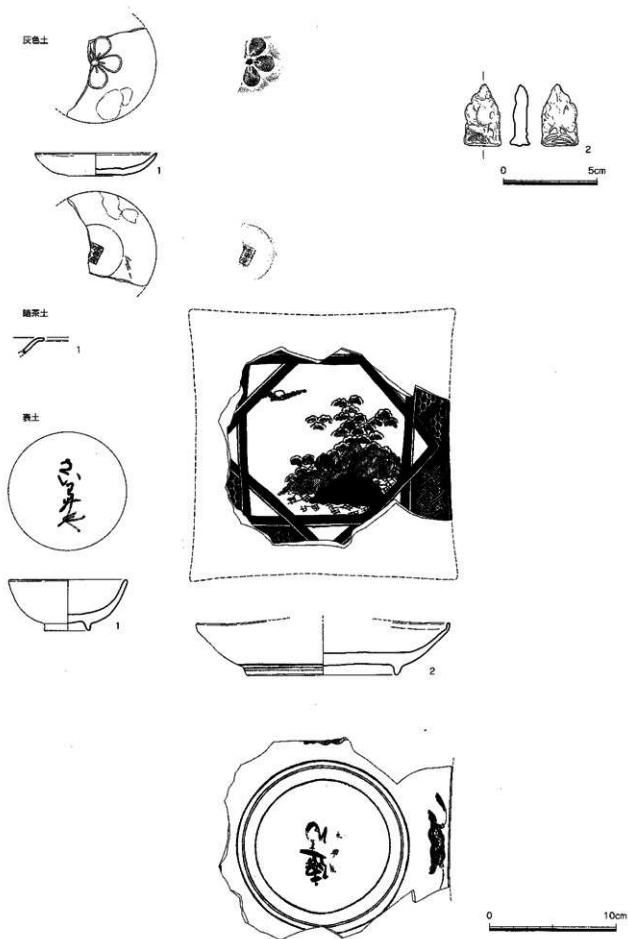


fig46 連歌屋 2次暗茶土、灰色土、表土出土遺物実測図 (1/2,1/3)

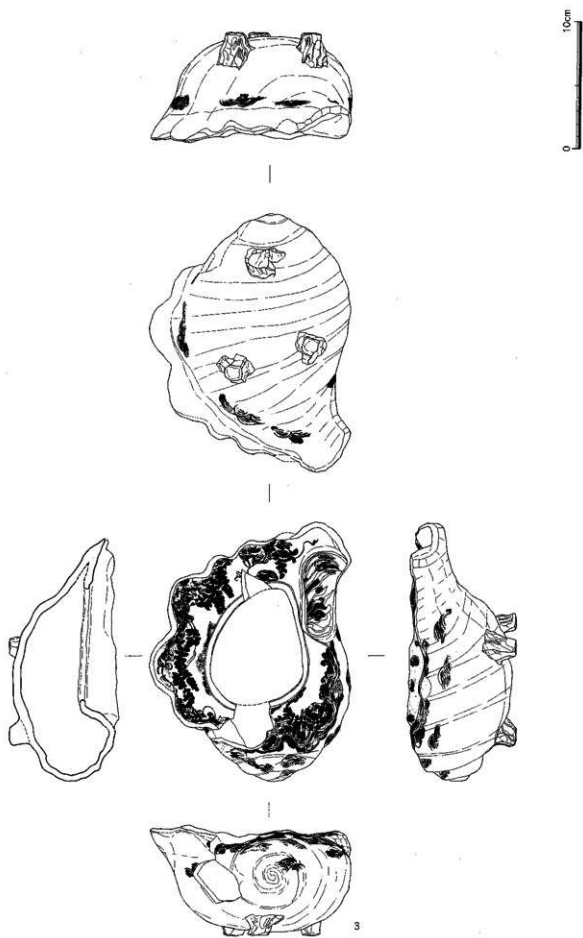


fig47 連歌屋 2次灰色土遺物実測図 2 (1/3)

5. 小結

主要な遺構は近代、近世末、古代後半に取敢される。

2SB010 は近世末に属し、おそらく壁建ちで土間張りの蔵のような建物であったと考えられる。当時の絵図から、本地点の北隣地に造営奉行所などが想定され、その関係が注目される。「連化」を朱書する染付け皿をはじめとし、大型の皿や米罍形蓋物などの優品の陶磁器が出土していることから、同地域内での位置付けが今後注目される。

古いところでは 2SB030 はこの地域で本格的に生活に係わる遺構が本格的に展開し始めた段階のもので、互の所有状況など、現天満宮境内との比較上重要である。

表18 連歌屋2次 遺構一覧1

S番号	遺構番号	遺構性格	地粘土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
1	2SX001	伊 (石組み伊)			現代	上層	C3
2		ビット	黄緑色真砂土		近世(江戸末・慶応?)	上層	D4
3		たまり	焼土		現代	上層	D3
4		ビット			中世	上層	B3
5		ビット		5→21→暗灰色土	中世	上層	B3
6		ビット	黄白色土		中世	上層	B3
7		ビット群	黄白色土			上層	B3
8		ビット	焼土			上層	C2
9		ビット	青灰色土			上層	D2
10	2SB010	竪立柱建物			近世	上層	B0~2
11		土壌	茶色上ブロック		近世	上層	B2
12		ビット	茶色土ブロック	12→11		上層	A2
13		ビット	焼土			上層	D3
14	2SX014	土蔵×たまり	黒茶色土		近世(昭和前期の混入有)	上層	B1~2
15	2SE015	江戸				下層	B2
16		ビット	黄茶色土			上層	B3
17		ビット	黄茶色土			上層	C3
18		ビット	黄色土			上層	B3
19		土壌	黄色土	19→21		上層	B3
20	2SK020	土壌	上層は黒褐色土、下層は暗褐色土	25→20	16c~近世	中層	B1
21		ビット	黄色土		近世	上層	B3
22		土壌	黄色土	26→24→22	中世	上層	B4
23	2SX023	ビット	青茶色土			上層	B4
24		ビット	黄色土		中世	中層	B4
25	2SK025	土坑					B0
26		ビット	黄色土	26→24→22	中世	中層	B4
27		ビット群	茶白色土		中世	中層?	B5
28		ビット群	茶白色土		中世	中層?	C5
29		ビット	褐色土		12c後半?	中層?	C9
30	2SE030	江戸			11c前半	下層	B2
31		ビット	褐色土			中層	C2
32		ビット	黄色土			上層	B2
33		ビット	黄色土		近世	上層	B4
34		ビット	黄色土	36→34		上層	C3
35	2SD035	溝			近世	上層	B・C6
36		ビット	黄色土	36→34		上層	C3
37		ビット	長茶色土	37→暗青灰色土		中層	D4
38		たまり	暗灰色土		現代	上層	B2
39		ビット	淡黄色土			中層	C4
40	2SA040	欄干					B~C3
41		ビット	黄色土		中世	中層	C4
42		ビット群	黄色土		中世	中層	B3
43		ビット	黄色土		中世	中層	B4
44		ビット	黄色土		中世	中層	C2
45							C3
46		ビット	褐色土	46→1	中世	中層	C2
47		ビット	黄色土			上層?	C2
48		ビット群	褐色土		中世	中層	D3
49		ビット	褐色土		中世	中層	D3
50							
51		ビット	褐色土		中世	中層	D2
52		たまり			中世	中層	C2
53		ビット群	褐色土		中世	中層	B3
54		ビット群	褐色土	54→52	中世	中層	C2
56		ビット	褐色土		中世	中層	C2
57		ビット	褐色土		中世	中層	C4
58		ビット群	褐色土		中世	中層	C4
59		ビット	黄色土			中層	D3
61		ビット	褐色土	61→59		中層	D3
62		ビット	褐色土			中層	C3
63		ビット	褐色土			中層	C3
64		ビット	褐色土	64→49		中層	D3
66		ビット	褐色土			中層	B3
67		ビット	褐色土			中層	B3
68		ビット	暗褐色土			中層	B3
69		ビット群	褐色土			中層	B4
71		たまり	淡茶灰色土			中層	C4

表 19 連歌屋 2次 遺構一覧 2

S番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
72		土壌	褐色土			中層	C4
73		ピット	淡茶色土		中世	中層	B3
74		ピット	褐色土		13c 末～	中層	C3
76		ピット群	褐色土				C3
77	2SX077	ピット	褐色土				C3
78		ピット群	褐色土				C3
79		ピット	褐色土				C3
81		ピット	褐色土				B3
82		ピット		82 → 72			C4
83		ピット	褐色土				C1
84	2SX084	ピット	淡茶灰色土			下層	C3
86		ピット群	黒褐色土			下層	B3
87		ピット群	黒褐色土			下層	B3
88		ピット	黒褐色土			下層	C3
89		ピット群	黒褐色土			下層	C4
91		ピット			11c 後半?		B3
92		たまり	褐色土と同じ?				C3
93	2SX093	たまり	黒灰色粘質土と同じ?				B4
94		たまり	黒灰色粘質土と同じ?				C5
96		ピット					D3
97		ピット		97 → 15			B2
98		ピット群					B2
99		ピット			11c 後半		B2
101		ピット					B2
102	2SX102	ピット					B99
103		ピット群					B99
104		ピット		106 → 104			B99
106		土壌					B99
107		たまり					A0
108		たまり		108 → 106			B99
109		ピット				下層	A0
111		ピット	黄褐色土		近世		C6
112		ピット					B6
113		たまり					C6
114		ピット					B6

表 20 連歌屋 2 次 出土遺物一覧表 1

S-1	
土 師 器	小皿 a (イト)、坏 a (イト)
施 産 陶 器	透明釉施
白 磁	碗: II, IV, V × VI-1 + 2b × VII, V ~ VII 皿: V ~ VI 他類種: 碗 × 坏
肥前系陶磁器	施 × 皿
瓦 類	平瓦 (無文・近世～)

S-1 盛り方

漆 産 器	器
土 師 器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)、碗 c
肥前系青磁	碗: I+ic, II+b
阿波系青磁	碗: IV
瓦 質 土 器	火酒壺等?
白 磁	碗: IV, IV ~ IX
黒 胎 陶 器	天目焼
施 産 陶 器	鉄胎: 盛り鉢、灯明皿 白胎: 緑彩器、鉢、壺? 灰胎: 壺
肥前系陶磁器	染付: 丸瓶、方鉢、広重樽
瓦 類	和瓦瓦 (近世～)、平瓦 (無文・近世～)

S-2

土 師 器	丸坏
阿波系青磁	碗: 碗片
白 磁	皿: IX
肥前系陶磁器	染付: 竜形皿
瓦 類	碗片

S-3

土 師 器	小皿 a (イト)
土 師 質 土 器	磁うろこ?
瓦 質 土 器	磁戸 (近世?)
国 産 陶 器	新輪器 × 鉢、黄胎緑彩鉢、黒胎土師、黒胎盛り鉢
肥前系陶磁器	染付: 鉢、広重鉢、施反鉢 煎茶、紅皿
土 製 品	人形?
石 製 品	滑石製加工品 (付輪状)
瓦 類	平瓦 (無文・近世)、丸瓦 (古代)

S-4

土 師 器	坏 b?
阿波系青磁	鉢 (茶碗系)
瓦 質 土 器	火鉢 C?
白 磁	碗: V ~ VIII

S-5

漆 産 器	器
土 師 器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)
瓦 類	碗
肥前系青磁	碗: II+b
高 麗 青 磁	象眼: 壺 坏胎: 碗片
土 師 質 土 器	鉢
中 国 陶 器	壺: 燈 × 耳壺 壺: 陶製壺
石 製 品	砥石

S-6

土 師 器	坏 b × 小皿 b
瓦 質 土 器	碗片

S-7

土 師 器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)
-------	--------------------

S-8

土 師 器	丸坏?
上 野 質 土 器	七輪サン
瓦 類	碗片

S-9

土 師 器	小皿 a (イト)
国 産 陶 器	白磁: 坏 × 碗
石 製 品	石南 B

S-10 明赤漆貼質土

土 師 器	小皿 a (イト)、小皿 a (イト・蝋書) 小皿 a (へう)、丸坏、丸坏 c?、碗 c
飯 簀 賣 土 器	鉢 (直縁系)
中 国 陶 器	壺: 磁胎壺、燈 × 耳壺
中 世 陶 器	磁胎壺
肥前系陶磁器	染付: 壺? 何?
国 産 陶 器	高輪: 壺? 何?
瓦 類	平瓦 (無文)

S-10 赤茶色磁土

土 師 器	坏 a (へう)、坏 a (イト)、小皿 a (へう)、丸坏
龍泉窯系青磁	碗: I, II+a, III, 上田 D-II, 碗片
阿波系青磁	碗: I+Ib, 碗片
輸入陶磁器	本分製: 肥前系黒胎陶磁器
土 師 質 土 器	覆り鉢、七輪サン
白 磁	碗: IX 皿: IX
肥前系陶磁器	染付: 鉢、壺、施反鉢 小鉢
国 産 陶 器	磁胎壺?、施鉢 青磁壺、青磁壺
瓦 類	平瓦 (格子・古代)、平瓦 (無文・近世～) 平瓦 (文字)、碗片 (古代)

S-10 ビット b

土 師 器	坏 a (イト)
瓦 質 土 器	鉢 A-IV

S-10 ビット c

土 師 器	坏 a (イト)、坏 a (へう)、小皿 a (イト)
龍泉窯系青磁	碗: II+a
阿波系青磁	碗: I+Ib, 碗片
飯 簀 賣 土 器	壺
白 磁	碗: IV, II × V 皿: V, IX
瓦 類	平瓦 (二車格子)

S-10 ビット d ウラゴメ

白 磁	他類種: 小鉢 (未分類)
青 白 磁	合子

表 21 連歌屋 2次 出土遺物一覧表 2

S-10d	
土 師 器	小皿 a (イト)
黒色土器 B	椀
龍泉洞系青磁	椀: B-b
	他器種: 小瓶 I, 小瓶
同安楽系青磁	皿: I-1b, 破片
土 師 質 土 器	赤七輪?
瓦 質 土 器	破片
白 磁	椀: V, 破片
	皿: IX
	その他: 小瓶, 皿×椀 IX
肥前系陶磁器	染付: 丸瓶, 皿 (『大明成化年報』)
国産陶器	緑釉香炉?
国産磁器	椀
瓦 質 土 器	破片 (古代)

S-10e	
土 師 器	杯
国産陶器	鉄胎摺り鉢
肥前系陶磁器	染付: 椀?
瓦 質 土 器	平瓦 (近世)

S-10f	
土 師 器	丸杯
肥前系陶磁器	赤胎小皿

S-10g	
土 師 質 土 器	赤七輪, 七輪サン, 裏
瓦 質 土 器	鉢
国産陶器	竜胎香炉?, 灰胎行平, 緑釉香炉, 白磁土瓶
肥前系陶磁器	染付: 丸瓶, 鉢
瓦 質 土 器	鉢×瓦 (近世), 丸瓦 (無文・近世)

S-10h	
土 師 器	杯 a (イト)
瓦 質 土 器	鉢 (S-10g に同一個体あり)
国産陶器	透明釉椀
瓦 質 土 器	平瓦 (無文・近世), 湯丸瓦? (近世)

S-10j	
土 師 器	杯
瓦 質 土 器	火鉢 A
肥前系陶磁器	椀
国産陶器	皿×鉢

S-10k	
土 師 器	杯 a (イト)
瓦 質 土 器	椀

S-11	
土 師 器	杯 a (ヘラ), 杯 a (イト), 小皿 a (イト)
土 師 質 土 器	知り鉢 IV
龍泉洞系青磁	椀: 破片
白 磁	椀: V~VII, VI~VIII
輸入陶磁器	木分瓶: 朝鮮無釉陶磁器破片
肥前系陶磁器	染付: 鉢, 湯瓶
国産陶器	鉄胎摺り鉢, 花輪鉢, 黒釉土瓶
石 器 品	丸石
瓦 質 土 器	丸瓦 (唐子・西付), 平瓦 (無文・古代)

S-12	
土 師 器	杯 a (イト), 小皿 a (イト)

S-13	
土 師 器	小皿 a (イト)
土 製 品	焼土塊

S-14	
土 師 器	杯 a (イト), 小皿 a (イト)
龍泉洞系青磁	皿: 破片
土 師 質 土 器	鉢, 七輪サン
国産陶器	椀
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	磁椀: 鉢皿 椀: V
中国陶器	香×瓦甕
肥前系陶磁器	染付丸瓶, 赤胎小鉢
国産陶器	鉄胎: 打火丸, 土瓶
	黒釉火甕, 鉄胎摺り鉢
	湯毛子甕×鉢
国産磁器	鉢 (木輪付?), 小鉢 (プリント), 紅皿, 小皿
土 製 品	土人形 (肥比尋×大黒大甕)
瓦 質 土 器	軒丸瓦 (巴・近世)

S-15 加焼土	
土 師 器	杯 a (イト), 小皿 a (イト), 椀 c, 文皿 c?
	大皿 (イト)
黒色土器 B	椀
瓦 質 土 器	椀
龍泉洞系青磁	椀: I, D-b
	皿: 破片
同安楽系青磁	椀: III×IV
	皿: 破片
須恵質土器	土甕, 鉢 (鹿屋系)
白 磁	椀: IV, V, VI~VIII, V~VIII
	皿: III-2, V×VI
青 白 磁	合子
中国陶器	宋: 黒釉盆, 花輪古甕
輸入陶磁器	木分瓶: 朝鮮無釉陶磁器破片
国産陶器	炭 (唐清)
土 製 品	瓦玉
土 製 品	石鏡
瓦 質 土 器	平瓦 (二重唐子), 平瓦 (文字「安」)
	平瓦 (無文), 丸瓦 (唐子), 丸瓦 (調剤・赤1段)
	丸瓦 (無文), 丸瓦 (文字「東照寺」)
	平瓦 (文字「六重二層」), 平瓦 (文字「?」?)
	軒丸瓦 (巴・中世), 軒平瓦 (調剤2)
	軒丸瓦 (無文), 唐平瓦

表 22 連歌屋 2 次 出土遺物一覧表 3

S-15 ウラゴメ	
土師器	埴a (イト)、小埴a (イト)
黒色土器A	椀
瓦	椀
阿波瀨系青磁	椀: 1
龍泉瀨系青磁	椀: 12, 13a, 1-6b, 1-6, 1 皿: 12b
阿波瀨系青磁	椀: 11b, 1-1a, 破片
輸入陶磁器	未分類: 朝鮮系無釉陶磁器×壺
土師瓦土器	皿c×鉢c, 蓋?, 即付鉢
加志瓦土器	壺, 鉢 (東瀨系)
白磁	椀: 1, III-1, IV, V-1×VIII-2, V-4b×c×VI-b, V VI×VII, VII-b, V-4×VIII-1×3, VIII, 破片 皿: B-1a, IV-1a, VI-2a, VII-2b, VII-1b?, VII-1 破片 磁種: 破片
中国陶器	壺: V, 耳壺 鉢: 破片 蓋: 破片 他器種: 壺×壺
漆器製器	壺 (袋跡×袋跡)
土製品	瓦瓦, 石環
石製品	石環, 磁石 (黒色磁石)
瓦	平瓦 (格子・古代), 平瓦 (二重格子) 平瓦 (欄目印), 丸瓦 (欄目印) 軒平瓦 (欄目瓦草)
S-15 埴土	
磁器	壺
土師器	埴a (イト), 埴 (壺跡?), 小埴a (イト), 皿c 丸壺, 丸埴
瓦	椀
阿波瀨系青磁	椀: 1
龍泉瀨系青磁	椀: 1-1a, 1-1b, 1-2, 1, II-b, II, III, 破片 他器種: 壺×水注
阿波瀨系青磁	椀: 1-1a, 1-1b, I, III, 破片 皿: 1-1, 1-1b, 1-2b, III-c, 破片
須恵瓦土器	壺, 鉢 (東瀨), 鉢?
白磁	椀: II-1a×III, IV-2, IV, V-4, V 皿: V-2×VIIa×VIII-4, V-4×VIII-1×3, V-1×VIII-2 V-1×VIII-2, V-1×VIII-2, V-2×VIII-4, V×VII VI×VII, 破片 皿: B-1a, III-1, VI-1, V×VI 磁種: 壺 (田系)
竹白磁	舍利
中国陶器	壺: II, IV-b×VII, 耳壺 XII×皿 I×IV×V, 破片 鉢: IV, 破片 蓋: 丸蓋, 破片 他器種: 高脚壺, 水注 V×VI, 水注×壺
輸入陶磁器	未分類: 朝鮮系無釉陶磁器×壺, 朝鮮系無釉陶磁器×壺
阿波瀨系青磁	壺 (壺跡×壺跡)
土製品	瓦瓦
石製品	石環, 赤石製加工品, 磨石 (磨)
瓦	平瓦 (格子), 平瓦 (無文), 平瓦 (文字?) 平瓦 (欄目印), 丸瓦 (無文), 丸瓦 (格子) 丸瓦 (文字「安楽寺」)

S-16	
土師器	埴a (イト), 小埴a (イト), 小埴b?

S-17	
土師器	埴a (イト), 小埴a (イト)

S-18	
土師器	埴a (イト), 椀c, 小埴a (イト)
白磁	磁種: 破片
中国陶器	椀

S-19	
土師器	埴a (イト), 小埴a (イト)
龍泉瀨系青磁	椀: II-b, 上田 D-II, 破片
土師瓦土器	鉢
瓦	瓦土器 椀? (S-15 ウラゴメに同一個体あり)
白磁	椀: V-2×VI-1×VII×VIII-4, VI×VIII
金銀製品	ストラップ
瓦	平瓦 (格子・古代), 平瓦 (無文・古代)

S-19 下層	
土師器	小埴a (イト), 埴a (イト)
土師瓦土器	壺
中国陶器	壺: 高脚壺, 壺×耳壺

S-20 埴土	
磁器	壺
土師器	埴a (イト), 埴b, 小埴a (イト), 小埴b, 小埴c 丸埴
阿波瀨系青磁	椀: 1, II-a, II-b, II, IV×V×エ, 上田 D-II, 破片 他器種: 洋皿 I, 水注×壺蓋
阿波瀨系青磁	椀: 1-1b, 破片 皿: 12b, 1
土師瓦土器	風, 刀鉢 A-IV, 罎 D-I, 鉢, 火鉢 C-c, 火鉢 A
須恵瓦土器	壺 (東瀨系)
瓦	瓦土器 火鉢 B-出
白磁	椀: II, IV, IV×VIII, II×V, V, V-4×VIII-1 V×VIII-b×c×VII, V×VII, V-2×VIII-4 V-1×VIII-2, VIII, 破片 皿: V×VI, VI, VI×VII, IX-2, IX, X-1~3×6×7 蓋皿 5個, 破片 (未分類) 磁種: 小埴, 水注, 壺×皿
竹白磁	舍利
中国陶器	壺: 耳壺 V-2, 耳壺×蓋 鉢: 破片 蓋: 高脚壺
輸入陶磁器	未分類: 朝鮮系無釉陶磁器×壺, 朝鮮系無釉陶磁器
阿波瀨系青磁	壺 (壺跡×壺跡)
土製品	陶形土製品
瓦	平瓦 (無文), 平瓦 (格子), 丸瓦 (無文・古代)

表 23 連歌屋 2次 出土遺物一覧表 4

S-20 黒陶土

須 恵 器	鉢
土 師 器	小皿 a (イト)、环 a (イト)、皿 c
龍泉窯系青磁	樽: II-b 色部種: 环、坏印
河安窯系青磁	樽: I-1b, 破片 皿: 破片
土師 瓦 土 師	七輪サン、鉢、甕?、赤七輪?
瓦 質 土 師	瓶? 類
白 磁	樽: IV、E × IV ~ V、破片 皿: II-2 器物: 壺 (田系)
中国 陶 器	香: 扁輪盤 鉢: I、破片
肥前系陶磁器	陶付: 広瀬碗、丸輪、蓋、鉢、徳利、反輪碗、方皿 赤絵碗、色絵碗、紅皿、蓋茶碗の蓋
国産磁器	磁輪小杯、樽
国産陶器	甕輪: 壺×甕、小杯、徳利、土瓶、壺 茶輪: 土瓶、甕 異輪: 花形杯、鉢 袴 (京儀碗)、白輪杯、赤輪餅形鉢、紅皿、皿 甕×鉢
土 製 品	土人形
瓦 類	軒平瓦 (近世-)、軒丸瓦

S-21

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)
国産陶器	甕輪: 甕?

S-22

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)
龍泉窯系青磁	樽: II-b
須恵 瓦 土 師	鉢 (京儀系)、甕
白 磁	樽: V-2 × VII-4 器物: 壺×水注
瓦 類	丸瓦 (橋子・古代)、平瓦 (無文・古代)

S-23

須 恵 器	鉢
土 師 器	环 b、輪 c
黒色土器土	樽
龍泉窯系青磁	皿: 破片 色部種: 甕
白 磁	皿: 破片
緑釉陶器	甕 (筒鉢?)
国産陶器	異輪: 破片
国産磁器	甕
石 製 品	丸石
瓦 類	平瓦 (無文)

S-24

土 師 器	环 a (イト)、环 a (イト)、环 b?
龍泉窯系青磁	樽: II-b

S-25

土 師 器	环 a (イト)、环 b、小皿 a (イト)、小皿 b
瓦 類	樽
龍泉窯系青磁	樽: I、II-b
河安窯系青磁	樽: I-2b、破片
土師 瓦 土 師	皿: 河安窯系青磁×白磁片 鉢 (唐製) 大鉢 A-III、鉢 D-I
瓦 質 土 師	甕×鉢
白 磁	樽: 破片 皿: 破片?
青 白 磁	樽?、破片
中国 陶 器	香: 扁輪盤、壺×耳壺 色部種: 甕 I-2b

S-26

土 師 器	环 a (イト)、丸环、輪 c
中国 陶 器	鉢: I、破片

S-27

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)
龍泉窯系青磁	樽: 土田 D-II 色部種: 坏印?
瓦 類	平瓦 (橋子・古代)
須 恵 陶 器	穴目鉢 (龍伊美濃の可能性あり)

S-28

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)、小皿 c
河安窯系青磁	樽: I × III、破片
白 磁	樽: 破片 皿: 破片

S-29

土 師 器	环 a (イト)
白 磁	皿: V-2、V

S-30

須 恵 器	甕、甕の口?、甕 b、甕 (筒瓦)
土 師 器	环 a (へう)、小皿 a (へう)、輪 c、甕 b、甕、器台
黒色土器土	樽
須恵 瓦 土 師	甕
白 磁	樽: VII-1-3 皿: III
土 製 品	埴土塊
石 製 品	加工磨石片
瓦 類	平瓦 (編目・古代)、平瓦 (橋子・古代) 平瓦 (二重橋子)、平瓦 (無文)

S-31

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)
-------	--------------------

S-32

土 師 器	小皿 a (イト)
土師 瓦 土 師	鉢

S-33

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)、輪 c
白 磁	甕輪: 壺×水注、破片
瓦 類	丸瓦? (橋子・古代)

S-34

土 師 器	环 a (イト)
土師 瓦 土 師	鉢?

表 24 連歌屋 2次 出土遺物一覧表 5

S-35	
土 師 器	环 a (イト), 横 c
土 師 瓦 土 器	七輪サソ, 七輪
瓦 質 土 器	火鉢?
白 磁	磨物; 水注×器 (口系), 水注×耳取, 破片
国 産 陶 器	短輪; 甕, 甕 灰輪鉢×蓋, 白粉塗, 赤粉鉢
肥前系陶磁器	染付; 広東模, 徳利, 丸瓦, 把手
瓦	類 平瓦 (無文・古代)

S-35 ウラゴモ	
染 患 陶 器	
土 師 器	小皿 a (ヘラ), 环 a (ヘラ), 横 c, 横 c (磨物)
	器 b
白 磁	類: V
瓦	類 平瓦 (無文)

S-36	
土 師 器	环 a (イト), 小皿 a (イト)
豊後系青磁	類: I
輸入陶磁器	朱分漆; 朝鮮製輪陶器類, 朝鮮系短輪陶器破片
瓦	類 平瓦 (無文・古代)

S-37	
土 師 器	环 a (イト), 小皿 a (イト)
瓦	類 平瓦 (無文)

S-38	
土 師 器	环 a (イト), 丸鉢
豊後系青磁	類: I-2, IIIb, II 皿; 破片
阿波系青磁	皿: I-1b
土 師 瓦 土 器	大甕
瓦 質 土 器	鉢
白 磁	類: II, 破片
国 産 陶 器	短輪皿, 磨毛手輪
肥前系陶磁器	染付; 丸鉢, 鉢
瓦	類 平瓦 (無文・近世), 丸瓦 (無文・近世)

S-39	
土 師 器	小皿 a (イト), 环 a (イト)
黒色土器土器	類
土 師 瓦 土 器	類
白 磁	類; 破片
肥前系陶磁器	類
国 産 陶 器	類
瓦	類 平瓦 (無文・古代)

S-41	
土 師 器	环 a (イト)
土 師 瓦 土 器	類
豊後系青磁	類?
白 磁	類; 破片

S-42	
土 師 器	小皿 a (イト), 环 a (イト)
瓦	類
豊後系青磁	類: I-2, I
阿波系青磁	類: I-1b, 破片
白 磁	類; VIII, 破片 皿: V~VII
中国陶器	類; 短輪甕
瓦	類 平瓦 (古代・古代), 平瓦 (無文)

S-43	
土 師 器	环 a (イト)
中国陶器	類; 短輪甕
	鉢; 破片
国 産 陶 器	類 (磨物×磨物)

S-44	
土 師 器	环 a (イト), 小皿 a (イト), 小皿 b
瓦	類 平瓦 (磨子)

S-46	
土 師 器	环 a (イト), 小皿 a (イト), 横 c

S-47	
土 師 器	环 a, 小皿 a (イト), 小皿 b
国 産 陶 器	天目焼

S-48	
土 師 器	环 a (イト), 小皿 a (イト)
国 産 瓦 土 器	破片

S-49	
土 師 器	环 a (イト), 横 c, 小皿 a (イト)
土 師 瓦 土 器	類?
瓦 質 土 器	破片
白 磁	類; 破片 皿; 破片
国 産 陶 器	小皿
瓦	類 丸瓦 (無文)

S-51	
須 恵 田 焼	
土 師 器	环 a (イト), 横 c
瓦	類 破
中国陶器	他類類; 蓋 I-2b

S-52	
土 師 器	环 a (イト), 环 a (ヘラ), 小皿 a (イト)
土 師 瓦 土 器	火鉢 (磨)
瓦 質 土 器	火鉢 E-皿
国 産 陶 器	類 (磨物×磨物)
瓦	類 平瓦 (磨物), 丸瓦 (無文), 平瓦 (無文・中世?)

S-53	
土 師 器	小皿 a (イト)
土 師 瓦 土 器	鉢×甕
白 磁	磨物; 合子
竹 白 磁	合子

S-54	
土 師 器	环 a (イト), 小皿 a (イト)
中国陶器	類; 短輪甕
	鉢; 破片
瓦	類 丸瓦

S-56	
瓦	類 丸瓦

S-57	
土 師 器	环 a (イト), 小皿 a (イト)

S-58	
土 師 器	环, 小皿 a (イト)
須 恵 田 土 師	破片

表 25 連歌屋 2次 出土遺物一覧表 6

S-59

土 師 器	环a (イト), 小皿a (イト)
白 磁 器	罐: 皿3×4
	皿: 磁片

S-61

土 師 器	小皿a (イト), 环a (イト)
瓦 器	椀

S-62

土 師 器	环a (イト), 小皿a (イト), 小皿b?
瓦 質 土 器	鉢?
中 国 陶 器	卷物種: 黄輪盤
瓦 器	平瓦 (無文), 丸瓦 (格子・古代)

S-63

土 師 器	小皿a (イト), 皿c?
阿波県系青磁	椀: 1-1b, 磁片
瓦 器	磁片

S-64

土 師 器	小皿a (イト)
白 磁 器	罐: 皿, V皿
瓦 器	磁片

S-66

土 師 器	小皿a (イト)
瓦 器	椀
龍泉窯系青磁	巻物種: 井田
青 白 磁 器	合子
中 国 陶 器	巻物種: 黄輪盤
瓦 器	平瓦 (格子・古代), 平瓦 (無文)

S-67

土 師 器	环a
-------	----

S-68

土 師 器	环a (イト)
龍泉窯系青磁	椀: 1-2, 1

S-69

土 師 器	椀c, 小皿a (イト)
土 師 質 土 器	鉢 (類), 椀
白 磁 器	椀: 磁片

S-71

黒 岩 器	椀
土 師 器	环a (ヘラ), 小皿a (イト), 小皿a (ヘラ)
黒色土器B	椀
土 製 品	瓦瓦
瓦 器	丸瓦 (格子)

S-72

土 師 器	环a (イト), 小皿a (イト), 椀c
黒色土器A	椀?
龍泉窯系青磁	椀: 磁片
阿波県系青磁	椀: 1-1b, 磁片
土 師 質 土 器	光鉢A
瓦 質 土 器	磁片鉢A?
白 磁 器	椀: VI~VIII, VIII 皿: III-1, III 巻物: 磁片
瓦 器	平瓦 (格子)

S-73

土 師 器	环a (イト), 小皿a (イト)
土 製 品	磁土塊

S-74

土 師 器	环a (イト), 椀c
瓦 器	鉢
白 磁 器	椀: VI×VIII-2, 磁片
	巻物: 环瓦
瓦 器	平瓦 (二重格子)

S-76

土 師 器	环a (イト)
龍泉窯系青磁	椀: 磁片
白 磁 器	巻物: 磁片
金 属 製 品	鉄押
瓦 器	丸瓦 (格子)

S-77

土 師 器	小皿a (イト)
土 師 質 土 器	椀? 鉢
白 磁 器	椀: 皿
中 国 陶 器	巻物種: 环 (満分盤)

S-78

土 師 器	环a (イト), 环a (ヘラ)
瓦 器	椀
土 師 質 土 器	鉢×椀
瓦 器	平瓦 (無文)

S-79

土 師 器	环a (イト), 小皿a (イト)
瓦 質 土 器	椀
輸入陶磁器	水分配: 朝鮮無釉陶器器×椀

S-81

土 師 器	环a (イト), 小皿a (イト)
-------	-------------------

S-82

土 師 器	环a (イト)
-------	---------

S-83

土 師 器	小皿a (イト)
中 国 陶 器	巻: 磁輪盤?

S-84

土 師 器	皿c
瓦 器	磁片

S-86

土 師 器	环a (イト), 小皿a (イト), 椀c
須恵質土器	巻
瓦 器	丸瓦 (無文)

S-87

土 師 器	环a (イト), 小皿a (イト)
白 磁 器	巻物: 器?, 器×水鉢
瓦 器	平瓦 (格子・古代)

S-88

土 師 器	小皿a (イト)
黒色土器B	椀?
瓦 器	平瓦 (格子)

表 26 連歌屋 2次 出土遺物一覧表 7

S-89	土 師 器	环a (へう)、小皿a (へう)、小皿a (イト)
------	-------	---------------------------

S-91	原 惠 器 類	
土 師 器	丸环、环a × 小皿a (イト)	
土 師 質 土 器	鉢	

S-92	土 師 器	小皿a (イト)
土 師 質 土 器	鉢	
白 磁	輪：磁片 皿：V～VII、IX-1 壺：V、VII、IX-1 壺：V、VII、IX-1	
青 白 磁	輪	
瓦 類	丸瓦 (磁子)	

S-93	須 恵 器 類	磁子
土 師 器	环a (イト)、丸环	
越前京系青磁	皿：I、皿	
石 製 品	eb-7	

S-94	土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
黒色土器B	輪?	
阿波京系青磁	皿：I、磁片	
瓦 類	丸瓦	

S-95	土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
阿波京系青磁	輪：磁片	

S-97	土 師 器	环a (イト)、环a (へう)、小皿a (イト)
阿波京系青磁	輪：磁片	
阿波京系青磁	輪：磁片	

S-98	土 師 器	环a (へう)、小皿a (へう)
白 磁	輪：IV	

S-99	土 師 器	丸环
土 製 品	炭十塊	

S-101	土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
瓦 類	丸瓦 (和文・中世)、平瓦 (二瀬梅子・古代)	

S-102	土 師 器	环c (御器)
瓦 類	輪	

S-103	土 師 器	环a
中 世 陶 器	壺；泥輪壺	

S-104	土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
中 世 陶 器	壺；泥輪壺、壺×耳壺	

S-106	土 師 器	环a (イト)
土 師 質 土 器	鉢IV、鉢、鉢	
瓦 製 土 器	火鉢	
白 磁	輪：VI、X	
瓦 類	平瓦 (和文・中世～)	

S-107	土 師 器	小皿a (イト)
-------	-------	----------

S-108	土 師 器	环a (イト)
-------	-------	---------

S-109	土 師 器	环a (へう)、小皿a (イト)
-------	-------	------------------

S-111	土 師 器	磁片
土 師 質 土 器	七輪?	
阿波京系青磁	磁片；壺	
肥前系陶磁器	磁片；磁片?	
瓦 類	平瓦 (和文・近世)、丸瓦 (和文・近世)	

S-112	土 師 器	丸环
-------	-------	----

S-113	土 師 器	环a (へう)、环a
白 磁	輪：V-2 × VIII-4	

S-114	土 師 器	环a (へう)、小皿a (イト)、輪c
瓦 製 土 器	火鉢B、b	
輸入陶磁器	未分類；李朝辰動大皿?	
阿波陶器	鉢×大皿 (出岸)	

灰色土	須 恵 器 類	壺
土 師 器	环a (イト)、环b、小皿a (イト)、小皿b (イト)	
	皿 (御林文入り)、灯明籠 (近世)、輪c	
黒色土器B	小皿	
阿波京系青磁	皿：II-a、上田C-II、III、磁片	
阿波京系青磁	皿：I、磁片	
土 師 質 土 器	七輪サン	
瓦 製 土 器	鉢、火鉢 (近世)、煎り鉢×C磁鉢、火鉢A	
白 磁	輪：II、IV、V、V × VI-1・2B × VII、II～VIII V-4 × VIII-1、磁片	
中 世 陶 器	他無類；壺×水注	
肥前系陶磁器	染付；色紙瓶、壺、丸鉢、龍反輪、あわび貝型音筒 硝石鉢、吹染鉢、磁筒、瓶	
	心形鉢	
阿波陶器	陶輪；丹徳阿?、壺、行平、壺 白磁；磁反輪、輪 越前産の鉢、磁鉢皿×輪 山本徳利、皿 (唐産)	
須 恵 器 類	环 (破状)脚、磁器、壺皿、壺×鉢	
土 製 品	形地、瓦瓦 (S)、焼土塊、小人形 (雷比布)	
瓦 類	製石灰瓦土 平瓦 (磁子・古代)、丸瓦 (和文・近世) 丸瓦 (新子・古代)、軒丸瓦 (巴・近世) 軒丸瓦 (近世)	

表 27 連歌屋 2 次 出土遺物一覽表 8

暗茶土	
土 師 器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)、碗 c
黒色土器 B	碗
瓦 器	碗
瀬田系青磁	碗: I-4b、I-4、I、II-b、碗片
	皿: 碗片
	他器種: 坏用-I、小碗、碗片
同安楽系青磁	碗: I-1c、I-1b、碗片
	皿: I、碗片
土師質土器	鍋、盛り鉢、七輪?
須恵質土器	鉢 (煎茶鉢)、盃
瓦 質 土 器	瓦、火鉢 B
白 磁	碗: II、IV、V、IVc、V~VII、V.4×VIIb-1 VII.2、V-1×VII.2、V.2×VI-1×VII.4 V×VII.1b×VII、VIII、IV~IX、森田 C、碗片 皿: III、V×VI-1、VI×VII、IX、X 蓋皿: 小碗 (未分類)、水注×蓋 (田原) 水注×碗、碗片
青 白 磁	合子
染付 (輸入)	明楽焼 (小野口)
中 国 陶 器	蓋: 黒磁器、暗褐色?、暗緑色、蓋×耳蓋 色磁器: 櫻絵碗、盤 II
輸入陶磁器	未分類: 朝鮮系動物陶磁器片
肥後系陶磁器	碗
国産陶器	煎鉢、盃 (福井×滑石)
土 器 品	加工土器片 (肥後系系青磁碗)、伊壁
瓦 質 土 器	平瓦 (格子)、平瓦 (欄干 II)、平瓦 (無文)
	平瓦 (文字「安楽寺」)、平瓦 (二道格子・占代)
	丸瓦 (格子)、丸瓦 (近世?)
石 製 品	磨行盤不明加工品、丸石 (黒)、碇石 (緑色刺青) 丸石 (緑磁器)

緑灰色土	
須 恵 器	盃
黒色土器 B	碗
越州系青磁	碗: I-2、I
瀬田系青磁	碗: I-1a、II-a、II-b、III
同安楽系青磁	碗: I-2b、碗片
土師質土器	鍋、七輪?、盛り鉢
須恵質土器	鉢 (茶碗系)
瓦 質 土 器	火鉢、鉢、盃、盛り鉢
白 磁	碗: II、IV、V~VII 皿: IX 茶盅: 白磁? 水注?、碗片
中 国 陶 器	鉢: I-2a、I 他器種: 羯勒密×耳出、壺×耳蓋
肥前系陶磁器	染付 I 皿 (内面輪刺青)、皿、丸碗、碗反柄
国産陶器	碗片: 片白鉢、碗、盃、鉢 磁胎: 黒不鉢、香炉 煎鉢緑彩碗?、煎鉢彩碗?
須 恵 器	煎鉢
金 銀 器 品	加時 (2)
石 製 品	石罨 B、丸石 (白)
瓦 器	平瓦 (無文・近世)、丸瓦 (無文・古代)

黄色土器胎	
土 師 器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)、小皿 c
同安楽系青磁	碗: I-1b、碗片
土師質土器	七輪サン
瓦 質 土 器	風炉
白 磁	碗: IV×V、V.4×VII.1、V~VII、碗片
国産陶器	鉄胎: 輪木鉢、皿 白輪刺青鉢、白輪刺青 煎鉢×鉢、反刺碗?、天目煎鉢
肥前系陶磁器	染付: 丸碗、鉢、煎茶碗
瓦 器	平瓦、平瓦 (無文・近世~)

暗青灰土	
須 恵 器	盃
土 師 器	坏 a (イト)、坏 a (ヘウ)、小皿 a (イト) 手づくお坪×鉢
同安楽系青磁	碗: 碗片
土師質土器	大鉢、ほうろく
須恵質土器	鉢 (茶碗系)
瓦 質 土 器	鉢、火鉢?
白 磁	皿: VII.2b
肥前系陶磁器	染付: 丸碗、小坪 赤絵丸碗
国産陶器	羯勒密: 行平、丸鉢、徳利、皿、土罨、緑木鉢 煎鉢: 二割皿 (御道寺)、仙道 白磁土罨、刺毛手緑絵大皿、煎鉢碗
瓦 製 品	碇石 (黒)
瓦 器	サン瓦、丸瓦 (近世)

黒灰粘質	
須 恵 器	盃
土 師 器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)、丸鉢、皿 c、碗 c?
黒色土器 B	碗
瓦 器	碗
越州系青磁	碗: I、III
瀬田系青磁	碗: I-4b、I-4、I
土師質土器	鉢?
須恵質土器	鉢、盃、鉢 (東播磨系)
瓦 質 土 器	盛り鉢、盃
白 磁	碗: IV、碗片 皿: III、V×VII 他器種: 碗片
中 国 陶 器	皿: 壺×耳出、西耳壺 V 他器種: 壺×水注
縄 文 土 器	煎鉢鉢?
金 銀 器 品	鉄釘
石 製 品	煎鉢小壺
瓦 器	平瓦 (格子)

表 28 連歌屋 2 次 出土遺物一覧表 9

褐色土	
須 恵 部	甕, 須 3
土 師 部	坪 a (イト), 坪 a (ヘウ), 小皿 a (ヘウ) 小皿 a (イト), 甕, 皿 c
黒色土師 A	甕
越前系青磁	甕: 1
越前系青磁	甕: 1-4, 1-2 × 4, 1, 破片
阿波系青磁	甕: 1-1c, III-1b × c, 破片
土師系土器	甕
須恵系土器	甕, 坏 × 皿, 鉢 (浅)
瓦 質 土 器	甕
白	甕: IV, V, V-3, V-4 × VIII-1, V-1 × VIII-2, 破片 皿: 破片
中 国 陶 器	壺: IV, 壺 × 耳壺, 磁鉢 磁器種: 青磁類
肥前系陶磁器	坏
伊 豫 系 陶 器	甕 (甕脚 × 燈座)
土 製 品	加工瓦片
瓦	平瓦 (轆子), 平瓦 (平行), 平瓦 (鎌目 ID) 平瓦 (無文), 平瓦 (文字「安楽寺」) 丸瓦 (轆子), 丸瓦 (文字「安楽寺」)

表 29

褐色土	
須 恵 部	甕, 小皿 1
土 師 部	坏 a (ヘウ), 坪 a (イト), 坪 a (イト・近押) 坪 b (イト), 小皿 a (イト), 小皿 b, 桶 c 皿 (イト・口縁細曲), 高台付鉢
黒色土師 B	甕
瓦 質 土 器	甕
龍泉系青磁	甕: 1, 1-2, 1-4, II-b, II, 上皿 D-II, 小皿 D-b, 破片 皿: 1-2b, II-a, 破片 磁器種: 青
阿波系青磁	甕: 1-1b, 1-1a, III-1b × c, 破片 皿: 1-1b, 1-2b, 1-c, 上, 破片
土師系土器	鉢, 鉢?, 甕?, 赤七輪, 七輪サン 御付鉢? (磁器?)
須恵系土器	甕, 甕 (壺山?), 鉢 (唐摺瓦), 壺
瓦 質 土 器	火鉢 A, 燈力鉢 B, 御付火鉢 (近押), 火鉢 (近押) 蓋 (近押), 火鉢し蓋 (近押~), 大甕
白	甕: II, IV-a, IV, V, IV × V, VIII-1, VIII-2 V-4 × VIII-1, VIII, II × VIII, 破片 皿: III-2, VI-2b, IX 磁器: 壺 × 木庄
中 国 陶 器	壺: IV-b, 耳壺, 壺 × 耳壺, 磁鉢 磁器種: 青磁類
黒 胎 陶 器	大甕類
輸入陶磁器	不分明: 朝鮮系白磁陶器片
肥前系陶磁器	茶臼: 丸鉢, 磁茶鉢, 皿, 磁鉢, 皿 (くわわんか乎) 色絵丸鉢, 水皿, 大甕 (大明鉦あり), 大皿 皿 (朱書「源化」), 広葉鉢 磁皿
伊 豫 系 陶 器	甕類: 甕, 甕 × 鉢, 灯明籠, 鉢, 皿, 鉢, 燈籠 灯火只, 小皿 (型), 灯籠, 鉢 × 鉢, 蓋 把手付壺, 甕, 鉢 (唐津系) 磁鉢: 磁, 鉢, 鉢?, 皿 (近押系?), 蓋 磁鉢すり鉢, 磁鉢茶入?, 白磁土瓶, 陶輪行平, 岩 山水土瓶, 土瓶蓋 (イッタン), 御毛手蓋? 天行柄? (瀬戸美濃), 白磁鉄絵鉢, 磁鉢磁鉢鉢 甕 (甕脚 × 燈座)
伊 豫 系 陶 器	磁皿, 磁皿, 大甕類, 磁鉢
土 製 品	加工土器片 (須恵系類), 瓦玉, 瓦焼片 (ハヤ)
石 製 品	須石破片, 石鏡
瓦	平瓦 (轆子), 平瓦 (無文), 丸瓦 (轆子) 丸瓦 (近押), 軒平瓦 (阿波系青磁類) 軒丸瓦 (巴・近押~)

表 29 連歌屋 2 次 遺物計測表

遺物番号	品番号	種類	形制	口径	高さ	底径	径別開閉	内径? (ナ)	取付取離	備考
B-30	001	土師部	小皿	10.5	1.4	7.7	ヘウ	○	○	白
	003	土師部	小皿	10.4	1.3	8.0	ヘウ	○	○	白
	003	土師部	小皿	10.4	1.4	8.0	ヘウ	○	○	白
	004	土師部	小皿	10.5	1.2	7.9	ヘウ	○	-	-
	005	土師部	小皿	10.6	1.4	7.8	ヘウ	○	-	白, 黒
		平均		10.5	1.3	7.9				

(3) 第3次調査

1. 調査の経緯

調査地は、太宰府市宰府3丁目1212-4、1216外に所在する。ここは太宰府天満宮の西門から西へ30m程の地点である。

平成5年8月23日に、当該地番の地権者（吉村宗正ほか1名）および開発者より埋蔵文化財取扱いについての事前問い合わせがあった。

調査地付近は太宰府天満宮社家地にあたり、周辺でもこれまで平安時代以降の埋蔵文化財が検出されていた。『筑前続風土記附録』の絵図によると、御倉所にあたる場所である。こうした場所であるため、対象地も古代・中世をおとした埋蔵文化財が包蔵されている可能性が高く、内容確認のために試掘を行うことで協議した。平成5年9月22日に試掘調査を実施したところ、遺構が確認された。この結果を基に再度地権者と協議を行ったところ、遺構面が建物建築で破壊される可能性があることから、平成5年度の国庫補助を受けて発掘調査を実施することとなった。開発対象面積は150㎡、調査面積は78.6㎡を測る。

調査は、平成5年12月7日から翌年1月20日まで行い、井上信正（囑託）・城戸康利が担当した。

調査の結果、平安・鎌倉時代の遺物を含む遺構が散見され、このほか近世～近代にかけての掘削痕跡および堆積層が確認されている。調査は、井上信正（囑託）・城戸康利が担当した。

2. 層位

本調査区の基本的な地盤は、砂堆積である。これは流水堆積によるもので、掘り下げた遺構壁面ではラミナが確認されている。御笠川等の河川により形成されたものであろうか。地盤層から遺物は検出されていない。

東壁1～17層および南壁の1～16層は、表土層の範疇のもので、近現代の整地層および掘り込みである。

表土を除去すると、黒茶土層が約30cmほど堆積している。東壁18～23層および南壁の17～22層がこの層に該当する。出土遺物から近世以降の整地および掘り込み痕跡と考えられる。なお南壁19・20層には、径1mm大の白砂を含む硬質の板状構造物が認められ、これを当時の宅地内の土間と考える。その下に中世以前の堆積層・遺構が存在している。南壁23～27層は3SX024に相当する遺構である。平安後期以降の遺物を含んでおり、調査区内では最古期の遺構と位置づけられる。また東壁24～26層、南壁28層についても同様に最古期の堆積層と位置づけられよう。

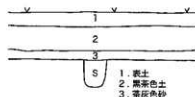


fig50 連歌屋遺跡第3次調査
土層模式図

3. 遺構

櫓列 (fig49)

3SA010

調査区のほぼ中央を東西に走行する。調査区内で小穴4つを確認しており、さらに東西にのびる可能性はある。柱間は西から1.93m、1.99m、1.58mを測り、振れはG.E.6° 13' 33" Sである。遺物はS-13・29・36およびS-11の一部として遺物取り上げを行っている。

溝

3SD054 (fig51.Pla25-1)

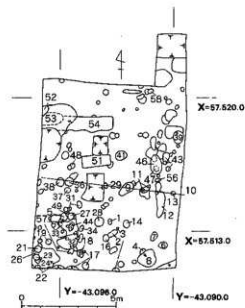


fig48 連歌屋遺跡第3次調査 遺構略図 (1/200)

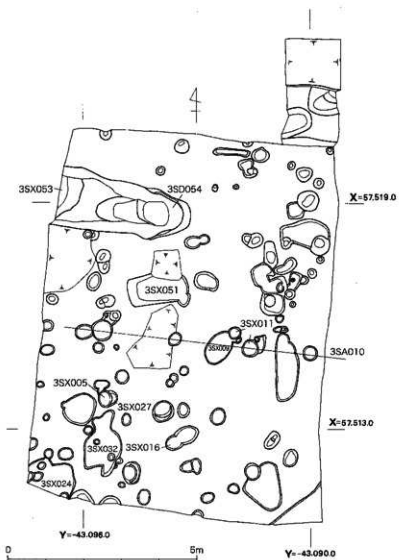
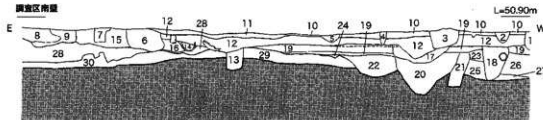


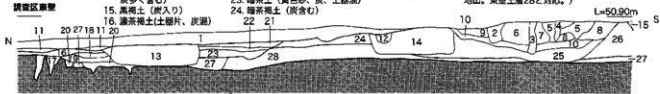
fig49 連歌屋遺跡第3次調査 遺構全体図 (1/100)

調査区南端



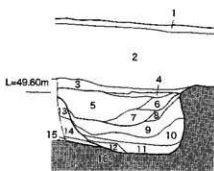
- | | | |
|---------------------------|--------------------------------|--|
| 1~9. 攪乱 | 17. 明茶色砂質土 (灰、土器遺) | 25. 暗茶褐色砂質土 (灰、土器含む) |
| 10. 黒茶土 | 18. 暗茶灰土 (灰、土器遺) | 26. 暗茶灰土 (灰、土器含む) |
| 11. 明褐色粘質土 | 19. 整地層か、互層になっている。 | 27. 淡黄砂 (わずかに灰混) |
| 12. 黄褐色粘質土 | 20. 黄白砂 (下部の掘り込み部分に5~10cmの層多い) | 28. 暗茶灰土 (数多い、東壁土層26と対応) |
| 13. 黒灰土 | 21. 茶灰土 (灰、土器遺) | 29. 淡灰黒砂質土 (シルトのようにきめ細かい、地山) |
| 14. やや細かい茶褐土 (土器あり、灰多く含む) | 22. やや明るい茶褐色土 (褐色ブロック、灰含む) | 30. 淡黄砂質土 (シルトのようにきめ細かい、地山、黄壁土層28と対応。) |
| 15. 黒褐土 (灰入り) | 23. 暗茶土 (黄砂、灰、土器遺) | |
| 16. 暗茶褐土 (土器片、灰混) | 24. 暗茶褐土 (灰含む) | |

調査区東端



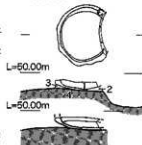
- | | | | |
|---------|--------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 黒茶土 | 9. やや細かい褐色粘質土 | 17. 淡灰黒砂質土 | 25. やや細かい赤灰土 (灰含む) …「黒茶色土」で遺物取り上げ |
| 2. 黒灰土 | 10. 黄褐色土 (灰混) | 18. 茶色土 (灰あり) …21につながる可能性あり。 | 26. 暗茶灰土 ……………… B |
| 3. 黒灰土 | 11. 淡黄砂 | 19. 黒灰土 (黄砂土含む) …22につながる可能性あり。 | 27. 暗茶灰砂質土 ……………… B |
| 4. 明茶褐土 | 12. 暗茶土 | 20. 淡灰黒土 (骨の痕跡あり) | 28. 淡黄砂質土 (地山) …「淡黄砂」で遺物取り上げ |
| 5. 茶褐土 | 13. 明茶褐土 (明褐色土ブロック含む、現代) | 21. 茶黒土 (灰含む、褐色土層ブロック含む) | |
| 6. 黄茶土 | 14. 淡茶褐土 (層多い、瓦片も多い) | 22. 黒青土 (褐色と互層になっている) | |
| 7. 暗黄茶土 | 15. 淡黄土 (明壁参照) | 23. やや細かい黄褐砂質土 (互層になっている、灰含む) | |
| 8. 明黄茶土 | 16. 明茶色土 (褐色土ブロック、灰含む) | 24. 茶灰土 (わずかに灰含む) …「黒茶色土」で遺物取り上げ | |

3SX053・3SD054



- 1 灰色粗砂 (現代地盤) …表土
- 2 現代地盤層 …表土
- 3 整地層 (黒青土・黄褐色土・茶褐土の互層、最下位に軽沈層) …S-53暗茶土
- 4 暗茶褐色土 …S-53暗茶土
- 5 暗黄褐色砂質土 (きめ細かい、黄褐色土ブロックあり) …S-53黄茶土
- 6 暗茶褐色砂質土 (きめ細かい) …S-53淡灰土
- 7 暗茶褐色砂質土 …S-53淡灰土
- 8 黄褐色粘質土 (きめ細かい) …S-54黄茶土
- 9 灰褐色粘質土 …S-54淡茶砂土
- 10 灰色砂質土 (茶色・黄色の粗かなブロック含む) …S-54淡茶砂土
- 11 暗茶褐色砂質土 (淡茶色のブロックあり、灰混) …S-54灰茶砂土
- 12 灰色砂質土 (10層と似ている) …S-54灰茶砂土
- 13 淡灰褐色粘質土 (灰、黄褐色土ブロック含む) …別遺構
- 14 暗茶褐色粘質土 (灰含む) …別遺構
- 15 黄褐色砂質土 (黄褐色土ブロック含む) …別遺構。部分なものか …地山
- 16 淡茶白色砂 (クマナになっている) …地山

3SX005



1. 明黄褐色粘土 (2~3mmの砂多い、硬化している)
2. 明褐色粘土 (2~3mmの砂多い、軟質)
3. 暗茶色土
4. 淡茶色砂地山

fig51 連歌屋遺跡第3次調査区土層図および遺構実測図 (1/60,1/40,1/20)

調査区北西隅で検出した溝状の遺構である。およそ東西に走行しており、幅 1.3 m、深さ 0.65 ~ 1.0 m を測る。埋土は大きく 3 層にとらえることができるが、地山土がブロック状に含まれるなど埋め戻しが行われたことが窺える。

たまり状遺構

3SX024(fig49)

調査区南西隅で検出した。1.5 × 0.8 m 程度の範囲で検出し、深さ 0.1 m 程度を測る。調査区南壁土層の 24・26 層に相当するものであり、当調査区では最古期の遺構といえる。

3SX032(fig49)

調査区南西で検出した。1.8 × 1.0 m 程度の範囲で検出し、深さ 0.1 ~ 0.15 m 程度を測る。

その他の遺構

3SX005(fig51.pla25-2・3)

調査区南西で地盤直上に明黄色粘土塊を検出した。粘土塊は直径約 32cm、高さ約 5cm 程度の円盤状に残存している。第 2 層を本体と見なすと底部のみ残存した容器状の構造物が想定されるが、第 1 層が硬化しており、本体は第 1 層あるいはその上部にあったことも想定される。用途不明。

3SX053(fig51)

調査区北西隅で検出した。3SD054 埋没土に切り込む遺構である。

(井上信正)

4. 遺物

(1) 櫛列出土遺物

3SA010 出土遺物 (fig52)

瓦質土器

摺鉢 (1) 口縁部のみ残存する残存高 5.6cm の破片である。体部外面は細かい刷毛目があり、体部内面には摺目を施す。胎土のキメは粗く、0.5 ~ 2mm の砂粒、雲母片を多く含み、焼成は良好である。S-13 出土。

火鉢 (2) 底部に近い体部を残存する破片である。残存高 5.15cm。体部外面に突帯が 2ヶ所確認でき、菱形のスタンプ模様が施されている。胎土のキメはやや粗く、0.5 ~ 1mm の砂粒、雲母片を多く含み、焼成は良好。色調は、内面は茶白色、外面は淡茶色で、内面の一部と外面は二次焼成により黒色、黒灰色に変色している。S-13 出土。

国産陶器

壺 (3) 体部から底部の一部が残存する破片である。残存高 4.9cm、底径 9.6cm。軸はごく薄く全面に施軸され、自然釉で暗褐色、黒色を呈す。胎土は精良で、黒灰色を呈す。S-13 出土。

土製品

焼土塊 (4) 残存長 4.55cm、残存幅 3.4cm、残存厚 2.6cm。胎土のキメは粗く、スサを含み、0.5 ~ 1mm の砂粒を含む。色調は暗茶褐色を呈す。輪羽口の可能性も考えられる。S-29 出土。

(2) 溝出土遺物

3SD054 出土遺物

黄茶色土出土遺物 (fig52)

肥前系陶器

椀 (5) 底部の破片である。残存高 2.3cm、底径 3.95cm。底部内面には目跡があり、高台内側に

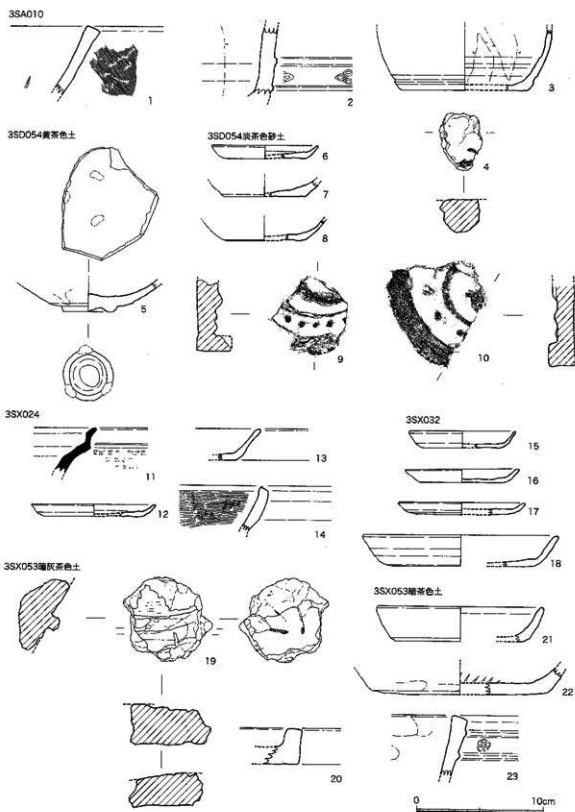


fig52 連歌屋遺跡第3次調査 各遺構出土遺物実測図 (1/3)

は乳頭状に粘土紐痕が残る。釉は薄くかかり、淡草緑色を呈す。外面は露胎で赤茶色を呈し、一部釉の残存箇所がある。

3SD054 淡茶色砂土出土遺物 (fig52)

土師器

小皿 a (6) 口径 8.4cm、器高 1.1cm、底径 6.6cm を測る。底部切り離しは糸切り、底部内面はナデを施す。胎土には微細な金雲母、白色細砂粒を少量含む。焼成は良好で、淡乳橙色を呈す。

坏 a (7・8) 底部の破片である。7 は残存高 1.3cm、底径 6.4cm。白色砂粒を少量含む。8 は残存高 1.65cm、底径 6.2cm。微細な金雲母を多く含み、細粒で 3mm 前後の白色砂粒を少量含む。7・8 共に底部切り離しは糸切り、焼成は良好で、淡乳橙色を呈す。

軒丸瓦 (9・10) 周縁から内区の一部にかけての破片である。9 は残存長 5.6cm、残存厚 2.65cm。淡白灰色を呈す。瓦当文様は、内区に珠文を施す。10 は残存長 6.45cm、幅 2.15cm。淡青灰色を呈す。瓦当文様は、外区に珠文、内区に蓮子が確認できる。9・10 共に焼成は良好。

(3) たまり状遺構出土遺物

3SX024 出土遺物 (fig52)

須恵器

壺×甕 (11) 口縁部の破片である。残存高 3.6cm。外面は叩き、内面は回転ナデを施す。灰黒色～黒色を呈す。

土師器

小皿 a (12) 口径 9.8cm、器高 1.0cm、底径 7.8cm。底部切り離しは糸切り。

坏 a (13) 器高 2.5cm を測る。底部切り離しはヘラ切り。

鍋 (14) 口縁部の破片である。残存高 3.4cm。内面は横方向のハケ目を施す。外面は煤が付着しており調整不明。胎土は 0.2～1mm 程度の砂粒および雲母を多く含む。焼成良好で、明茶色を呈す。

3SX032 出土遺物 (fig52)

土師器

小皿 a (15・16・17) 15 は口径 8.4cm、器高 1.35cm、底径 6.5cm。胎土のキメは細かく、0.2～2mm の砂粒をやや多く含み、雲母片を多量に含む。16 は口径 9.0cm、器高 1.05cm、底径 6.8cm。胎土のキメは細かく、0.2～2mm の砂粒を若干含み、雲母片を多量に含む。17 は口径 10.0cm、器高 1.0cm、底径 8.4cm。胎土のキメは細かく、0.2～0.5mm の砂粒を少量含み、微細な雲母片をやや多く含む。15～17 共に底部切り離しは糸切りで、底部内面には不定方向のナデがある。焼成は良好、明茶色を呈す。16 は底部外面に板状圧痕が観察できる。

坏 a (18) 口縁部から底部の一部の破片である。口径 15.4cm、器高 2.5cm、底径 11.7cm。底部切り離しはヘラ切りで、その後粗いナデを施す。キメがやや細かく 0.2～4.0mm の砂粒をやや多く含む。焼成は良好で、内外面共淡橙茶色を呈す。

(4) その他の遺構出土遺物

3SX053 暗灰茶色土出土遺物 (fig52)

土師質土器

不明製品 (20) 残存高 1.9cm を測り、内外面にナデを施す。胎土のキメは粗く、0.5～4mm の砂粒を多く含む。焼成は良好で、内面の色調は淡茶色で、外面は明茶色、淡褐色を呈す。

土製品

焼土塊(19) 残存長6.7cm、残存幅7.1cm、残存厚3.2cm。胎土のキメは粗く、スサを含み、0.5～5mmの砂粒を多く含む。突帯の一部と考えられる部分がある。破損部分以外はヨコナデが施され、全体的に淡紫赤色や暗茶色を呈す。

3SX053 暗茶色土出土遺物 (fig52)

土師器

坏a(21) 底部の一部までの破片である。口径13.2cm、器高2.75cm、底径11.0cm。底部切り離しは磨耗の為不明。キメが細かく、0.2～0.5mmの砂粒、雲母片を少量含み、焼成はやや不良。

土師質土器

摺鉢(22) 底部のみの破片である。残存高2.2cm、底径13.7cm。胎土に雲母片をやや多く含んでおり、焼成は良好。底部内面には柳目、底部外面には板状圧痕とナデが観察できる。

火鉢(23) 口縁部の破片である。残存高4.8cmで、胎土に雲母片を少量と角閃石を含む。内面淡褐色、

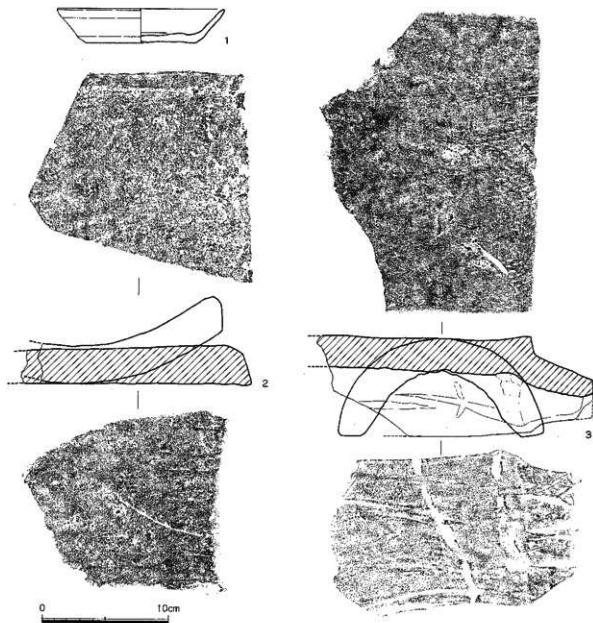


fig53 連歌屋遺跡第3次調査 南壁土層22 (S-17の一部) 出土遺物実測図 (1/3)

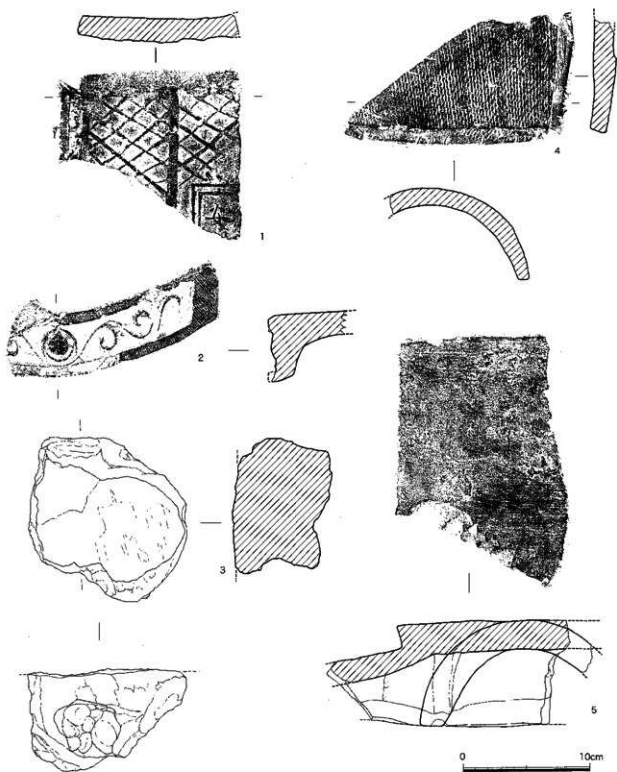


fig54 連歌屋遺跡第3次調査 東壁土層14 出土遺物実測図 (1/3)

外面は淡茶灰色を呈し、外面に梅のスタンプ模様と突帯が2ヶ所観察できる。

南壁土層22層(S-17の一部)出土遺物(fig53)

土師器

坏a(1) 口径13.2cm、器高2.7cm、底径8.9cm。底部切り離しは糸切りである。雲母片を少量含み、

内外面とも淡茶色を呈す。

瓦類(2・3) 2は磨耗が著しいが縄目叩きの平瓦である。下面も磨耗しているが、ナデまたは平滑な器面調整をしている。焼成はやや不良で、淡茶灰色～暗灰色を呈す。3は縄目叩きの丸瓦である。キメが細かく、5mmまでの砂粒を少量含む。焼成はやや不良で、淡灰色、明灰色を呈す。下面は布目の痕跡が明瞭である。

東壁土層 14層出土遺物 (fig54)

瓦類(1・2・4・5) 1は格子叩きの平瓦である。「安(楽寺)」銘の文字瓦である。九州歴史資料館分類のIV-2a。裏面上部に、瓦を葺く際の接着に使用したと思われる土塊が横断して貼り付いている。2は軒平瓦である。瓦当は中心に火炎状の文様を据えて両側には均整唐草文を隔断する。胎土のきめは粗く、0.5～7mmの砂粒、0.5mm位の黒粒を多く含み、雲母もわずかに含む。焼成は良好で、淡灰茶色を呈す。4は丸瓦で、縄目の痕跡が明瞭である。全体のつくりは薄手の印象を受ける。5は丸縁を有す丸瓦である。外面はわずかに縄目の痕跡が窺える。

土製品

焼土塊(3) 現存長12.9cm、現存幅12.5cm、現存厚7.4cmを測る。平らな面を有しており、隣り合う面に指頭による窪みを有する。胎土のきめは粗く、0.2～3mm程度の砂粒を多く含む。スサを含んだとみられる穴もみられる。焼成はやや不良で、表面は淡灰色、裏面は淡灰茶色、灰茶色を呈す。

3SX009 出土遺物 (fig55)

土師器

小皿a(1) 口径8.6cm、器高1.35cm、底径6.2cm。底部切り離しは糸切りで、板状圧痕がある。内外面とも淡灰茶色で、焼成は良好。

3SX011 出土遺物 (fig55)

土師器

小皿a(2) 口径8.0cm、器高1.45cm、底径5.4cm。底部切り離しは糸切りである。内外面とも淡茶褐色で、焼成は良好。

3SX016 出土遺物 (fig55)

土製品

焼土塊(3・4) 3は残存長3.8cm、残存幅3.45cm、残存厚1.55cm。キメが粗く、スサを含み、0.5～5mmの砂粒を多く含む。表面は淡茶褐色、裏面は淡茶色、淡橙色を呈す。4は残存長4.4cm、残存幅3.3cm、残存厚3.6cm。キメが粗く、スサを含み、0.5～3mmの砂粒、雲母片を多く含む。

3SX027 出土遺物 (fig55)

土師器

小皿a(5～7) 5は口径9.2cm、器高1.0cm、底径7.4cm。キメが細かく、0.2mmの砂粒を若干含む。内外面とも淡茶灰色を呈す。6は灯明皿で、口径9.6cm、器高0.8cm、底径8.3cm。キメが細かく、0.2～0.5mmの砂粒を少量、微細な雲母片を多量含む。内外面とも明茶色で所々黒色に変色している。7は口径10.0cm、器高1.7cm、底径

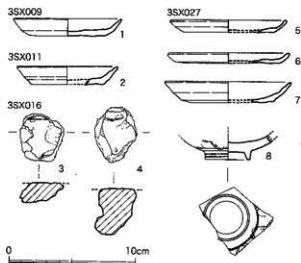
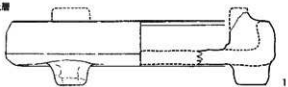


fig55 速歌屋遺跡第3次調査 その他の
遺構出土遺物実測図(1/3)

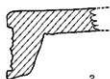
灰土層



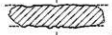
1



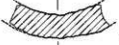
2



3

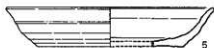


4



黒茶色土層

茶灰色砂層



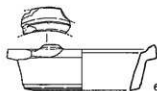
5



9



10



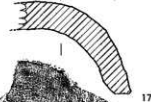
6



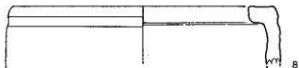
7



11



17



8



12



13



15



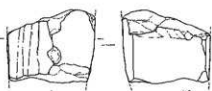
18



14



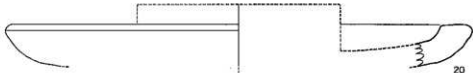
16



19



10cm



20

fig56 連歌屋遺跡第3次調査 各層出土遺物実測図 (1/3)

7.4cm。キメが細かく、0.2～0.5mmの砂粒、微細な雲母片を少量含む。内外面とも淡茶褐色を呈す。5～7の底部切り離しは糸切りであり、7は底部外面に板状圧痕が確認できる。

3SX051 出土遺物 (fig55)

肥前系陶磁器

小椀(8) 底部から高台にかけての破片である。釉は光沢のある透明釉で内外面全体に薄くかかり、淡灰茶色を呈す。

(5) 各層出土遺物

表土出土遺物 (fig56)

瓦質土器

不明製品(1) 風炉や脚付鉢と想定される遺物である。口径21.3cm、残存高5.7cm。受け部は短く直立しており器高は3.5cmである。受け部の下に直径2.5cm程度の断面円形の脚が取り付け。脚が取り付け位置の受け部内面には突起があるが、上部が欠損している。受け部の底部は回転ヘラ切りされているようで、その他は回転ナデを施す。なお受け部底面の内外面とも磨耗している。胎土はきめ細かいものの4mm以下の砂粒と雲母片を少量含む。焼成はややあまく、内外面とも灰茶色～暗灰色～黒色を呈し、断面は橙茶色～淡灰茶色～黒灰色を呈す。

瓦類(2～4) 2は軒平瓦である。瓦当は梅鉢文を陽刻する。胎土のきめは細かく、2mm以下の砂粒を少量含む。いぶされて淡灰茶色～黒灰色を呈している。3は格子叩きの平瓦である。下面は通常のように隔文の格子目が認められ、上面は布目痕の上から格子目が陰刻されている。別の瓦の下面の隔文格子目があたったため陰文となったと考えられる。このような格子目瓦は本調査区で数点確認されている。4は格子叩きの丸瓦である。界線が認められるため文字瓦と判断されるが内容は不明。

黒茶色土出土遺物 (fig56)

土師器

坏a(5) 口径16.4cm、器高3.1cm、底径11.6cm。底部切り離しは糸切りである。キメが細かく、最大0.8mmの砂粒と雲母片を少量含む。焼成は良好で、淡橙茶色を呈す。底部内面のナデにより底部外面に板状圧痕が残っている。

土師質

鍋置き(6) 破片である。口径11.8cm、器高3.5cm、底径7.6cm。キメが細かく、0.5mmまでの砂粒と雲母片少量含む。内面は淡茶色～明茶色～淡褐色、外面は淡茶色～明茶色～暗褐色、断面は淡茶色～明茶色～黒褐色を呈す。全体的に磨耗しているが、体部外面は丁寧なミガキaが観察できる。

白七輪(7) 口縁部から体部の一部の破片である。口径21.2cm、残存高3.9cm。細粒～4mm前後の白砂粒、黒細粒をやや多く含み、淡白橙色を呈す。口縁外部の沈線部分全体にサビのような茶褐色に変色している。

石製品

不明製品(8) 器状あるが、破損が著しい為器種不明。残存厚6.4cm、残存高6.7cmで、暗赤褐色～茶褐色～淡褐色を呈す。

茶灰色砂出土遺物 (fig56)

土師器

坏a(9・10) 9は口縁部を欠くものである。残存高1.35cm、底径10.1cm。底部切り離しは糸切りである。微細な金雲母をやや多く、白色細粒を少量含み、淡乳褐色を呈す。10は口縁部の破片である。

残存高は 2.15cm で淡白橙色を呈す。

瓦質土器

火鉢(13) 胴部から底部の一部にかけての破片で、残存高は 4.0cm である。胴部外面に突帯があり、その上部にスタンプ模様を施す。淡乳茶色～淡乳灰色を呈し、外面は被熱により黒色に変色している部分がある。

土師質土器

摺鉢(14) 底部の破片で、残存高は 4.15cm。体部内面に 6 条一単位の摺目入る。断面は暗灰黒色で、内外面は淡乳橙色である。

近代磁器

青磁 環(11) 口縁部の破片で、残存高 3.0cm。軸は全体にやや厚くかかり、光沢がある淡草緑色を呈す。内面に櫛目が観察できる。

近世陶器

摺鉢(12) 口縁部の破片で、残存高 3.9cm。軸は薄くかかり、光沢のある淡灰色を呈す。内面に摺目が観察でき、使用によりやや磨耗している。

半胴甕(15) 破片で、口径 12.4cm、残存高 8.2cm。体部外面に沈線が 3 本入る。口縁上部は露胎だが、それ以外の部分には光沢のある暗黒茶色の釉がかかる。

瓦類(16～18) 16 は軒平瓦である。瓦当は唐草文を彫刻する。細粒～3mm 前後の白砂粒をやや多く含む。焼成は良好で、淡乳灰色を呈す。17 は格子叩きの丸瓦である。所々細かい格子目の中に「+」の文様を彫刻する。九州歴史資料館型式分類 915B の可能性もある(『大宰府史跡出土軒瓦・叩打痕文字瓦型式一覧』九州歴史資料館 2000)。下面は布目痕が明瞭に残る。18 は格子叩きの平瓦である。所々格子目の中に「+」、「米」のような文様とを彫刻するものである。

焼成は良好で、淡乳灰色を呈す。

石製品

砥石(19) 砂岩製である。残存長 5.8cm、残存幅 6.9cm、残存厚 5.5cm。5 面が使用面であると考えられる。

石臼(20) 火成岩製の茶臼の破片である。口径 36.8cm、残存高 3.25cm。灰色を呈し、外面は暗灰色に変色した部分がある。

(深江暁子)

5. 小結

小面積の調査のため、検出した遺構についての詳細な検討ができなかった。ただ、最下位の層位に含まれる遺物が平安後期に遡ることは、本調査区周辺、ひいては太宰府天満宮周辺の開発も平安後期に遡ることを示すものと考えられる。今後周辺調査成果とあわせて検討を加えていく必要がある。

(井上信正)

表 30 連歌屋遺跡 3 次調査遺構番号台帳

S番号	遺構番号	種別	備考	埋土状況 (古→新)	遺構間切合 (古→新)	時期	地区番号
1		小穴					B3
2		小穴				F~G期	A3
3		小穴群					AB2
4		小穴					A2
5	3SX005	構造物	容器等の底のようであるが不明				B3
6		小穴					A2
7		小穴					A2
8		たまり					A2
9	3SX009	たまり				XVII期~	B2
10	3SA010	楕円	S-11の一部、13、29、36				Bライン
11	3SX011	小穴群	S-10の一部を含む				B2
12		たまり					B2
13	3SA010	小穴					B2
14		小穴					B2
15		欠番					-
16	3SX016	小穴					A3
17		小穴群	南壁土層 22 に対応する遺構は平安後期の可能性あり				A3
18		小穴群					A3
19		小穴群					A4
20		欠番					-
21		小穴			24 → 21		A4
22		小穴群			24 → 22		A4
23		小穴群			24 → 23		A4
24	3SX024	たまり			26 → 24 → 21・22・23	平安後期	A4
25		欠番					-
26		小穴			26 → 24		A4
27	3SX027	小穴	焼土、粘土多く含む				B3
28		小穴					B3
29	3SA010	小穴					B3
30		欠番					-
31		小穴群					B3
32	3SX032	たまり				平安後期	A3
33		小穴群			33 → 32		A3
34		小穴					B3
35		欠番					-
36	3SA010	小穴					B3
37		小穴					B3
38		小穴					B3
39		小穴					C1
40		欠番					-
41		小穴					C2
42		小穴					C2
43		小穴群					C2
44		小穴					B3
45		欠番					-
46		土坑			47 → 46		C2
47		小穴			47 → 46		C2
48		小穴					C3
49		小穴			5 → 49 → 27		B3
50		欠番					-
51	3SX051	土坑					C3
52		たまり					D4
53	3SX053	溝×土坑	暗茶土=暗灰茶土	淡灰土→黄茶土 →暗灰茶土	54 → 53		CD3~4
54	3SD054	溝		灰茶砂土→淡茶砂土→ 黄茶土	54 → 53		C3
55		欠番					-
56		小穴					B2
57		小穴			57 → 32		B3
58		小穴					D2
表土	表土	層位					
黒茶土	黒茶色土	層位	茶灰砂を覆う層位			近現代	
茶灰砂	茶灰色砂	層位	遺構検出時の人工層位			近現代	
茶色土	茶色土	小穴					E1~2

表 31 連歌屋遺跡 3次 出土遺物一覧表 (1)

S-2		S-19	
土 師 器	小皿・碗片、碗片	土 師 器	环、小皿、碗片
越州系青磁	瓶：IV? (1)	瓦 類	平瓦 (いぶし)
高 麗 青 磁	瓶：碗片? (1)	S-21	
瓦 類	平瓦、丸瓦 (いぶし)、碗片	土 師 器	环、皿
S-3		S-22	
土 師 器	环碗片、小皿 a、碗片	土 師 器	小皿、碗片
国産陶器	碗片	瓦 類	平瓦、碗片
瓦 類	碗片	S-23	
S-4		須 恵 器	鉢
土 師 器	环	土 師 器	出 环
国産陶器	碗片	土 製 品	伊 土
瓦 類	平瓦	瓦 類	碗片
S-5		S-24	
土 師 器	碗片	須 恵 器	壺×壺
S-6		土 師 器	环、小皿 a、碗片
土 師 器	环 (イト)	瓦 類	平瓦、丸瓦
瓦 類	碗片	S-27	
S-7		土 師 器	环 a、小皿 a、小皿 a (灯明)
土 師 器	小皿 a (イト)	肥前系陶磁器	碗片
瓦 類	碗片	瓦 類	平瓦 (格子甲~新しい)、平瓦碗片
S-8		S-28	
瓦 類	碗片	瓦 類	碗片 (格子甲)、碗片
S-9		S-29	
土 師 器	小皿 a (イト)	土 製 品	埴土塊
瓦 類	丸瓦 (格子甲~新しい)、平瓦、碗片 (いぶし)	瓦 類	丸瓦、碗片
S-11		S-31	
土 師 器	小皿 a、碗片	土 師 器	环、小皿 a、碗片
国産陶器	壺 (1)、碗片 (1)	瓦 類	瓦瓦、碗片
肥前系陶磁器	小皿碗片	S-32	
瓦 類	丸瓦、平瓦、碗片 (いぶし)	土 師 器	环、小皿 a
S-12		瓦 類	碗片
土 師 器	小皿	S-33	
瓦 類	碗片	土 師 器	环 a、小皿 a
S-13		S-34	
土 師 器	碗片	土 師 器	小皿 a
十 師 瓦 十 師	火舎	S-36	
瓦 質 土 師	ご石鉢	土 師 器	小皿 a、碗片
国産陶器	壺 (1)	瓦 類	平瓦 (格子甲)、碗片 (いぶし)
瓦 類	平瓦、碗片	S-37	
S-14		瓦 類	碗片
S-16		S-38	
土 師 器	小皿 a (イト)、小皿 (灯明?)	瓦 類	碗片 (格子甲、新しい) (いぶし)
土 製 品	埴土塊	S-39	
瓦 類	平瓦 (格子甲~新しい) (格子甲~古い)、丸瓦 (玉置) (格子甲~新しい)	そ の 他	茶碗? (現代)
S-17		S-39 豊内黒灰色砂土	
土 師 器	碗片	国産陶器	碗片
瓦 類	平瓦 (いぶし)、碗片	瓦 類	平瓦碗片 (いぶし)
S-18		S-41	
土 師 器	碗片	土 師 器	碗片
肥前系陶磁器	瓶 (2)	瓦 類	碗片 (いぶし)、碗片
瓦 類	平瓦	S-56	
S-43		土 師 器	环 a
土 師 器 土 師	碗片	S-57	
土 製 品	埴土塊	土 師 器	小皿 a
瓦 類	碗片		

表 32 連歌屋遺跡 3次 出土遺物一覧表 (2)

S-44
土 師 部 環, 小皿 a
瓦 類 破片

S-46
土 師 部 小皿 a
陶 産 陶 器 破片
瓦 類 平瓦 (格子印~新しい), 破片

S-47
土 師 部 破片
土 師 質 土 器 部

S-48
土 師 部 破片

S-51
土 師 質 土 器 部
瓦 質 土 器 部 火舎?
瓦 類 平瓦 (いぶし) (格子印), 破片

S-53 暗茶色土
土 師 部 小皿 a, 皿 c × 環 c, 破片
土 師 質 土 器 部 部
陶 産 陶 器 部 破片, 不明製品破片
陶 産 陶 器 部 破片 (2)
土 製 品 埴土塊
瓦 類 丸瓦 (玉縁), 破片 (いぶし) (格子印), 破瓦?, 破片

S-53 暗茶色土
土 師 部 環
土 師 質 土 器 部 部
陶 産 陶 器 部 火舎
瓦 類 平瓦 (いぶし), 破片 (横目印), 破片

S-53 淡灰色土
土 師 部 小皿 a, 小皿, 貯蔵器
瓦 類 丸瓦 (いぶし, 玉縁), 軒丸瓦, 破片 (格子印), 破片

S-54 暗茶色土
土 師 部 環 b?, 小皿 a, 破片
陶 産 陶 器 部 破片 (1), 破片
瓦 類 平瓦破片, 平瓦 (格子印), 丸瓦破片, 丸瓦 (格子印), 破片 (二重格子印) (いぶし), 破瓦 (瓦付?)

S-54 黄茶色土
土 師 部 小皿
土 師 質 土 器 部 火舎
陶 産 陶 器 部 破片 (1)
瓦 類 平瓦破片, 平瓦 (いぶし) (格子印)

S-54 淡灰色砂土
土 師 部 環 a, 環 (イト), 小皿 a
土 師 質 土 器 部 部
瓦 質 土 器 部 部
陶 産 陶 器 部 部
肥前系陶磁器 部
金 属 製 品 部
土 製 品 生應用具破片?
瓦 類 平瓦破片, 丸瓦 (玉縁) (いぶし) (いぶし, 玉縁) (二重格子印, 玉縁) 軒平瓦, 軒丸瓦 (巴文), 破片 (いぶし) (格子印), 供養具??

S-54 灰茶色砂土
陶 産 陶 器 部 部 (1)
陶 産 陶 器 部 部 (1)
瓦 類 破片 (格子印), 破片

瓦 類 破片

S-58
瓦 類 丸瓦 (いぶし)
茶色土
土 師 部 環 × 小皿, 小環 c × 小皿 c, 小皿破片
陶 産 陶 器 部 急須, 器
瓦 類 破片

茶色土
土 師 部 片破片 (イト), 小皿破片, 不明製品, 破片
肥前系陶磁器 部
土 製 品 土壘
瓦 類 平瓦破片, 平瓦 (横目印) (いぶし), 丸瓦 (玉縁, 横目印~新しい) (格子印) (二重格子印), 軒平瓦 (いぶし), 文字瓦破片

黄褐色土 14
土 師 部 焼土塊
瓦 類 平瓦 (横目印~新しい) (玉縁), 軒平瓦, 軒丸瓦, 文字瓦 (「安楽寺」), 破片 (格子印)

黄褐色土 24
土 師 部 片 a
土 師 質 土 器 部 部
白 磁 土 器 部 IV? (1)
土 製 品 and
瓦 類 丸瓦

黄褐色土
土 師 質 土 器 部 不明製品 (2)
瓦 類 平瓦 (いぶし), 丸瓦 (横目印~新しい) (いぶし), 軒丸瓦 (二重格子印), 軒平瓦 (いぶし)

灰茶色砂土
須 品 部 人環
土 師 部 環 (イト), 環 c, 小皿 (イト), 器台 × 高環, 破片
土 師 質 土 器 部 部
須 品 部 須品, 須品, 須品 (外周に欠付物)
須 品 部 須品
瓦 質 土 器 部 部
陶 産 陶 器 部 部
肥前系陶磁器 部 小皿破片 (白色粉) (1), 破片 (2)
陶 産 陶 器 部 部
金 属 製 品 部
土 製 品 部
石 製 品 部
瓦 類 平瓦 (横目印~新しい) (格子印, 占・赤あり), (二重格子印~新しい) (いぶし) (瓦付), 丸瓦 (玉縁), 軒平瓦?, 軒丸瓦 (横目印~新しい), 不明製品

S-54 黄茶色土
土 師 部 小皿
土 師 質 土 器 部 火舎
陶 産 陶 器 部 破片 (1)
瓦 類 平瓦破片, 平瓦 (いぶし) (格子印)

黄褐色土 18
陶 産 陶 器 部 破片 (破片)
瓦 類 破片 (いぶし)

黄褐色土 19
瓦 類 破片

黄褐色土 21
土 師 部 環 a (イト)
土 製 品 土壘

黄褐色土 25
土 師 部 環 a
瓦 類 丸瓦 (いぶし), 破片 (格子印, 新しい), 破片

表 33 連歌屋遺跡第3次調査 土器計測表

S-9

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿 a	イト 1	001	Fig.55	7	8.6	1.4	6.2	○ ○

S-11

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿 a	イト 1	001	Fig.55	2	8.0	1.45	5.4	○ -

S-24

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
上	小皿 a	イト 1	001	Fig.52	12	9.8	1.00	7.8	○ ○

S-27

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
土	小皿 a	イト 1	001	Fig.55	6	9.6	0.8	8.3	○ -
	"	イト 2	002	Fig.55	7	10.0	1.7	7.4	○ ○
	"	イト 3	003	Fig.55	5	9.2	1.0	7.4	○ -

S-32

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
上	杯 a	ヘラ 1	001	Fig.52	18	15.4	2.5	11.7	- -
	小皿 a	イト 2	002	Fig.52	18	9.0	1.05	6.6	○ ○
	"	イト 3	003	Fig.52	15	8.4	1.35	6.5	○ -
	"	イト 4	004	Fig.52	17	10.0	1.0	8.4	○ -

S-53 褐色土

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B	
上	杯 a	-	1	001	Fig.52	21	13.2	2.75	11.0	-

S-54 褐色赤土

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
上	杯 a	イト 1	002	Fig.52	8	-	1.65+	6.2	○ ○
	"	イト 2	003	Fig.52	7	-	1.3+	6.4	○ -
	小皿 a	イト 3	004	Fig.52	6	8.4	1.1	6.6	○ -

黒瓦 24 土層

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
土	杯 a	ヘラ 1	006	Fig.52	13	-	2.5	-	- ○

黒褐色土 (西南区南畑十層 25)

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
土	杯 a	ヘラ 1	001	Fig.56	5	16.4	3.1	11.6	○ ○

赤褐色土

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
上	杯 a	イト 1	004	Fig.56	9	-	1.35+	10.1	○ ×
	"	-	2	008	10	-	2.15+	-	- -

陶管 22 土層 (S-17)

種別	器種	番号	R -	図版番号	口径	器高	底径	A	B
土	杯 a	イト 1	003	Fig.53	1	13.2	2.70	8.9	○ -

(4) 第4次調査

1. 調査の経緯

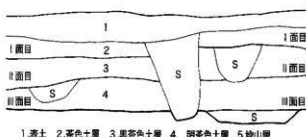
調査地は太宰府市宰府3丁目1179-20に所在し、小鳥居小路と太宰府天満宮をつなぐ小道に面している。この小道を拡幅改修して小鳥居線として整備する計画が提示され、建設課より当該地区の文化財有無の照会が平成7年に文化財課にあった。該当地周辺は太宰府天満宮1～4次、太宰府天満宮参道1～5次、連歌屋1～3次、馬場1～3次、大町、浦ノ城跡など発掘調査が進んでおり、特に連歌屋遺跡第1次調査地は本遺跡と隣接しており一連の遺跡として理解する必要がある。協議の結果、新設の小鳥居線に住居がかかるため、その住居を含めた地域を発掘調査することになった。調査面積は調査対象面積159.09㎡、調査面積79.58㎡で、平成8年7月2日～8月31日まで行った。調査は、高橋学・中島恒次郎が担当した。遺物量はパンコンテナで11箱出土しており、当教育委員会が保管している。なお調査区条件のため排土を搬出することができなかつたため、場内で反転して排土を置いた。

2. 層位 (fig57・58 参照)

本調査区での基盤土層となるのは黄茶色シルト層である。均一な細かい砂粒によって構成されている。このシルト層は厚み約30～40cm堆積している。その下に茶灰色土が厚く堆積する。この層は砂礫まじりで砂礫の大きさは5×5×3cmの手の平台のものが顕著である。この層より2mほど掘り下げると淡灰色砂質層にあたりこれは湧水層でもある。

これらの観察によるとこの土地の基盤層は、北側を流れる御笠川などの河川による流水堆積により形成されていることがよく分かる。これらベースになる土層からは遺物は検出されていない。

1層が30～40cm堆積しておりこれは現代の整地と思われる。1層を除去すると、16層が基盤となる遺構面が検出される。この遺構面に切り込む遺構は土層断面でしか確認できていない。ほとんどが



1.表土 2.茶色土層 3.黒茶色土層 4.明茶色土層 5.地山層

fig57 調査区土層模式図

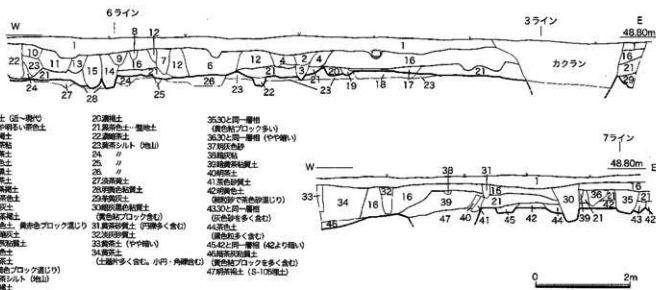
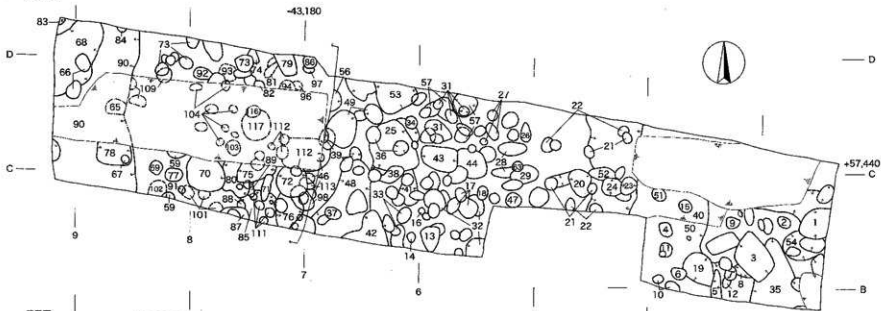


fig58 調査区北面土層図(1/80)

第I. II圖



第III圖

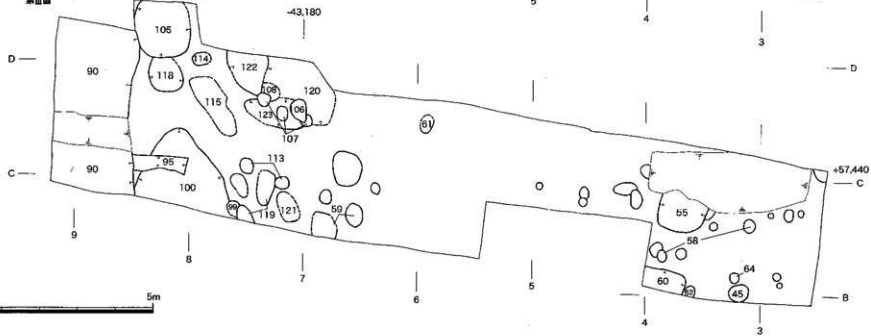
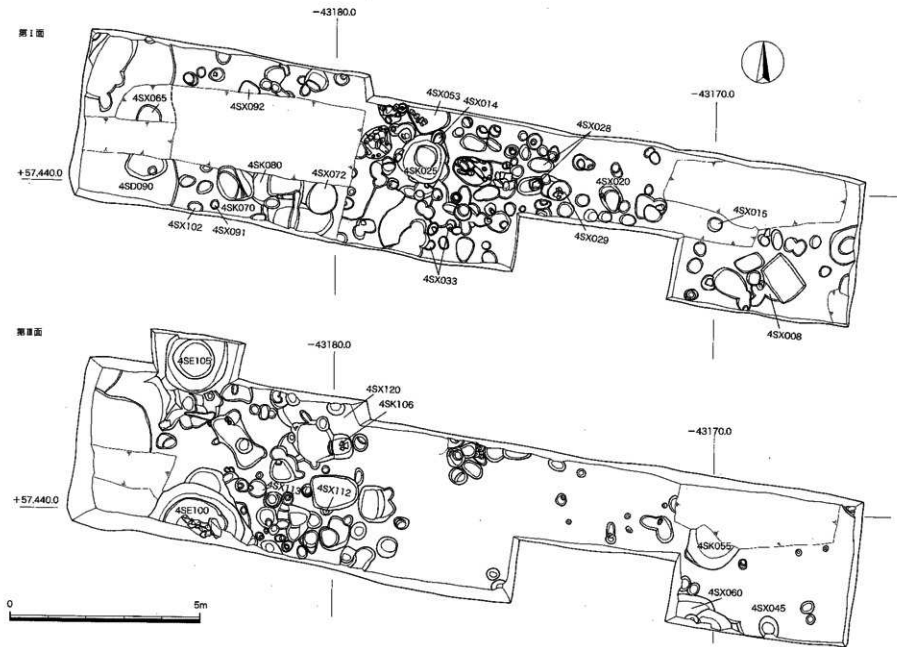


fig 59 連歌屋遺跡第4次調査 第I. II. III遺構面略測図 (1/100)



fig60 運動屋遺跡第4次調査 第I、III遺構面全体図 (1/100)



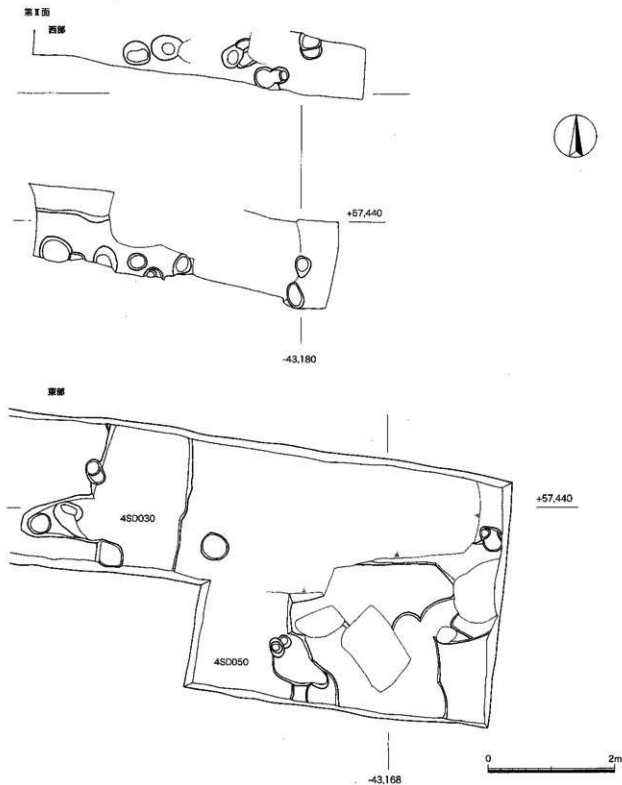


fig61 連歌屋遺跡第4次調査 第II遺構面全体図(1/80)

近現代(明治～昭和)のものと考えられる。第I遺構面として確認できたのは、21層を基盤とする面である。この21層を除去すると東部では先述の黄茶色シルト層がベースとなる第III遺構面が確認できるが、西部では(ちょうど7ラインを境として)42層とした明茶色土(砂粒混じり)が分布しており、第II遺構面を形成している。東部では土層としては検出できなかったが、第I遺構面での遺構切り合い関係から第II遺構面としている。42層を除去すると東部とおなじく黄茶色シルト層が展開する。

3. 遺構

各遺構の遺構面の帰属については、遺構一覧表を参照のこと。ここでは遺構種別で報告をする。

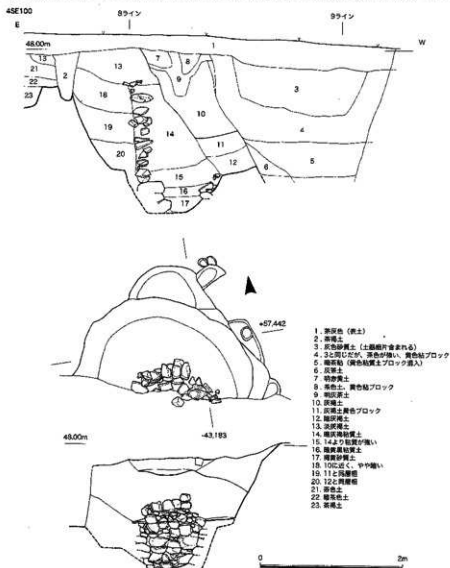
井戸

4SE100 (fig62.pla29-2)

調査区西部で検出する。調査区外に遺構が伸びるために全体プランは検出ができていないが、残された部分から判断をすると円形井戸と考えられる。第III遺構面検出だが、土層観察によれば上層からの切り込みの可能性もある。直径約0.8mで、検出面からの深さは1.75mを測る。井戸枠は石組みで、検出面から0.7m下げた段階で検出した。土層観察では約1.8mほど石組みが確認されることから、本来は検出面のレベルから石組みがされていたが、内部への崩落などにより崩壊していることがわかる。掘方は直径2.7×1.4m以上の不整形円形と考えられる。裏込めは灰褐色土と角礫0.3×0.3×0.2m程度が多数混在している。取り上げ時の埋土は埋土は黒茶色粘質土、掘り方は暗茶色土、黄茶色土である。また土層観察によって4SD090によって西側の石組みと掘方が壊されていることがわかる。出土遺物により埋没年代は14世紀代だと考えられる。

4SE105 (fig63.pla31-3)

調査区西部北側で検出する。調査区外に遺構が伸びるために掘り方の全体プランは検出不能。円形の



井戸と推定。第III遺構面検出。直径0.8×0.9m。検出面から約1.2m下げた段階で石組み枠を検出した。石組みは右回り重ねで積んでいる可能性あり。石は川原石を使用しており角が取れている礫である。部分的に0.3m前後の扁平な河原石が使用されておりその中心に、直径0.5

fig62 連歌屋遺跡第4次調査 4SE100 遺構土層図、実測図(1/40)

× 0.6m、深さ 0.2m 程度の楕円形の掘り方があり、これが水澄まし機能を果たしていたと思われる。埋土は検出時に大形の礫が多数混じっていた。埋土は上より明茶褐色土、暗茶色粘質土、黄褐色土、暗茶灰色砂質土（水澄まし）、灰褐色土（裏込め）となる。灰褐色土には裏込めを形成していたと思われる大量の礫が混じっており、また前述した埋土内の大量礫と併せて、残存している石組みより上部へ石組みが展開していたことが推定できる。出土遺物より、埋没年代は 12 世紀中頃と考えられる。

溝

4SD030 (fig61.pla29-1)

調査区東部で検出した溝状の遺構である。第 I・II 遺構面検出。およそ南北に走行しており、幅 1.35～1.6m 以上、深さ 0.3m を測る。埋土は黒色土で茶色土が混じる。

4SD050 (fig61.pla29-1)

調査区東部で検出した溝状の遺構である。第 I・II 遺構面検出。4SD030 の東隣に近接する。およそ南北に伸びており、幅 1.3m、深さ 0.16～0.18m を測る。埋土は暗茶褐色土で、茶褐色土がブロック状に混じっている。東側の掘り方しか検出されていないため全容は不明。落ち込みか部分的な整地の可能性も考えられる。

4SD090 (fig60.pla29-3)

調査区西部で検出した溝状遺構である。第 I・II 遺構面検出。幅 2.2 m 以上。深さ 2 m 程度。埋土は上から明茶褐色礫、茶褐色礫混じり、淡茶色土、暗茶色粘礫混じり。淡茶色土層を除いて、すべての層で礫が多数混じっている。

隣接する民家の安全を保護するため、中央部にトレンチをいれて確認する方法を採用した。

土坑

4SK025 (fig60.pla29-1)

調査区東部で検出した方形土坑。第 I・II 遺構面検出。東西長 1.3m、南北長 1.55m。検出面より 0.5m 下げたところ、段掘りになっており 0.5 × 0.5m の方形プランを検出した。深さは 0.1m 程度と浅い。大量の土師器杯、皿が出土している。

4SK055 (fig60.pla29-1)

調査区東部で検出した土坑。第 III 遺構面検出。幅 1.4 × 1.0 m 以上、深さ 0.6 m を呈する。攪乱により北側を削られており全体プランは不明。

4SK070 (fig60.pla29-3)

調査区西部で検出した土坑。第 I・II 遺構面検出。0.9 × 1.0m、深さ 1.3m 程度を測る。

4SK080 (fig60.pla29-3)

調査区西部で検出した土坑。第 I・II 遺構面検出。0.8 × 0.7m、深さ 0.2m 程度を測る。切り合いが

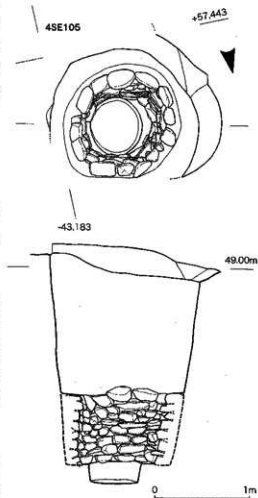


fig63 連歌屋遺跡第4次調査
4SE105 遺構実測図 (1/40)

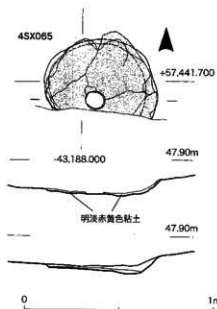
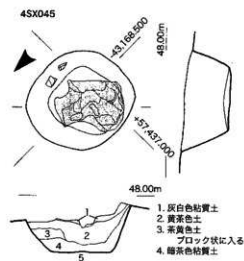
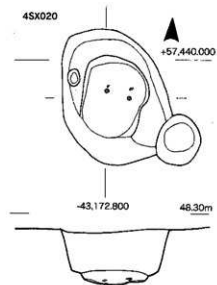


fig64 速歌屋遺跡第4次調査 4SX020、045,065 遺構実測図 (1/20)

多くプランがわかりにくい。4SX070 とトレンチにより切られている。

4SX106 (fig60.pla29-2)

調査区西部で検出した土坑。第III遺構面検出。東西長0.8×南北長0.9m。

その他不明遺構

4SX008 (fig60.pla29-1)

調査区東部で検出した、たまり状遺構。第I・II遺構面検出。東西長0.2×南北長0.6m、深さ0.1m。S-3、7に切られる。

4SX015 (fig60.pla29-1)

調査区東部で検出した小穴。第I・II遺構面検出。直径0.4m、深さ0.6m。

4SX020 (fig64.pla30-3)

調査区東部で検出した土坑。第I・II遺構面検出。東西長0.57m、南北長0.7m、深さ0.28cmを測る不整な長方形のプランが検出された。検出時の埋土は暗茶色土であり、これを下げていくと遺構面より0.2mの所で隅丸方形のプランが検出された。暗茶色土より粘質が強く別層(暗茶色粘質土)と認識して掘り下げた。暗茶色粘質土を掘り下げると銅銭が破片で検出された。慎重に掘り下げると位置を保った4枚の銅銭を底面より数cm程度上位で確認できた。北側の2枚と比べて南側の2枚の方が残りが良い。

4SX028 (fig60.pla29-1)

調査区東部で検出した溝状遺構群。第I・II遺構面検出。東西長0.6～1.2m×南北長0.3～0.4m、深さ0.25m。溝状の東側の一部に円形の掘り方があり、そこに根石状に礎が据えてある。掘立柱建物の一部の可能性がある

4SX029 (fig60.pla29-1)

調査区東部で検出した、たまり状遺構。第I・II遺構面検出。東西長0.6×南北長0.5m、深さ0.2m。礎が底でまどまって検出されているため、柱の根石の可能性もある。

4SX033 (fig60.pla29-1)

調査区中央部で検出した、小穴群遺構。第I・II遺構面検出。直径0.25m、深さ0.1～0.2m。

4SX034 (fig60.pla29-1)

調査区中央部で検出した、小穴状遺構。第I・II遺構面検出。直径0.3～0.4m、深さ0.4m程度。

4SX045 (fig64.pla31-1-2)

調査区南東部で検出した。検出の経過を以下述べる。当初、

B3 地区 I・II 遺構面で検出した 4SD050 を掘り下げている段階で、東側に暗茶褐色土が部分的に広がっており、4SD050 の一部と考えて掘り下げた。掘り下げていくと瓦質土器火鉢の破片と銅銭 2 枚（いずれも永楽通寶）が出土した。掘り下げを進めると、口縁部を下にした瓦質土器火鉢が検出されたが、検出時に原位置を動いていた。その時点でプラン検出のために精査を行うと、瓦質土器が検出された同位置下部に不整形の土坑を検出した。そのためこれを 4SX045 とする。

東西長 0.5m × 南北長 0.55m、深さ 0.25m を測る。平面プランは楕円形である。埋土は上より灰白色粘質土、黄茶色土、茶黄色土、暗茶色粘質土。灰白色粘質土は 0.01 ~ 0.25cm 程度厚みがあり、不整形で中央やや西よりにまとまって位置している。先述の瓦質土器火鉢の内面にも同じ灰白色粘質土が付着していたことを取り上げ時に確認している。

4SX053 (fig60.pla29-1)

調査区中央部で検出した、たまり状遺構。第 I・II 遺構面検出。調査区外に伸びるため全容は不明。プランは方形を呈す可能性が考えられる。東西長 1m、南北長 0.8m 以上、深さ 0.3m 程度。底部西側に礫がまとまって検出されている。

4SX060 (fig60.pla29-2)

調査区東部で検出した、たまり状遺構。第 III 遺構面検出。調査区外に伸びるため全容は不明。東西長 1.5m、南北長 0.65m 以上、深さ 0.4m 程度。

4SX065 (fig64.pla29-3)

調査区西部で検出した。第 I・II 遺構面検出。東西長 0.6m、南北長 0.4m、深さ 0.25m。半円形の落ち込みに、明淡赤黄色粘土が 2 ~ 3cm の厚みで堆積していた。

4SX072 (fig60.pla29-1)

調査区中央部で検出した、たまり状遺構。第 I・II 遺構面検出。プランは円形を呈す。直径 0.8m、深さ 0.3m 程度。

4SX078 (fig60.pla29-1)

調査区西部で検出した、たまり状遺構。第 I・II 遺構面検出。東西長 1m、南北長 0.6m 以上、深さ 0.25m 程度。

4SX091 (fig60.pla29-1)

調査区西部で検出した、小穴状遺構。第 I・II 遺構面検出。直径 0.4m、深さ 0.3m 程度。

4SX092 (fig60.pla29-1)

調査区西部で検出した、小穴状遺構。第 II 遺構面検出。径 0.4 × 0.3m、深さ 0.3m 程度。

4SX101 (fig59.pla29-1)

調査区西部で検出した、小穴状遺構群。第 II 遺構面検出。直径 0.25 × 0.4m、深さ 0.3m 程度。

4SX102 (fig60.pla29-1)

調査区西部で検出した、たまり状遺構。第 II 遺構面検出。調査区外に伸びるため全容は不明。幅 0.4m、深さ 0.25m 程度。

4SX103 (fig59.pla29-1)

調査区西部で検出した、土坑状遺構。試掘トレンチの削平のため層位不明。直径 0.4m、深さ 0.25m 程度。

4SX112 (fig60.pla29-1)

調査区西部で検出した、小穴状遺構群。試掘トレンチの削平のため層位不明。直径 0.3 ~ 0.4m、深さ 0.4m 程度。

4SX113 (fig60.pla29-2)

調査区西部で検出した、小穴状遺構群。第III遺構面検出。試掘トレンチの削平のため層位不明。直径0.2～0.3m、深さ0.3m程度。

4SX120 (fig60.pla29-2)

調査区西部で検出した、たまり状遺構。第III遺構面検出。調査区外に伸びるため全容は不明。東西2m、南北2mを測る。深さ0.1m程度。(高橋)

4. 遺物

井戸出土遺物

4SE100 (fig65)

土師質土器

鍋(1) 残存器高1.8+cmを測る。胎土は0.1～3mmの砂粒を多く含み粗い。内面と口縁部は淡橙白色、口縁下部からは煤が付着し暗茶褐色～黒褐色を呈す。焼成は良好。口縁部小片。

4SE100 黒茶色粘質土 (fig65)

土師質土器

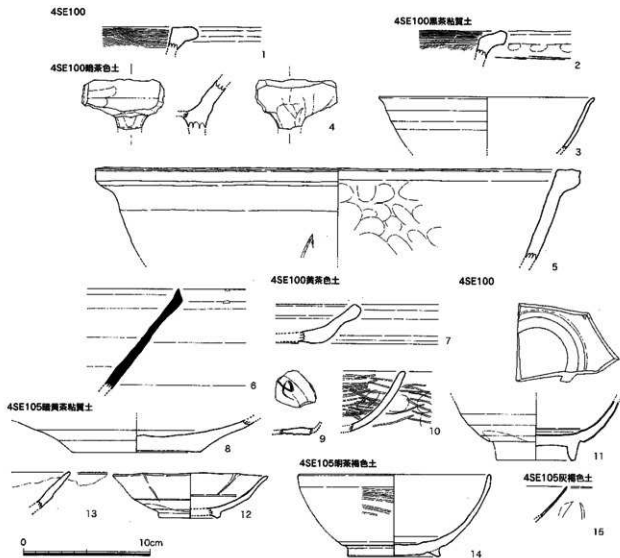


fig65 連歌屋遺跡第4次調査 4SE100・105 出土遺物実測図(1/3)

鍋(2) 残存器高2.3+cmを測る。胎土は1~5mmの砂粒を多く含み粗い。淡橙白色を呈し、焼成は良好。内面から口縁部上面及び体部はハケ目調整を施す。口縁外面下部に指頭圧痕が残る。口縁は多少凹凸が目立つ。口縁部小片である。

龍泉窯系青磁

椀(3) 復原口径17cm、残存器高4.1+cmを測る。素地は0.1mm以下の黒色粒を僅かに含み灰白色を呈し緻密。釉は薄い緑色を帯びた透明釉でガラス質が強く、内外面に大きめの貫入が入る。焼成は良好。外面は回転ケズリ調整の後施釉する。口縁部~体部下半約1/8残存。椀IV類。

4SE100 暗茶色土 (fig65)

土師器

脚付杯(4) 残存器高3.85+cmを測る。胎土は0.1mm程度の砂粒と金雲母を少し含み精練されている。内面は淡灰白色、外面は淡橙白色を呈し、焼成は良好。坏部成形後ナデにより脚部を接合する。脚部は残存が少なく全体を把握することはできない。体部~脚部接合部約1/8残存。

土師質土器

鍋(5) 復原口径38.3cm、残存器高7.1+cmを測る。胎土は0.1~2mmの砂粒を多く含み粗い。内面は淡白橙黄色、外面はスス付着により淡薄褐色を呈し、焼成は良好。内面は指頭圧痕が、外面には工具の痕跡により記号状のものが確認できる。口縁部~体部上半約1/16残存。

須恵質土器

こね鉢(6) 残存器高7.95+cmを測る。胎土は0.1~2mmの砂粒を多少含む。暗灰色を呈し、焼成・還元共に良好。口縁部外面のみに黒色自然釉がかかり、重ね焼きの痕跡と考えられる。口縁端部がやや立ち上がり気味の口縁部~体部上半で、東播系で荻野分類IV群。

4SE100 黄茶色土 (fig65)

土師質土器

盤(7) 残存器高3.05+cmを測る。胎土は0.1mmの砂粒・茶色粒・金雲母を少し含み精練されている。内面は暗橙色を呈し一部黒色化する。外面は暗橙褐色を呈す。焼成は良好。底部は糸切りで板状圧痕は明確には確認できない。口縁部~底部約1/16残存。

4SE100 暗黄茶色粘質土 (fig65)

土師器

杯a(8) 底部径6.7cm。体部成形時に強い回転ナデを施される。豊前系か。

小皿a×杯a(9) 残存器高0.6+cmを測る。胎土はよく精練されている。内外面とも明黄茶色を呈し、焼成は良好。底部は糸切りで板状圧痕がある。また内底はナデ調整。墨書がある。残存は底部小片。瓦器

椀(10) 残存器高4.8+cmを測る。胎土は黒茶色粒子を少量含み、よく精練される。内外面ともに灰白色~黒灰色、断面は明灰白色を呈し、焼成は良好。器壁は5mmと厚い。口縁端部内側に沈線が施される。内外面ともミガキCを施す。桶葉型である。口縁部から体部下半の小片。

褐彩磁器

椀(13) 残存器高2.9+cmを測る。素地は茶色微粒子をごく少量含むが緻密で、淡茶褐色を呈す。釉は内外全面に暗緑黄色釉が施され、口縁部からさらに褐色釉がかけられる。細かい貫入が確認される。焼成は良好。口縁部小片である。

白磁

椀(11) 底部残存1/4程度。V類。

皿(12) 復原口径12.25cm、器高3.5cm、復原底径4.8cmを測る。素地は黒色微粒子をごく少量含むが緻密で青白色を呈す。釉は内外面とも緑青白色の透明釉で、内外面ともやや細かい貫入が全面に入る。焼成・還元共に良好。口縁部～底部約1/4残存。体部外面にヘラ押圧縦線があり、輪花の可能性ある。皿XI¹・3類である。

4SE105 明茶褐色土 (fig65)

瓦器

椀C2(14) 復原口径15.15cm、復原器高6.5cm、底径7.35cmを測る。胎土は雲母片を少量含むがよく精練されている。内外面ともに暗灰白色～黒灰色、断面は暗灰色を呈し、焼成は良好。体部上半は回転ナデの後やや粗いミガキCを施す。底部はヘラ切りの後粗いナデを施す。口縁部小片と底部～体部が残存する。

4SE105 灰褐色土 (fig65)

白磁

椀(15) 残存器高2.4+cmを測る。素地は混入物が無く白色で緻密。釉は内外ともやや青味を帯

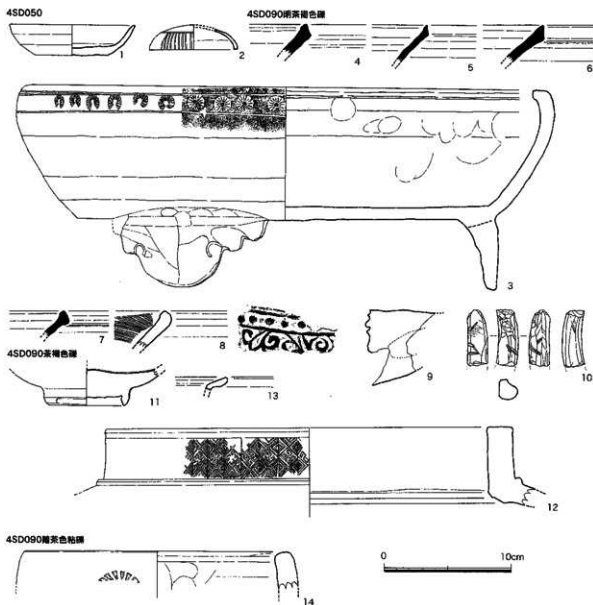


fig66 連歌屋遺跡第4次調査 4SD050・090 出土遺物実測図(1/3)

びた透明釉。貫入は確認できないが気泡が数カ所ある。焼成は良好。器壁はごく薄く、外面にヘラによる蓮弁が施される。口縁部小片。青白磁の可能性もある。

溝出土遺物

4SD050 (fig66.pla.32・1・3)

土師器

小坏 a (1) 復原口径 9.9cm、器高 2.5cm、復原底径 5.7cm を測る。胎土は少量の砂粒を含み、精錬されている。内外面とも明茶褐色を呈し、焼成は良好。体部内面には回転ナデの後、不定方向のナデが加えられている。内底にも不定方向のナデを施し、底部は糸切りで板状圧痕が確認できる。口縁部から底部約 1/8 残存。

瓦質土器

火鉢 (3) 復原口径 42.2cm、器高 15.75cm、復原底径 32.7cm。口縁部から体部外面は幅の広いミガキを施す。底部外面と見込みにはハケ目調整を施し、底部外面の中央には指頭圧痕がみられる。脚は 3 脚と考えられ、外面にはナデとミガキによる調整を施し、内面には指頭圧痕が見られる。体部上位には 2 本の沈線の間に菊花文のスタンプが施され、それに伴う指頭圧痕が体部内面にみられる。胎土は砂粒を多量に含み、体部外面は茶灰色、一部は濃茶褐色を呈す。焼成は良好。約 1/2 弱残存。

白磁

合子蓋 (2) 復原口径 7.0cm、残存器高 1.7+cm を測る。素地は 0.1mm 以下の黒色粒を少し含み、白色を呈し緻密。釉は青白色味を帯びた透明釉で、外面は口縁端部から全体的にやや厚く施釉され、内面は体部中位から薄く施釉され、身と組み合う部分は露胎している。ごく薄く成形されている。約 1/8 残存。

4SD090 明茶褐色碟 (fig66)

須恵質土器

鉢 (4~7) いずれも東播系である。4 は残存器高 2.5+cm を測り、淡灰色を呈し焼成・還元共に良好。口縁端部がやや立ち上がり気味になり、荻野分類 IV 群。5・6 は残存器高 3.0+cm を測り、口縁端部がほぼ立ち上がった形となり、荻野分類 V 群。6 は胎土が多少粗い。7 は残存器高 2.1+cm を測り、口縁部がやや玉縁状になり、荻野分類 VII 群。それぞれ口縁部外面に黒灰色、暗灰褐色、灰黒色と変色が見られる。いずれも口縁部小破片。

瓦質土器

鉢 (8) 残存器高 3.0+cm を測る。胎土は 0.5mm 以下の砂粒を少し、1mm 程度の黒色粒を僅かに含み精錬されている。内外面は灰黒色、芯は白灰色を呈し、焼成はやや不良。口縁端部は回転ナデ、内面は刷毛による調整を施す。外面は磨耗の為調整不明。外面に見える凹みは文様の可能性がある。口縁部小破片。

瓦類

軒平瓦 (9) 最大長 5.5+cm、最大厚 6.0+cm を測る。瓦当文様は残存部から推定する限り扁行唐草文の可能性が高い。上外区は珠文帯が施され、瓦当部は濃緑褐色を呈す。凹部はナデ調整を施し、凸部はナデとケズリの調整がみられる。須恵質で焼成・還元共に良好。瓦当部小片のみ残存。I-4 類。

石製品

用途不明品 (10) 最大長 4.45cm、最大幅 1.6cm。やや湾曲し不定形な柱状を呈し、ケズリにより成形される。用途は不明。所々に浅い切れ込みが刻まれる。滑石製。

4SD090 茶褐色碟 (fig66)

瓦質土器

風炉(12) 復原口径32.2cm、残存器高6.25+cmを測る。胎土は細かい白色砂粒を多量に含み、精練されている。外面は灰黒色、内面は茶黒色を呈し、焼成はやや良好。体部上位から口縁部にかけて直立に立ち上がり、口縁上端部には突起部の存在が窺える。回転ナデによる調整が施され、口縁上端部ではミガキが施される。口縁部外面には長方形スタンプがみられ、卍に似た文様と雷文が組み合った形になっている。スタンプは幅約1.5cmが一単位になっている。口縁部～体部上半約1/8程度残存する。国産陶器

甕×壺(13) 残存器高1.2+cmを測る。素地は少量の白色砂粒を含み淡茶褐色を呈す。釉薬は濃茶褐色を呈し薄く施釉され、特に口縁部外面が薄くなっている。焼成は良好だが、還元は不良。口縁部の小破片。

4SD090 暗茶色粘礫 (fig66)

瓦質土器

火鉢(14) 復原口径21.0cm、残存器高3.0+cmを測る。外面は灰黒色、内面は淡灰白色を呈し、焼成・還元共に良好。回転ナデによる調整が施され、口縁端部にはミガキが窺える。外面には菊花型のスタンプ文が見られ、その施文に伴う指頭圧痕が内面で窺える。口縁部小破片。

土坑出土遺物

4SK025 (fig67.pla32-2・3)

須恵器

甕(1) 残存器高4.2+cmを測る。胎土は0.5～2mm程度の茶色粒・明灰色粒を少し、1mm前後の砂粒を僅かに含み、やや粗い。内外とも灰白色～黒灰色、芯は明灰白色を呈し、焼成は良好だが還元はやや不良。口縁部小片。

瓦器

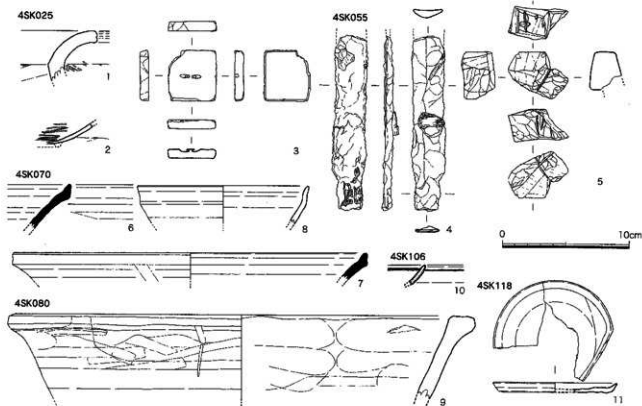


fig67 連歌屋遺跡第4次調査 土坑出土遺物実測図(1/3)

椀(2) 残存器高1.8+cmを測る。黒茶色微粒子を僅かに含むがよく精練されている。内外面とも黒灰色、芯は明灰白色を呈し、焼成は良好。畿内産。外面には粘土紐跡があり、内面はやや粗いミガキCが施される。体部下小片。

石製品

石帯(3) 巡方。縦4.0cm、横3.75+cm、厚さ0.7cmを測る。両側から開けられた紐通しの穴のある裏面以外は全面に研磨が施される。ただし穴は貫通しておらず製品としては未完成品の可能性あり。埋没により表面の風化が激しい。石材は蛇紋岩の可能性が高い。

4SK055 (fig67)

金属製品

刀子(4) 最大長13.8cm(刃部11.4cm、柄部2.4cm)最大幅2.7cm(柄部2.0cm)最大厚0.6cmを測る。鉄製、暗濃茶褐色を呈す。柄部には木目が刀身に対して平行な木片が多く付着している。刃部は刀身に対して垂直になる木片と斜めになる木片が付着する。

石製品

用途不明製品(5) 最大長4.4cm、最大幅2.5cm、最大高3.5cmを測る。やや暗い灰褐色を呈す。滑石製の石鍋片に二次加工を施したものと考えられ、用途・目的は不明だがくびれた部分に全周する切れ込みが入る。

4SK070 (fig67)

須恵質土器

こね鉢(6・7) 6は残存器高3.5+cmを測る。胎土は0.5mm以下の砂粒、0.5～3mm程度の黒色粒を多少含むが精練されている。暗灰色を呈し、焼成・還元共に良好。口縁外面には黒色自然軸がかかる。7は復原口径28cm、残存器高2.2+cmを測る。胎土は0.5mm以下の砂粒、0.5～2mm程度の黒色粒を多量に含むやや粗い。暗灰色を呈し、焼成・還元共に良好。口縁部先端は僅かに自然軸がかかり黒褐色を呈す。どちらも口縁端部がほぼ立ち上がった形の口縁部～体部小片、東播系で荻野分類V群である。

国産陶器

天目椀(8) 復原口径13.5cm、残存器高3.0+cmを測る。素地は0.5mm程度の茶黒粒子をやや含み、淡白黄色を呈し緻密。釉は茶黒色、口縁端部のみ濃茶褐色を呈し、口縁部はごく薄く体部にかけては約0.5mm弱の厚さで施釉される。焼成は良好。口縁部～体部小片。瀬戸産。

4SK080 (fig67)

土質質土器

鍋(9) 復原口径36.8cm、残存器高6.8+cmを測る。胎土は0.5mm～2.0mm程度の砂粒・黒色粒を多く含み、やや粗い。内外面とも淡茶白色を呈し、外面は口縁部～体部上半までススが付着、内面の残存部下部は淡灰色を呈す。焼成はやや良好。内面口縁部下には粘土紐の縦ぎ目らしきものが確認できる。口縁部～体部上半約1/8残存。

4SK106 (fig67)

染付

皿(10) 残存器高1.55+cmを測る。素地は混入のない僅かに黄味を帯びた白色を呈し緻密。釉はにぶい光沢のある白濁釉、粘りが強く厚ぼったい。内外とも大きな貫入・気泡が入る。呉須は灰青色を呈し、焼成はやや不良。釉の白濁や厚ぼったいのは焼成が原因の可能性が高い。口縁部小破片。小野分類染付皿C群。

4SK118 (fig67)

土師器

小皿 a (11) 復原口径 9.8cm、器高 0.75cm、復原底径 8.9cm を測る。胎土は 0.1～0.5mm の砂粒を少し含むが精錬されている。暗橙色～橙褐色を呈し、焼成は良好。底部はイトネリで板状圧痕は確認できず、内底は不定方向ナデが確認できる。口縁部の歪みはナデ等の調整も確認できないので意図的なものではなく、成形後に落下等により歪みそのまま焼成されたものであろう。約 1/2 残存。

その他の遺構出土遺物

4SX008 (fig68)

土師器

煮沸具 (1) 残存器高 2.7cm を測る。胎土は 0.5～1mm の砂粒・茶褐色粒をやや多量に含み精錬されている。焼成はやや不良。口縁部小片で、外面にスガが付着する。

4SX015 (fig68)

中国陶器

壺 (2) 残存器高 3.2cm を測る。素地は 0.5mm 程度の白色砂粒を多量に含み、灰色を呈す。外面はやや暗い緑灰色を呈した釉に一筋の濃茶褐色の釉が垂れる。内面はやや白色味を帯びた淡灰褐色を呈す。薄く施釉されるため、凹凸が目立ち透明度は低い。焼成・還元共に良好。体部上半の耳部一体のみ残存。

4SX028 (fig68)

金属製品

釘 (3) 最大長 3.15cm、最大幅 1.05cm を測る。鉄製。断面方形で、先端は欠損している。有頭

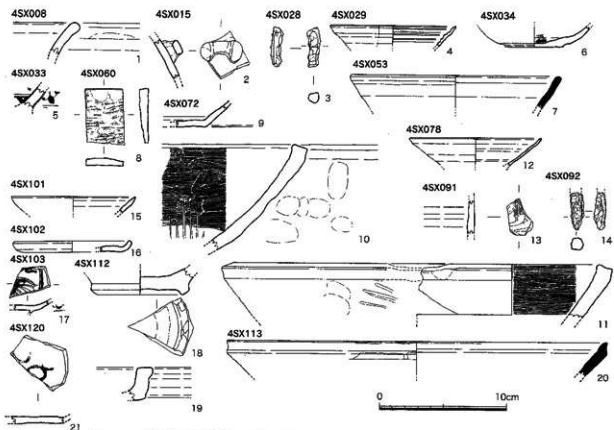


fig68 連歌屋遺跡第4次調査 その他遺構出土遺物実測図(1/3)

の可能性もあるが腐食により判別できない。

4SX029 (fig68)

土師器

小坏 b (4) 復原口径 9.9cm、残存器高 1.65+cm を測る。胎土は 0.5mm 程度の砂粒を少量含む精錬されている。淡茶白色～淡茶褐色を呈し、焼成は不良。残存は口縁部小片。

4SX033 (fig68)

元染付

碗 (5) 口縁部少破片で、残存器高 1.6+cm を測る。素地は 0.1mm 程度の黒色粒をわずかに含み、白淡灰色を呈す。釉調は多少黄味を帯びた透明釉で、呉須はごく薄い紺色～濃紺色を呈す。焼成は良好。体部下半～高台上端の小破片。

4SX034 (fig68)

土師器

坏 a (6) 残存器高 1.7+cm、復原底径 4.5cm を測る。胎土は 0.5～2mm の砂粒を少し、金雲母僅かに含む。外面は淡橙色～淡橙褐色を内面は淡白橙色～淡橙褐色を呈す。底部はイトキリで、板状圧痕は確認できない。底部～体部にかけて約 2/3 残存する。底部内面見込みにコゲ跡が確認できる。

4SX053 (fig68)

須恵質土器

碗 (7) 復原口径 16.7cm、残存器高 2.65+cm を測る。0.5～4mm 程度の砂粒、0.5～1mm の黒色粒を多量に含む緻密である。全体は灰褐色を呈し、口縁部のみ灰黒色を呈す。焼成・還元共に良好。口縁部～体部上半の小片。東播系で荻野分類 IV 群にあたるものか。

4SX060 (fig68)

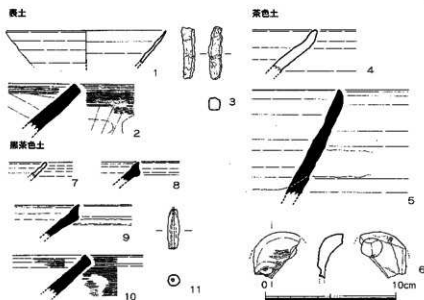


fig69 連歌屋遺跡第4次調査 土層出土遺物実測図 (1/3)

石製品

用途不明石製品 (8) 最大長 4.4cm、最大幅 3.15cm、最大高 0.75cm を測る。大きな工具によるケズリの痕跡が左～右に 3 回確認でき、一部工具の刃が深く食い込んだ箇所がある。碗の再加工作品の可能性もある。石材は頁石である。

4SX072 (fig68)

土師器

杯 b × a (9) 残存器高 1.6+cm を測る。胎土は茶色粒を僅かに含むのみで精錬されている。暗茶褐色を呈す。底部はイトキリで板状圧痕は確認できない。焼成は良好。底部～体部下半約

1 / 3 残存する。

土師質土器

摺り鉢(10) 残存器高 8.4+cm を測る。胎土は 0.5 ~ 3mm の砂粒を多く含む。内外面は暗褐色、芯は淡黒灰色を呈す。焼成は良好。内面にはハケ目調整の後摺り目が入られている。口縁部~体部中央まで残存。11 と同一個体の可能性がある。

摺り鉢×こね鉢(11) 復原口径 30.8cm、残存器高 4.2+cm を測る。胎土は 0.5 ~ 3mm の砂粒を多く含む。内外面は暗褐色、芯は淡黒灰色を呈す。焼成は良好。片口部半分を含む口縁部約 1 / 12 残存。

4SX078 (fig68)

土師器

環 b (12) 復原口径 10.4cm、残存器高 2.2+cm を測る。胎土は 0.1mm 程度の砂粒を僅かに含み精緻されている。淡橙白色を呈し、焼成は良好。口縁部~体部約 1/5 残存する。

4SX091 (fig68)

青白磁

瓶? (13) 残存器高 2.85+cm を測る。素地は 0.5mm 以下の白色粒・黒色粒を少量含む。釉調は外面が青味を帯びた白色を呈し、内面は透明釉である。施釉は外面がやや厚く、内面はごく薄い。外面には細かい貫入・気泡が多量に入っており、透明度は内外面どちらも高い。焼成・還元はともに良好。部位不明の小破片。

4SX092 (fig68)

金属製品

釘(14) 最大長 2.9cm、最大幅 0.95cm を測る。鉄製。断面はほぼ方形を呈すが扁平な印象を受ける。頭部側は欠損。

4SX101 (fig68)

土師器

小環 b (15) 復原口径 9.8cm、残存器高 1.2+cm を測る。胎土は 0.1 ~ 0.5mm の砂粒と黒色粒を僅かに含む。橙色~淡橙色を呈し、焼成は良好。口縁部小片。

4SX102 (fig68)

土師器

小皿 a (16) 復原口径 9.4cm、器高 0.88cm、復原底径 7.6cm を測る。胎土は 1mm 程の砂粒をごく僅かに含み精緻されている。淡橙白色~明橙色を呈し、焼成は良好。約 1 / 4 残存する。内底外側が凹み口縁部に向かい立ち上がっていく。底部外面の外側から 5mm ほどの範囲に黒色の付着物がある。

4SX103 (fig68)

明染付

皿(17) 残存器高 1.0+cm を測る。素地は 0.1mm 以下の黒色粒を少し含み、白色を呈し緻密。釉は多少青味を帯びた透明釉で、呉須は暗淡青色を呈す。焼成は良好。底部~体部にかけての小片。内面見込みの模様は「玉取獅子」で獅子の鬣の部分であろう。小野分類皿 B I - VII にあたる。

4SX112 (fig68)

青磁

壺(18) 残存器高 2.1+cm、復原底径 7.6cm を測る。素地は黒色粒・気泡を多少含み、淡灰色を呈す。釉は淡暗緑色をした透明釉。施釉されない場所はごく薄い橙褐色を呈す。焼成はやや良好。高台には目

跡がある。底部約1/6のみしか残存せず詳しい分類をすることはできない。

黒釉陶器

甕×壺(19) 残存器高2.6+cmを測る。素地は淡橙色を呈し緻密。釉調は暗黒色を呈す。焼成は良好。口縁部小片のみ残存。

4SX113 (fig68)

須恵質土器

こね鉢(20) 復原口径30cm、残存器高2.7cmを測る。胎土は0.1mm前後の砂粒・黒色粒を多少含む。濃灰色～灰色を呈し、焼成・還元共に良好。口縁部には黒色の自然釉がかかる。口縁端部がほぼ立ち上がった形の口縁部小片。東播系で荻野分類V群にあたる。

4SX120 (fig68)

土師器

環a×皿a(21) 残存器高0.6+cmを測る。胎土は0.1～1mmの砂粒を少し含み精練されている。内外面は淡橙白色、芯は淡灰白色を呈し、焼成はやや良。底部のみ約1/6残存し、磨耗により状態があまり良くないが、底部内面見込みに環状の墨書が確認できる。一部だけなので全体の姿は把握できない。

表土出土遺物 (fig69)

土師器

環b(1) 復原口径12.2cm、残存器高2.65+cmを測る。胎土は2mm程の砂粒を一個含むのみで精練されている。茶褐色を呈し、焼成は良好。口縁部約1/8残存する。

須恵質土器

鉢(2) 残存器高3.9+を測る。胎土は0.5～3mmの砂粒と0.5mm以下の黒色粒を多量に含む緻密である。口縁部～外面は黒灰色、内面・断面は灰褐色を呈し、焼成・還元共に良好。内面口縁部～外面はハケ目調整であるが、外面体部は不定方向のナデにより消されている。口縁部～体部上半の小片。

金属製品

釘(3) 最大長4.2cm、最大幅1.1cmを測る。鉄製。断面方形で、両端とも欠損する。腐食により一部空洞化している箇所がある。

茶色土出土遺物 (fig69)

土師質土器

鍋(4) 残存器高3.5+cmを測る。胎土は0.5～4mmの砂粒を多く含む粗い。外面は黄褐色、内面は黄褐色、芯は淡灰黒色を呈し、焼成は良好。口縁部小片である。

須恵質土器

こね鉢(5) 残存器高8.5+cmを測る。胎土は0.5～2mmの砂粒を多く含む緻密。体部は暗灰色を呈すが口縁部は赤茶色を呈す。焼成は良好だが、還元は口縁部がやや不良。口縁部～体部約1/12残存する。口縁から約7.5cmの箇所に粘土の縞目目確認できる。

土製品

人形(6) 縦3.75+cm、横3.45+cm、厚さ2.0+cmを測る。胎土は砂粒等を含まず緻密。淡橙白色を呈し、焼成は良好。内面に張り付く円形の粘土塊に針金を通してある。接合面には接合補助のためにキズが付けてある。頭部約1/2残存。おそらく「だるま法師」であろう。

黒茶色土出土遺物 (fig69)

土師器

皿×杯(7) 残存器高1.3+cmを測る。胎土は0.1～4mmの砂粒を多少含む。やや暗い橙色を呈し、焼成は良い。多少表面が磨耗している。口縁部小破片である。

須恵質土器

こね鉢(8・9) 8は残存器高1.65+cmを測る。胎土は0.1～2mmの砂粒を含む。淡灰白色を呈し、焼成・還元共に良好。9は残存器高2.55+cmを測る。胎土は0.1～2mmの砂粒を少し含み緻密である。暗灰色を呈し、焼成・還元共に良好。口縁部外面のみに黒色自然釉がかかり、重ね焼きの痕跡と考えられる。どちらとも口縁端部がやや立ち上がり気味の口縁部小片で、東播系で荻野分類IV群。

掘り鉢×こね鉢(10) 残存器高3.3+cmを測る。胎土は0.1～1mmの砂粒を多少含む。内外面は灰色、芯は灰白色を呈し、焼成・還元共に良好。口縁部小片である。内面口縁部から外面にハケ目調整が施されるが、外面は指頭圧成により薄くなっている。

土製品

土錘(11) 縦3.15cm、横0.92cm、厚さ0.91cm、重量2.7gを測る。胎土は約0.1mmの砂粒を僅かに含む。外面は淡灰白色、中心は灰黒色を呈し、焼成は良好。全体をナデで調整する。端部をわずかに欠くがほぼ完形である。(坂本)

5. 小結

今回の調査では狭い範囲ながら、遺構面を3面確認している。遺構第I面は鎌倉後期～室町前期の遺構群が顕著に見られる。調査区全域が盛り土造成され穴が密集しており、土坑に多くの土器が廃棄されている。調査区西部に位置する4SX090は遺構規模が不明確なために判断が困難だが、溝的要素が強いと考えている。明確な区画遺構は不明だが、I面の4SD030、4SD090、II面の4SD050など南北方向の溝が検出されていることは特徴であろう。

II面は調査区西部を中心に盛り土造成された生活面で13世紀代の穴が多く検出された。

III面は平安後期～末期の七坑、井戸などが検出された。4SE105は石組み井戸である。この面は盛り土なしで直接地面に掘り込まれており、連IのIII面と対応すると考えられる。桶型瓦器碗が出土していることは、天満宮周辺の平安末期土地利用を考える上で参考になるだろう。

出土銭貨だが4SX020から集中的に出土している。4SX045出土の可能性が高い永楽通寶2枚だが、調査時に4SD050として取り上げられているため、表へはそのまま記載した。(表37参照)大量の土器器投棄については、13世紀後半から14世紀後半にかけて行われており、周辺の状況と併せて今後考えていくべき課題であろう。(表38参照)

今回検出された遺構群は、太宰府天満宮の近世社家町形成前段階に当たる古代・中世宰府地域の理解を深められる資料と言える。(高橋)

はじめに

連歌屋遺跡では近世の遺構が多数確認されており、動物・貝などの動物依存体も多数出土している。そこで、今回は遺構の性格や当時の食生活に関する情報を得ることを目的とした自然科学分析調査を実施する。

以下に具体的目的別に結果を報告する。

I. X線回折分析

(1) 目的

対象とする遺構は、連歌屋遺跡第4次調査のS-65である。これらの底部にあたる土壌を対象に、X線回折分析を行い、土壌の鉱物組成を知る。特にS-65は、火熱を受けている可能性があるため、鉱物組成から焼土の焼成温度に関する情報を得ることを目的とする。

(2) 試料

以下に示す試料2点についてX線回折分析を行う。S-65については、試料名が同じものが2つ存在したため、NO.1、NO.2と名前をふった。また試料番号は、便宜上当社でつけたものである。

遺跡名	試料名
連歌屋遺跡第4次調査	C8区 S-65 960725 NO.1
連歌屋遺跡第4次調査	C8区 S-65 960725 NO.2

(3) 方法

105℃で2時間乾燥させた試料をメノウ乳鉢で微粉砕し、X線回折用アルミニウムホルダーに充填し、X線回折分析試料（無定方位試料）を作成した。作成したX線回折分析試料（無定方位試料）について以下の条件でX線回折分析を行った（足立、1980；日本粘土学会、1987）。

検出された物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回折線総合プログラム（五十嵐、未公表）により検索した。

装 置：島津製作所製 XD-3A

Target : Cu (K α)	Scanning Speed : 2 - /min
Filter : Ni	Chart Speed : 2cm/min
Voltage : 30KVP	Divergency : 1 -
Current : 30mA	Reclieving Slit : 0.3mm
Count Full Scale : 5.000C/S	Scanning Range : 5 ~ 45 -
Time Constant : 1.0sec	

(4) 結果および考察

結果を図70・71に示す。粘土を加熱していくと、種々の鉱物が生成し、あるいは逆に変態して消失する。このような粘土の性質を利用し、試料中にどの種の鉱物が存在するかをX線回折分析で調べることによって、焼成温度を推定する。たとえば、イライトは950℃までしか存在しないのでイライトの回折スペクトルが検

出されなかったならば950℃以上の焼成であり、さらに斜長石は1100℃までしか存在しないので斜長石の回折スペクトルが検出されたならば1100℃以下の焼成温度であると推定される。しかしながら、試料中の粘土は産地によって組成のバラツキが大きく複雑な粘土であり、温度による物理的科学的変化も至って複雑なものであるため、実際には対照試料を用いた焼成実験を行う必要がある。

今回の分析結果では、分析試料4点はいずれも類似した鉱物組成であり、石英 (quartz)、曹長石 (albite)、マイクロクリン (microcline)、クリストバライト (cristobalite)、イライト (illite)、パーミキュライト (vermiculite)、カオリン鉱物 (kaolin)、ギブサイト (gibbsite)、ゼオライト (zeolite) が検出された。

これら検出鉱物の消失温度は、カオリン鉱物 (kaolin) で600℃、パーミキュライト (vermiculite) で750℃、イライト (illite) で950℃、曹長石 (albite) で1100℃である。また、クリストバライト (cristobalite) は1200℃から

生成する。検出鉱物としてクリストバライト (cristobalite) が確認されているが、天然にも産することから焼成によって生成したとは考えられない。

このことから分析試料2点はいずれも600℃以下の焼成温度であると推定されるが、これらは現時点での鉱物組成から推定した焼成温度であり、粘土鉱物の可逆的変化は考慮されていないことを明記しておく。

X線回折分析に限らず、焼成温度の推定法はいまだ系統的な手法が確立されておらず、今後の検討課題とした。

<引用文献>

- 足立吟也 (1980) 「6章 粉末X線回折法 機器分析のてびき3」 p.64-76、化学同人
 日本粘土学会編 (1987) 「粘土ハンドブック 第二版」 p.1289、技報堂出版
 東村武信 (1990) 「改訂考古学と物理化学」 p.171-184、学生社

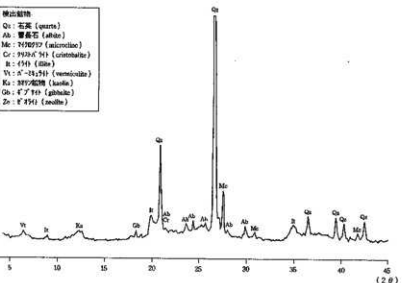
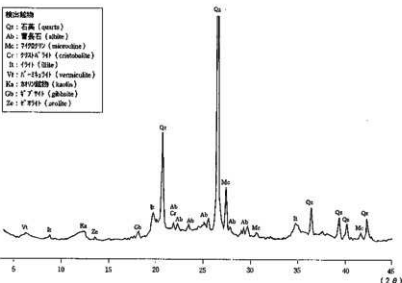


fig70 連歌館遺跡第4次調査試料 NO.1 (上図)、fig71 NO.2 (下図) のX線回折図

表 34 連歌屋4次調査 遺構一覧(1)

S番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
1		土坑	灰褐色土		近世～	I	B2
2		小穴	灰褐色土			I	B2
3		土坑	灰褐色土	S-35→S-3		I	B3
4		小穴	黄灰色土			I	B3
5		土坑	灰褐色土	S-19→S-5	XV Ⅲ～	I	B3
6		小穴	黄灰色土	S-19→S-6		I	B3
7		小穴	黄灰色土	S-12・8→S-7		I	B3
8	45X008	溜まり	暗黒色土	S-8→S-7		I	B3
9		小穴	灰褐色土(炭塵じり)			I	B3
10		小穴	灰褐色土			I	B3
11		小穴	黄灰色土			I	B3
12		土坑	暗褐色土	S-12→S-5・S-7		I	B3
13		土坑	灰褐色土			I	B5
14		土坑	灰褐色土			I	B6
15	45X015	小穴	黄灰色土			I	B3
16		小穴	暗褐色土			I	B5
17		土坑	灰褐色土	S-32→S-17		I	B5
18		小穴	灰褐色土	S-32→S-18		I	B5
19		土坑	暗褐色粘	S-19→S-5・S-6		I	B3
20	45X020	小穴	暗褐色土	S-20→S-21		I	B4
21		小穴群	灰褐色土	S-20→S-21		I	BC4
22		小穴群	灰褐色土			I	C4
23		小穴	灰褐色土	S-24→S-23		I	B4
24		土坑	灰褐色土	S-52→S-24→S-23	近世～	I	B4
25	45X025	土坑	茶褐色土	S-25→S-36・S-38	XV Ⅲ～	I	C6
26		小穴	暗褐色土		中世～	I	C5
27		小穴群	灰褐色土	S-27→S-31	近世～	I	C5
28	45X028	小穴群			中世～	I	C5
29	45X029	小穴群			中世～	I	B5
30	45D030	溝状遺構	黒色土混入茶色土	S-29→S-28		I	B5
31		小穴群		S-27→S-31		I	BC4
32		小穴群		S-32→S-17		I	C5
33	45X033	小穴群		S-38・S-41→S-33		I	B5
34	45X034	小穴群			中世後	I	C6
35		溝か?	黄灰色土	S-35→S-3		I	AB2～3
36		小穴群	黒茶色土	S-25→S-36	XV Ⅲ～XX	I	C6
37		小穴群	黒茶色土			I	B6
38		小穴群	黒褐色土	S-38→S-33	中世	I	B6
39		小穴群		S-48→S-39	XIX～XX	I	C6
40		整地	黒褐色土	S-40→S-15・S-51		I	B3
41		溜まり状遺構		S-41→S-33		I	B6
42		溜まり状遺構				I	B6
43		土坑		S-44→S-43		I	C5
44		土坑		S-44→S-43		I	C5
45	45X045	土坑×墓	黒茶色土	S-45→S-50		Ⅱ	AB3
46		小穴		S-113→S-46→S-73	中世	I	B6
47		小穴	茶色土		中世	I	B5

表 35 連歌屋4次調査 遺構一覧(2)

S番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
48		溜まり状遺構	茶色土			I	C6
49		小穴群	茶色土	S-49 → S-39		I	C6
50	4SD050	溝	暗茶色土	S-50 → S-10		I	B3
51		小穴	黒茶色土			I	B3
52		溜まり状遺構	暗茶色土	S-52 → S-20・S-24	中世	I	C4
53	4SX053	溜まり状遺構	暗茶色土		中世	I	C6
54		土坑	暗茶色土	S-54 → S-1		I	B2
55	4SK055	土坑	黒茶色土	灰白色土ブロック覆入暗茶色土		Ⅲ	B3
56		小穴群	暗茶黒色土			I	C6
57		小穴群	暗茶黒色土	S-57 → S-31		I	C5
58		小穴群	茶色土			Ⅲ	B3
59		小穴群	茶色土			Ⅲ	B6
60	4SX060	溜まり状遺構	茶色土			Ⅲ	B3
61		小穴	茶色土	S-61 → S-57		Ⅲ	C5
62		小穴	茶色土			Ⅲ	B3
63		小穴				I	C5
64		土坑	暗茶色土	S-7 と同一か		Ⅲ	B3
65	4SX065	土坑	明成赤黄色粘質土	S-90 → S-65		I	C8
66		小穴群	暗茶色土	S-90 → S-66	中世～近	I	C8
67		小穴	暗茶色土	S-90 → S-78 → S-67		I	C8
68		溜まり状遺構	茶褐色土	S-68 → S-66		I	D9
69		小穴	黄灰色土			I	C8
70	4SK070	土坑	黄灰色土	S-101 → S-80 → S-70	～中世	I	B7
71		溜まり状遺構	黄灰色土	S-75 → S-71	～中世	I	B7
72	4SX072	溜まり状遺構	黄灰色土	S-76 → S-72	～近世	I	B7
73		小穴	黄灰色土	S-74 → S-73	～中世	I	C7
74		小穴	黄灰色土	S-74 → S-73	～中世	I	C7
75		土坑	黄灰色土	S-80 → S-75 → S-71		I	B7
76		溜まり状遺構	暗茶色土		～近世	I	B7
77		小穴	黄灰色土		～中世	I	B8
78	4SX078	溜まり状遺構	茶灰色土(鐵泥じり)	S-78 → S-67	近世	I	C8
79		溜まり状遺構	黄灰色土	S-79 → S-81		I	CD7
80	4SK080	土坑	暗茶色土	S-80 → S-70・S-75	～中世～	I	B7
81		溜まり状遺構	暗茶色土	S-79 → S-81	中世～	I	C7
82		小穴	暗茶色土		中世～	Ⅲ	C7
83		小穴	暗茶色土		中世～	I	D9
84		小穴	暗茶色土			I	D8
85		土坑	淡灰黄色砂質土		～中世～	I	B7
86		小穴	暗茶色土	S-97 → S-86	中世	I	C6
87		土坑	暗茶色土	S-88 → S-87		I	B7
88		小穴	暗茶色土	S-88 → S-87		Ⅱ	B7
89		土坑	暗茶色土	S-111 → S-89		I	B7
90	4SD090	溝	暗茶色土(角礫含む)	S-90 → S-78・S-84	中世～近	J	B～D8
91	4SX091	小穴群		S-101 → S-91	中世～	I	B8
92	4SX092	小穴	茶褐色土		～中世	Ⅱ	C7
93		小穴群	暗茶色土	S-104 → S-93 → S-74	中世～	Ⅲ	C7
94		小穴	暗茶色土	S-96 → S-94	中世～	Ⅲ	C7

表 36 連歌屋 4 次調査 遺構一覽 (3)

S番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
95		土坑	黄茶色土	S-100 → S-95	～中世	Ⅲ	C8
96		小穴	黄茶色土	S-96 → S-94	中世～	Ⅱ	C7
97		小穴	黄茶色土	S-97 → S-86	中世	I	C6
98		小穴群	暗灰色土	S-98 → S-76	中世～	I	B7
99		小穴	暗茶色土	S-100 → S-99 → S-109		Ⅲ	B7
100	4SE100	井戸	灰茶色土	S-100 → S-99・101・102 S-100 → S-95		Ⅲ	B7～C7
101	4SX101	小穴群	暗茶色土	S-101 → S-91	～中世	Ⅱ	B7
102	4SX102	小穴	明黄灰色土	S-102 → S-59	～中世	Ⅱ	B8
103	4SX103	小穴	明黄灰色土		～近世	I	C7
104		小穴群	暗灰色土		～近世	I	C7
105	4SE105	井戸	茶褐色土	S-118 → S-105	～中世	Ⅲ	D8
106	4SK106	土坑	黒黄色土	S-107 → S-106	中世～近世	Ⅲ	C7
107		小穴群	暗茶色土	S-107 → S-108	中世～	Ⅲ	C7
108		土坑	暗茶色土	S-108 → S-94・S-107	中世～	Ⅲ	C7
109		小穴群	暗茶色土		中世～	I	C8
111		小穴群	暗茶色土	S-111 → S-89		I	B7
112	4SX112	小穴群	暗茶色土	S-72 → S-112	中世	I	C7
113	4SX113	小穴群	暗茶色土	S-113 → S-46 → S-72	～近世	Ⅲ	BC7
114		小穴	茶黄色土			Ⅲ	D7
115		土坑	暗茶色土	S-115 → S-104	中世～	Ⅲ	C7
116		小穴	暗茶色土	S-117 → S-116	～中世	I	C7
117		土坑	暗茶褐色土	S-117 → S-116	12～13c	I	C7
118	4SK118	土坑	暗茶色土	S-118 → S-105	中世～	Ⅲ	C8
119		土坑群	淡茶色土	S-99 → S-119		Ⅲ	B7
120	4SX120	溜まり状遺構	黒色土	S-120 → S-107 → S-106	～中世	Ⅲ	C6・C7
121		土坑	暗茶色土		近～現代	Ⅲ	B7
122		溜まり状遺構	淡黄色土	S-122 → S-120	中世～	Ⅲ	C7
123		溜まり状遺構		S-123 → S-107・94		Ⅲ	B7

表 37 連歌屋遺跡第 4 次調査 出土銭貨計測表

出土銭貨計測表

※ 銭貨分類は、次の文献を参照した。

永井久美子『日本出土銭総覧』1996年度版 兵庫埋蔵銭調査会 1996

連歌屋遺跡第 4 次調査

※ 径の単位は cm、重さの単位は g。

番号	遺構名	地区 番号	銭貨名	天地 外径	天地 内径	左右 外径	左右 内径	厚さ (最大)	重量	備考
a001	S-20	B4	聖宋元寶 (行書)	2.53	1.95	2.50	2.00	0.15	—	欠損
a002	S-20	B4	開元通寶	2.48	2.09	2.47	2.00	0.16	3.0	
a003	S-20	B4	不明	—	—	—	—	—	—	欠損 皇宋通寶?
a004	S-20	B4	不明	—	—	—	—	—	—	欠損 宋通元寶?
a005	S-20	B4	不明	—	—	—	—	—	—	破片
a006	S-20	B4	不明	—	—	—	—	—	—	破片
a007	S-20 (1)	B4	元祐通寶 (篆書)	—	—	2.45	2.06	0.13	—	欠損
a008	S-20 (2)	B4	景徳元寶	—	—	—	—	—	—	欠損
a009	S-20 (3)	B4	皇宋通寶 (篆書)	—	—	—	—	—	—	欠損
a010	S-20 (4)	B4	不明	—	—	—	—	—	—	破片
a011	S-50	B3	永楽通寶	2.53	2.02	2.52	2.06	0.20	—	破片
a012	S-50	B3	熙寧口寶 (真書)	—	—	2.48	2.05	0.16	—	欠損
a013	S-50	B3	皇宋通寶 (篆書)	2.53	2.06	2.50	2.10	0.15	—	欠損
a014	S-50	B3	永楽通寶	—	—	—	—	—	—	欠損
a015	S-50	B3	永楽通寶	2.50	2.07	2.53	2.10	0.19	—	欠損
a016	黒茶色土	B7	紹聖元寶	2.40	1.80	2.40	1.80	0.15	3.9	

表 38 連歌屋 4次調査 出土遺物計測表

A: 内径寸法, B: 板状口幅, *: 測定径

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	12.8 *	2.95	8.8 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-002	12.9 *	2.7	8.5 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-003	12.60	2.6	7.2	イト	○	×
土師器	埴a	a-004	12.80	2.65	8.7	イト	○	○
土師器	埴a	a-005	12.7 *	2.6	8.4	イト	○	○
土師器	小皿a	a-001	8.2 *	1.15	6.4 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-002	8.3 *	1.4	6.4 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-003	8.00	1.55	5.4	イト	○	○
土師器	小皿a	a-004	8.40	1.1	8.5	イト	○	○
土師器	小皿a	a-005	8.20	1.0	6.0	イト	○	○
土師器	小皿a	a-006	8.40	1.6	6.2	イト	○	○

S-25

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	12.30	2.45	8.8	イト	○	○
土師器	埴a	a-002	12.50	2.5	9.2	イト	○	○
土師器	埴a	a-003	12.40	2.8	8.6	イト	○	○
土師器	埴a	a-004	13.10	2.6	9.4	イト	○	○
土師器	埴a	a-005	13.00	2.55	9.6	イト	○	○
土師器	埴a	a-006	12.50	2.65	8.6	イト	○	○
土師器	埴a	a-007	13.00	2.6	8.6	イト	○	○
土師器	小皿a	a-001	8.20	1.2	6.9	イト	○	○
土師器	小皿a	a-002	8.3 *	1.65	7.0 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-003	8.10	1.35	5.9	イト	○	○
土師器	小皿a	a-004	8.40	1.2	7.9 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-005	8.80	1.05	5.5	イト	○	○
土師器	小皿a	a-006	8.00	1.4	5.8	イト	○	○
土師器	小皿a	a-007	8.00	1.3	6.2	イト	○	○
土師器	小皿a	a-008	8.40	1.1	9.6	イト	○	○
土師器	小皿a	a-009	8.40	1.1	6.4	イト	○	○
土師器	小皿a	a-010	8.20	1.3	6.4	イト	○	○
土師器	小皿a	a-011	7.80	1.2	6.0	イト	○	○
土師器	小皿a	a-012	8.20	1.45	5.4	イト	○	○
土師器	小皿a	a-013	8.10	1.05	6.6	イト	○	○
土師器	小皿a	a-014	8.00	1.15	6.6	イト	○	○
土師器	小皿a	a-015	7.8 *	1.5	5.8 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-016	7.80	1.35	6.0	イト	○	○
土師器	小皿a	a-017	8.20	1.2	6.4	イト	○	○
土師器	小皿a	a-018	8.40	1.4	6.8	イト	○	○
土師器	小皿a	a-019	8.0 *	1.15	6.6	イト	○	○

S-50

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	13.2 *	2.75	9.0 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-002	12.4 *	2.3	8.4 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-003	13.0 *	2.6	8.5 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-004	12.4 *	2.75	8.2 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-005	13.00	2.3	11.0	イト	○	○
土師器	埴a	a-006	12.10	2.45	9.2	イト	○	○
土師器	埴a	a-007	12.60	2.6	9.0	イト	○	○
土師器	小皿a	a-001	7.6 *	1.1	5.8 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-002	8.4 *	1.25	6.0 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-003	8.0 *	1.65	5.4 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-004	8.2 *	1.2	7.0 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-005	8.20	1.4	6.2	イト	○	○
土師器	小皿a	a-006	8.20	1.15	6.0	イト	○	○

S-55

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	11.60	2.85	6.8	イト	○	○
土師器	埴a	a-002	13.20	2.85	8.0	イト	○	○
土師器	埴a	a-003	12.00	3.05	6.0	イト	○	○
土師器	埴a	a-004	12.40	2.8	9.0	イト	○	○
土師器	小皿a	a-001	7.90	1.25	6.0	イト	○	○
土師器	小皿a	a-002	8.10	1.5	5.9	イト	○	○

S-60

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	12.8 *	2.7	8.8 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-002	13.2 *	2.5	9.8 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-003	13.40	2.95	8.8	イト	○	○
土師器	埴a	a-004	12.5 *	3.0	8.4 *	イト	○	○
土師器	埴a	a-005	12.80	2.55	8.5	イト	○	○
土師器	埴a	a-006	13.00	2.85	8.2	イト	○	○
土師器	埴a	a-007	12.90	2.15	9.8	イト	○	○
土師器	埴a	a-008	13.00	2.2	9.0	イト	○	○
土師器	埴a	a-009	12.80	2.9	8.5	イト	○	○
土師器	埴a	a-010	12.90	3.05	8.4	イト	○	○
土師器	小皿a	a-001	7.5 *	1.05	5.3 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-002	8.2 *	1.15	6.4 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-003	8.30	1.55	5.3	イト	○	○
土師器	小皿a	a-004	8.20	1.1	6.4	イト	○	○
土師器	小皿a	a-005	8.00	1.1	6.4	イト	○	○

S-105 黄カツ土

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	15.80	3.5	11.0	イト	○	○
土師器	埴a	a-002	15.8 *	2.95	10.4 *	イト	○	○

S-105 黒カツ土

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	15.60	2.95	11.2	ヘア	○	×
土師器	丸底埴a	a-001	15.8 *	2.7	-	ヘア	○	○
土師器	丸底埴a	a-002	15.0 *	2.9	-	ヘア	○	○
土師器	小皿a	a-001	10.1 *	1.4	6.0 *	ヘア	○	○
土師器	小皿a	a-002	9.4 *	1.15	6.4 *	イト	○	○
土師器	小皿a	a-003	9.4 *	1.1	6.8 *	ヘア	○	○
土師器	小皿a	a-004	9.2 *	1.25	6.8 *	ヘア	○	○
土師器	小皿a	a-005	9.70	1.6	6.3	ヘア	○	○

S-105 赤カツ土

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	小皿a	a-002	9.50	1.65	6.7	ヘア	○	○

S-105 粘滑茶粘質土

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	15.00	3.1	10.8	イト	○	○
土師器	丸底埴a	a-001	15.60	3.6	-	ヘア	○	○
土師器	丸底埴a	a-002	15.20	3.55	-	ヘア	○	○
土師器	小皿a	a-001	9.9 *	1.2	6.8 *	ヘア	○	○
土師器	小皿a	a-002	9.7 *	1.15	6.6 *	ヘア	○	○

S-105 雑漆粘質土

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	15.20	3.35	10.8	ヘア	○	○
土師器	丸底埴a	a-001	15.80	3.55	-	ヘア	○	○
土師器	丸底埴a	a-002	15.80	2.85	-	ヘア	○	○
土師器	小皿a	a-001	9.8 *	1.45	6.2 *	ヘア	○	○
土師器	小皿a	a-002	8.8 *	1.5	6.4	イト	○	○

S-114

種別	器種	番号	口径	器高	底径	底部	A	B
土師器	埴a	a-001	16.0 *	2.7	12.0 *	イト	○	○

表 39 連歌屋 4 次 遺物一覧表 1

S-1		S-17	
土 師 器	小皿 a	須 恵 器 樂	
瓦 瓶	鏡片 (いぶし瓦)	土 師 器	环、瓶 c
S-2		土 師 器	環、破片
瓦 瓶	鏡片 (丸瓦)	瓦 瓶	破片
S-3		S-18	
土 師 器	环 a(イト)、小皿 a2	土 師 器	环 a(イト)
国 産 陶 器	おろし皿、鉢	S-19	
瓦 瓶	平瓦 (いぶし瓦)	土 師 器	环 a(イト)、小皿 a(イト)
S-4		S-20 陶茶色土	
土 師 器	环、小皿	須 恵 器 樂	
瓦 質 土 器	壺	土 師 器	小皿 a(イト)
瓦 瓶	破片	国 産 陶 器	壺 (瓶入?)
S-5		白 磁 瓶	横: I X II (1)
土 師 器	环 a(イト)、小皿 a(イト)	S-21	
土 師 質 土 器	甕、湯瓶	土 師 器	横 c
S-6		黒色土器 B	横
土 師 器	环 a(イト)	瓦 瓶	破片
S-7		そ の 他	炭化物
土 師 器	小皿 a(イト)	S-22	
瓦 瓶	破片	土 師 器	环 a (イト、油磨付物)、小皿 a (イト)
瓦 瓶	丸瓦	瓦 瓶	破片
S-8		S-23	
土 師 器	小皿 a(イト)	土 師 器	环 a (イト)、丸部环 (灰付物)
土 師 質 土 器	甕、湯瓶	国 産 陶 器	壺: III 群 (1)
S-9		瓦 瓶	破片
土 師 器	环 a(イト)	S-24	
土 師 質 土 器	甕、湯瓶	土 師 器	环 a (イト)、小皿 a(イト)
S-10		須 恵 質 土 器	こむ鉢
土 師 器	环 a(イト)、小皿 a(イト)、小皿 b(イト)、小皿 c	国 産 磁 器	磁付
須 恵 質 土 器	こむ鉢	瓦 瓶	破片 (いぶし瓦)
瓦 質 土 器	壺	そ の 他	炭化物
瓦 瓶	平瓦 (格子印)	S-25	
S-11		須 恵 器 樂	
須 恵 器 樂		土 師 器	环 a (イト)、小皿 a(イト)、小皿 c
土 師 器	小皿 a(イト)	瓦 瓶	横 (瓶入)
土 師 質 土 器	甕、湯瓶	龍泉窯系青磁	部: 破片 (1)
瓦 瓶	破片	阿波窯系青磁	部: 破片 (1)
S-12		瓦 瓶	部: I -Ib (1)
土 師 器	环 a (イト)、小皿 a(イト)、环 c x 小皿 c(イト)	瓦 質 土 器	壺
龍泉窯系青磁	横: I -4b (1)	瓦 瓶	丸瓦 (格子印)、平瓦
土 師 質 土 器	甕、湯瓶	石 製 品	石磨
S-13		S-26	
土 師 器	小皿 a(イト)	土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)
S-14		瓦 瓶	丸瓦 (格子印)
土 師 器	环 a (イト)、小皿 a(イト)	S-27	
S-15		土 師 器	环 a (イト)
土 師 器	环、小皿 a(イト)、小皿 c	S-28	
黒色土器 A	横 c	須 恵 器 樂	破片
土 師 質 土 器	甕、湯瓶	土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)、小皿 b(イト)
中国 陶 器	壺; 磁器、破片	土 師 質 土 器	甕、湯瓶
瓦 瓶	磁器; 破片	金 属 製 品	鉄釘
S-16		瓦 瓶	丸瓦 (格子印)
土 師 器	小皿 a(イト)	S-29	
		須 恵 器 樂	供養具
		土 師 器	环 a (イト)、环 b、小皿 a (イト)、小皿 c
		土 師 質 土 器	甕、湯瓶
		瓦 瓶	破片

表 40 連歌屋 4 次 遺物一覧表 2

S-30	土 師 器 埴 土 師 質 土 師 類	S-47	上 師 器 埴 a (イト、流磨付着)、小皿 a (イト) S-48 土 師 器 伊藤貝磁片
S-31	須 恵 器 罌 土 師 器 埴 a (イト)、丸底埴 a、埴 c、流磨具 黒色土器 B 埴 土 師 質 土 師 すり鉢 白 磁 埴: V-1 (1) 瓦 類 磁片 (1)	S-49	十 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト)、丸底埴、流磨具 瓦 類 埴 白 磁 磁器: 磁片 (1) 瓦 製 品 埴石
S-32	土 師 器 埴、小皿、埴×奥	S-50	須 恵 器 罌 土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト)、小皿 b (イト)、罌 徳島県系青磁 埴: IIb (1) 瓦 質 土 師 埴、火鉢 国 産 陶 器 罌、罌 (徳島×流磨) 白 磁 埴: 磁片 (1) 磁 器: 合子身 (1)、合子蓋 (1)、磁片 (1) 赤×水注 (1)、赤×水注 (徳島) (1) 滑 白 磁 合子蓋 (1)、磁片 (1) 金 属 製 品 磁塊 瓦 類 磁片 (埴子明) そ の 他 炭化物
S-33	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト)、小皿 b (イト)、流磨具 埴付 (輸入) 埴 (1) 石 製 品 埴石 瓦 類 平瓦	S-51	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト)、埴 c 土 製 品 焼土塊 瓦 類 丸瓦、平瓦
S-34	土 師 器 埴 a (イト)、埴 b (イト)、小皿 a (イト)	S-52	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト) 輸入 埴 器 割形系無釉陶器
S-35	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト)、丸底埴、埴 c、流磨具 白 磁 埴: 埴 (1)、磁片 (1) 瓦 類 丸瓦	S-53	上 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (へう)、丸底埴 (へう) 瓦 類 磁片 須 恵 質 土 師 埴 (流磨系)、埴 国 産 陶 器 磁器不埴 (1) 国 産 磁 器 近世磁器 (輸入) 白 磁 埴: IV (1)
S-36	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト) 白 磁 埴: 磁片 (1)	S-54	土 師 器 埴 a
S-37	土 師 器 埴×小皿 (イト)	S-55	上 師 器 埴 a (イト)、埴 (流磨付着)、小皿 a (イト) 徳島県系青磁 埴: I+IIb (1) 土 師 質 土 師 類 国 産 陶 器 埴 白 磁 埴: V-2b (1) 中 西 陶 器 罌: 磁片 (1) 徳島県: 埴 II-1 ④ 石 製 品 埴石加工品 そ の 他 炭化物
S-38	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト) そ の 他 炭化物	S-56	土 師 器 磁片
S-39	土 師 器 小皿 a (イト)、小皿 b (イト)、丸底埴 黒色土器 A 埴 c 徳島県系青磁 埴: I+4a (1)、I+4 b (1)、IIb (1)、磁片 (1) 瓦 類 磁片	S-57	土 師 器 丸底埴、流磨具
S-40	土 師 器 小皿 a (イト)、埴 c	S-58	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a1 (イト) 瓦 類 磁片
S-41	土 師 器 伊藤貝磁片	S-59	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a1 (イト) 瓦 類 丸瓦 (埴子明)
S-42	土 師 器 伊藤貝磁片	S-46	土 師 器 埴 a (イト)、小皿 a (イト)、丸底埴
S-43	土 師 器 埴、小皿 a1 (イト) 白 磁 埴: 磁片 (1) 中 西 陶 器 他磁器: VII (1)、磁片 (1) 瓦 類 磁片		
S-44	土 師 器 埴 a (イト)、流磨具 瓦 類 磁片 (埴子明)		
S-45	土 師 器 小皿 a (イト)、流磨具		

表 41 連歌屋 4 次 遺物一覧表 3

S-60

土 師 器	环 a (イト、施磨付着)、小皿 a (イト)、小皿 b (イト)
黒色土器 A	碗 c
陶器関係青磁	碗: II b (1)、I-4a × b (1)
土師質土器	皿
瓦 瓦 器	瓦
白 磁 器	碗: IV (1)、V-1 (1)、VIII? (1)
中国陶器	鉢: 未分類 (1)
石 製 品	硯
瓦 瓦 類	丸瓦 (格子印)、破片 (格子印)

S-61

土 師 器	供養具
瓦 瓦 類	平瓦、破片 (文字瓦)

S-62

土 師 器	环 a (イト、施磨付着)、小皿 a (イト)、黒陶皿
そ の 他	炭化物

S-63

そ の 他	漆
-------	---

S-64

土 師 器	供養具
-------	-----

S-65

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)
白 磁 器	碗: II (1)
瓦 瓦 類	破片

S-67

土 師 器	小皿
-------	----

S-68

黒色土器	破片
土 師 器	环 a (イト)、小皿 b (イト)、碗 c
黒色土器 A	破片
同安焼系青磁	碗: 破片 (1) 皿: I-1a (1)
白 磁 器	漆色: 破片 (1)
中国陶器	他器種: 破片 (3)
石 製 品	碇石
瓦 瓦 類	破片

S-69

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a1 (イト)、碗 c
瓦 瓦 類	瓦
土師質土器	皿
白 磁 器	碗: 破片 (1)

S-70

須 恵 器 類	
土 師 器	环 a (イト)、小皿 a1 (イト、へう (記入))、大皿 c
熊谷焼系青磁	碗: 破片 (1)
土師質土器	皿
須恵質土器	こね鉢 (康徳系)
漆	戸 天目輪
白 磁 器	碗: VI-1a (1)、破片 (1)
中国陶器	茶: 破片 (1)
瓦 瓦 類	丸瓦 (格子印)、平瓦 (格子印)

S-71

土 師 器	丸底环 a (へう)
瓦 瓦 類	瓦
白 磁 器	碗: V-4 (1)
	皿: VII (1)
瓦 瓦 類	平瓦 (格子印)、二瓦格字印

S-72

須 恵 器 類	
土 師 器	环 a (イト)、环 b (イト)
土師質土器	陶鉢、皿
白 磁 器	碗: IV (1)
瓦 瓦 類	皿: 破片 (1)
瓦 瓦 類	平瓦

S-73

須 恵 器 類	破片
土 師 器	环 a (イト)、小皿 a1 (イト)
黒色土器 B	破片
瓦 瓦 類	破片
白 磁 器	漆色: 破片 (2)
中国陶器	鉢: IV-1 (1)
瓦 瓦 類	破片

S-74

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a1 × b (イト)
土師質土器	漆器皿
須恵質土器	破片
白 磁 器	碗: II (1)
中国陶器	他器種: 破片 (1)

S-75

土 師 器	环 a (イト)
黒色土器 B	碗
白 磁 器	碗: V-1 (1)
	漆色: 破片 (1)
中国陶器	他器種: 盤 (1)
瓦 瓦 類	平瓦 (格子印)

S-76

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a1 (イト)、小皿 b (イト)
土師質土器	漆器皿
須恵陶器	破片
瓦 瓦 類	破片
そ の 他	炭化物

S-77

須 恵 器 類	漆
土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (イト)、碗 c
中国陶器	他器種: 破片 (1)

S-78

土 師 器	环 a (イト)、环 b、小皿 a1
須恵陶器	漆
白 磁 器	漆色: 破片 (1)
中国陶器	他器種: 破片 (1)
瓦 瓦 類	平瓦

S-79

土 師 器	环 a (イト)
瓦 瓦 類	平瓦 (格子印)

S-80

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a1 (イト)
土師質土器	皿
須恵質土器	こね鉢
白 磁 器	碗: 破片 (1)
瓦 瓦 類	丸瓦

S-81

土 師 器	环
-------	---

S-82

土 師 器	环 a (へう、イト)、小皿 a × b (イト)
-------	---------------------------

S-83

土 師 器	环 a (イト)
-------	----------

S-84

土 師 器	供養具
-------	-----

表 42 連歌屋 4次 遺物一覧表 4

S-85

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
同安楽系青磁	梅: I (1)
白 磁	皿: I (3)
中国陶器	他器種: 籠 (4)

S-86

土 師 器	环a(イト)
同安楽系青磁	梅: I4a × b (1)
瓦 類	磁片 (1)

S-87

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
-------	----------------

S-88

土 師 器	供養具(イト)
-------	---------

S-90 明系褐色漆

土 師 器	环a(イト)、小皿a1(イト)、調付环(イト)、唐酒具
龍泉窯系青磁	梅: I:b (2)、磁片 (3)
白 磁	皿: I (1)
他器種	磁片 (2)
同安楽系青磁	梅: I (1)
須恵貫土器	こむ鉢(奥博系)
瓦 貫 土 器	こむ鉢×御鉢
白 磁	梅: V (1)、磁片 (1)
他器種	皿: VI (1)、IX-1a (1)
漆器	漆片 (2)
中国陶器	他器種: 壺目-1 (1)、首×裏 (1)、磁片 (1)
石 製 品	横石、碁石、磨石製品
瓦 類	軒平瓦、磁片 (磁子甲)

S-90 茶褐色漆

土 師 器	环a1(イト)、小皿a1(イト)、小皿b(イト)
龍泉窯系青磁	梅: I4b (1)、I (1)、皿 (1)、IV (1)
他器種	IV-2 (2)
他器種	环 III-2 × 3a (1)
同安楽系青磁	梅: I (1)
他器種	皿: I2b (1)
土 師 貫 土 器	赤典具
須恵貫土器	こむ鉢
瓦 貫 土 器	厚鉢、火鉢
磁 産 陶 器	磁片
白 磁	梅: IV (4)、V (2)、VI-2 (1)、VIII (1)
他器種	VI ~ VIII (1)、未分類 (1)、磁片 (3)
他器種	皿: II (1)、VI (1)、IX (1)
漆器	漆片 (1)
中国陶器	漆片 (5)
他器種	壺目-1 (1)、壺 (6)、首×裏 (1)
他器種	壺×鉢 (1)、磁片 (3)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器 (2)、朝鮮系無釉陶器 (1)
石 製 品	碁石
瓦 類	平瓦 (「安楽寺」焼瓦)、丸瓦、磁片

S-90 淡紫色土

土 師 器	环a(イト)、小皿a、梅c
土 色 土 器 B	梅c
瓦 類	磁片
白 磁	梅: IV (1)、V-1 (1)
瓦 類	皿: II-4a (1)

S-90 増茶色磁漆

土 師 器	环a(イト)、小皿a1(イト)
瓦 貫 土 器	火鉢
白 磁	梅: 磁片 (1)
瓦 類	磁片 (磁子甲)

S-90 増茶褐色漆

土 師 器	环a(イト)
土 色 土 器 B	梅
瓦 貫 土 器	梅
白 磁	皿: VI × VIII (1)
中国陶器	他器種: 磁片 (1)
瓦 類	丸瓦 (磁子甲)
その他	コンクリート片

S-91

須 恵 器	磁片
土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
須 恵 貫 土 器	鉢
青 白 磁	磁片 (増茶? 1)
瓦 類	磁片

S-92

土 師 器	环、小皿
瓦 類	梅
白 磁	梅: 磁片 (1)
塗 装 製 品	鉄製品

S-93

土 師 器	环
-------	---

S-94

土 師 器	供養具
-------	-----

S-95

土 師 器	环a(イト)、小皿a1
土 師 貫 土 器	鉢
須 恵 貫 土 器	磁片
白 磁	梅: IV (1)
瓦 類	丸瓦

S-96

土 師 器	供養具(イト)
-------	---------

S-97

土 師 器	小皿a(イト)
中国陶器	皿: 磁片 (1)

S-98

土 師 器	丸盛环a(へう)、环c×梅c
-------	----------------

S-99

土 師 器	环a(イト)、小皿a1(イト)
-------	-----------------

S-100

土 師 器	环a(イト)、小皿a1(イト)、裏a
龍泉窯系青磁	皿: 磁片 (1)
同安楽系青磁	他器種: 梅×皿 (1)
土 師 貫 土 器	鉢
瓦 類	磁片

S-100 黒茶色胎質土

土 師 器	环a(イト)、小皿a1(イト)、小皿c×环c
瓦 類	梅
龍泉窯系青磁	梅: I:2 × 3 (2)、IV (1)
同安楽系青磁	梅: I:b (1)、磁片 (1)
土 師 貫 土 器	鉢
須 恵 貫 土 器	こむ鉢
国 産 陶 器	製
白 磁	梅: 磁片 (1)
漆器	漆片 (増茶不明磁片 (2))
瓦 類	類: 丸瓦、平瓦 (磁子甲)

S-100 増茶色土

須 恵 器	壺、壺
土 師 器	环a(イト)、小皿a1(イト)、油埋付(梅)、調付、大鉢c
龍泉窯系青磁	他器種: 磁片 (1)
同安楽系青磁	梅: I:b (1)
土 師 貫 土 器	鉢
須 恵 貫 土 器	こむ鉢(奥博系)
国 産 陶 器	磁片 (既入)
白 磁	梅: IV (1)、磁片 (1)
中国陶器	他器種: 壺×鉢 (1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶器 (1)
瓦 類	類: 平瓦 (磁子甲、磁子甲)

表 43 連歌屋 4 次 遺物一覧表 5

S-100 黄茶色土

須 恵 器	
土 師 器	坪a(イト), 小皿a1(イト), 坪c(イト), 大坪a(イト)
瓦	硯c
越前窯系青磁	硯: 磁片 (1)
尾山窯系青磁	硯: IV (1), 14a×b (1) 皿: I (1)
阿波窯系青磁	硯: 1a (1), 1b (1)
高麗青磁	硯: 磁片 (1)
土師貢土器	硯, 土師鉢
白 磁	硯: II (1), V-4 (1), V (1), VI-1b (1) 皿: 磁片 (5)
石 製 品	碇石
瓦	類 平瓦 (碇子印, 二重碇子印), 丸瓦 (碇子印)

S-101

土 師 器	坪a(イト), 小皿a1(イト), 小皿b, 硯c
尾山窯系青磁	硯: 1-4 (1)
土師貢土器	硯
白 磁	硯性: 磁片 (1)
中 國 陶 器	鉢: 磁片 (1)

S-102

土 師 器	坪a(イト), 小皿a1(イト), 小皿b(イト)
土師貢土器	硯
中 國 陶 器	壺: 磁片
土 製 品	碇石
瓦	類 平瓦

S-103

土 師 器	坪a(イト)
發付(輸入)	皿別形VII類 (1)
石 製 品	碇石

S-104

土 師 器	坪a(イト), 小皿b(イト)
-------	-----------------

S-105

須 恵 器	硯
土 師 器	坪a(イト), 小皿a1(イト), 丸形坪a(ヘラ), 懸板あり
黒色土器B	硯片
瓦	硯c
須恵貢土器	土師鉢
尾山窯系青磁	土師鉢
白 磁	硯: V (1), V-2 (1), VI-1b (1), 磁片 (1) 皿: 磁片 (1)
瓦	類 軒丸瓦, 平瓦

S-106 暗茶色粘質土

須 恵 器	
土 師 器	坪a(イト), 小皿a1(イト, ヘラ)
瓦	硯 (横断線, 在池)
輸入陶磁器	朝鮮系陶磁 (表分瓶, 1)
須恵貢土器	土師鉢
白 磁	硯: IVa(1), IV(1), XI-1a(1), V-4×VIII-1(1) 硯片 (2) 皿: II (2), VI-a (6), XI-3 (1), 磁片 (5)
中 國 陶 器	壺: 磁片 (2)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶磁器 (1)
石 製 品	碇石硯片
瓦	類 軒平瓦

S-105 明茶褐色土

須 恵 器	硯
土 師 器	小皿a1(イト, ヘラ), 小皿c, 丸形坪a(ヘラ), 高台, 硯
瓦	硯c2(在池), 硯
阿波窯系青磁	土1(1), 片 (1)
須恵貢土器	土師鉢×土師鉢 (東邊系)
尾山窯系青磁	硯
白 磁	硯: IV(2), IV-1a(1), V-1(1), V-2b(1), 磁片 (1), V-4×VIII(1) 皿: VI (1), II×III(1)
中 國 陶 器	壺: 磁片 (1), 罌1-b(1)
輸入須恵器	朝鮮系無釉陶磁器 (1)
瓦	類 平瓦 (碇子印)

S-105 暗茶色粘質土

須 恵 器	
土 師 器	坪a(ヘラ), 小皿a1(ヘラ), 丸形坪a(ヘラ), 高台硯片
黒色土器B	硯c2
瓦	硯c
土師貢土器	硯
越前窯系青磁	近江系
白 磁	硯: II-4 (1), IV (1), IV-a (2), V-2a (2) VI-1a (2), XI-1a (1), 磁片 (1) 皿: VI (2), VI-1a (1), VI-1b (1)
中 國 陶 器	壺: 磁片 (1)
瓦	類 平瓦 (碇子印)

S-105 黄褐色土

土 師 器	坪a(イト), 小皿a1(ヘラ, イト)
瓦	硯片

S-105 灰褐色土

土 師 器	坪a(ヘラ), 坪c, 小皿a1(ヘラ), 丸形坪a(ヘラ)
瓦	硯片
土師貢土器	硯
須恵貢土器	土師鉢
白 磁	硯: II (1), IV (2), V-2a(2), 小皿a分瓶 (1), 磁片 (1)
中 國 陶 器	壺: 磁片 (2)

S-105 暗茶色砂質土

土 師 器	小皿a, 丸形坪a(ヘラ)
黒色土器B	硯片
須恵貢土器	硯

S-106

土 師 器	坪a×b(イト)
發付(輸入)	磁片 (1)
瓦	類 平瓦 (碇子印)

S-107

土 師 器	坪, 小皿 (ロクロ土師器)
瓦	硯

S-108

土 師 器	小皿a1
-------	------

S-109

土 師 器	坪a(イト), 硯c
土師貢土器	土師鉢×硯

S-111

土 師 器	坪a(イト)
-------	--------

S-112

土 師 器	坪a(イト), 小皿a1(イト), 小皿c×坪c
瓦	硯片
越前窯系青磁	硯: 1-2aウ (1)
青 磁	壺 (表分瓶, 1)
瓦 貢 土 器	硯
白 磁	硯性: 磁片 (1)
黒 陶 器	壺×壺
瓦	類 硯片

S-113

土 師 器	坪a(イト), 小皿a1(イト)
尾山窯系青磁	皿: I (1)
土師貢土器	硯鉢
須恵貢土器	土師鉢 (東邊系)
尾山窯系青磁	發付
須 生 土 器	實 (中朝)
石 製 品	硯片 (チャート)
瓦	類 硯片

S-114

土 師 器	坪a(イト)
-------	--------

表 44 連歌屋 4 次 遺物一覧表 6

S-115
須 恵 器 環×皿
土 師 器 环a
須 恵 實 土 器 c 磁鉢

S-116
須 恵 器 磁片
土 師 器 环a (イト)
瓦 器 磁片
中 国 陶 器 色磁鉢: 製 II-1 (1)

S-117
土 師 器 环b (イト、环aとの折置)、小皿a (イト)
石 製 品 碇石

S-118
須 恵 器 裏
土 師 器 小皿a1 (イト)
瓦 器 磁片
阿波楽系青磁 焼: 磁片
石 製 品 割片 (ヤマガイト)

S-119
土 師 器 环

S-120
土 師 器 环a (イト、内側磨面)
土 師 實 土 器 c 磁鉢

S-121
土 師 器 环a (イト)
国 産 陶 器 安付
瓦 器 平瓦 (二重葺子印)

S-122
土 師 器 环

S-123
須 恵 器 裏
土 師 器 須恵共磁片

茶色土
須 恵 器 裏
土 師 器 环a(イト)、小皿a1(イト)、丸底环a(ヘラ)、环c
瓦 器 磁片 (作地)
鹿島楽系青磁 焼: II-b (1)
土 師 實 土 器 c 磁鉢、裏
須 恵 實 土 器 c 磁鉢
瓦 實 土 器 裏、c 磁鉢
国 産 陶 器 染付焼
白 磁 染唐: 裏 (1)
輸入須恵器 朝鮮系無釉陶器類 (1)
土 製 品 筒十握、土製人形
瓦 器 丸瓦 (葺子印)
その 他 灰化物

黒茶色土
須 恵 器 裏
土 師 器 环a(イト)、小皿a1(イト)、小皿b(イト) 丸底环a(ヘラ)、裏c、高台
瓦 器 焼c (作地)、小皿
鹿島楽系青磁 焼: I-4 (1)、I (2)、II-2 (1)、磁片 (1) 他部焼: 裏×水注 (1)、裏磨不明 (1)
阿波楽系青磁 焼: I-b (1)、磁片 (2)
須 恵 實 土 器 c 磁鉢 (重磨系)
瓦 實 土 器 c 磁鉢
国 産 陶 器 皿 (1)
白 磁 焼: III、IV(4)、V (1)、IV-1a(1)、V-2b(1) XII (1)、磁片 (5) 小瓶 (1) 皿: VI-2a (1)、VIII (1) 染唐: 磁片 (3)
輸入須恵器 朝鮮系無釉陶器類 (1)
瓦 器 品 土師
石 製 品 碇石、碇石磁片
瓦 器 平瓦 (二重葺子印)、丸瓦 (葺子印)

明灰茶色粘質土
土 師 器 环a(イト)、小皿a1(イト)、小皿b(イト) 丸底环a(ヘラ)
瓦 器 磁片
土 師 實 土 器 裏
国 産 陶 器 轆?
白 磁 染唐: 磁片 (2)
瓦 器 平瓦 (葺子印)

表 4-2
須 恵 器 裏
土 師 器 环a (イト)、环b、小皿a1 (イト)、小皿b、丸底环a 裏c、裏焼共
黒色土器A 焼
瓦 器 焼c?
鹿島楽系青磁 鉢: 水注 (1)、壺×水注 (1)
阿波楽系青磁 焼: I-4 (2)、I-2 (1)、I (2)、II-a (2)、II-b (4) II (1)、III-2 (1)、IV 系、磁片 (2) 上田割 ~ IV × C (1) 他部焼: 磁片 (1)
阿波楽系青磁 焼: I-a (1)、I-b (3)、磁片 (4) 皿: I-2b (2)
輸入陶磁器 裏 (未分類、1)
土 師 實 土 器 裏、磁鉢
須 恵 實 土 器 c 磁鉢
瓦 實 土 器 c 磁鉢
国 産 陶 器 裏、皿、磁鉢、磁片 (染唐×常滑)、壺×裏、唐 設×鉢
国 産 磁 器 染付小瓶
白 磁 焼: II (1)、V (1)、VI-1 (1)、磁片 (3) 皿: VII (1)、VIII (1)、VIII-1a (2)、IX (1) 磁片 (2) 染唐: 裏×裏 (1)、磁片 (3)
中 国 陶 器 裏: 磁片 (2) 鉢: 磁片 (1) 裏: 磁片 (3) 他部焼: 裏 (1)、磁片 (4)
輸入須恵器 朝鮮系無釉陶器類 (1)
瓦 器 陶 器 小壺 (1)
金 属 製 品 釘、文眼 (乙此土)
土 製 品 碇十握
石 製 品 石鍋B器、碇石製石鍋加工品、碇石
瓦 器 平瓦 (葺子印)、二重葺子印、焼B印、丸瓦

(5) 連歌屋6次調査

1 調査の経緯

調査地は、太宰府市宰府3丁目1179-10,11他に所在する。ここは小島居小路から分岐し東の天満宮境内に向かう小径であり、道路拡幅が調査原因である。市建設課との協議に基づき平成9年4月より発掘調査を実施した。調査は高橋学と山村が担当した。なお、7次調査は同一事業の東側の地点での調査である。

連歌屋遺跡6次調査日誌抄(1997年)

- 4.9 重機による表土除去。
- 4.10 任意座標値による調査区設定。1面遺構検出。
- 4.14 1面写真撮影。2面遺構掘り下げし、完掘。
- 4.16 3面遺構掘り下げし、完掘。
- 5.1 最終面完掘
- 5.6 撤収

2. 調査の概要

連歌屋遺跡6次調査は幅2m足らずのトレンチ状の調査区で、土地の関係でB2区のみ飛び地の状態で調査区を設定せざるを得なかった。

遺構は大きく4面に分けて調査した。1面を被覆する土層は茶色土であり、2面を覆う層は灰褐色土、3面を覆う土層は褐色土、4面を覆う土層は暗灰色土にわけて調査したが、壁面の土層観察の結果、単一層の広がりには限定的で、結果的に人工的な層位の設定であった。調査時の検出レベルの違いによって生じたものであった。

3. 遺構

土坑

6SK010 (fig77.pla48-1・2.49-1) 調査区東側の1面で検出された約1.2mの方形を呈す遺構で、西側が一段深くなっている。深い側に小礫が詰められたような状況で埋まっている。礫は上面のものほど大きい。

6SK045 (fig77) 調査区東側の2面で検出された約1.3×1mの長方形を呈す遺構で深さ約30cmが残る。

6SK057 (fig77.pla47-1・2) 調査区東側の2面で検出された約2m×1m以上の楕円形を呈す遺構で深さ約20cmほどが残る。上面は礫が詰められたような状況を呈していた。中世後半期までの遺物が出土している。

6SK060 (fig77) 調査区東側の6SK057の下面で検出された約1.2×0.5m以上の楕円形を呈す遺構で深さ約70cmほどが残る。底の中央が一段掘り下げられる。平安後期の遺物が出土している。

6SK125 (fig77) 調査区北東側の3面で検出された約1×1m以上の楕円形を呈す遺構で深さ約20cmほどが残る。底は段をなして掘り下げられる。鎌倉時代までの遺物が出土している。

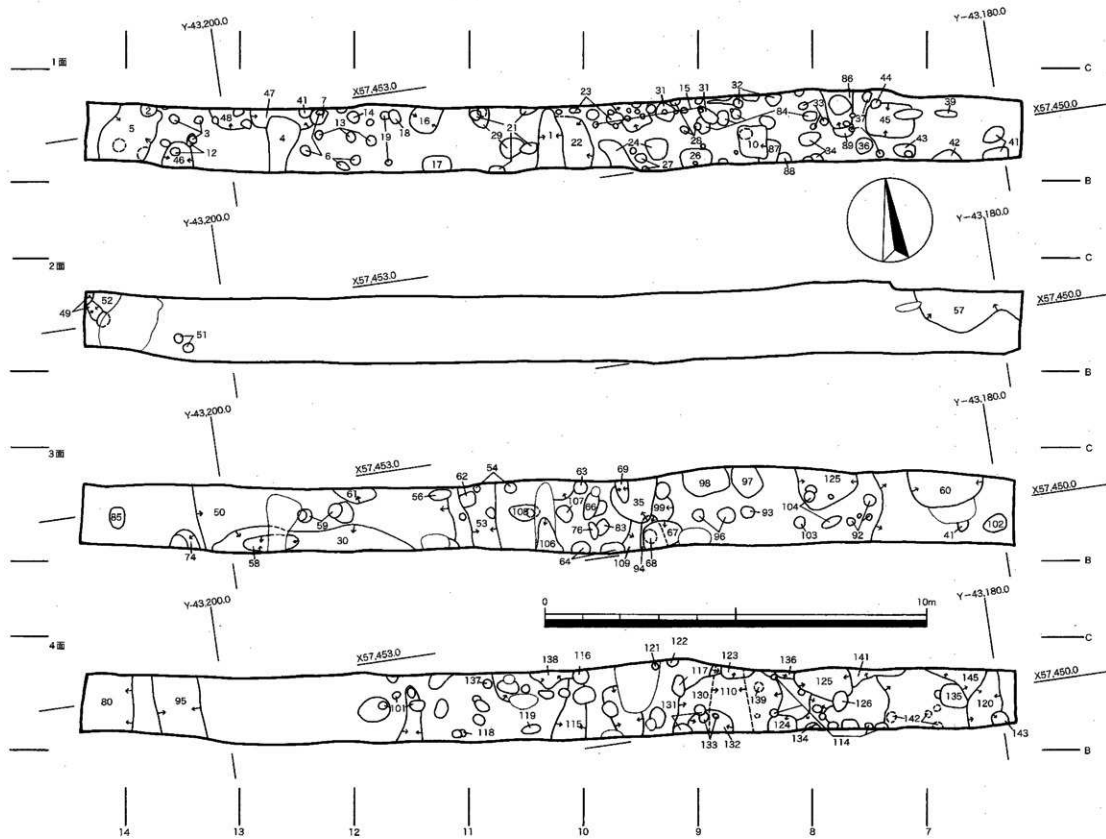


fig72 連歌屋6次調査遺構略図1 (1/100)

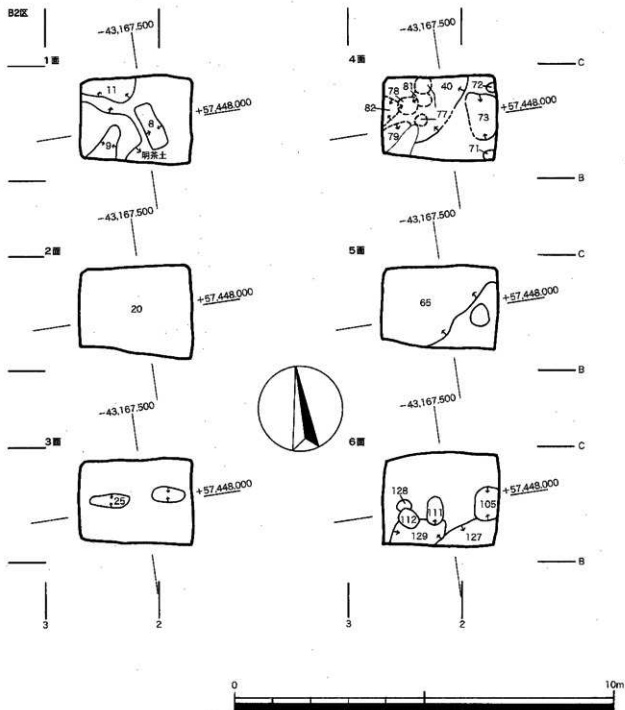


fig73 連歌屋6次調査遺構略図2 (1/100)

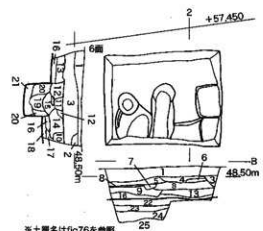
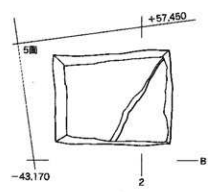
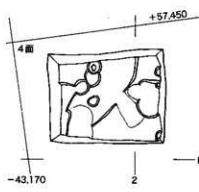
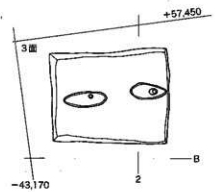
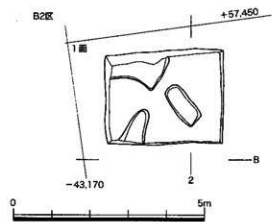
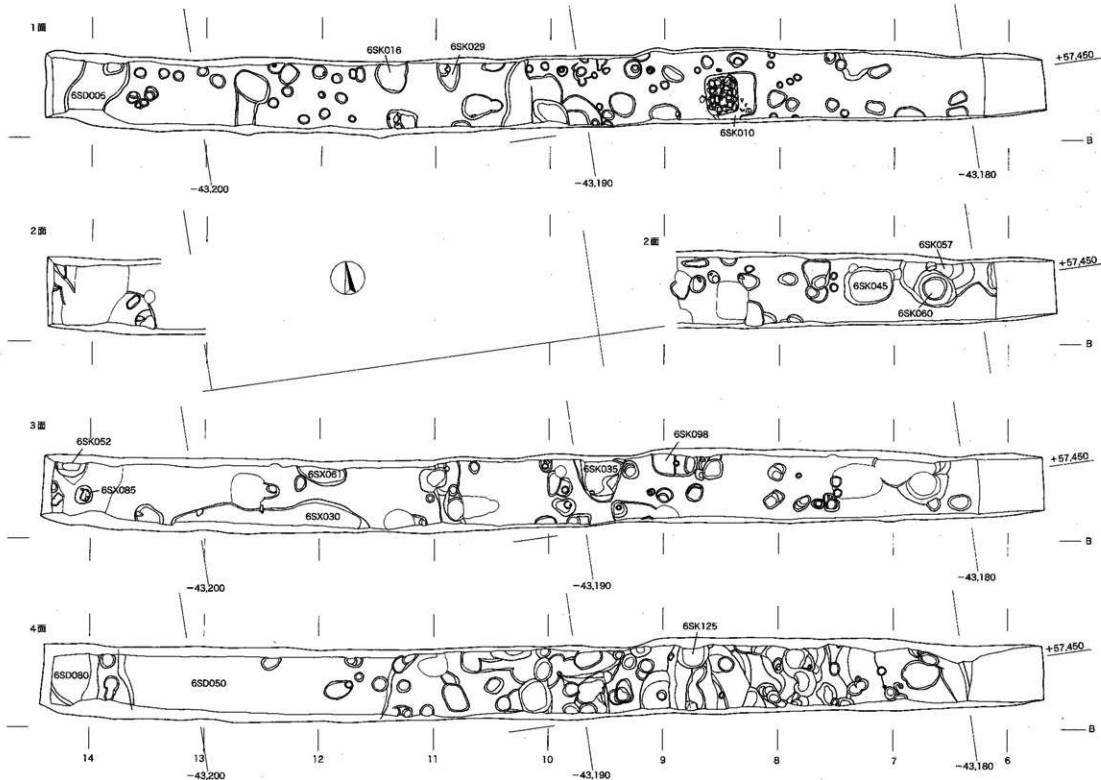
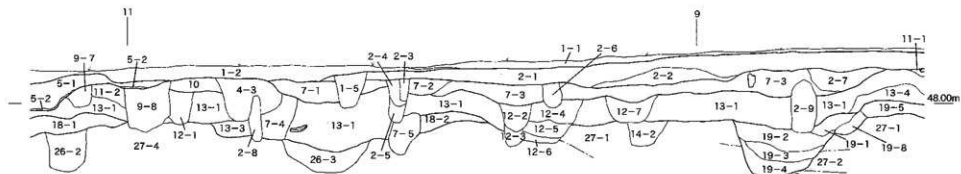
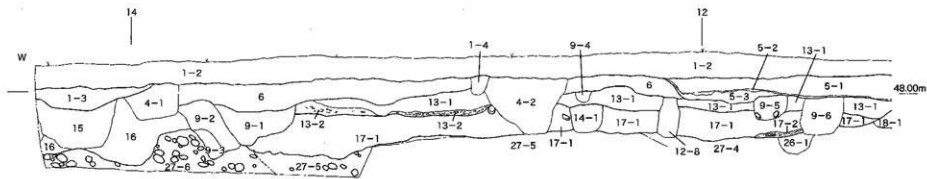


fig74 連歌屋6次調査遺構全体図 (1/100)

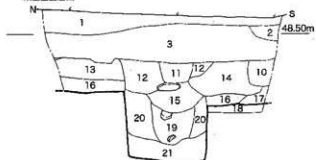


- 1-1 白亜砂 1-2 灰色砂 (黒砂土の層) 1-3 灰色土 1-4 黄土ブロック 1-5 泥質土
 2-1 黄灰色土 2-2 明色砂質土 2-3 黄砂 2-4 灰土 2-5 灰土 2-6 砂質土ブロック
 2-7 泥質土 2-8 黄灰土 2-9 陸産物土 (pt) 3-1 明色砂土 3-2 赤土 3-3 明色
 泥土 3-4 褐色土 4-1 灰色土 (黄土層) 4-2 黄灰土 4-3 黄灰土 5-1 灰質土
 5-2 砂質土 5-3 灰土 6 褐色砂土 (泥質砂) 7-1 砂質土 7-2 砂土 7-3 砂
 質土 7-4 灰土 (砂層砂入り) 7-5 黄灰土 8-1 泥質物土 (5-57層) 8-2 泥質物
 土層 8-3 黄灰色土 9-1 砂質土 9-2 砂土 (黄土層) 9-3 黄土 黄土土層
 9-4 黄灰土 9-5 泥質土 9-6 砂土 9-7 砂質土ブロック 9-8 泥質土 (砂層土ブロック入り)
 10 黄灰土 11-1 灰色土 (黄土層) 11-2 黄灰土 12-1 灰色土 (砂層土ブロック入り)
 12-2 砂質土 12-3 灰土 12-4 泥質土 12-5 黄砂土 (土層砂入り) 12-6 砂土
 12-7 黄灰土 12-8 泥質土 13-1 黄灰土 13-2 黄灰土 13-3 砂土 13-4 黄灰土
 14-1 砂土 14-2 泥質土 (砂層砂入り) 14-3 黄砂土 15 黄土 赤土土層 16 黄灰土
 17-1 砂土 (5-50) 17-2 黄土 (泥層) 18-1 黄砂土 18-2 黄砂土 19-1 黄土
 (赤土多い) 19-2 黄灰土 19-3 灰色シルト 19-4 黄砂土 19-5 灰色土 (赤色シルト
 層) 19-6 砂質土 19-7 黄灰土 19-8 黄土ブロック 20 砂質土 21 泥質土 22 砂質土
 (5-40) 23 赤色砂質土 24 泥質物土 (5-100) 25 泥質物土 (赤土層) 26-1 灰土
 26-2 砂土 (黄砂土ブロック入り) 26-3 泥質物土 27-1 黄砂土 27-2 泥質シルト
 27-3 泥質シルト (入り) 27-4 泥質物土 27-5 赤色砂層 27-6 黄砂土層

0 2m

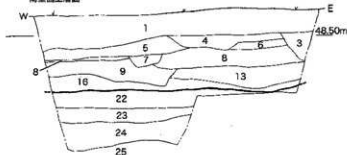
fig75 連歌屋6次調査土層図 (1/40)

B2区
東壁面土層図



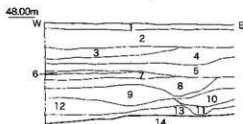
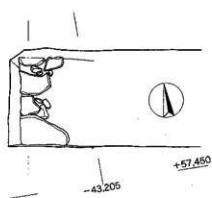
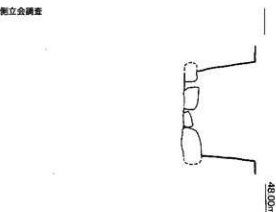
1. 黄茶色土 (黄色砂、コンクリートブロック片を多く含む) ……微土
2. 暗褐色土 (pH埋土。角礫15~20cmを含む)
3. 灰色土 (炭化物を多く含む。土器片、明褐色ブロックを含む) ……包含層
4. 2と同一層相 (若干干している。土器片が細かい。)
5. 明茶黄色土 (円礫を多く含む)
6. 明茶色土 (砂混じり)
7. 灰褐色粘質土 (pH埋土?)
8. 暗褐色粘質土 (土器を多量に含む。S-20埋土、土器は水平堆積)
9. 暗褐色色土 (粘質強い)
10. 2と同一層相 (若干堆く、土器を含む)
11. 明茶色土 (木炭片、土器片を多く含む)
12. 明茶黄色土 (土器片を若干含む)

南壁面土層図



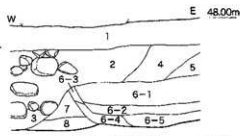
13. 明褐色粘質土 (粘質強い)
14. 11と同一層相 (粘質弱い。少しバサバサしている。)
15. 暗茶黄色土 (粘質が若干強い)
16. 暗褐色粘質土 (地山土の明茶黄白色シルトを少量含む)
17. 14と同一層相 () 多量に含む)
18. 明茶黄白色シルト (14を若干含む。地山土。)
19. 暗褐色粘質土 (炭屑土研ぎ屑a・小皿aを多量に含む)
20. 17と同一層相 (17と比べて若干明るく、粘質が強い)
21. 明茶黄色土 (16と同一層相を若干含む)
22. 明茶黄白色粘質土 (砂をまったく含まない。細粒砂以下で構成されている)
23. 淡黄灰色粘質土 (22と同一層相)
24. 淡乳白色シルト (黄褐色礫に挟んでいる部分は、砂混じりの状態になっている)
25. 黄褐色砂層

6次西側立会調査



1. アスファルト
2. 砂利層
3. 明茶色土 (炭を少し含む)
4. 灰茶土
5. 淡黄灰色土 (円礫を若干含む)
6. 暗茶土 (多くの炭化物を含む)
7. 灰色土 (5mm以下の土器片を含む)
8. 暗灰色土 (円礫を多く含む)
9. 淡黄灰色粘質土
10. 黄灰色粘質土
11. 明灰土
12. 淡灰砂
13. 淡黄灰色砂
14. 明黄灰色砂 (円礫混じり)

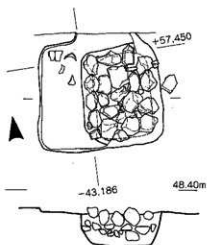
この間 約3m



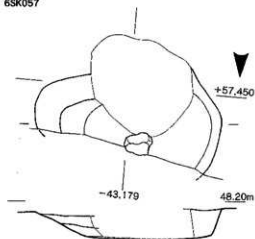
1. 粘土
2. 茶褐色土 (S-1埋土)
3. 黄灰粘
4. 茶色土
5. 暗茶色土 (土器混じり)
- 6-1. 暗茶土
- 6-2. 明茶土 (炭化物を含む)
- 6-3. 灰灰砂
- 6-4. 黄色砂
- 6-5. 暗茶粘
7. 淡黄灰色粘質土
8. 淡黄灰色砂

fig76 連歌屋6次調査 B2区東壁面土層図・南壁面土層図、西側立会調査全体図・土層図 (1/40)

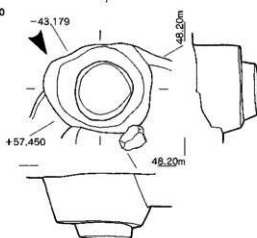
6SK010



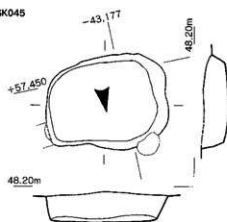
6SK057



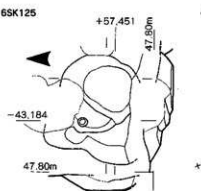
6SK060



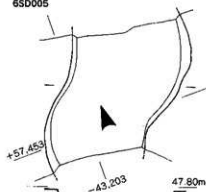
6SK045



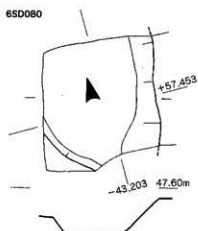
6SK125



6SD005

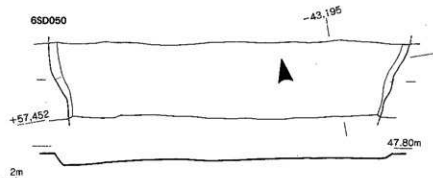


6SD080



0 2m

6SD050



0 2m

fig77 連歌屋6次土坑(010,045,057,060,125)1、溝(005,050,080)1実測図(1/40,1/80)

溝跡

6SD005 (fig77 ,pla43-1) 調査区西端の1面で検出された幅約1mほどの蛇行した遺構で深さ約30cmほどが残る。鎌倉時代までの遺物が出土している。

6SD050 (fig77) 調査区西側の最下面にある幅約7mほどの窪み状を呈す遺構で、出土遺物は12世紀後半前後の遺物が主体を占める。1次調査の1SD200との遺構形状共通性から溝とした。暗灰色土で埋没し、1SD200同様に地盤は砂礫質であり、かつ顕著に水が流れた痕跡はみとめられなかった。

6SD080 (fig77 ,pla43-2.44-1・2) 調査区西端の最下面で検出された幅約1.2m以上の規模を有す遺構で、西側の立ちあがりは確認できていない。

4. 出土遺物

6SK042 出土遺物 (fig78)

土製品

瓦玉 (1) 格子タタキを有す須恵質の平瓦を素材とする。法量は $4.1 \times 4.4 \times 1.8\text{cm}$ 。

6SK045 出土遺物 (fig78)

土師器

小皿 a (1,2) 1は口径7.0、器高1.5、底径4.0cmを測る。2は口径6.8、器高1.5、底径3.7cmを測る。明茶灰色を呈す。底部のイト切りの大きさは成形時の粘土柱の大きさか。

中国陶器

碗 (3) 深手の碗になるものと考えられる。くすんだ青色の呉須で圏線などを描く。明代のものか。

磁器

碗×皿 (4) 尖り気味の角高台を持つ。淡い青色の呉須で模様を描く。明代のものか。

白磁

皿 (5) 口径が14.4cmに復元され、ゆるいS字口縁を持ち、体部も浅い形状を成す。肥前などの国産か。

国産陶器

皿 (6) 口縁端部が短く跳ね上げられる形状を持つ。胎土は淡灰色を呈し、光沢のある緑茶褐色の釉が掛けられる。唐津産の可能性はある。

鉢×皿 (7) 口縁端部が短く内側に突出する口縁を持つ。透明釉の下地に白土を用いた刷毛手の手法が見られる。唐津産の可能性はある。

盤 (8) カーブしながら内傾する口縁の外側に楕円径の粘土塊による付文がある。光沢を持ち不透明な青緑色の釉が掛けられる。植木鉢の可能性もある。

耳壺 (9) 茶灰色の胎土に暗緑灰色の光沢のある釉が施される。いびつな環状の耳が付けられる。

すり鉢 (10,11) 10は口径29.0cmに復元される。胎土は茶褐色を呈し、内外面ともに口縁付近のみに暗褐色の釉が施される。11は底径が11.8cmに復元され、胎土は茶褐色を呈す。内面のすり目は使用によりかなり磨耗している。

土師質土器

用途不明品 (12) 厚さ1cmほどの板状のものが屈曲する部位のもので、全体形は不明。表面は淡黄灰色、芯は黒灰色を呈す。

瓦質土器

火鉢 (13) 桶形の火鉢で内傾する口縁の外側にタガを表現した二条の凸帯がある。タガの上はハケ状

工具で斜格子が表現される。器面は淡灰茶色、芯は黒色を呈す。

土製品

焼土塊 (14) 片側は橙茶色、反対側は暗灰褐色を呈す。藁のような植物の繊維痕跡が残る。

石製品

石核 (15) 黄茶色と茶褐色が縞状に見えるチャート素材とし、剥離の方向に2方向以上の転移が見られる石核である。

6SK046 出土遺物 (fig78)

陶器

壺×水注 (1) 4条の凸線を組み合わせたような形状を持つ壺ないし水注の把手部分で、赤茶色の胎土に光沢のある暗茶褐色の釉がかかる。国産か。

瓦質土器

火鉢 (2) 丸い胴部を持つもので、脚部は欠損する。内面は粗いナデを残し、外面は磨耗している。表面は白灰色、芯は黒灰色を呈す。

瓦類

軒平瓦 (3) 瓦当面は中心に小さな朱文が見られ、均等唐草模様と考えられる波状の隆起線が見られる。表面は灰黒色、芯は明灰色を呈す。

6SK047 出土遺物 (fig79)

瓦類

平瓦 (1) 2cmほどの厚みを持つ須恵質の平瓦で、二重の斜格子のタタキを有す。灰黒色を呈す。

6SK057 出土遺物 (fig81 ~ 85 ,pla53-2)

龍泉窯系青磁

椀 (1) 短く端部が外反する形状を持ち、灰白色の胎土に灰緑色の厚い釉が掛けられる。IV類か。

明染付

椀 (2) 底部まで丸く伸びる形状を持ち、細い高台が付く、内底部ににじみ気味の呉須で團線と放射状の文様が描かれる。

陶器

坏 (3) 波状の口縁を持つ。きめの細かい淡茶灰色の胎土に多少白濁した釉が施される。唐津ないし朝鮮産のものか。

中国陶器

壺 (4) 底部と体部の境は角を持って明確に屈曲するもので、灰～茶褐色を呈す胎土に暗茶褐色の釉がかかる。

国産陶器

すり鉢 (5) 屈曲してし字に立ちあがる口縁を持つ。屈曲部の外面には2条のゆるい沈線を持つ。内面のすり目は斜めに立ちあがる。口縁外面の立ちあがり部分にのみ暗茶色の釉がかかる。備前産と考えられる。

土師質土器

すり鉢 (6) 外面に指頭圧痕と縦方向のハケ目を、内面に3～4本を単位とするすり目を施すもので、表面は淡橙色、芯は灰黒色を呈す。

瓦質土器

鉢 (7) 厚みが2cmになる厚手で大型の鉢形を呈す。外面にハケ目を残す。

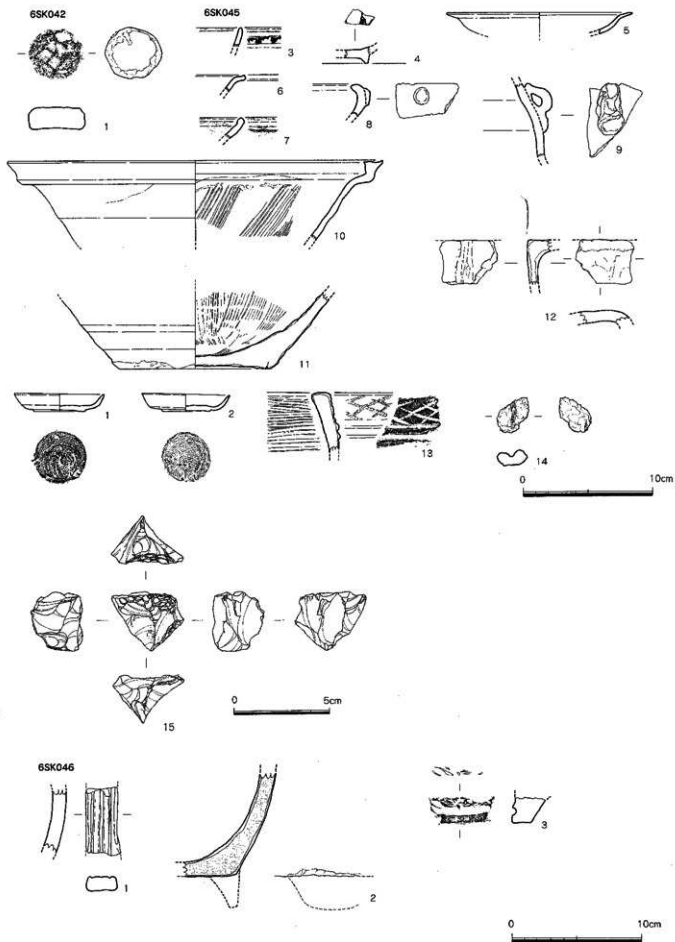


fig78 速歌屋6次土坑(042,045,046)出土遺物実測図2(1/3,1/2)

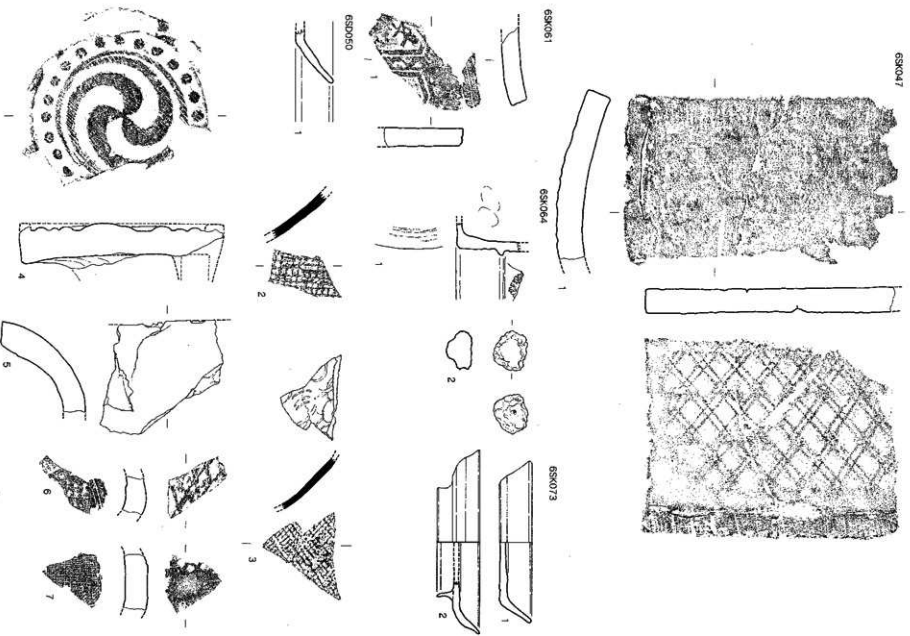


fig79 蓮歌屋6次土坑(047,061,064,073)3、溝(050)2出土遺物実測図(1/3)

すり鉢 (8～10) 8は口径が28.0cmに復元されるもので、口縁端部がやや厚くなり上面に平坦面を有す。胎土は外面が灰白色、芯が灰黒色を呈す。9は底径が12.4cmに復元される。すり目は体部と底部が連続しない。下地にハケ目が施される。10は底径が14.6cmに復元される。底部のすり目は一部弧状を呈す。

火鉢 (11) 桶形の火鉢で内傾する口縁外面にタガを表現する二条の凸帯が巡る。その上にハケ状工具による斜格子の文様が施される。

香炉 (12) 装飾的な脚部の右側の破片で、ケズリにより割りこみが施される。灰色で硬質、表面は燻しにより黒色を呈す。

鍋 (13) 口縁端部上面に平坦面を持つ。外面はユビ押さえの跡が連続して見られる。胎土は芯が灰白色で表面が黒灰色を呈す。口径は28.4cmに復元される。

瓦類

丸瓦 (14～21) 14～17、21のようにタタキに縄目などを用い、側面端部を削って先細に成形する一群がある。焼成は瓦質を呈す。21は土師質。その他、18は二重の斜格子、19は二重の正格子のタタキを有す。

平瓦 (22～31) 22は土師質で縄目のタタキを有す。23、25は斜格子で須恵質、26は二重の斜格子で須恵質、27、28、31は無文で瓦質、29、30は無文で土師質を呈す。

土製品

瓦 (33) 須恵質の平瓦を素材とし径が6cmほどの円盤状に成形されたもの。

石製品

碁石 (34) くすんだ白色を呈す石を素材とする1.7×1.3cmほどの長楕円径のもの。

石臼 (35) 灰色を呈す泥岩製の環状を呈す臼で、窪みのある上面の縁にもすり目があることから、再利用されたものと考えられる。

6SK061 出土遺物 (fig79)

瓦類

平瓦 (1) 1.5cmほどの厚みを持つ瓦質の平瓦で、正斜格子と「安」の字を含む文字のタタキを有す。黒灰色を呈す。

6SK064 出土遺物 (fig79)

瓦質土器

火鉢 (1) 桶形の火鉢の底部片で凸帯上に菊花文のスタンプを押印する。明灰色を呈す。

土製品

焼土塊 (2) 3cmほどの小片で橙茶色を呈す。平滑な面を持つ。

6SK073 出土遺物 (fig79)

土師器

坏 a (1) 口径12.8、器高2.5、底径9.8cmに復元される。直線的に開く体部を持つ。

皿 c (2) 口径14.5、器高3.3、高台径8.6cmに復元される。体部は丸みを持って立ちあがり端部で若干外反する。

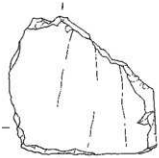
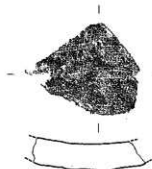
6SD050 出土遺物 (fig79.80 ,pla53-1)

土師器

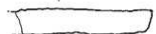
大坏 a (1) 器高が3.0cmで斜め上方に直線的に開く体部を持つ。胎土は橙茶色を呈す。

須恵質土器

6SD050



6SD053



6SX040

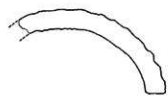
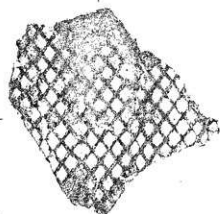
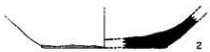
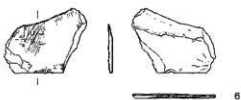
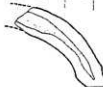


fig80 連歌屋6次溝(050,053) 3、その他の遺構(040) 1出土遺物実測図(1/3)

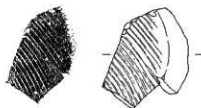
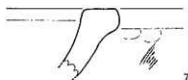
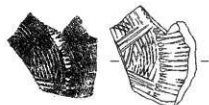
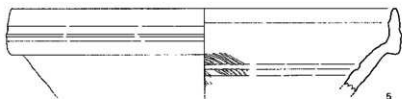
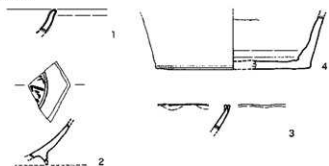
6SX040



6SX051



6SK057



0 10cm

fig81 連歌屋6次土坑(057)、その他の遺構(040,051)出土遺物実測図2(1/3)

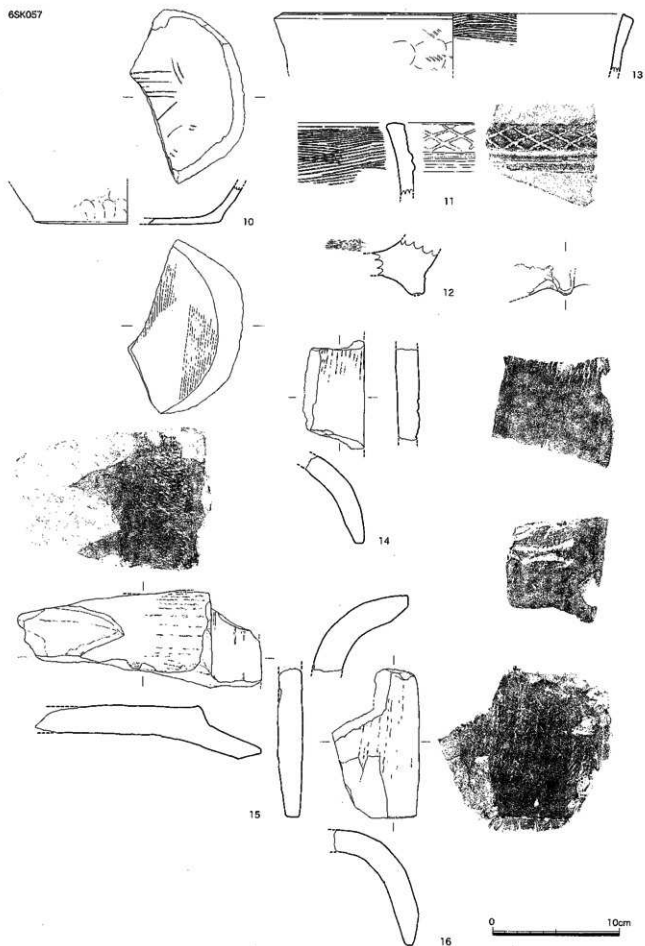


fig82 速歌屋6次土坑(057)出土遺物実測図3(1/3)

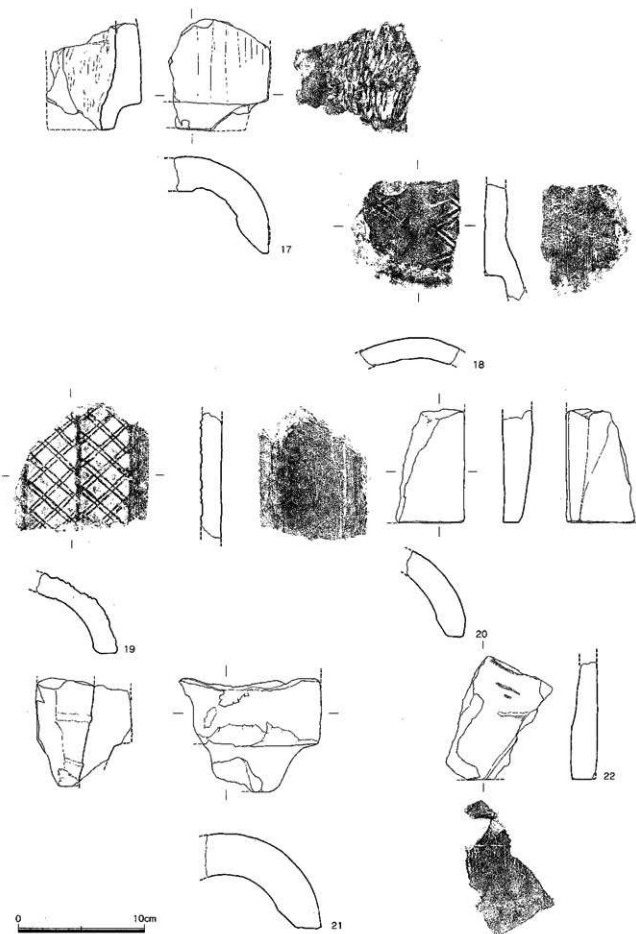


fig83 連歌屋6次土坑 (057) 出土遺物実測図4 (1/3)

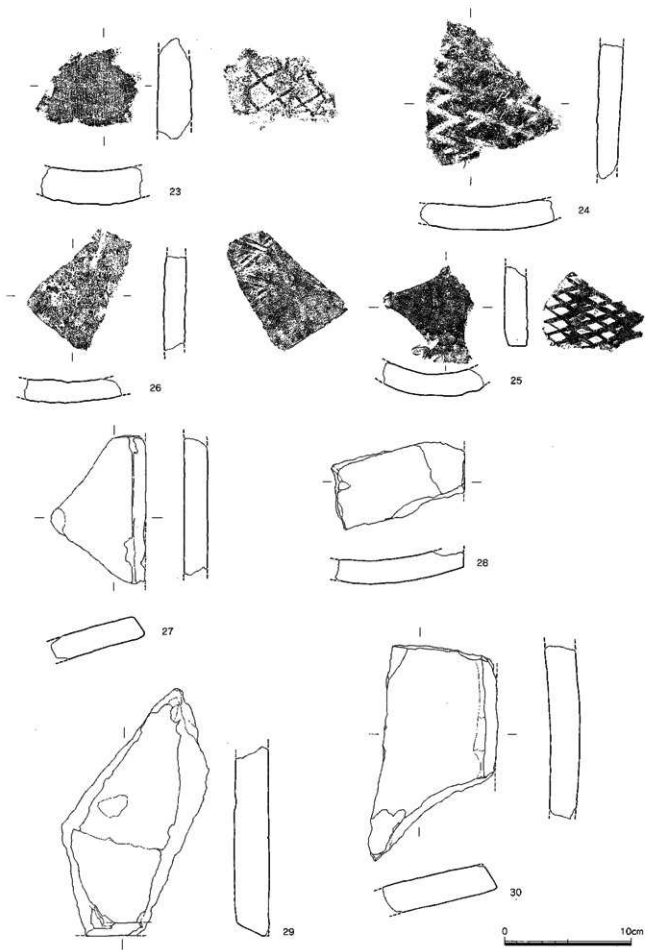


fig84 連歌屋6次土坑(057)出土遺物実測図5(1/3)

裏(2,3) 格子目のタタキを持ち、2は内面はナデ、3は同心円の当て具の痕跡がナデで消されている。

瓦類

軒丸瓦(4) 径が約16cmに復元される。周縁の幅は約1.5cmほどで、身幅が狭く尾の長い巴文の外側に朱文が巡る。瓦当面全体に型の木目が残されている。

丸瓦(5~7) 6は須恵質、他は瓦質を呈し、格子目のタタキを有す。

平瓦(8~10) 8は瓦質で厚さが1cm程度と薄手で、縄目のタタキを有す。9も瓦質で灰黒色を呈し、被熱により表面が荒れている。10は2cmほどの厚みを持つ須恵質の平瓦で、二重の斜格子のたたきを有す。黒灰色を呈す。

金属製品

鉛滓(11) 黒色の石状のものに黄茶色のガラス状の皮膜が付着している。

6SD053 出土遺物 (fig80)

陶器

小椀(1) 高台径が3.9cmに復元される。内底部は段を持って窪む。外面はケズリによって仕上げられる。胎土は淡茶色を呈し、明茶色の釉が施される。いわゆる天目椀に当たる。

6SX040 出土遺物 (fig80.81)

6SX040からは計測可能な土師器の小皿aが4個体出土しており、すべてイト切り底で、法量の平均値は口径8.4、器高1.1、底径6.6cmである。XVII期前後の所産か。

須恵質土器

鉢(1,2) 東播系の鉢で1は玉縁状の口縁部で、2はイト切りを施す底部片である。

瓦質土器

鉢(3) 外面に指頭痕の上に縦方向のハケ目が施される。内面は磨耗している。表面は白灰色、芯は黒灰色を呈す。

瓦類

丸瓦(4,5) 4は厚さ1.5cmほどで格子タタキを有す須恵質のもので、5は瓦質で縦方向に縄目タタキを有すものである。厚さは2cmほどあり、表面は白灰色、芯は黒色を呈す。

石製品

砥石(6) 粘板岩製と考えられる厚さ0.4mmほどの板状を成すもので、小口にも擦痕が見られる。

土製品

瓦玉(7) 須恵質の格子目のタタキが残る平瓦を素材とし、径が3.3cmほどの円形に打ち欠いて成形する。

6SX051 出土遺物 (fig81)

土製品

焼土塊(1) 橙茶色を呈し、胎土に植物繊維の痕跡を持つ。法量は3.5×3.1×1.8cmを測る。

6SX065 出土遺物 (fig85)

6SX065からは計測可能な土師器の坏aが4個体出土しており、すべてイト切り底で、法量の平均値は口径12.3、器高2.6、底径8.7cmである。XVIII期前後の所産か。

国産陶器

甕(1) 口縁端部が一旦折れて外反するもので、上面に緑色の釉がかかる。胎土は明灰色を呈す。常産である。

6SX068 出土遺物 (fig85)

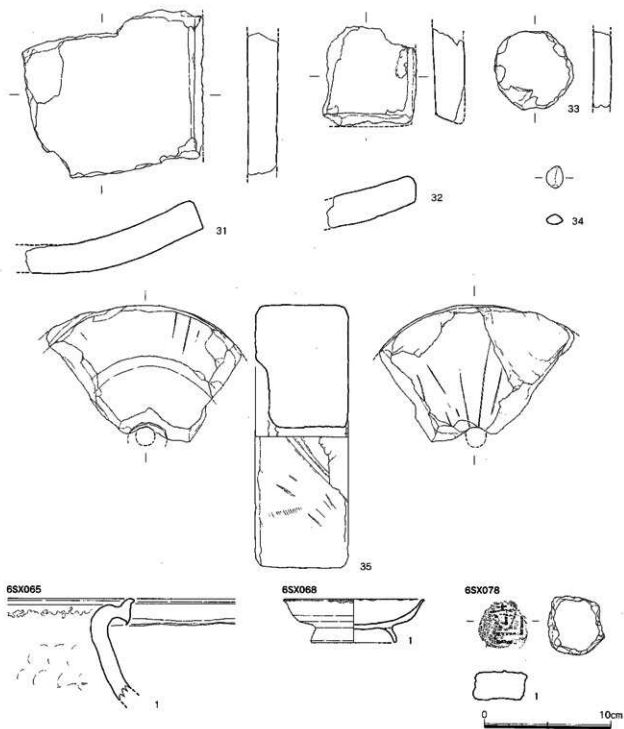


fig85 連歌屋6次土坑 (057)、その他の遺構 (065,068,078) 出土遺物実測図6 (1/3)

土師器

皿c(1) 口径11.2、器高3.4、高台径6.8cmに復元される。口縁端部に油煙の跡が残る。

6SX078 出土遺物 (fig85)

土製品

瓦玉(1)「寺」の文字のタタキを有す平瓦を素材とし、径4.6cm程度の円盤状に加工される。

5. 小結

6SD050や080は1次調査の1SD200と並んで、この地域での区画の発生にかかわる重要な遺構であり、この溝状遺構以外に顕著な遺構がないことも1次調査と同様の状況で、当時の土地利用の実態を考察するためには注目すべき現象といえる。

6SK057は16世紀頃に位置付け可能な遺構であり、広くこの周辺地域においては実態が良く分っていない時期の遺構として注目される。多く検出された柱穴群は、調査区の制約から展開が掴めないが、当該期の建物も隠されていることと思われる。5次調査ではこの時期の南北の区画溝が検出されている。

附 連歌屋遺跡第6次調査に伴う工事立会調査 (fig76)

連歌屋遺跡第6次調査中に南側の民家(吉村邸)への下水埋設工事がおこなわれることになり、現場作業と平行して立会調査を行うことになった。調査は1997(平成9)年3月12日に行われた。

下水管の埋設は連6調査区の南に平行して、南北幅1m、東西長26.5m、深さ約1mに亘って溝が掘られた。また下水管との接合のため、現況の小鳥居小路の道路直下にも溝が掘られた。

現状の生活道路にあたるため、調査は土層観察による情報収集に努めた (fig76 下図)。

土層観察の成果としては、1. 太宰府天満宮参道第4次調査で確認された斎垣の延長であると考えられる木材と石を組み合わせた施設が確認された。2. 現在の小鳥居小路の地下部を確認できた。3. 連歌屋遺跡第6次調査SD080の西側立ち上がりが確認されたこと、などが掲げられる。

水路の底は薄くコンクリートを貼ったもので厚さは2~3cm程度。コンクリート底面から覆石の内側までは、78cmを測る。付近の古老の話では、石の覆石が被せられたのは明治時代末期のことであるとのこと。(高橋記)

表 45 連歌屋6次調査 遺構一覧(1)

S番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
1		溝状					
2		ピット	灰茶色土		中世?	1面	B13
3		ピット群	淡茶色土		中世～近世	1面	B13
4		たまり状土壌			中世・江戸末～明治		B12
5	6SD005	土壌	褐茶色土(赤茶色土、炭化物混じり、粘質強い)	5→2	江戸末～明治	1面	B13・14
6		ピット群	淡茶色土				B12
7		ピット	褐色土	7→6	中世		B12
8		土層(基礎)	コンクリート・明茶色砂質土		現代		B2
9		たまり状土壌	明茶色粘質土		中世 XVII～		B2
10	6SK010	土壌					B8
11		土壌	灰灰色土(礫混じり)		近世～		B2
12		ピット	茶色土		近世～		B13
13		ピット群	茶色土		中世		B11・12
14		ピット	淡茶色土				B12
15		溝	褐色土		近・現代		B9
16		土層	灰茶色土		中世～		B11
17		土層	灰茶色土		中世～近世		B11
18		ピット群	淡茶色土				B11
19		ピット群	淡茶色土				B11
20		竪地状土層	明茶褐色土		XVII～XVIII		B1・2
21		ピット群	灰茶色土		中世		B10
22		掘乱	暗褐色土		近代		B10
23		ピット群	茶色土		中世～		B9
24		たまり状土壌	黄褐色粘質土		近世		B9
25	6SK025	炭堆積土層	暗黒色土		13c～14c	3面	B2
26		土層	茶色土		中世～		B9
27		ピット群	茶色土		中世～		B9
28		ピット群	茶色土		13c～14c		B9
29		土層	茶色土	29→21			B10
30		土層×たまり状溝	茶灰色土			3面	B11～13
31		土層群			中世		B8・9
32		土層群			13c～14c		B8
33		ピット群			中世		B7・8
34		土層	茶色土		中世		B8
35	6SK035	土層	黒色土(粘質強い)		13c中頃～		B9
36		ピット	茶色土		中世		B7
37		ピット群	茶色土		中世		B7
38		土層	赤茶色土		18c末～19c		B7
39		土層	赤茶色土		15c～16c		B6
40	6SX040	竪地×壁地土層	暗灰茶色土		13c前半～中頃		B2
41		土層	淡茶色土		中世		B6
42	6SK042	土層	淡灰茶色土		中世		B6
43		土層	淡茶灰色土		中世		B7
44		ピット	黄茶色土		中世		B7
45	6SK045	土層	灰茶色土(バツつきがある)		14c～	1・2面	B7
46	6SK046	土層	茶色土	46→12	近世～	1面	B13
47	6SK047	たまり状土層	茶色土			1面	B13
48		たまり状炭層	明黒茶色土(炭堆積層)			1面	B12・13
49	SX		茶褐色土			1面	B14
50	6SD050	溝	暗茶色土		13c前半～	3面	B11～13

表 46 連歌屋 6次調査 遺構一覽 (2)

S番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
51	6SX051	ビット群	茶褐色土		13c~14c	2面	B13
52		土壌	明赤色土			2面	B14
53	6SD053	溝	暗灰色土		13c後半~	3面	B11
54		ビット群	茶色土		13c~14c	3面	B10
56		ビット	暗茶色土		XVII~XVIII	3面	B11
57	6SX057	たまり状土壌	暗灰色土(小礫混じり)		15c~	3面	B6
58		たまり状土壌	茶白色土		中世~	3面	B12
59		ビット	茶色土			3面	B12
60	6SX060	土壌	暗灰色土		12c~	3面	B6
61	6SX061	土壌			13c~	3面	B11・12
62		土壌		53→62	13c~14c	3面	B11・12
63		ビット			13c前半	3面	B10
64	6SX064	土壌	淡茶色土		中世~近世	1面?	B9・10
65	6SX065	整地×土壌	淡黄茶色土(黄色土ブロック混じり)		13c		B1・2
66		土壌	茶色土		14c中頃	3面	B9
67		たまり状土壌	黒茶色土		13c~14c	3面	B9
68	6SX068	ビット	暗黒茶色土			3面	B9
69		土壌	茶色土		13c~14c	3面	B9
71		ビット	褐色土		13c前半	4面	B1
72		ビット	褐色土		11c~13c	4面	B1
73	6SX073	土壌	褐色土		13c~	4面	B1
74		土壌	灰茶色土		中世	3面	B13
76		ビット	茶色土				B9
77		ビット群	茶灰色土			4面	B2
78	6SX078	ビット	暗茶灰色土		13c前半	4面	B2
79		土壌	暗茶灰色土		13c?	4面	B2
80	6SD080	溝	暗灰色土		12c~13c	4面	B14
81		ビット	茶灰色土	77→81		4面	B2
82		土壌	暗赤灰色土	82→78	13c前半	4面	B2
83		ビット	茶色土	83→76			B9
84		ビット群	茶色土			1面	B8
85		ビット(礫石)	暗茶色土(黄色土ブロック混じり)		12c~13c	3面	B14
86		土壌	茶色土			1面	B7
87		土壌	暗茶色土			1面	B8
88		ビット	淡茶色土			1面	B8
89		土壌×ビット	灰茶色土		13c	1面	B7
90		整地×土壌	暗茶褐色土			4面	B6・7
91		ビット		91→57		3面	B6
92		ビット				3面	B7
93		土壌					B8
94		たまり状土壌				3面	B9
95	6SD095	溝			12c~13c	3×4面	B13
96		ビット				3面	B8
97		土壌					B8
98		土壌				3面	B8・9
99		たまり状土壌					B9

表 47 連歌屋6次調査 遺構一覧(3)

S番号	遺構番号	遺構性格	埋積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
101		ピット群			1 2c	4面	B11
102		土壌				3面	B6
103		土壌		S-34の廻り残し?		?	B8
104		ピット			1 3c	3面	B7
105	6SK105	土壌	暗茶色土		1 3c 中頃～後半	4面	B1
106		たまり状土壌	淡茶色土	S-1の廻り残し?	奈良時代?		B10
107		土壌	淡茶色土		1 2c	3面	B10
108		土壌	茶黒色土				B10
109		たまり状土壌					B9
110		溝					B8
111		土壌	茶灰色土		1 3c	4面	B2
112		土壌	茶灰色土		1 3c	4面	B2
113		ピット	茶灰色土			4面	B2
114		ピット群				4面	B8
115		溝				4面	B10
116		ピット				4面	B9
117		ピット				4面	B9
118		ピット					B11
119		ピット					B10
120		溝×たまり状土壌					B6
121		ピット				1面?	B9
122		ピット				4面	B9
123		ピット				4面	B8
124		たまり状土壌					B8
125	6SK125	土壌					B7
126		土壌				4面	B7
127		たまり状土壌		127→105		4面	B1
128		ピット				4面	B2
129		たまり状土壌					B2
130		土壌	灰褐色土				B8
131		ピット群		130→131			B9
132		たまり状土壌	黒灰色土	130→132→131	1 3c 後半～		B9
133		ピット					B8
134		ピット					B8
135		土壌×井戸					B6
136		ピット					B8
137		ピット					B10
138		土壌					B10
139		ピット		110→139→130			B8
141		たまり状土壌					B7
142		ピット					B7
143		ピット					B6
145		たまり状土壌×溝					B6

表 48 連歌屋6次 遺物一覧表1

S-1		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (ヘウ)、小皿a (イト)	
	勝行鉢、慶×鉢、大皿	
須磨貫土器	印?	
瓦 類	丸瓦 (古代)	

S-2		
土 師 器	环a (イト)	
瓦 類	平瓦 (橋子・古代)	

S-3		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)	
龜島窯系青磁	鉢：鏡片	
瓦 類	平瓦 (二重橋子・古代)	

S-4		
須 磨 窯	慶	
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)	
瓦 類	焼	
土 師 貫 土 器	勝行鉢?	
白 磁	焼：VI~VIII 透物：藍×水注	
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶器×皿	
肥前系土器	染付焼反鉢	
瓦 類	平瓦 (近押)、平瓦 (橋子・古代)	

S-5		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)	
同安楽系青磁	焼：11b、鏡片	
中 國 陶 器	香：饅頭壺	
瓦 類	巻物箱：藍×水注 平瓦 (橋子・平瓦 (橋月口))	

S-5兼増土		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、小皿c	
龜島窯系青磁	鉢：鏡片	
土 師 貫 土 器	七輪サン	
須 磨 貫 土 器	鉢?	
白 磁	焼：IV、覆鉢	
須 磨 陶 器	磁胎器×鉢、磁胎土器、染付行平?、鉄地鉢?	
肥前系土器	染付：丸鉢、平、小平、覆鉢	
瓦 類	平瓦 (橋子・古代)、丸瓦 (橋子)	
	平瓦 (加茂)、丸瓦 (加茂)、サン瓦	

S-6		
須 磨 窯	慶	
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)	
同安楽系青磁	焼：11b、鏡片	

S-7		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、丸瓦、慶×鉢	
土 師 貫 土 器	鉢?	

S-8		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)	

S-9		
須 磨 窯	慶?	
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)	
土 製 品	須土壺	
石 製 品	石函	

S-10		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、輪c	
同 安 楽 系 青 磁	陶輪：藍×慶	
白 磁	焼：鏡片	
瓦 類	平瓦 (近世)	
そ の 他 遺		

S-10兼増土		
瓦 類 土 類	大鉢	
須 磨 陶 器	饅頭：慶	
瓦 類	平瓦 (近世)、丸瓦 (橋子・古代)	

S-10兼色部		
土 師 器	环a (イト)、环a (ヘウ)、环b?	
同安楽系青磁	焼：鏡片	
同安楽系青磁	焼：鏡片	
須 磨 陶 器	刷毛手壺	
白 磁	磁胎：水注×器 (田系)、环c	
瓦 類	平瓦 (橋子・古代)、丸瓦 (古代)	

S-11		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)	
土 師 貫 土 器	慶?、赤七輪	
須 磨 陶 器	鉄地壺	
須 磨 窯 器	プリント焼	
瓦 類	平瓦 (近世)、丸瓦 (橋子・古代)	

S-12		
土 師 器	小皿a (イト)	
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶器	
瓦 類	平瓦 (近世)	

S-13		
土 師 器	輪c?、小皿b?	
白 磁	焼：鏡片	
瓦 類	丸瓦 (橋子)	

S-14		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、大皿c、輪c	
同安楽系青磁	焼：11b、鏡片	
輸入陶磁器	朝鮮系無釉陶器	

S-15		
土 師 器	环a (ヘウ)、小皿a (イト)	
龜島窯系青磁	焼：1、鏡片	
肥前系土器	染付：鏡片	
石 製 品	碁石? (IT)	

S-16		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)	
白 磁	焼：VI~VIII	
瓦 類	平瓦 (近世)、丸瓦 (橋子・古代)	

S-17		
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、大鉢	
龜島窯系青磁	巻物箱：鏡片	
須 磨 陶 器	饅頭：慶?	
同 安 楽 系 青 磁	环、鏡片	

S-18		
須 磨 窯	慶×器	
土 師 器	大环a (イト)、环a (イト)、小皿a (イト)	
	环c×輪c、慶a	
白 磁	焼：V	

表 49 連歌屋6次 遺物一覧表2

S-19

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
-------	------------------

S-20

土 師 器	环a (イト)、球c、小皿a (イト)
須恵質土器	磁片 (東瀬川)
白 磁	輪; 磁片
金属製品	洗淨
石製物品	洗淨
瓦 類	磁片 (近世)、平瓦 (二重格子・古代)、軒平瓦 磁片
その他	炭

S-21

土 師 器	环a、环a (イト)、丸环a、皿c、小皿a (イト)、壺
黒色土器B	磁片
奈良系青磁	輪; 磁片
須恵陶器	磨り鉢 (磨前)
白 磁	輪; II
瓦 類	平瓦 (格子・古代)

S-22

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
白 磁	定輪; 合子
磁 器 磁 器	色磁輪?
金属製品	鉄輪
瓦 類	平瓦 (近世~)、平瓦 (近世~) 平瓦 (格子・古代)

S-23

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、輪c?
須恵質土器	鉢?

S-24

瓦 器	輪
土師質土器	磨り鉢
白 磁	輪; IV?
金属製品	鉄釘
瓦 類	平瓦 (近世~)

S-25

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、大皿
-------	---------------------

S-25 韓黑色土

土 師 器	环a (イト)
白 磁	皿; IX-I
瓦 類	平瓦

S-25 明黄系土

土 師 器	小皿a (イト)
-------	----------

S-27

土 師 器	环a (イト)
中瀬川系	磨; 花磁器?

S-28

土 師 器	环a (イト)、球a (イト)、丸环、輪c
瓦 類	平瓦 (二重格子・古代)

S-29

須 恵 器	壺
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、小皿c
瓦 類	輪
同安国系青磁	皿; I-2b、磁片
同 産 陶 器	青津輪磁片
白 磁	輪; IV
二 製 品	瓦玉
瓦 類	平瓦 (二重格子・古代)

S-30

須 恵 器	壺?
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、丸环
龍泉系青磁	輪; II-b 色磁輪; 磁片
同安国系青磁	輪; III-1c、磁片
土 師 質 土 器	鉢
須 恵 質 土 器	鉢?
白 磁	輪; IV、V、VI、VII、VIII、磁片 皿; I、IV-1a、X-1~4、7、XII、磁片
青 白 磁	合子
中瀬川系	庵輪磁、磁×水注
輸入陶磁器	磨り磨輪磁器
金 属 製 品	スラッグ
石 製 品	磨石
瓦 類	平瓦 (無文)、平瓦 (文字)

S-31

土 師 器	小皿a (イト)、丸环
瓦 製 土 器	磨り鉢
白 磁	輪; V-4b 皿; IX×龍IX
輸入陶磁器	磨り磨輪磁器
石 製 品	石輪c

S-32

土 師 器	环a (イト)、皿a (イト)
土師質土器	七輪サン、釜? (菊文スタンプ入り)
須 恵 質 土 器	鉢 (東瀬川)
同 産 陶 器	磨 (磨前?)
土 製 品	瓦玉
瓦 類	丸瓦 (近世)、丸瓦 (格子・古代)

S-35

瓦 類	輪
白 磁	輪; IV-1b、磁片

S-35 鴨居土

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
白 磁	輪; IV 皿; VI、VII
瓦 類	丸瓦 (無文・古代)

S-36

土 師 器	环a (イト)
白 磁	輪; 磁片、VIII 磨輪; 坏区?

S-37

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
瓦 類	磁片 (古代)

表 50 連歌屋 6 次 遺物一覧表 3

S-38

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、小皿a (ヘウ)
肥 前 系 土 器	染付; 环、小环
瓦 器	破片 (破器)
そ の 他	方巾 (絹)

S-39

土 師 器	环a (イト)
瓦 器 土 器	鏡
瓦 器	平瓦 (無文)

S-40

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、小皿c
須 磨 系 土 器	鉢 (東播磨)
瓦 器 土 器	鉢?
白 磁	柄: II
土 師 器	酒徳: 徳×水注 (田系?)、徳
土 製 品	焼土塊、瓦玉
石 製 品	漆石破片、肥前製不明製品
瓦 器	丸瓦 (無文)、丸瓦 (格子・古代)、丸瓦 (横目) 平瓦 (格子・古代)

S-41

土 師 器	环a (イト)
土 師 器 土 器	火鉢?

S-42

土 師 器	环a (イト)
土 製 品	瓦玉

S-43

須 磨 系 土 器	破片
土 師 器	小皿a (ヘウ)、小皿a (イト)、丸环a
阿 波 系 青 磁	柄: I
白 磁	柄: IV
瓦 器	皿: VI

S-44

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
阿 波 系 青 磁	柄: I

S-45

土 師 器	小皿a (イト)、丸环
瓦 器	輪
阿 波 系 青 磁	柄: 破片
土 師 器 土 器	火鉢?
瓦 器 土 器	火鉢
中 國 陶 器	磁器罐; 磁輪杯蓋
白 磁	柄: IV 皿: 破片
肥 前 系 土 器	交打: 柄×皿、丸輪 磁輪杯
須 磨 系 土 器	磁筒; 磨り鉢、蓋 加藤磨り鉢、磁輪火鉢
阿 波 系 青 磁	鉢
土 製 品	焼土塊
石 製 品	チャート (コア)

S-46

須 磨 系 土 器	鏡
土 師 器	环a (イト)、皿a (イト)、皿c、輪c?、丸环
土 師 器 土 器	大甕
須 磨 系 土 器	破輪; 蓋、肥手
白 磁	柄: II
土 製 品	焼土塊
瓦 器	丸瓦 (破器)、軒平瓦 (近世)

S-47

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、皿c?
瓦 器	平瓦 (二品格子・古代)

S-48

須 磨 系 土 器	鏡
土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
越 前 系 青 磁	柄: II 皿: I
阿 波 系 青 磁	皿: 破片
白 磁	柄: 破片
須 磨 系 土 器	破輪; 破片?、鉢?
阿 波 系 青 磁	タイル?

S-49

土 師 器	小皿a (イト)
瓦 器	輪
土 師 器 土 器	鉢?

S-50

須 磨 系 土 器	鏡
土 師 器	环a (イト)、环a (ヘウ)、小皿a (イト)、丸环
大 甕	
瓦 器	輪
阿 波 系 青 磁	皿: 趣意皿×阿波系
須 磨 系 土 器	鉢 (東播磨)、皿、皿×鏡
白 磁	柄: V、IV、VIII 器徳: 水注×書 (田系)、鉢? (内道輪割的)
中 國 陶 器	磁器罐; 青磁製
金 製 品	銀洋、銀釘?
土 製 品	瓦玉
瓦 器	軒丸瓦 (巴)、丸瓦 (格子・古代)、平瓦 (横目) 丸瓦 (無文)

S-51

土 師 器	环a (ヘウ)
土 製 品	焼土塊 (土器入り)

S-52

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)、割付鉢?
須 磨 系 土 器	柄: 皿b

S-53

土 師 器	环a (ヘウ)、小皿a (イト)、皿c?
黒 色 土 器	皿
瓦 器	輪
阿 波 系 青 磁	柄; 破片
須 磨 系 土 器	鉢 (東播磨)
須 磨 系 土 器	鏡 (後継×東播)、陶輪輪 (東播系)
瓦 器	平瓦 (無文)

S-54

土 師 器	环a (イト)、小皿a (イト)
土 師 器 土 器	鉢×火鉢
そ の 他	木炭

表 51 連歌屋6次 遺物一覧表4

S-56	土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
------	-------	----------------

S-57 唐灰土

遺 器 類	
土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)、丸环
白 磁	碗：V～VII
瓦 類	平瓦(文字「寂楽寺」・古代)

S-57 唐灰土

土 師 器	环a(イト)、环c(イト)、小皿a(イト)
国 産 陶 器	陶埴：唐×雙
白 磁	碗：IV

S-57

土 師 器	环a(イト)、环c?、小皿a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	陶埴種：环?
同安窯系青磁	陶：焼片
十 師 質 土 器	磨り鉢、火鉢
須惠質土器	鉢(東播磨)
瓦 質 土 器	磨り鉢
白 磁	碗：V、IV、V～VII 皿：焼片
中 国 陶 器	器：焼片
国 産 陶 器	陶埴：唐?、唐×环、唐×雙 磨り鉢 V×VI(備前)、鉢輪环(後京口製)
国 産 磁 器	白磁種(元×朝)
金 屬 製 品	鉄鉢、淨、鉄瓶
石 製 品	丸石(白)、石碗、磨り石
土 製 品	瓦瓦
瓦 類	平瓦(簡子・古代)、平瓦(二重格子・古代) 平瓦(無文)、平瓦(備前)、丸瓦(二重格子) 丸瓦(簡子)、丸瓦(備前II?)、蓮瓦瓦

S-58

土 師 器	环a(イト)、雙×鉢
国 産 陶 器	唐(備前×唐洲)
輸入陶器	朝鮮鉢輪陶器焼片
白 磁	碗：II、IV 皿：VI
瓦 類	軒丸瓦

S-60

土 師 器	小皿a(イト)、皿c、丸环、碗c?
白 磁	碗：焼片、IV

S-61

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	碗：鉢b
土 師 質 土 器	鉢
白 磁	碗：V
中 国 陶 器	鉢：I
瓦 類	平瓦(文字「寂楽寺」)

S-62

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
瓦 類	平瓦
中 国 陶 器	地胎種：海輪耳器

S-63

土 師 器	环a(イト)、碗c
土 師 質 土 器	鉢

S-64

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)、碗c?
須惠質土器	鉢?
瓦 質 土 器	鉢
土 製 品	焼土塊
瓦 類	平瓦(簡子・古代)

S-65

土 師 器	大环、环a(イト)、小皿a(イト)、碗c
黑色土器B	碗?
土 師 質 土 器	火舎
須惠質土器	鉢(東播磨)
国 産 陶 器	唐(唐洲)
中 国 陶 器	唐：海輪種?
瓦 類	平瓦(古代)、平瓦(簡子・古代)

S-66

土 師 器	丸环、碗c?
須惠質土器	鉢?
瓦 類	平瓦(古代)

S-67

土 師 器	环a(イト)、丸环
黑色土器B	碗?
白 磁	碗：II
瓦 類	平瓦(無文)

S-68

土 師 器	环c、小皿a(イト)
瓦 類	鉢
石 製 品	鉢北水

S-69

土 師 器	环a(イト)、环a(イト)、小皿a(イト)
土 製 品	煎茶土製品

S-71

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
-------	----------------

S-72

土 師 器	环a(イト)
白 磁	碗：XII
瓦 類	丸瓦(無文)

S-73

土 師 器	环a(イト)、小皿a(イト)
龍泉窯系青磁	碗：III
土 師 質 土 器	鉢c
須惠質土器	鉢
白 磁	碗：焼片
土 製 品	加工土器片
石 製 品	滑石製石碗

S-74

須惠質土器	
土 師 器	雙×鉢、环a(イト)
白 磁	碗：焼片
輸入陶器	朝鮮鉢輪陶器唐×雙
国 産 磁 器	小碗?

S-76

土 師 器	环a(イト)
-------	--------

表 52 連歌屋 6 次 遺物一覧表 5

S-77

土 師 器	埴a (イト)
須 恵 賀 土 器	鉢
中 国 陶 器	包箱種: 碧輪磁片

S-78

土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
土 製 品	瓦葺

S-79

土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
-------	------------------

S-80

須 恵 賀 土 器	壺
土 師 器	埴a (イト)、鏡c?、丸杯、鏡?
瓦 葺	椀
白 磁	椀: IV、V~VII 皿: III
瓦 葺	埴 (楊子)、平瓦 (文字「安樂寺」) 丸瓦 (古代)

S-81

土 師 器	埴a (イト)
-------	---------

S-82

土 師 器	埴a (イト)
-------	---------

S-83

土 師 器	埴a (イト)、埴a (ヘウ)
中 国 陶 器	壺: 黄緑壺

S-84

土 師 器	埴a (イト)、埴a (ヘウ)、埴b?、埴c×鏡c 小皿a (ヘウ)
黒 色 土 師 器	磁片
土 師 器	御少鉢皿
白 磁	鏡: V 香物: 磁片
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器
瓦 葺	平瓦 (無文・古代)、平瓦 (楊子・古代)

S-85

土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、文皿 (イト)
須 恵 賀 土 器	壺×壺
須 恵 賀 土 器	壺? (壺跡×完壺)
石 製 品	磨石磁片 (3)

S-86

土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、鏡c
龍泉洞系青磁	鏡: IIb
河安楽系青磁	鏡: 磁片
白 磁	鏡: 磁片
輸入陶磁器	朝鮮無釉陶器

S-87

土 師 器	小皿a (イト)、埴a
-------	-------------

S-88

土 師 器	埴a (イト)
-------	---------

S-89

土 師 器	小皿a (イト)
瓦 葺	磁片
龍泉洞系青磁	鏡: IIb
石 製 品	磨石磁片

S-90

土 師 器	埴a (ヘウ)、埴a (イト)、小皿a (ヘウ) 皿a (イト)、丸杯c
越州龍泉系青磁	鏡: II
土 師 器	鉢、御付鉢
須 恵 賀 土 器	壺
白 磁	鏡: II、IV-1a、IV、VI~VIII、VIII 皿: III-1
瓦 葺	平瓦 (無文・古代)
石 製 品	磨石製加工品
そ の 他	石輪スレート

S-90 志保土

須 恵 賀 土 器	壺
土 師 器	埴a (ヘウ)、小皿a (ヘウ)、小皿a (イト)
黒 色 土 師 器	鏡、皿c?
須 恵 賀 土 師 器	鉢?
白 磁	鏡: IV
石 製 品	石輪磁片

S-90 黒島土

土 師 器	埴a? (イト・越前域のものか)、小皿a (イト) 小皿c、丸杯
黒 色 土 師 器	皿c
越州龍泉系青磁	壺: 磁片
高 麗 青 磁	鏡: 磁片
土 師 器	土師鉢
白 磁	鏡: IV-a、IV 皿: V~VII
四 産 磁 器	椀
曹 白 磁	香子
瓦 葺	平瓦 (無文)、平瓦 (二重楊子・古代)

S-90 美原土

土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、小皿a (ヘウ) 丸杯、丸杯c
瓦 葺	鉢
土 師 器	御付鉢
須 恵 賀 土 器	壺
白 磁	鏡: II、IV-a、IV、磁片 磁物: 壺×赤注 (川系)
中国陶磁器	壺: 龍輪器、磁片
肥 前 系 土 師 器	壺: 龍輪大壺
石 製 品	石輪A
瓦 葺	平瓦 (二重楊子)

S-91

土 師 器	小皿a (イト)、小皿a (ヘウ)、丸杯
-------	----------------------

S-92

土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)、丸杯c?
白 磁	鏡: 磁片、IV

S-93

土 師 器	埴a (イト)、小皿a (イト)
龍泉洞系青磁	鏡: IIb
白 磁	皿: 磁片
石 製 品	磨石製加工品
瓦 葺	平瓦 (無文・古代)、丸瓦 (無文・古代)

S-94

土 師 器	埴a (イト)
-------	---------

表 53 連歌屋 6次 遺物一覧表 6

S-95	
須 惠 器 裏	
土 師 器 環a (イト?), 皿a (ヘウ)	
黒色土器A 碗	
瓦 器 碗	
土師質土器 不明破片 (曲線あり), 鉢?	
白 磁 碗: II?, IV, VII?, XI-1, XI-7, XI	
金属製品 鉄釘	
瓦 類 平瓦 (二重格子・古代), 平瓦 (無文・古代)	

S-96	
土 師 器 環a (イト), 環a (ヘウ), 小皿a (イト), 丸鉢	
瓦 質 土 器 磨り鉢	
白 磁 碗: V-VIII	
金属製品 金押	
石 製 品 obf	

S-97	
須 惠 器 裏	
土 師 器 小皿a (ヘウ), 小皿a (イト), 碗c, 丸鉢	
瓦 器 碗	
白 磁 碗: XI, 破片 皿: IV-VI 遺物: 小鏡	
瓦 類 丸瓦 (無文・古代)	

S-98	
須 惠 器 裏, 前	
土 師 器 環a (イト), 小皿a (イト), 丸鉢, 丸鉢c?	
土師質土器 鉢 (S-90 黒磁七に同一個体あり)	
須 惠 質 土 器 鉢	
白 磁 碗: 破片 皿: VI	

S-99	
土 師 器 環a (ヘウ), 環a? (イト), 碗c? (外来品?)	
黒色土器A 碗?	
越前焼系青磁 碗: I	

S-101	
土 師 器 環a (イト), 小皿a (イト)	
白 磁 碗: B	

S-102	
土 師 器 環a (イト), 小皿a (イト), 丸鉢	
白 磁 碗: IV 破片: 破片	
土 製 品 焼石碗	
石 製 品 磨石?	

S-103	
土 師 器 環a (イト), 環b?	
瓦 類 平瓦 (無文)	

S-104	
土 師 器 環a (イト), 碗c, 小皿a (イト)	
瓦 器 碗?	
白 磁 碗: VI	

S-105	
須 惠 器 裏	
土 師 器 環a (イト), 小皿a (イト)	
同安福系青磁 碗: I, 破片	
須 惠 質 土 器 鉢 (裏側破)	
白 磁 碗: IV	
金属製品 磁押?, 鉄釘	
瓦 類 丸瓦 (無文), 丸瓦 (格子)	

S-106	
土 師 器 皿a (ヘウ), 小皿a (イト), 丸鉢	
土師質土器 鉢	

S-107	
土 師 器 環a (イト), 小皿a (イト), 碗c	

S-108 黒基土	
土 師 器 環a (イト), 小皿a (イト)	
土師質土器 破片	
白 磁 碗: 破片	

S-108 茶色土	
土 師 器 環a? (ヘウ), 小皿a (イト)	
輸入陶磁器 朝鮮陶磁器器台×裏	
金属製品 鉄釘	

S-109	
土 師 器 環a (ヘウ), 平の字皿	
黒色土器B 碗	

S-110	
土 師 器 小皿a (ヘウ?), 碗c, 丸鉢	
土 製 品 焼石皿	
瓦 類 平瓦 (二重格子)	

S-111	
土 師 器 環a (イト)	
瓦 類 石碗?	

S-112	
土 師 器 環a (イト)	
白 磁 碗: II	

S-113	
土 師 器 環a (イト)	

S-114	
須 惠 器 裏	
土 師 器 環a (イト), 環a (ヘウ), 小皿a (イト)	
白 磁 器台: 坏区	

S-115	
土 師 器 環a (イト)	
須 惠 質 土 器 器×裏	

S-116	
土 師 器 環a (イト)	

S-117	
土 師 器 小皿a (ヘウ), 小皿a? (イト)	

S-118	
土 師 器 小皿a (ヘウ)	

表 54 連歌屋6次 遺物一覧表7

S-120

土 師 器	小皿a(へう)、丸杯
瓦	部 椀

S-121

土 師 器	小皿a?(イト)
土 師 質 土 師	鉢?

S-122

土 師 器	杯a(イト)
-------	--------

S-123

土 師 器	小皿a(イト)
黒色土 師B	鉢

S-124

土 師 器	杯a?
-------	-----

S-125

土 師 器	小皿a(イト)
土 師 質 土 師	鉢×鉢

S-125 黒色土

土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)、小皿a(へう)
瓦	部 椀、皿
鎌倉泉系青磁	椀：IIb
須賀質土 師	鉢
白	磁 輪：V
中 國 陶 器	磁片?
土 製 品	埴土塊
瓦	部 平瓦(文字?・古代)

S-125 黒色粘

土 師 器	杯a(イト)、椀c?
-------	------------

S-126

須 賀 器	重
土 師 器	杯a(イト)

S-127

土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)
-------	----------------

S-128

土 師 器	杯a、小皿a(イト)
-------	------------

S-129

土 師 器	杯a(イト)、小皿a(イト)
瓦	部 丸瓦(無文)、平瓦(種子・古代)

S-130

土 師 器	小皿a(へう)、椀c
黒色土 師B	椀
須 賀 質 土 師	鉢?
白	磁 輪：磁片
加	：IV、IV×V
土 製 品	瓦瓦
石 製 品	ans-f
瓦	部 丸瓦(無文・古代)

S-131

土 師 器	杯a(イト)、丸杯、椀c
瓦	部 磁片

S-132

土 師 器	杯a(イト)、杯b、小皿a(イト)、椀c、丸杯
瓦	部 椀

S-133

土 師 器	小皿a(へう)
瓦	部 磁片

S-134

土 師 器	小皿a(へう)、小皿a(イト)
黒色土 師B	椀

S-135

土 師 器	小皿a(イト)
阿波泉系青磁	椀：磁片

S-136

土 師 器	杯a(へう)
-------	--------

S-137

土 師 器	杯a?(イト)、小皿a(イト)
-------	-----------------

S-138

土 師 器	丸杯
瓦	部 丸瓦(種子)

S-139

瓦	部 椀
---	-----

S-141

土 師 器	杯a?
白	磁 磁器：磁片

S-142

土 師 器	杯a(イト)、丸杯?
中 國 陶 器	罍?(龍紋×常盤)
白	磁 輪：磁片
石 製 品	チャートイ

S-143

土 師 器	磁片
中 國 陶 器	他磁器：磁片

S-145

土 師 器	杯a(へう)、小皿a(へう)、丸杯
白	磁 器：VI×VII
瓦	部 平瓦(無文)

長尾七

須 賀 器	鉢、密?
土 師 器	杯a(イト)、杯a(御孔)、杯c、小皿a(へう)
	小皿a(イト)、皿c、丸杯
瓦	部 椀
越前泉系青磁	部：磁片
鎌倉泉系青磁	椀：磁片
土 師 質 土 師	段?鉢
中 國 陶 器	罍(龍紋×常盤)
白	磁 輪：IV、VII×VIII、VIII
加	：IV
土 製 品	埴土塊
石 製 品	石輪
瓦	部 平瓦(種子)

表 55 連歌屋 6 次 遺物一覧表 8

褐色土	
須恵器	甕?
土師器	环a(イト)、环b、小皿a(イト)、大皿?、甕c?
瓦	筒
阿波屋系青磁	筒:磁片
瓦質土師	鉢
肥前系土師	袋付鉢
白磁	鉢:IV、V
輸入陶磁器	朝鮮系白磁陶磁器
金属製品	鉄造
瓦	平瓦(近世)

明瓦土	
土師器	环a(イト)、小皿a(イト)
土師質土師	大鉢

赤色土	
須恵器	甕
土師器	环a(イト)、环b、小皿a(イト)、皿c
瓦	筒
阿波屋系青磁	鉢:1、皿b
阿波屋系青磁	筒:磁片
土師質土師	赤心鉢、赤七輪、白七輪(砂地)、七輪ヤン(近世)
須恵質土師	環付鉢、甕?、別案?
瓦質土師	大皿、大鉢(須恵)、環付鉢、造りくち
白磁	鉢:II、IV?、VI、V、VI×VII 香盤:金子、茶塗×器(III系)
中国陶器	白磁器、青磁器
肥前系土師	袋付:鉢、瓶(内箱動動)、小丸鉢、四角瓶、皿 皿(磁石×線)、菊皿、雲ね鉢、鉢、角鉢 和服手丸鉢、プリント丸鉢、香炉
国産陶器	陶鉢:皿、土器、甕?、把手付甕×鉢、鉢、徳利 大甕 甕(備前×常滑)、細皿、四角、土器?、甕(常滑) 色絵皿×鉢、磁軸すり鉢、磁軸鉢、数輪小鉢 山水土師
金属製品	鉄造、輪付押、鉄釘
中国陶器	色絵様:黄釉器
瓦	緑色片岩、甕(赤褐色)
瓦	平瓦(近世)、ヤン瓦(近世?)、丸瓦(近世)
瓦	平瓦(橋子×古代)、丸瓦(橋子)

褐色土	
須恵器	甕
土師器	环a(イト)、环c、小皿a(イト)、丸环、丸环c?
黒色土師A	甕?
瓦	筒
阿波屋系青磁	鉢:皿
土師質土師	甕?
肥前系土師	タイル
白磁	鉢:IV?、V-4c、V、磁片
土製品	不明土製品
瓦	平瓦(橋子?)

褐色土	
須恵器	磁片、甕、環×环
土師器	环a(イト)、环a(へう)、环a×b(イト) 环b(イト)、小皿a(イト)、小皿b、皿c、丸环 小环、磁片(磁石)
瓦	筒
阿波屋系青磁	鉢:1、2a、1、1?、II-b、II、磁片
阿波屋系青磁	色絵様:香炉、磁片
阿波屋系青磁	鉢:1、II、I、磁片
阿波屋系青磁	皿:1、II、I、磁片
須恵質土師	甕、鉢(東播磨)、高白付鉢、甕×甕
瓦質土師	環付鉢、風炉、脚付鉢
瓦	筒
白磁	鉢:II-3b×4b、II、IV、IV-b、IV-1a、V V-1c×d×4b、V-1c×d×V-4b×c、V-3、V? V×VII、VIII-1×3、VIII、磁片 皿:II、II×IV、V×VI-b、VI、VI×VII、VIII 皿×XI、IX-1 香盤:磁片
風船陶器	天目鉢
中国陶器	鉢:1、II、I
瓦	筒
土師質土師	鉢?、鉢、脚付鉢、環付鉢
国産陶器	甕(備前×常滑)、土瓶、湯桶器×甕、四角瓶、磁片
須恵系土師	磁片
肥前系土師	袋付、脚付
輸入陶磁器	朝鮮系白磁陶磁器?、朝鮮系白磁陶磁器×甕 朝鮮系白磁陶磁器
金属製品	鉄釘?
土製品	瓦瓦
石製品	磁石、石鏡c、磁石? (黒)
瓦	丸瓦、丸瓦(近世)、平瓦(橋子×古代)
瓦	丸瓦(橋子×古代)、丸瓦(巴?)
その他	造りくち磁片、レンガ

表土	
須恵器	甕
土師器	环a(イト)、小皿a(イト)
瓦	筒
阿波屋系青磁	鉢:II?、II-a
阿波屋系青磁	皿:磁片
土師質土師	赤七輪
瓦質土師	環付鉢
白磁	鉢:V、V?
肥前系土師	袋付:丸鉢、磁造草、皿、丸鉢(印田寺)、黄茶碗 皿(プリント)
陶器	陶器
陶器	磁鉢:甕?、華蓋?、土瓶、甕? 磁軸すり鉢、白磁器?、磁軸鉢?、山水土瓶 色絵甕?、香津高ハケ手大皿、行丸具
国産陶器	色
土製品	レンガ、瓦瓦
石製品	石鏡c
瓦	丸瓦(近世)、平瓦(近世)、平瓦(橋子×古代) 平瓦(備前?)

表 56 連歌屋 6 次遺物計測表

遺物番号	書号	種別	口径	高さ	底径	底径/口径	内径	内径/口径	底径/高さ	口径/高さ
s-40	001	土師器	小皿a	7.4	1.1	6.3	イト	○	○	○
	002	土師器	小皿a	8.4	1.2	6.4	イト	○	○	○
	003	土師器	小皿a	8.6	1.1	6.5	イト	○	○	○
	004	土師器	小皿a	8.8	0.9	6.8	イト	○	○	○、底
			平均	8.4	1.1	6.6				
s-43	001	土師器	小皿a	9.3	1.4	7.2	へう	○	○	○
	002	土師器	小皿a	8.4	1.2	6.4	イト	○	○	○
s-45	001	土師器	小皿a	8.4	1.2	6.5	イト	○	○	○
	002	土師器	小皿a	7.4	1.1	6.1	イト	○	○	○、底
				平均	7.9	1.2	6.4			
s-46	001	土師器	环a	12.4	2.4	8.6	イト	○	○	○
	004	土師器	环a	12.6	2.6	8.8	イト	○	○	○
	005	土師器	环a	11.6	2.6	8.2	イト	○	○	○、底
	006	土師器	环a	12.4	2.8	9.2	イト	○	○	○、底
				平均	12.3	2.6	8.7			

(6) 連歌屋7次調査

1. 調査の経緯

調査地は、太宰府市宰府3丁目1179-8に所在する。この調査は6次調査の延長にあたるもので調査原因は市の道路拡幅である。地権者との関係などから限定的な調査となった。

調査は高橋学と山村が担当した。

連歌屋遺跡7次調査日誌抄(1997年)

9.29 調査区設定、掘り下げ、実測、埋め戻し。

2. 調査の概要

長さ約6mのトレンチを重機で設定し、淡黄色の塵の混じる地盤まで掘り下げた。遺構としては調査区の西側で地盤に切りこむ灰色土を覆土とする落ちの東側の際を検出した。土層の堆積は現代の遺物が入る黄灰土、黒灰土の下に近代の遺物が入る暗灰土、灰色土があり、中世以前の遺物を含む淡灰土などが堆積する。

3. 出土遺物

暗灰土出土遺物 (fig87, pla55-2)

龍泉窯系青磁

碗(1,2) 1は口径が10.0cmに復元される。明灰色の胎土に光沢のある灰青色の釉が掛かる。IV類の小碗か。2は口径12.8、器高6.5、底径4.6cmを測る。内底にスタンプ模様、外面に線描きの連弁を縦線と波状線で表現する。黄灰色の胎土に淡い灰青色の釉が掛かる。上田分類のB-IVに当たる。

国産陶器

蓋(3) 径が10.5cmに復元され、落し蓋式の形状を呈す。明赤褐色の胎土に黒褐色の釉を施す。

瓦質土器

すり鉢(4) 口縁端部に向かって厚くなり、端部上面に平坦面を持つ。外面には連続した指頭圧痕があり、内面はハケ目の上にすり目が入る。淡橙色の胎土に薄い黒灰色の燻しがかかる。芯は黒色を呈す。

土師器

小皿(5) 口径5.9、器高1.0、底径4.2cmに復元される。著しく磨耗する。口縁の一部が波打っており、耳皿のようなものであった可能性もある。

表 57 連歌屋7次 遺物一覧表

暗灰土	
土 師 器	研a(イト)、小皿a(ヘウ)、小皿b(イト)
龍泉窯系青磁	碗:1, 上田B-IV
	皿:覆片
	色掛碗:小碗(口はび)
土 師 質 土 器	すり鉢IV
瓦 質 土 器	すり鉢IV
白 磁	碗:IV
肥前系陶磁器	染付プリント小碗
国 産 陶 器	燻物産?
瓦	平瓦(無文)

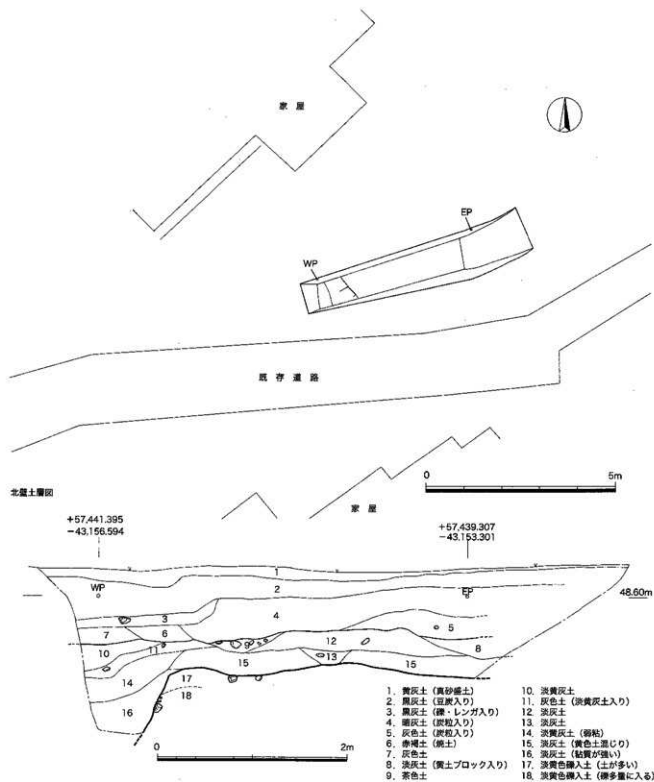


fig86 連歌屋7次調査遺構全体図 (1/100)、北壁土層図 (1/40)

fig87 連歌屋7次暗灰土出土遺物実測図 (1/3)

(7) 連歌屋 8 次調査

1. 調査の経緯

調査地は、太宰府市宰府 3 丁目 1232 に所在する。天満宮の通用口に続く集落のメインの通りの南側に面す。

当該地番の地権者の申請に基づき平成 10 年 7 月より発掘調査を実施した。調査は高橋学と山村信榮が担当した。

連歌屋遺跡 8 次調査日誌抄 (1998 年)

- 7.2 西区重機による表土除去。
- 7.7 基準点測量。調査区設定。
- 7.8 遺構検出し掘り下げ。
- 8.4 遺構実測。
- 8.20 西区重機による埋め戻し。
- 8.21 東区重機による表土除去。
- 8.24 基準点測量。調査区設定。
- 8.25 遺構検出し、掘り下げ。
- 8.31 清掃し空中写真撮影。
- 9.2 重機による埋め戻し。

2. 調査の概要

連歌屋遺跡 8 次調査は地権者との協議により、東西約半分づつのエリア (区) に分けて調査区を設定し、西側から調査を着手した。

遺構は 2 面が存在し、西区では上から近現代の遺物を含む青色砂、茶色土があり、中世の遺物を含む褐色土、明茶土、暗茶色土が続く。東区は北側の間口は西や南側に比較して遺構の検出面は浅く、近現代の遺物を含む黒灰土、黒色土を除去した時点で近代から中世の遺構が同一面で検出されている。南東側の溜まり状遺構 8SX045,060,061 などは古代後半から中世にかけての土地の低い側を均した整地層の可能性はある。

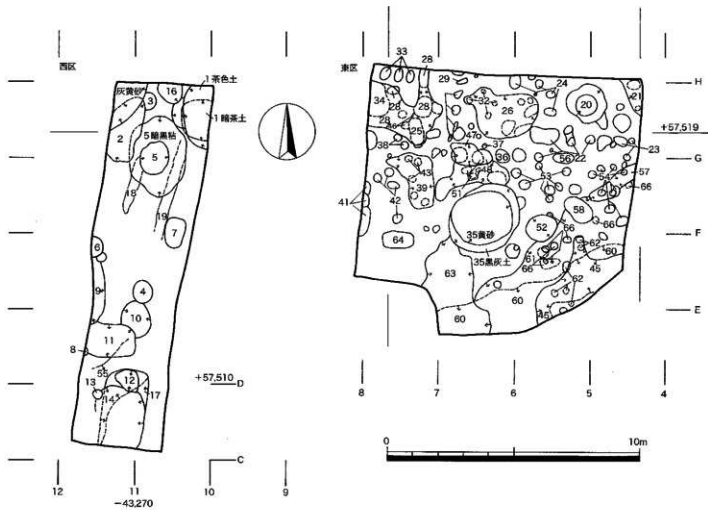
3. 遺構

掘建柱建物

8SB030 (fig91) 東区の北西側で検出された建物で、8つのピットから成りさらに西側に延伸しているものと想定している。柱間は梁間が 1.4 と 1.8m で桁間が 2.85m で桁間が若干広い。a-h 間は 1 スパン空いている。建物の振れは N-1-9° -W で北に対し西に振れている。ピットからは 12 世紀後半以降の遺物が出土している。

8SB040 (fig91) 東区の北東側で検出された建物で、9つのピットから成りさらに北と東側に延伸しているものと想定している。柱間は梁間が 1.4 と 1.6m で桁間が 2.0m で桁間が若干広い。a-d 間は庇の柱筋か。建物の振れは N-6-13° -E で北に対し東に振れている。ピットからは 12 世紀後半以降

fig88 連歌屋 8次調査遺構略図 (1/150)



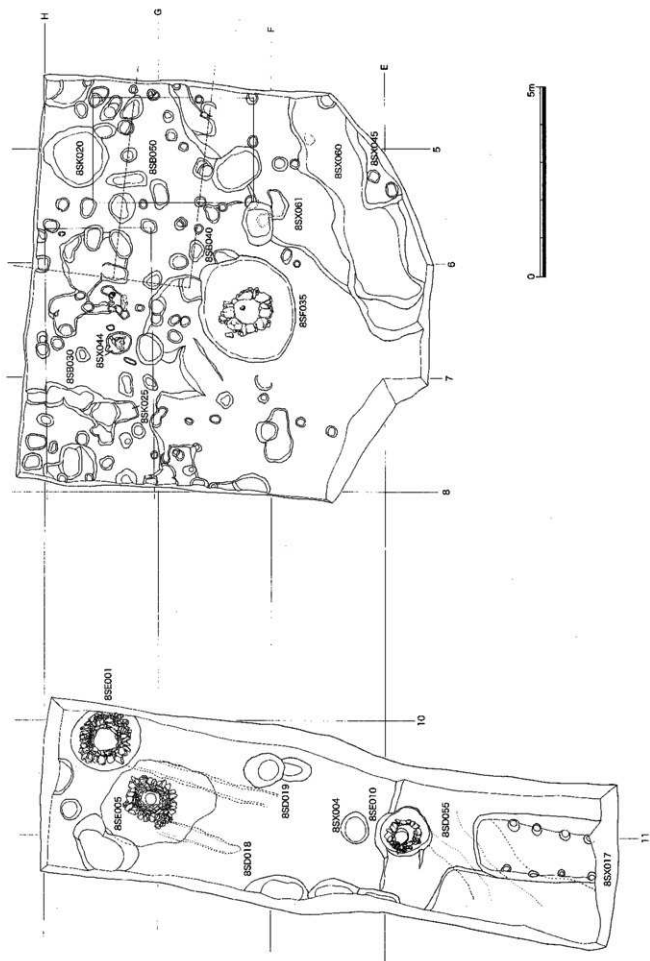
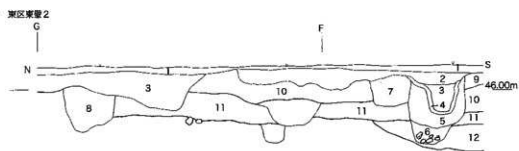
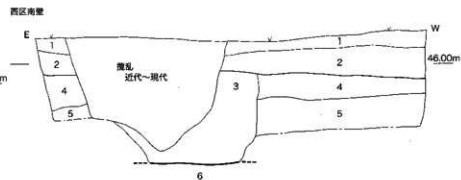
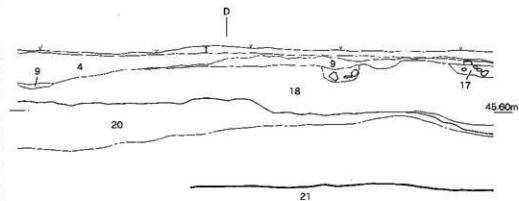
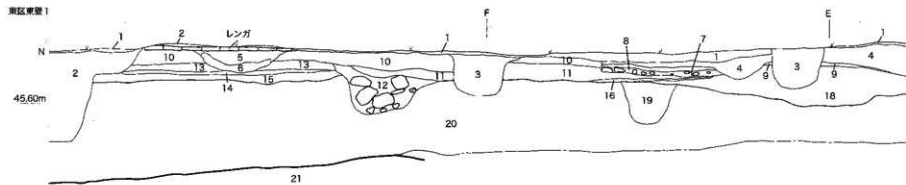


fig89, 連歌屋 8 次調査 全体図 (1/100)



※土層凡例はfig101下に掲載

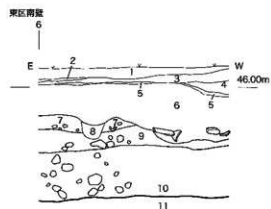
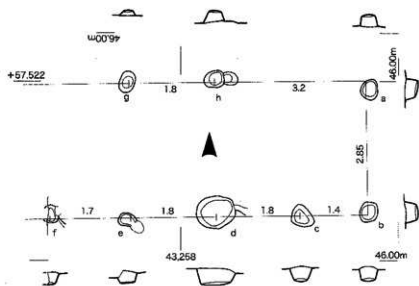
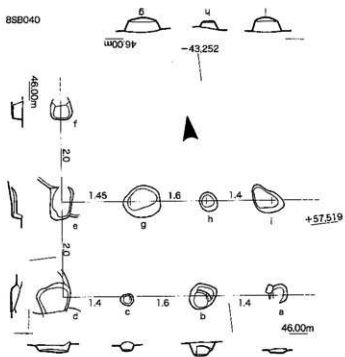


fig90 蓮歌屋 8次調査土層図 (1/40)

8SB030



8SB040



8SB050

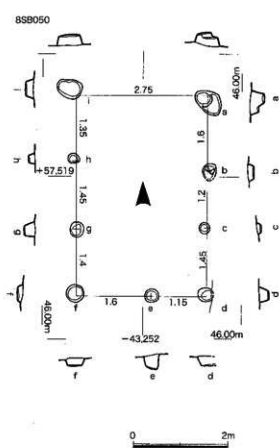


fig91 連歌屋8次掘立柱建物 (030,040,050) 実測図 (1/80)

の遺物が出土している。

8SB050 (fig91) 東区の北東側で検出された建物で、9つのピットから成る。柱間は梁間が1.2～1.6mの多少不ぞろいな間隔で桁間が約2.8mで桁間が広い。建物の振れはなく、正方位をとる。ピットからは瓦質のすり鉢片など13世紀後半以降までの遺物が出土している。

井戸

8SE001 (fig92, pla59-1・2.60-1) 西区の北東で検出した石組みの井戸で、内径80cm、深さ1.2mを測る。上面は礫が集積された状況で検出された。底は花崗岩風化岩盤に達している。表面を覆う茶色土には近代の遺物が含まれるが、井戸埋没土からは12世紀後半前後の遺物で占められる。

8SE005 (fig92, pla60-2) 西区の北側、8SE001の西隣で検出された石組みの井戸で、内径1m、深さ1.3mを測る。底は深さ20cmほどの溜まり状になっている。外側の掘り方は大きめで3×2.3mの楕円形をなす。井戸枠内は暗褐色土、暗茶土の順で堆積し、裏込め暗黒粘土で埋められる。出土した遺物から枠は14世紀に埋没したと考えられる。

8SE010 (fig 93, pla61-1・2) 西区の中央付近で検出された石組みの井戸で、石組みは2段分が残るのみでかなり削平されている。枠の内径60cm、深さ40cmで、底に径40cmの溜まりが形成されている。底は花崗岩風化岩盤に達している。近世以降の瓦が出土している。

8SE035 (fig93, pla63-2) 東区の中央で検出された現代まで使用されていた石組みの井戸で、調査は上面の検出に止めた。枠の内径70cm、掘り方径は2.8mを測る。埋め戻しに伴って節を抜いた竹が中央に据えられている。

土坑

8SK020 (fig94, pla64-1) 東区の北側で検出された1.7～1.6mの楕円形の土坑で、埋没途中で黄色系、茶色系の土を敷いた痕跡が断面で観察された。廃棄以外の機能があった可能性がある。

8SK025 (fig94, pla62-2) 東区の北西側で検出された1～0.6mの方形の土坑で、南端が一段深くなっている。北側の埋没土中には鍛造剥片が面的に広がり、全体に「ふいご」と小礫が検出された。底の北端で銅銭が1枚出土した。出土した土器は少なく、時期を決定するには至らない。

8SK044 (fig94) 直径約60cmの楕円形の掘り方をもつ遺構で、底の中央に黄色の粘土の塊とその周りに円礫が配置されたように検出された。

溝跡

8SD018 (fig93) 西区の地山直上で検出された幅0.4m、深さ20cmほどの溝で、遺物は出土していない。北に対して多少東に振れる。8SD019とは心芯幅1.4mの間隔で並行する。遺物は出土していない。

8SD019 (fig93) 西区の地山直上で検出された幅0.4m、深さ20cmほどの溝で、遺物は出土していない。北に対して多少東に振れる。8SD018と対で土地の区画や通路に係わる施設であった可能性も考えられる。遺物は出土していない。

8SD055 (fig93) 西区の地山直上で検出された幅1.6m、深さ10cmほどの溝で、遺物は出土していない。北に対してかなり東に振れる。

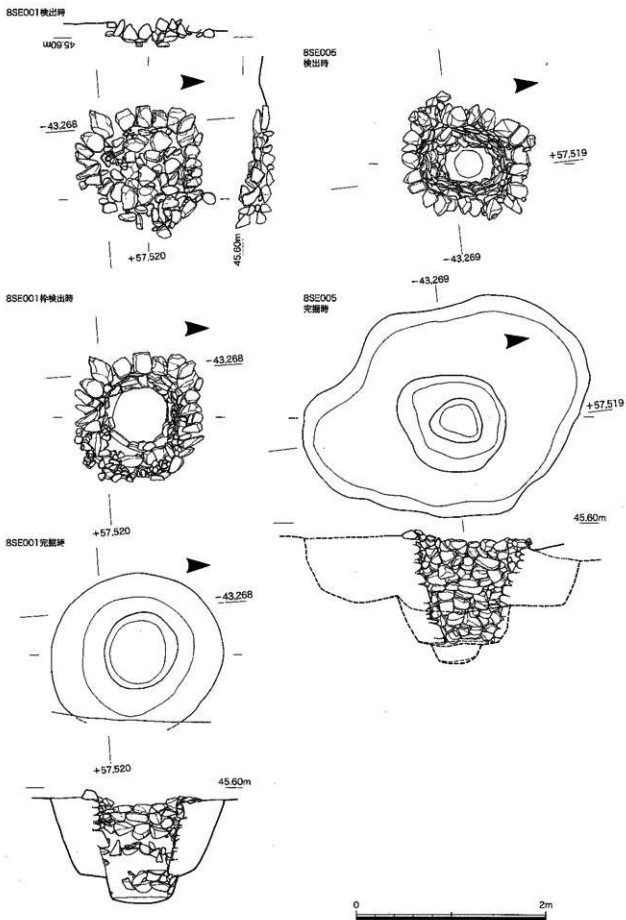


fig92 連歌屋 8 次井戸跡 (001,005) 実測図 1 (1/40)

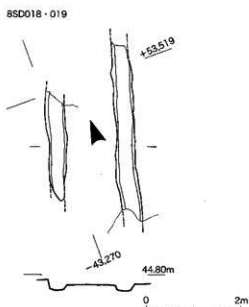
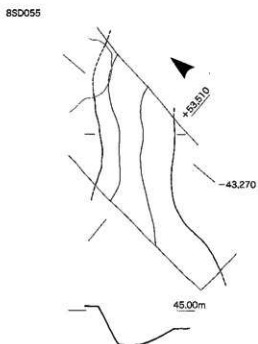
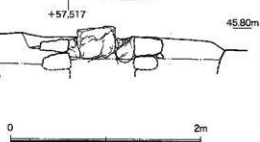
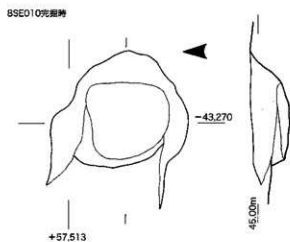
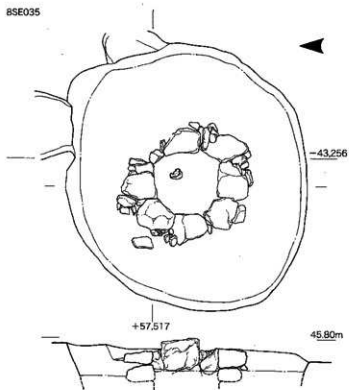
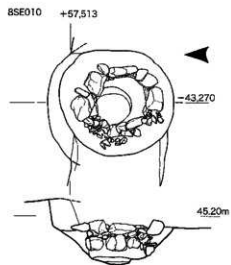


fig93 連歌屋8次井戸跡 (010,035) 2実測図 (1/40)、溝 (018,019,055) 実測図 (1/80)

その他の遺構

8SX004 (fig94, pla62-1.63-1) 西区の8SE010の北側で検出された埋め裏遺構で、掘り方径は80cmを測る。裏は底の部分のみが残る。

8SX017 (fig94) 深さが最大で50cmほどが残る長方形の掘り方をもつ遺構で、床面の壁際に8個以上の小穴が並ぶ。地権者の話などから防空壕跡と考えられる。壁際のピットは壁際に板壁材を挟んだり屋根材を支える機能を持つ柱が据えられたものと思われる。

4. 出土遺物

8SE035 黄砂出土遺物 (fig95)

肥前系磁器

椀(1) 底径が3.3cmに復元されるもので、くすんだ青色の呉須で圏線と見込みに「寿」の文字を描く。
丸椀(2) 底径が2.9cmに復元され、半球径の胴部を持つ椀で、くすんだ青色の呉須で圏線と横線を描く。

筒椀(3) 口径7.0、器高5.7、底径4.2cmに復元される筒状の小椀で、紺色の呉須で外面に花、内面上位に雷文帯を描く。

広東椀(4) 底径は6.3cmに復元される。丸い底部と足の長い高台を持つ。

国産陶器

椀(5) 底径が4.6cmに復元され、細い角高台に丸みのある体部を持つ。灰緑色の釉がかけられる。

皿(6) 口径9.0、器高2.2、底径3.4cmに復元され、内底に圏線とスタンプによる象嵌を持つ。暗灰褐色に象嵌部分は白土が入る。内底に目跡が残る。

蓋(7,8) 土瓶の蓋と考えられる高さ1cm以上の返しで垂下するもの。7は口径9.9、高さ3.6返し径6.5cmを測る。茶褐色の胎土に白灰色の釉が掛けられる。8は口径8.0、返し径5.8cmを測り、つまみ部分は欠損している。胎土は灰黒色、釉は乳白色、天井部に青と茶黒色で圏線と水玉模様を描かれる。

陶器

すり鉢(9) 底径が12.8cmに復元される。胎土は明茶褐色を呈し、外底部と内面のすり目は磨耗している。

土師質土器

赤七輪(10) 底部の破片で、突出する脚を持つ。内面はハケ目が施される。淡黄褐色を呈す。

瓦類

サン瓦(11) ヘ字に折れる部分の破片で、面的な平坦なナデが施され、胎土は灰白色、表面は黒灰色を呈す。

8SE005 暗褐色土出土遺物 (fig95)

土師器

大皿(1) 口径22.7、器高2.6、底径18.1cmに復元される。底部にはイト切り後に板状圧痕が残され、口縁端部にはナデにより段ができる。端部には浅い割れ口があり、この部位も含めて帯状に煤が付着する。淡黄褐色を呈す。

須恵質土器

甗(2) 底径が10.0cmに復元される。内外面にハケ目が施されている。

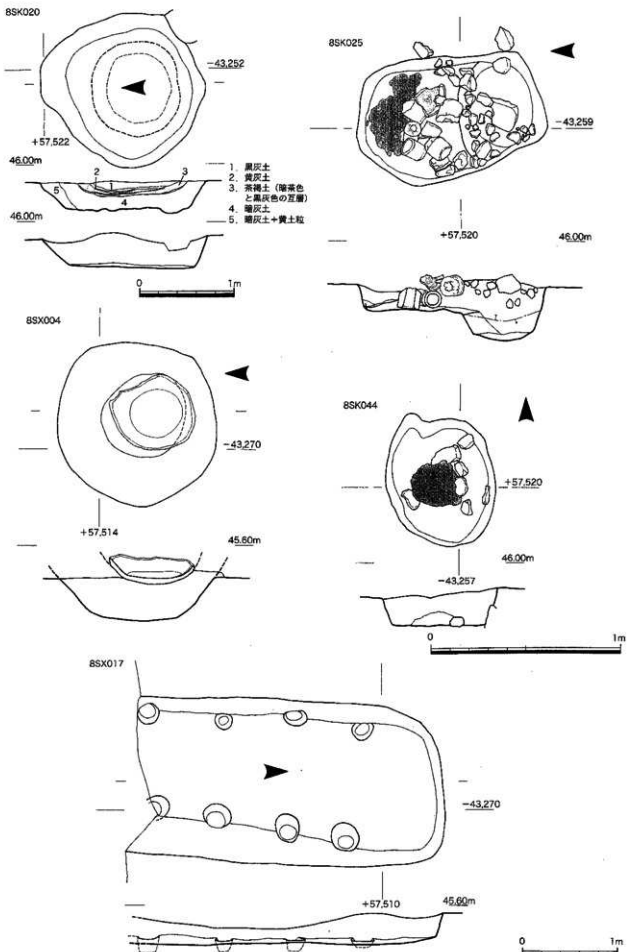


fig94 連歌屋 8次土坑 (020,025)、その他の遺構 (004,017,044) 実測図 (1/20,1/40,)

瓦質土器

鉢(3) 口径25.2、器高11.0、底径12.3cmに復元される。軟質で淡灰褐色を呈す。底部は中央に膨れぎみで体部は途中で上方に立ちあがり、口縁端部内面はM字形に厚くなる。中国陶器I類の鉢を模倣した器形と考えられる。

8SE005 暗茶土出土遺物 (fig95)

土師器

小皿a(1~3) 口径8.4~9.2、器高1.1、底径6.1~7.1cmに復元される。底部はイト切り後に板状圧痕が見られる。

龍泉窯系青磁

碗(4~7) 4と5はIIa類、他はIIb類。

8SE005 暗黒色粘土出土遺物 (fig95)

土師器

小皿a(1~4) 口径9.4~10.2、器高1.3~1.6、底径6.7~8.6cmに復元される。底部はヘラ切りで1と2は板状圧痕がつく。1は茶褐色、他は淡茶白色を呈す。

碗c(5) 底径が6.2cmに復元される。淡茶白色を呈す。

8SK020 暗灰土出土遺物 (fig95.pla64-2)

土師器

小皿a(1.2) 1は口径9.8、器高1.3、底径5.8cmに復元され、底部はヘラ切り後板状圧痕が残り、淡褐色を呈す。2は口径9.0、器高1.3、底径7.0cmに復元され、底部はイト切り。口縁端部の何箇所かに油煙が付着し、灯火具として使用されたと考えられる。

瓦器

碗(3) 口径が17.0cmに復元される。体部は半球形のカーブを持ち口縁に向かって厚くなる。口縁端部内側に浅い沈線が施される。内面は体部には連続した横方向、底部はハケの下地に平行するミガキが施される。黒色化は内面の一部に偏る。畿内桶葉型の瓦器碗と考えられる。

須恵質土器

鉢(4) 体部が斜め横方向に延びるもので、暗灰色を呈す。東播系のものと考えられる。

8SK025 黒色土出土遺物 (fig95.pla65-1)

土製品

輪羽口(1) 直径8cmほどに復元される筒状のもので、熱を受けた状況で暗黒灰色から明灰褐色、淡褐灰白色へと移行する。

8SK025 出土遺物 (fig96.97.pla65-1)

土製品

輪羽口(1~7) 直径が約9cmほどに復元される筒状の製品で、片側は先細になり黒色の硬い付着物が見られ、反対側は口が漏斗状になり黒色化する。筒の長さは10~12cm程度である。

8SK034 出土遺物 (fig96)

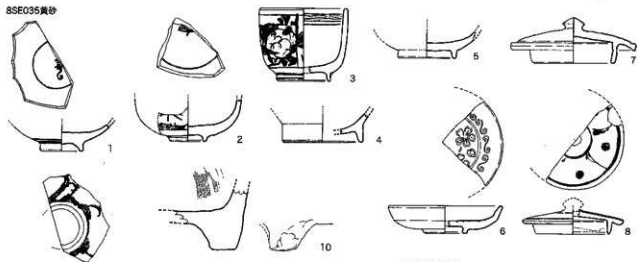
土製品

焼土塊(1) 一つのフラットな面を持ち、淡紅色、淡黒灰色、淡橙色の三色が隣り合う。この状況から高温での被熱が推定できる。用途は不明。炉壁の可能性もある。

8SK064 出土遺物 (fig97)

国産陶器

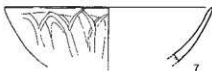
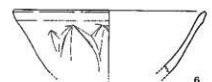
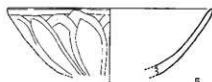
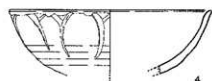
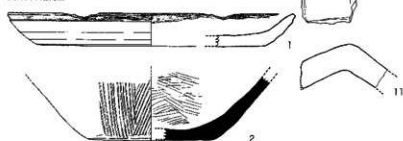
8SE035黄砂



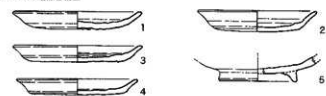
8SE005暗茶土



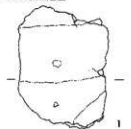
8SE005暗褐色土



8SE005暗黑色粘土



8SK025黑色土

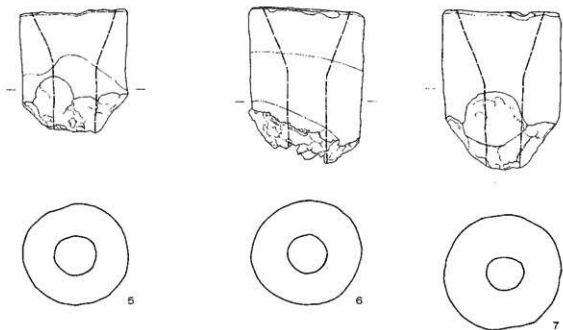
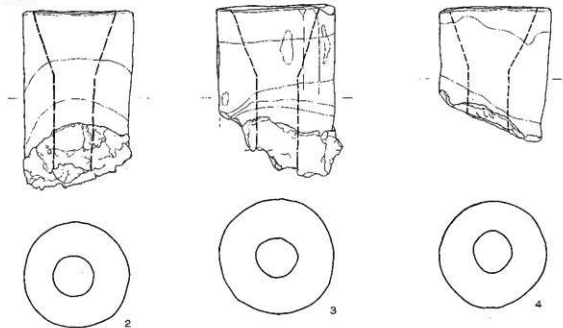


8SK020暗灰土

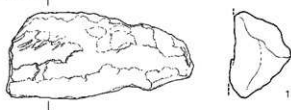


fig95 連歌屋 8 次戸跡 (005,035)、土坑 (020,025) 1 出土遺物実測図 (1/3)

BSK025



BSK034



0 10cm

fig96 連歌屋8次土坑(025,034)出土遺物実測図2(1/3)

徳利 (1) 口径 4.4、器高 30.8、底径 9.7cm に復元される。平底で肩がなく口縁に向かって径が漸減する形状を持つ。茶褐色の胎土に灰褐色の釉が掛かり、黄灰色の盛り上がった文字が書かれる。

土師器

坏×皿 (2) 型による隆起線で「福」字を表現する。胎土は淡橙黄色を呈し厚さ 0.5cm を測る。

8SX004 出土遺物 (fig91)

瓦類

平瓦 (1) 厚さ 1.8cm で須恵質の平瓦。斜格子に「安」字のタタキが残る。灰黒色を呈す。

8SX028 出土遺物 (fig97, pla65-2)

土製品

罐羽口 (1～3) 長さ 11.0～13.0、外径 8.5、内径 3.0cm ほどの筒状を成す。片側は黒色の一部ガラス状の付着物があり、小口は斜めに切られたような形状を成す。反対の小口は漏斗状を呈す。両口間は熱の伝わり具合に合わせて胎土の色調が黒色から褐色に偏移する。8SK025 出土のものに類似する。

8SX032 出土遺物 (fig98)

土師器

坏 b (1) 厚さ 0.3～0.4cm の薄い器壁を持ち淡灰褐色を呈す。内底部に墨書らしい痕跡が見られる。

鉢 (2) 玉葱状の形状を成し、口縁端部は内傾する。ロクロによるナデの軌跡が残る。明褐色を呈す。

鉢×香炉 (3) 方柱状に成形された粘土塊で鉢ないし香炉の脚部片であろう。2と同じ個体であった可能性もある。明褐色を呈す。

磁器

碗 (4) 口径が 13.2cm に復元され、口縁端部が若干内側に折れる形状を呈す。焼きは軟質で陶器質であり釉は光沢のない白黄色、呉須は淡青灰色を呈す。産地は不明。

土製品

焼土塊 (5～7) 淡褐色を呈し、植物の繊維質の痕跡が見られる胎土を持つ。7 に矢竹状の骨材があった痕跡があり、塗り壁材であった可能性がある。

8SX037 出土遺物 (fig98)

土師器

小皿 a (1) 口径 6.5、器高 1.0、底径 3.8cm を測る。全体に均一で薄い形状を呈す。底部はイト切り。

土製品

焼土塊 (2) 淡灰褐色を呈す塊で、円柱形を呈す 2 方向の骨の痕跡が残る。壁材か。

この他、本遺構からは把手付きの焙烙の破片が出土している。

8SX038 出土遺物 (fig98)

土師質土器

焙烙 (1) 外面にナデを施したことによる段を持ち内面にハケ目を残す。

8SX043 出土遺物 (fig98)

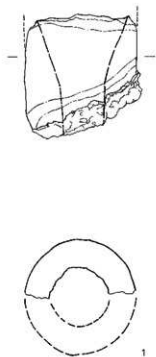
国産陶器

すり鉢 (1) 厚さ 0.5cm 程度の黒灰色の胎土を持ち、口縁は端部で丸く収められ外反する。暗茶褐色の釉が掛けられる。

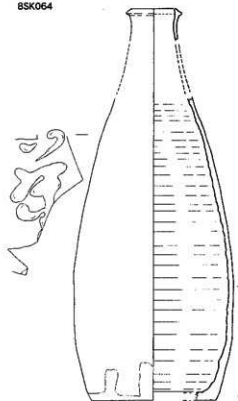
瓦質土器

鉢 (2) 口縁端部が内側に傾く丸い形状を持つもので、内面には工具による強いナデが施される。淡黒灰色を呈す。

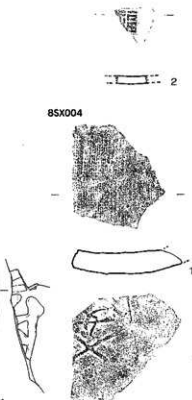
8SK025



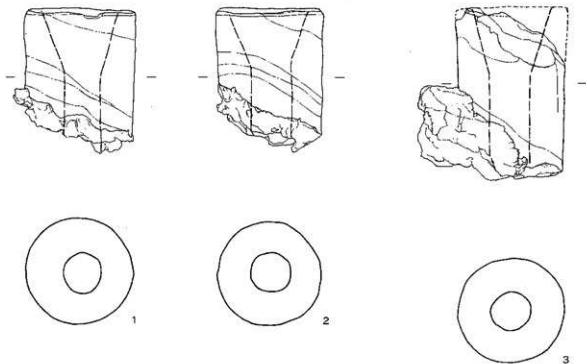
8SK064



8SK004



8SK028



0 10cm

fig97 連歌屋 8 次土坑 (025,064) 3、その他の遺構 (004,028) 1 出土遺物実測図 (1/3)

8SX045 出土遺物 (fig98)

土師器

- 小皿 a (1) 口径 9.0、器高 1.6、底径 6.5cm に復元される。底部はヘラ切りか。
環 a (2) 底部径は 7.0cm を測る。底部はヘラ切り後に板状圧痕が付く。淡黄褐色を呈す。
椀 (3) 高台径が 6.7cm に復元される。腰折れの体部を持つ。明褐色を呈す。

黒色土器 A

- 椀 (4,5) 4 は口径 15.6、器高 6.6、底径 9.7cm に復元される。半球径の胴部に直線的な高台を持つ。内面には手持ちのミガキが施される。胎土は黄褐色を呈し、内面は燻しにより黒灰色を呈す。5 は外側に広がる径 8.1cm の高台を持つ。内面のみが黒褐色を呈す。

黒色土器 B

- 椀 (6) 高台径は 8.3cm を測る。半球径の胴部に外に開く高台がつけられる。内外面に手持ちのミガキが施される。

須恵器

- 甕 (8,9) 平行刻みのタタキに平行刻みの当て具痕跡を残す。

瓦

- 丸瓦 (7) 厚さ 1.3cm ほどで、格子タタキを持つ。

8SX053 出土遺物 (fig98)

白磁

- 椀 (1) 底径は 4.9cm で、ケズリ出しによる高台を持つ。灰白色の胎土を持ち釉は透明で薄い緑灰色を呈す。外底部の中心付近は円形に淡茶褐色に変色する。

8SX060 出土遺物 (fig98)

土師器

- 皿 a (1) 口径 11.4、器高 1.5、底径 8.6cm に復元される。底部はヘラ切り後軽いナデを施す。
椀 c (2) 丸底の環に外に広がる高台を持つ。内面にコテの痕跡が見られる。淡黄褐色を呈す。
黒色土器 B (3) 丸みのある体部に短く外に広がる高台を持つ。内外面に手持ちのミガキが施される。

8SX061 出土遺物 (fig98.99.101.pla66-1)

土師器

- 皿 (1) 口径 10.3、器高 2.5cm を測る、底部は丸いがイト切りで板状圧痕が残る。
椀 c (2~4) 2 は口径 15.4、器高 5.6、底径 8.3cm を測る。口縁端部は多少外反し丸く収められる。体部下半は回転ヘラケズリが見られる。外底部は黒色を呈し、全体には淡褐色を呈す。3 は高台径が 7.2cm を測る。高台は直線的で外に広がる。底部にヘラ切りの痕跡が見られる。4 は高台径が 9.8cm を測る。淡茶白色を呈す。

- 脚付皿 (5) 底部径が 7.1cm に復元され、底部角に粘土塊で足が付けられる。淡黄白色を呈す。

- 甕 b (6) ゆるいカーブを描く口縁を持ち、内面はケズリ、外面には目の小さな斜格子のタタキが残る。

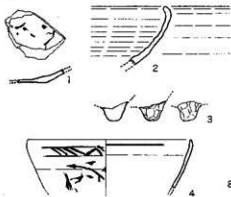
須恵器

- 甕 (7,8) 7 は格子タタキに平行刻みの当て具痕、8 は内面が同心円の当て具痕が残る。古代前半の所産である。

瓦質土器

- 脚付鉢 (9) 底部径が 13.0cm に復元される鉢で、1cm 程度の短い脚が付く。内外面に手持ちのミガ

BSX032



BSX037



BSX038



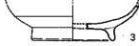
BSX045



BSX045



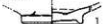
BSX043



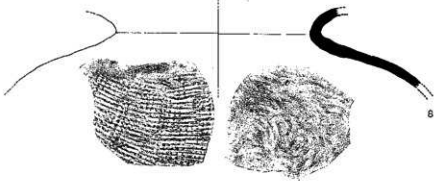
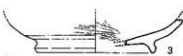
BSX061



BSX053



BSX060



0 10cm

fig98 連歌屋 8 次その他の遺構 (032,037,038,043,045,053,060,061) 出土遺物実測図 2 (1/3)

キが施される。

瓦類

丸瓦 (10) 須恵質の斜格子のタキを持つ丸瓦である。

石製品

刃器 (11) 安山岩を素材とし、原石表面を残し、縁辺部に連続する微細刻離が見られる。

8SX063 出土遺物 (fig99.101.pla66-2)

須恵器

蓋 (1) 口径は 15.8cm に復元される。口縁端部は内側に折り返しがある。

石製品

石臼 (2) 直径が 36cm ほどに復元される磨り臼で、片面には平行する 2 方向の線刻があり、反対の面は縁が高く、中心にむかって窪む形状を呈す。安山岩製。

明茶土出土遺物 (fig99)

土師器

坏 b (1) 底部径は 7.4cm に復元される。底部は回転イト切り。

肥前系磁器

筒椀 (2) 口径 6.9、器高 5.3、底径 3.8cm に復元される。筒状の小椀で胴部外面に青い呉須で網浜文が描かれる。

明褐土出土遺物 (fig99)

黒色土器 B

皿 (1) 口径 10.4、器高 2.2、底径 8.2cm を測る。丸底気味で、底部外面に板状圧痕を残す。内外面に手持ちのヘラミガキを残す。漆黒色を呈す。

瓦質土器

甕 (2) 外面にはハケ面を残す。胎土は灰色で部分的に黒色を呈す。

土製品

不明土製品 (3) 土器片を打ち欠いたもので、径 0.7cm ほどの穿孔が施される。

土鈴 (4) 幅が 2.4cm ほどの破片で、もとは中空構造で吊り手の紐穴が穿たれる。

黒灰土出土遺物 (fig99.100.pla67-1・2)

国産磁器

皿 (1.2) 1 は口径 10.7、器高 2.5、底径 6.1cm に、2 は口径 10.4、器高 2.5、底径 6.3cm に復元される。1 は内面に 2 箇所の子の跡が、外底にハマの軸着がみとめられる。2 はコバルトブルーの科学呉須で文様を描く。

肥前系磁器

鉢 (3) 底径は 7.0cm に復元される。凹型蛇の目高台を持ち高台内に「吉」字の墨書が施される。落ち着きのある青色の呉須で舟などが描かれる。

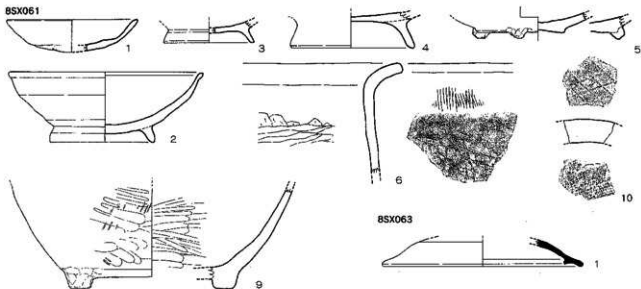
陶器

京風焼椀 (4) 底径は 4.0cm に復元される。半球径の胴部の外側にスタンプによる文様があり、淡黄色の釉にスタンプ部分のみ褐色の彩色が施される。

土瓶 (5) 直径 6.6cm の山水土瓶の蓋で、淡黄褐色の釉に茶黒色の鉄絵が描かれる。

甕 (6) 口径が 41.6cm に復元される。直線的な胴部にくびれて折り返したような T 字の口縁を持つ。

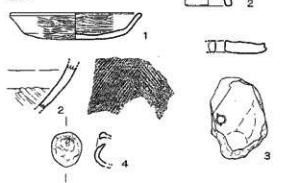
BSX061



明茶土



明褐土



黒灰土

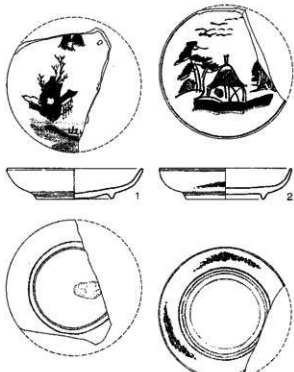
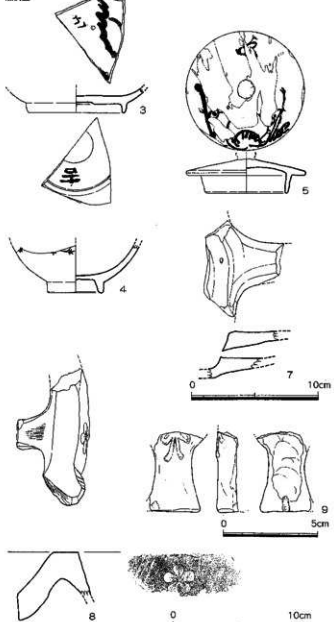
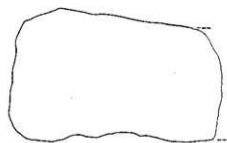
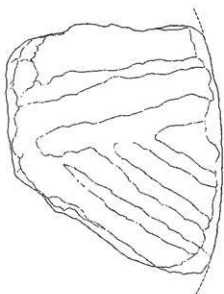
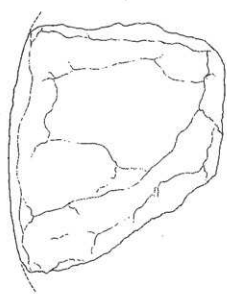
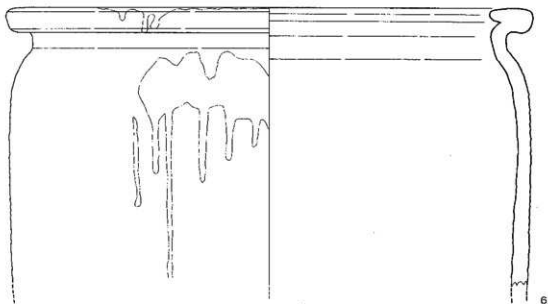


fig99 連歌屋 8次その他の遺構 (061,063) 3、明茶土、明褐土、黒灰土 1

出土遺物実測図 (1/2,1/3)

黒灰土



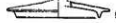
11



10

0 10cm

表土



6



4



1



2



3



6

fig100 連歌屋 8次黒灰土2、表土出土遺物実測図 (1/3)

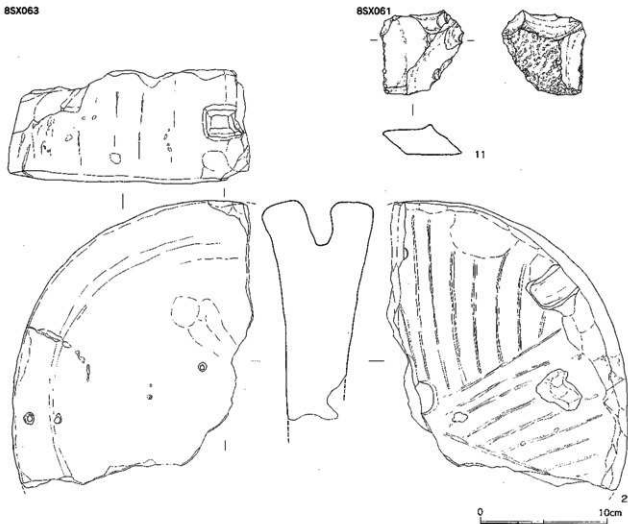


fig101 連歌屋 8次石製品実測図 (1/3)

Fig90 連歌屋 8次土層凡例

東区東壁 1

1. パラス 2. 灰色砂礫(下水管堀方) 3. 灰色土(パラス入り) 4. 灰色土(ビニール・コンクリート入り)
 5. 黄灰粗砂 6. 石灰混土層(白砂がコンクリート状に凝固する) 7. コンクリート 8. 灰褐色土礫入り
 9. 黄色土 10. 黒灰土(炭層) 11. 黒色土(粉炭状粒土あり) 12. 橙色土(花崗岩礫入り) 13.
 灰色土 14. 黄褐色粗砂 15. 黒灰土 16. 黄色土(床粘土) 17. 黒褐色土(礫入り) 18. 暗灰土…近世～
 近代か 19. 暗灰土(pit) 20. 黒褐砂礫 21. 橙色土(花崗岩風化石地山)

東区東壁 2

1. パラス 2. 淡黄褐色土(レンガ入り)…現代 3. 黄茶褐色土 4. 黄色土 5. 黒褐色土 6. 黒褐色土(小礫入り)
 7. 黒褐色土(赤色粘土粒入り) 8. 黄色土粒と灰色砂の混土 9. 黄灰褐色土 10. 黒灰土 11. 淡灰土(S-61)
 12. 黒灰砂(S-60)

西区南壁

1. 青色砂利…表土 2. 茶色土 3. 褐色土(礫混じり) 4. 明茶色土 5. 暗茶色土(礫を多量に含む)
 6. 花崗岩風化石

東区南壁

1. パラス 2. 黄土 3. 灰白土 4. 黄土 5. 炭層 6. 黄灰褐色土(S-63) 7. 淡灰土(S-61) 8. 黄灰褐
 土 9. 黒灰砂(S-60) 10. 灰色砂礫 11. 風化花崗岩盤

くすんだオリーブ色の釉の上から白灰色の釉が流し掛けられる。

土師質土器

焙烙(7) 把手の付くフライパン型のもので、深さは約3cmを測る。素焼きで淡灰褐色を呈す。

赤七輪(8) 内傾する口縁外面に梅鉢紋のスタンプが押印される。内側に器物を受けるための突起が下方向に出ている。淡赤褐色を呈す。

土製品

人形(9,10) 高さが10cm程度になる立像の破片で、型による成形で、型の合わせ目で剥離したものと考えられる。9には帯紐を結んだ表現があり背面と考えられる。内面にユビ押さえの痕跡が残される。胎土がやや硬めで白灰色を呈し、低火度の陶器質といえるかもしれない。

石製品

すり臼(11) 直径は50cmを越えるものになると考えられる磨り臼で、片面に幅が広い2方向の平行線が刻まれる。花崗岩製である。

表土出土遺物 (fig100)

肥前系磁器

椀(1,2) 1は口径7.2、器高5.5、底径3.7cmに復元される。筒状をなし、紺色の呉須で表に山水、内面上位に雷文帯を描く。2は口径7.1、器高4.4、底径3.2cmに復元される。環形の小椀で青色の呉須で連弁などを描く。

丸椀(3) 底径は3.7cmで下膨れの体部外面に青い呉須で草文を描く。

皿(4) 底径が4.8cmに復元される小皿で、平坦な内底に紺色の呉須で山水のような絵柄を描く。

国産磁器

蓋(5) 口径が8.2、受け部の径が6.6cmに復元される。天井部にはつまみがあったものと考えられる。プリントによる朱色の円形の模様は施される。

鉢(6) 方形を呈す火鉢と考えられるもので口縁端部は内側に突出している。内面には火をたいたことによると思われる茶褐色の付着物が見られる。外面は呉須による連続した模様がプリントされる。

5. 小結

8次調査では土地の地盤が北東に高く南側に低い環境が、人為的な背景で徐々に均された様相が遺物包含層の厚さの違いで認識された。8SX060.061などから、その端緒は12世紀を前後する頃に置かれると考えられる。このことは1次や6次で確認された南北の区画を示す溝の出現時期と関連すると理解され、この地域が平安後期、大宰府条坊跡第Ⅲ期に相当する時期に面的な造作が成されていたことを示すものと考えられる。

また、建物群の検出は住空間の復元にとっては重要であるが、本調査で確認された建物柱掘方から古代後半から中世の遺物小片が出土しているが、覆土の状況を勘案すれば、近世まで含めて考える必要がある。掘れが0°に近い8SB030.050などがそれである。近世には8SK025の複数のふいごの出土から金属加工を一時期行っていたことが判明している。本調査区がある場所には「筑前国続風土記付録」に収録された絵図によれば、社家や天満宮関係の施設が設置された地所となっている。先に挙げた正方位の建物群が近世に属するのであれば、これとの関係も考慮せねばならない。今回の調査では時代を限定できる建物遺構の検出には至らなかったが、今後、周辺において正方位の建物の検出がされた場合には注意を要する。

表 58 連歌屋 8 次調査 遺構一覽 (1)

S番号	遺構番号	遺構性格	堆積土	備考【先後関係など】	時期	層位	地区
1	8SE001	石組み井戸			13c		G11
2		たまり	灰色土+青灰色土				G11
3		ビット	暗黒灰色土		中世?		G10
4	8SX004	不明	明茶色土				E10
5	8SE005	石組み井戸	暗灰色土(粘質が強い)		13c 中頃~後半		F・G10
6		埋め戻		裏込め、底敷に石がある			E11
7		たまり	灰褐色土				E10
8		ビット	暗黒色土				D10
9		土壌					E11
10	8SE010	石組み井戸					D10
11		たまり状土壌	黒紫色土		12c~		D11
12		土壌	暗茶色土		19c~		D11
13		ビット	暗茶色土				C11
14		たまり×養地			19c~		C11
16		たまり	黄色土				G10
17	8SX017	土壌×防虫壁					C11
18	8SD018	溝					F10
19	8SD019	溝					F10
20	8SK020	土壌			中世		G5
21		たまり状土壌			中世		G4
22		たまり群			中世		G5
23		ビット群			中世		G5
24		ビット群			13c~		G5
25	8SK025	土壌		25→28			G7
26		現代瀧丸	コンクリート				G6
27		ビット群			中世		G6
28	8SX028	たまり状土壌					G7
29		ビット			15c~		H6
30	8SB030	竪立柱建物					G7
31		ビット群			13c 後半~		G6
32	8SX032	ビット群		32→26			G6
33		ビット群			中世後半~		G6
34	8SX034	土壌		34→28			H7
35	8SE035	井戸	黄色砂質土(裏込め土中)				G7
36		ビット			近世~現代		P6
37	8SX037	ビット					G6
38	8SX038	ビット群					G7
39		たまり状土壌			19c 中頃~		F7
40	8SB040	竪立柱建物					F10
41		たまり状土壌			16c~		F7
42		ビット群			12c~		F7
43	8SX043	ビット群		43→39			F7
44	8SX044	ビット	灰褐色土(炭粉入)				G7
45	8SX045	たまり状土壌	暗灰色土		10c~		E6
46		ビット群		46→25→28			G7
47		たまり状土壌					F6
48		ビット	砂礫層を切る最古遺構か	48→51			G6
49		ビット					G6
50	8SB050	竪立柱建物			近世後半~		F10
51		ビット群					F6
52		土壌			中世		F5
53	8SX053	ビット群			近世後半~		F5
54		ビット群	黒灰色土				F4
55	8SD055	溝			12c~		C11
56		ビット					G5
57		溝			11c~		G5
58		ビット			10c~		F5
59		ビット群			近世後半~		F5
60		ビット群			12c~		F5
61	8SX060	たまり状土壌		60→61→63			E5
62	8SX061	たまり状土壌	淡灰色土	61→45→63			E5
63	8SX063	たまり状土壌	黒灰色土	62→45			E5
64	8SK064	土壌	灰色土+棕色土		古代後半~		B6
65		ビット群			明治~		B6
66		ビット群		66→61			F7
							E5

表 59 連歌屋 8 次 遺物一覧表 1

S-1 茶色土

土 師 部	坪 a (へう)、皿 a (イト)、皿 c ?
土 師 質 土 師	鉢?
國 産 陶 器	プリント磁皿、磁粒器×産
白 磁	碗; 磁片
瓦 類	平瓦 (近世)

S-1 焼物結

窯 産 器 類	
土 師 部	丸杯、小皿 a (へう)
白 磁	碗; II, VIII ?、V-2

S-1 硝子土

須 恵 部	磁
土 師 部	小皿 a (へう)
瓦 類	陶
白 磁	碗; 磁片

S-2

土 師 質 土 師	白七輪、赤七輪?
肥前系陶磁器	陶片
國 産 陶 器	磁粒; 磁
土 師 部	磁十塊

S-3

土 師 部	坪
中 西 陶 器	器; 樹輪器, IV

S-4

土 師 部	坪 a (へう)
肥前系陶磁器	染付; 磁
國 産 陶 器	磁粒陶器、磁粒器?
瓦 類	平瓦 (文字+格子・古代)

S-5 硝子土

須 恵 部	磁
土 師 部	坪 a (イト)、坪 c ?、坪 c、丸杯、皿 a (イト)、皿 c 鉢 c ?、磁?
龜島系青磁	碗; I, B-b, II-a, 磁片
同安波系青磁	碗; I-1b, 磁片
輸入陶磁器	未分類; 朝鮮製陶磁器
濃尾系土師	鉢 (東洋系)
瓦 質 土 師	磁
白 磁	碗; IV
中 西 陶 器	器; 磁粒器、器 VII、器磁片、磁片 鉢; 鉢 2、磁粒鉢 他器種; 盤 1b、盤 1、小盤 1b、小皿、鉢×皿 器×水注×鉢
國 産 陶 器	磁
土 師 部	不明土製品
石 製 品	滑石製石調
瓦 類	平瓦 (格子・古代)

S-5 硝子土

土 師 部	丸杯、小皿 a (へう)
白 磁	碗; 磁片 磁粒; 磁

S-5 硝子結

須 恵 部	磁 3
土 師 部	坪 a (へう)、坪 a (イト)、小皿 a (へう)、丸杯 c 丸杯
瓦 類	陶
龜島系青磁	碗; 1b、磁片
白 磁	碗; II, IV, V, V-1, VIII、磁片 皿; II-1a, III-2, III, XI-4, XI-7
中 西 陶 器	器; 磁粒器、器 VII、器磁片 他器種; 盤 1-b、盤 1、小盤 1-2、磁片
土 師 部	加工磁器片 (磁?)

S-5 硝子土

土 師 部	坪 a (イト)、坪 a (へう)、小皿 a (イト)
龜島系青磁	碗; I-1a, I, II-b, II-a, 上皿 1a, 上皿 B-1b, 磁片 磁粒碗; 磁片
土 師 質 土 師	碗?、大壺
須 恵 質 土 師	鉢? (東洋系)
瓦 質 土 師	鉢、壺、壺り鉢
白 磁	碗; II, V-3, IX 皿; VI-1b, IX 磁粒; 磁片
中 西 陶 器	器; 酒樽等、磁粒磁器 他器種; 器器×水注、器×水注
瓦 類	丸瓦、平瓦、平瓦 (格子・古代)

S-5

須 恵 部	磁 3
土 師 部	坪 a (イト)、小皿 a (イト)
瓦 色 土 師 B	陶
龜島系青磁	碗; I-1
伏 輪 陶 器	染付; 丸輪
白 磁	碗; 磁片
そ の 他	コンクリート片

S-6 硝子土

土 師 質 土 師	七輪サン
肥前系陶磁器	染付; 磁粒碗
國 産 陶 器	磁粒; 磁
瓦 類	平瓦 (近世~)

S-7

土 師 部	坪 a (へう)、皿 c
國 産 陶 器	磁粒; 器×磁

S-8

土 師 部	坪
瓦 類	平瓦 (近世~)

S-9

土 師 部	坪 a (へう)
土 師 質 土 師	赤七輪
國 産 陶 器	丸輪、土磁器
瓦 類	丸瓦 (近世~)

S-10 焼物民土

須 恵 部	磁 3
土 師 部	坪 a ?
瓦 類	平瓦 (近世~)

S-11

土 師 部	丸杯
茶 色 土 師 A	陶
白 磁	皿; V×VI、磁片

S-12

龜島系青磁	碗; 磁片
肥前系陶磁器	染付; 磁
國 産 陶 器	土瓶、数輪器り鉢、磁粒灯火具
國 産 磁 器	色磁; 碗×坪
瓦 類	平瓦 (近世~)

S-13

土 師 部	小皿 a (イト)
土 師 質 土 師	白火鉢?
肥前系陶磁器	染付; 磁?

表 60 運歌屋 8 次 遺物一覧表 2

S-14

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (ヘウ)、丸环、鉢、碗 c
瓦 器	碗
土 師 實 土 器	罎
肥前系陶磁器	染付：皿
須 磨 陶 器	磁胎：鉢、土瓶、壺 鉄胎：すり鉢 練胎研? (近世～)、ままごと磁器、華瓶
西 産 磁 器	色絵：碗
石 製 品	碇石 (黒)
瓦 類	平瓦 (近世～)
そ の 他	ガラス製品 (ロート目薬)、コンクリート片 レンガ片、豆炭

S-16

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (ヘウ)
肥前系陶磁器	染付：环壺
須 磨 陶 器	磁胎：壺
西 産 磁 器	紅磁

S-20 茶碗土

土 師 器	小皿 a (イト)、丸环 c
黒色土器 A	椀×皿
黒色土器 B	椀
練 胎 陶 器	磁片
白 磁	椀：IV、V-2、V-1b × 2b × 3b × 4c × XII-1b、V × VII 唐物：磁片
土 製 品	土糸
石 製 品	丸石 (黒)
瓦 類	磁片?

S-20 黒灰土

土 師 器	小皿 a、小皿 a (イト)、椀
黒色土器 A	椀×皿
瓦 器	椀
瓦 實 土 器	鉢?
白 磁	椀：磁片 皿：V-2

S-20 黒灰土

土 師 器	小皿 a (ヘウ)、小皿 a (イト)、丸环 c?
瓦 器	碗
須 磨 實 土 器	鉢 (染唐系)
白 磁	椀：II、V、V-1a、V-2 × VIII-a × VIII-4、V × VII VIII?、磁片 皿：VII-c

S-20 黄灰土

土 師 器	丸环、小皿 a (ヘウ)
白 磁	椀：磁片 皿：磁片

S-21

須 磨 器	环 c?
土 師 器	小皿 a (イト)
土 師 實 土 器	鉢、罎?
瓦 實 土 器	すり鉢
石 製 品	丸石 (白)
瓦 類	平瓦 (近世～)

S-22

須 磨 器	磁片
土 師 器	丸环、环 a (イト)、小皿 a (ヘウ)
黒色土器 B	椀
白 磁	椀：磁片

S-23

土 師 器	小皿 a (ヘウ)、丸环、ての字皿
黒色土器 A	椀
黒色土器 B	椀
瓦 器	椀
土 師 實 土 器	鉢
須 磨 實 土 器 (染唐系)	
白 磁	椀：磁片 皿：磁片

S-24

土 師 器	环 a (イト)、小皿 a (ヘウ)
阿波系青磁	皿：磁片
白 磁	椀：磁片

S-25

土 師 器	环 a (イト)
瓦 實 土 器	火折し蓋
土 製 品	輪郭口 (?)
輸入陶磁器	未分形：肥前系陶磁器白×壺

S-26

土 師 器	环 b?、丸环
白 磁	椀：IV
石 製 品	緑色磁片

S-27

土 師 器	环 a (ヘウ)、小皿 a (ヘウ)
土 師 實 土 器	罎?
瓦 實 土 器	火鉢

S-28

土 師 器	环 a (イト)
阿波系青磁	椀：I-1b、磁片
須 磨 實 土 器	鉢 (染唐系?)
瓦 實 土 器	鉢?
肥前系陶磁器	染付：丸椀
須 磨 陶 器	山水土瓶、磁胎鉢?、鉄胎壺
白 磁	椀：II、磁片 皿：III-1、III?
土 製 品	輪郭口 (3)

S-29

須 磨 器	磁片、糞
土 師 器	环 a (イト)
土 師 實 土 器	すり鉢
瓦 實 土 器	椀

S-31

土 師 器	小皿 a (イト)、大皿?
黒色土器 B	椀
白 磁	皿：VIII、磁片

S-32

土 師 器	环 a (イト)、环 a (イト・黒唐?)、脚付鉢
黒色土器 A	环
輸入陶磁器	染付：椀 (産地不明)
土 師 實 土 器	罎?
土 製 品	模土塊

S-33

土 師 器	环 a (イト)
石 製 品	碇石

表 61 連歌屋 8 次 遺物一覧表 3

S-34

須 達 部	篋
土 師 器	坏 a (イト)、坏 a (ヘウ)、小皿 a (イト)
肥前系陶磁器	焼：磁片
	器：IV、磁片?
	他器種：磁片
阿波系陶磁器	焼：I-1b
土師質土器	焼
白 磁	焼：磁片
	器：VII-c、VII?
	産地：磁片
土 製 品	漆片

S-35 黄砂

土 師 器	坏 a (ヘウ)、小皿 a (ヘウ)
黒色土器 A	焼
黒色土器 B	焼
土師質土器	赤七輪、すり鉢
肥前系陶磁器	焼付：広葉鏡、丸鏡、物置鏡
阿波系陶磁器	鉄胎：煎茶、すり鉢
	器胎：鏡×器
	産地：産
	色絵十原皿、十原、傘取皿、
瓦 類	サン瓦

S-36

土 師 器	坏 a (イト)
黒色土器 A	焼
瓦 類	焼
土師質土器	焼?
白 磁	焼：磁片
阿波系陶磁器	産：肥前産
	他器種：器×水注

S-37

土 師 器	小皿 a×b、坏 a (イト)
瓦 質 土 器	把手付鉢
土 製 品	焼上焼

S-38

土 師 器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)
土師質土器	ほうろく
肥前系陶磁器	焼付：煎
白 磁	産地：磁片

S-39

土 師 器	小皿 a (イト)
肥前系陶磁器	焼付：煎
阿波系陶磁器	山水土瓶
白 磁	焼：II、V

S-41

須 達 部	器×鉢
瓦 質 土 器	坏 a
肥前系陶磁器	焼付：焼
阿波系陶磁器	焼胎：油深し
白 磁	焼：IV
瓦 類	磁片 (近世～)

S-42

土 師 器	丸坏、小皿 a (イト)
瓦 類	焼
土師質土器	餅付鉢?

S-43

土 師 器	坏 a (イト)、丸坏
瓦 類	焼
瓦 質 土 器	鉢、鏡?
阿波系陶磁器	産地：餅付鉢
白 磁	焼：磁片
瓦 類	平瓦 (内代)

S-44

肥前系陶磁器	焼付：鉢?
阿波系陶磁器	産地：鉢×器、行平
瓦 類	産地：サン瓦 (近世～)
そ の 他	アワビ、あざり?、帆立?

S-45

須 達 部	篋
土 師 器	坏 a (ヘウ)、小皿 a (ヘウ)、手の字皿?、焼 c
黒色土器 A	焼
黒色土器 B	焼
土師質土器	器×鉢、鉢?
白 磁	焼：磁片
輸入陶磁器	未分装：朝鮮無釉陶磁器?

S-46

土 師 器	丸坏
-------	----

S-48

土 師 器	丸坏
-------	----

S-49

土 師 器	坏 a (イト)
肥前系陶磁器	焼付：焼
阿波系陶磁器	白輪：産
阿波系陶磁器	産
瓦 類	磁片 (近世～)

S-51

須 達 部	篋
土 師 器	焼 c、丸坏
黒色土器 B	焼
龍泉系陶磁器	焼：I

S-52

土 師 器	焼 c、小皿 a (イト)
土師質土器	赤火鉢、ほうろく、鉢
肥前系陶磁器	焼付：焼、焼、丸坏、産
阿波系陶磁器	産地：ほうろく器、ほうろく、瓶
	土瓶蓋、山水土瓶
阿波系陶磁器	赤絵丸鏡、繪彩人形、京風焼、紅藍
土 製 品	土人形 (イヌ)
石 製 品	砥石 (矢吹)、石炭
瓦 類	軒平瓦
そ の 他	ざざえ籠

S-53

土 師 器	坏 a (イト)、小皿 a (イト)
白 磁	産地：小皿
阿波系陶磁器	土瓶?、行平
金 業 製 品	釘

S-54

土 師 器	坏 a?、小皿 a (ヘウ)、皿 a (イト)、丸坏、焼 c
黒色土器 A	鉢?、焼
瓦 質 土 器	餅付鉢、焼
内 産	焼：II×IV×V×VII、V×VII
	産地：磁片

S-56

土 師 器	坏 a、小皿 a (ヘウ)、丸坏
黒色土器 A	焼
黒色土器 B	焼
白 磁	焼：V×VII
	器：V×VII-b

S-57

土 師 器	手の字皿、焼 c
黒色土器 A	焼
土師質土器	焼

表 62 連歌屋 8 次 遺物一覧表 4

S-58

土 師 瓦 土 器	ほうろく
瓦 瓦 土 器	樽り鉢
白 磁 器	種：磁片
	種：IV-1a, 磁片
国 産 陶 器	丸瓶
国 産 磁 器	丸瓶、赤磁碗
中 国 陶 器	蓋：龍駒唐子、磁片
石 製 品	漆工加工品、磁石
瓦 瓦 類	サン瓦
そ の 他	貝

S-59

須 恵 器	書
土 師 器	瓶c, 小皿a (へう)
黒色土器B	磁片
瓦 瓦 類	種

S-60

須 恵 器	書
土 師 器	瓶c, 小皿a (へう)、大皿、箸b
黒色土器A	種
黒色土器B	種
瓦 瓦 類	種 丸瓦 (橋子・古代)、丸瓦 (磯目・古代)

S-61

須 恵 器	書、器
土 師 器	小皿a (へう)、瓶c、箸、箸b?、箸b、脚付杯
黒色土器B	種
十 郎 瓦 土 器	脚付鉢
白 磁 器	種：IV、XI-5
石 製 品	and? 碑
瓦 瓦 類	丸瓦 (橋子・古代)

S-62

土 師 器	種c
-------	----

S-63

須 恵 器	種1、書
土 師 器	丸瓦、種c
黒色土器B	鉢?
国 産 陶 器	徳、鉄駒唐子鉢、徳村、行平
国 産 磁 器	印羅子：丸鉢、丸瓶
石 製 品	臼
瓦 瓦 類	平瓦 (橋子・古代)

S-66

土 師 器	小皿a (へう)、丸坪
瓦 瓦 類	種

明瓦土

須 恵 器	環a、環、器?
土 師 器	環b, 小皿a (へう)、丸瓦、種c
瓦 瓦 類	種
国 産 陶 器	小皿
国 産 磁 器	染付：丸鉢、笠形皿、皿?
瓦 瓦 類	種 丸瓦 (古代)、平瓦 (古代)

明瓦土

土 師 器	環b?, 丸坪
国 産 陶 器	器? (古物)
白 磁 器	種：IX、磁片
石 製 品	行瓦片
瓦 瓦 類	種 平瓦 (近世?)

明瓦土

須 恵 器	環、環?
土 師 器	環a (へう)、環a (イト)、笠形皿 (イト)
土 師 瓦 土 器	白七輪、赤丸鉢、ほうろく、鉢
肥前系陶磁器	染付：プリント丸鉢、磁碗、方皿、皿 (赤書)、徳村 丸瓶、広葉鉢、鉢、小坪、丸瓶、印羅子丸瓶 器 色磁器丸鉢
国 産 陶 器	種鉢：土瓶、徳、華瓶、徳、徳鉢鉢、漆碗 印瓦、行平 山水土瓶
国 産 磁 器	紅土、色磁器瓶、赤磁し
白 磁 器	種：IV、IV-1a、V-4、V-1 × VII-2
中 国 陶 器	他器種：黄釉碗
土 師 瓦 土 器	土人形 (サン)、大皿型物人形、笠形皿 (ハマ)
石 製 品	種状ろう石
瓦 瓦 類	種 平瓦 (近世~)、丸瓦 (近世~)、斜平瓦 (近世~) サン瓦 (近世~)、斜丸瓦 (陶輪) 平瓦 (橋子・古代)
そ の 他	ガラス瓶 (ワイン?)、ガラス片

明瓦土

須 恵 器	書、鉢b
土 師 器	小皿a (へう)、丸瓦、小皿a (イト)、小皿b、皿c 種c、手の平皿
黒色土器A	種?
黒色土器B	小皿、瓶、脚片、坪
瓦 瓦 類	種
肥前系陶磁器	種：12、13
河内系系陶磁器	種：11b
土 師 瓦 土 器	種 七輪サン (近甲)、白七輪、大徳、器? 器 (残型)
瓦 瓦 類	種 鉢、箸
緑 輪 陶 器	皿
肥前系陶磁器	染付：四系碗、赤皿、丸瓶
国 産 陶 器	種鉢：土瓶?、鉢? (近世) 山水土瓶、唐津ハケ手人形、鉄駒唐子鉢
国 産 磁 器	プリント、がし、白磁碗
白 磁 器	種：II-4、IV-1a、II、IV、V、V × VII、VIII-1 × 3 V-1 × VII-2、XI-1、磁片 種：III-2、V-1 × VI-a、V × VI-b、II-1a × III × VIII-2 書徳：合子
中 国 陶 器	書：磁片
土 師 瓦 土 器	種 鉢、紫七輪
石 製 品	石磨片
金 属 製 品	坪
瓦 瓦 類	種 平瓦 (近世)、平瓦 (古代)、平瓦 (橋子・古代) 丸瓦 (二邊橋子・古代)、丸瓦 (橋子・古代) 丸瓦 (古代)

明瓦土

須 恵 器	器?
土 師 器	環a (イト)、小皿a、小皿a (へう)、鉢?
瓦 瓦 類	丸瓦?、高坪
肥前系陶磁器	他器種：唐行
河内系系陶磁器	種：11b
土 師 瓦 土 器	赤丸鉢、白丸鉢
国 産 陶 器	染付：そば唐子、龍鉢鉢、丸茶碗、小皿、丸鉢? 種鉢：土瓶、唐? ほうろく
国 産 磁 器	近世青磁器?、プリント皿?、赤磁碗
白 磁 器	種：V、磁片
中 国 陶 器	書：龍駒唐
瓦 瓦 類	種 丸瓦 (近世)、丸瓦 (橋子・古代)、斜丸瓦 (出)

(8) 大町遺跡 第2次調査

1. 調査の経緯

調査地は、太宰府市宰府3丁目2265-1.3、2267、2268、2270-1に所在する。土地は間口が狭く奥に長い短冊形地割を呈す。当該地番の地権者の申請に基づき平成10年1月16日から同月30日にかけて発掘調査を実施した。

調査は高橋学と山村信榮が担当した。

2. 調査の概要

江戸終末期から近代前期の廃棄物を処理したと考えられる土坑が複数ある。試掘の所見では2層の生活面と捉えていたが、表土近くに繰り返された複数の整地面があり、本来は部分的に6面以上の生活面があったと考えられる。そのほとんどが近代以降のものである。本調査区より高位置に当たる東側の連歌屋遺跡群での土層所見で、中世の遺構が形成される淡い黄色土地盤があるが、これに類似する層の断片が調査区東側の南側壁面で観察された。

このことから近世以降に繰り返し地盤が削平整地される以前には、中世の生活面があった可能性が指摘される。出土遺物の大半は近代の陶磁器片であるが、龍泉窯系青磁碗片1点、土師器摺り鉢片1点が出土しており先の推定を左証している。しかし、量的には極めて微々たるものであり、大規模な遺構の展開はなかった可能性がある。

3. 出土遺物

表土出土遺物 (fig103～105, pla70-1・2)

龍泉窯系青磁

碗(1) 1は底部の厚さが1.1cmもある厚手の底で、くすんだオリーブ色の釉がかかる。I類の碗片である。

肥前系磁器

蓋(2～5) 2～4は口径は9.0、器高1.9～2.6、つまみ径3.6～4.0cmを測る。濃紺色の呉須を用い、内外面に山水や草花文などを描く。5は径7.2、受け部径5.4cmを測る。天井部にはつまみがあったと思われ、朱色で「紀元二千六百年」「参拝記念」の文字をプリントする。

碗(6～11) 11までは丸碗になるものと考えられ、6は底径が4.3cm、7は4.3cm、10は4.8cmに復元される。8は口径10.0、器高5.0、高台径3.8cmに復元される。9は科学呉須による印版手で他は手書による呉須の彩色が施される。

坏(12,13) 12は底径が3.3cmに、13は口径5.3、器高3.0、高台径2.2cmを測る。12は青味の強い呉須で模様を描く。

筒碗(14,15) 14は口径7.0、器高4.9、高台径4.4cmに、15は口径7.6、器高6.2、高台径3.4cmに復元される。14は科学呉須で竹林などを描く。15は腰折れの筒碗で焼成不良で酸化して胎土が茶褐色を呈す。

大碗(16) 高台径が5.7cmを測り、削りこみで長い高台になっている。洗坏などになるものか。

皿(17～22) 17は口径11.7、器高2.4、高台径6.6cmに、18は口径11.1、器高2.5、高台径

6.6cmに、20は口径12.8、器高3.5、高台径4.1cmに、21は口径8.5、器高2.5、高台径4.6cmに復元される。18は口縁に茶褐色の口紅が施され、一部が掛けておりその部分に油煙が付着している。明るい紺色の呉須で彩色される。17は科学呉須を使ったプリント柄である。19は高台径が7.3cmを測り、印判手のくすんだ紺色の彩色が施される。22は口径14.0、器高3.9、高台径8.1cmに復元される菊皿で光沢のある青白色を呈す。

鉢(23~26) 23は口径15.2、器高4.9、高台径8.9cmに、25は口径14.8、器高6.8、高台径10.5cmに復元される。23は凹型蛇の目高台で玉縁の口縁を持つ。25は黄、緑、黒、紺色、を用いた色絵で塗りムラが目立つ。口縁の内側に段があり、重ね鉢である。26も凹型蛇の目高台を持ち、墨色の呉須で草花文を描く。底径は6.7cmを測る。

国産陶器

瓶(27) いわゆる山水土瓶で、茶、緑、黄色で彩色される。内面にロクロ目が残る。

すり鉢(28,29) 28は高台径12.4cmを測る。内底には放射状のすり目があり高台の畳み付け面とともにかなり磨耗している。29は玉縁の口縁を持ち、暗茶黒色の釉を施す。

甕(30,31) 30は胴部片で、外面に隆起線による文様がある。胎土は暗茶灰色を釉は暗茶褐色を呈す。31は格子目のタタキ目を残し、胎土は暗茶灰色を、釉は暗灰褐色を呈す。

土師器

小皿(32) 口径6.5、器高1.0、底径3.8cmに復元される。胎土は0.2cmほどの薄手で回転イト切りが残る。ナデは丁寧。近世から近代の所産か。

土師質土器

すり鉢(33) 外面に連続した指頭圧痕が内面にハケ目を下地にすり目を施している。表面は淡灰褐色、芯は灰黒色を呈す。

釜(34) 型を用いた成形で内面には布目を残している。外面は黄褐色、内面は淡茶褐色を呈す。

ガラス製品

薬瓶(35) 型成形によるもので横に合わせ目が見られる、上下は空いており、体部に「EYELOTION」「ROHTO」のロゴが入り、点眼式の目薬瓶であったことが知られる。淡青色の透明ガラスである。

石製品

石鐮(36) 10.5×6.1×1.4cmを測り、緑色片岩を素材に側面から打ち欠いて撥状に成形している。法量的には短い部類に属し、縄文晩期頃の所産と考えられる。

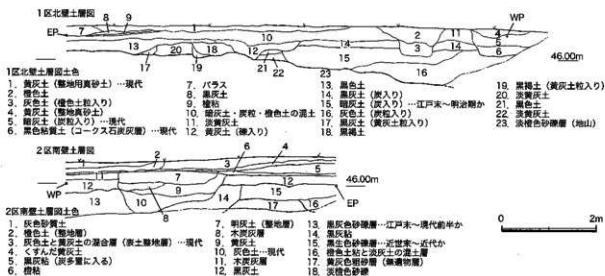
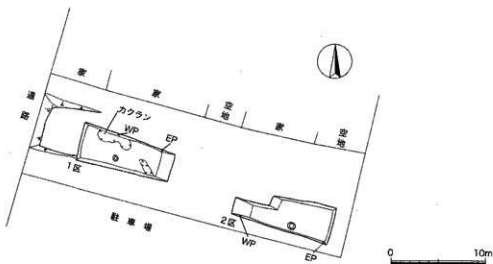


fig102 大町2次調査遺構全体図 (1/400)、土層図 (1/80)

表 63 大町2次 遺物一覧表

表土	
土師器	小皿 a (中世後半~)
肥前系陶磁器	除付:丸鉢、駒形碗、小皿、蓋、鉢 丸鉢、赤絵鉢
瓦片陶器	鹿角すり鉢、大甕、筒茶碗、山水土甕
磁産磁器	皿、蓋、箸皿、鉢、椀
その他	ガラス容器 (目録参照)

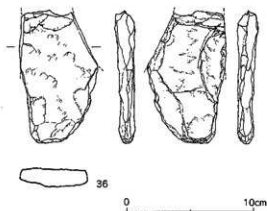


fig103 大町2次表土石製品実測図 (1/3)

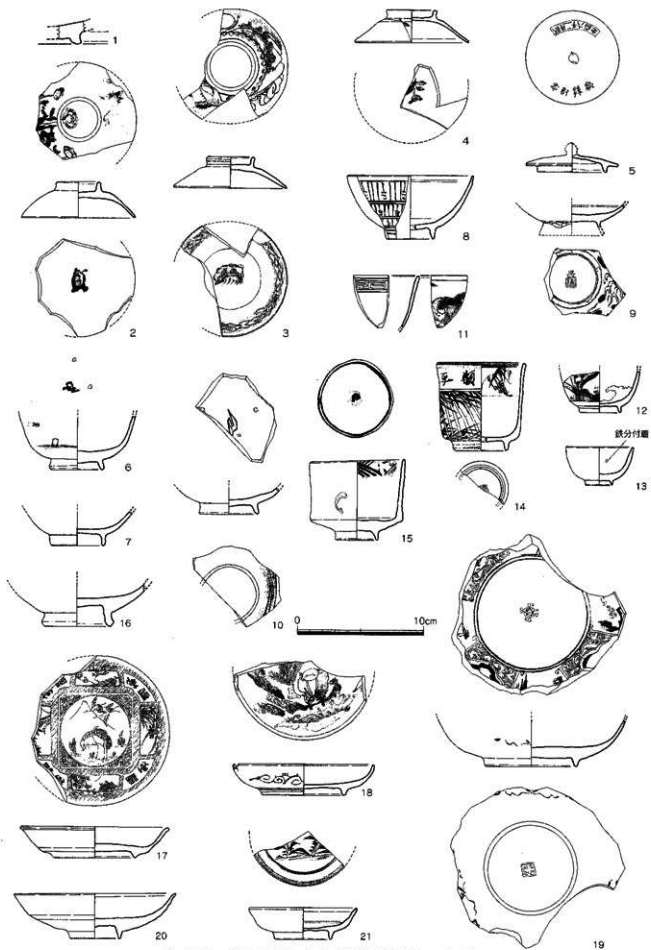
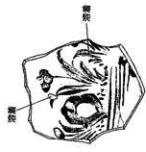
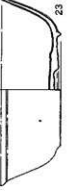
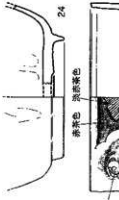


fig104 大町2次表土出土遺物実測図1 (1/3)



22

23



24

25



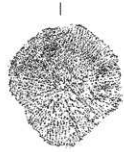
26



27

羽色
深茶褐色
灰褐色
深茶褐色
深茶褐色
深茶褐色

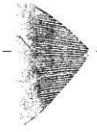
黄色
绿色
褐色
(灰褐色)
深褐色



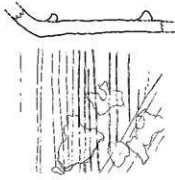
28



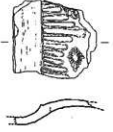
29



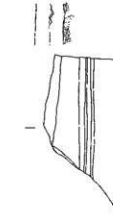
30



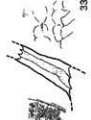
31



32



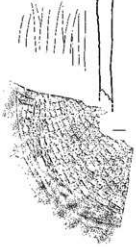
33



34



35



36



fig105 大町2次表土出土遺物実測図2 (1/3)

第4章 調査の総括

今回報告した連歌屋遺跡での調査の主要な所見として、以下のことが挙げられる。

- 1 遺跡の面的な使用の開始は12世紀を前後する時期に想定される。
- 2 ほとんどの場所で13世紀から14世紀にかけて土砂堆積を伴う遺構の形成が活発化している。
- 4 江戸後期から近代にかけての時期に、穴を掘って物を大量廃棄する行為が頻繁におこなわれている。
- 5 古代から近世において形成された遺構が、現在の土地の区割りに近い方位の中で展開している。

特に1の問題は安楽寺天満宮（現太宰府天満宮）の境内地整備の問題と大宰府III期条坊の敷設との係わりが想定され、都市史にとっても重要なことである。5の所見とも併せ、ここでは本報告とそれに関係する12世紀前後の周辺遺跡の様相を整理しておきたい。

まず、区画にからむ溝について整理する。連歌屋1次の南北溝1SD200は、同遺構の覆土である淡灰土から多少の土器が出土し、XII期以降に置かれる。連歌屋6次の南北溝6SD050は、多少の土器の出土から12世紀中頃以降の埋没と考えられる。また、2次調査では幅6mの褐色土とされる南北の溝状の落ちがある。遺物は12世紀中頃以降のものを含む。馬場2次の南北溝S-1は、調査時点での所見では上層が12世紀後半の、下層は12世紀前半から中頃の遺物が出土しているという（未報告）。

次に、整地に係わる情報を見る。連歌屋8次整地層8SX060,061は多少の土器から、12世紀を前後する頃に置かれると考えられる。天満宮1次土壇1SX010と整地層は多量の土器が出土し、XIII期（12世紀前半から中頃）に置かれる。天満宮3次茶灰色土は多少の土器が出土し、その時期は12世紀中頃に考えられている。

遺物が示す時期はあくまでも遺構が埋没していった段階で混入したものであり、遺物の少ない遺構は帰属時期については慎重に検討しなければいけないが、この情報から天満宮境内地が積極的かつ大規模に手が加えられた12世紀中頃には連歌屋から馬場にかけての広いエリアで、区画に関係する溝と低い土地を埋めた整地がおこなわれたことが復元される。

現在の天満宮参道の傾きはN-0-56'-E、小鳥居小路の道そのものの傾きはN-8-45'-E、周辺の土地区画の傾きはN-7-22'-Eであり、東西方向の参道が正方位に近く、南北に交差する小鳥居小路は北に対し東に若干傾斜していることがわかる。

発掘調査で確認された12世紀の区画に係わる溝の任意中点による傾きは馬場2次S-1(W10.5m,X57.096,Y-43,237)と連歌屋1次1SD200(W8.5m,X57.436,Y-43,200)間はN-6-13'-Eで、連歌屋1次1SD200と連歌屋6次6SD050(W6.5m,X57.452,Y-43,197)間はN-10-37'-Eで、連歌屋2次褐色土(W6m,X57.483,Y-43,187)間はN-17-53'-Eであり、北に行くほど東へ偏向している様相が見られる。南端の馬場2次S-1と北端の連歌屋2次褐色土(区画施設か)間ではN-7-22'-Eであり、現地形の区画割の傾きにほぼ近い数値となる。

13世紀後半から14世紀前半頃の所産と考えられる建物の連1SB010やその東側にある南北溝の連1SD035は前者がN-7-42'-E、後者がN-8-Eの傾きであり、12世紀段階に設定された土地区画の影響を受けているものと判断される。この時期には12世紀の区画位置の真上かやや西側に連1SD227や連6SD005などが形成され（連続性や傾きに付いては調査区が狭小のため不明）、区画としてその枠組みが継承されていた可能性があり、現代に残された区画、小鳥居小路の成立との係わりが注目される。

ところでこの平安時代に遡る若干東に傾く南北の区画は、近代までは斎垣（いぎ）の延長とされ、かつてはこのラインから東が安楽寺天満宮の境内地であったという認識があった。天満宮が所蔵する明応7（1498）年から江戸中期頃に成立したとされる『天満宮境内図』にはこの調査地周辺に「安養院」や「遍智院」などの同寺社関連の建物が描かれている。この場所は江戸時代には権宮司小島居家の屋敷地となっており、このこともあって結界の内側との認識があったものと考えられる。鎌倉期以降は整地が繰り返され、廃棄遺構や柱穴が活発に形成されている状況に比較して、12世紀段階においては区画施設以外の小規模な遺構の展開が顕著でない様相といえ、同時期の条坊内での区画施設の周辺部とは著しく異なる。このことはこの区画施設（連続する溝）が持つ意味を考える上では重要なことであり、安楽寺天満宮の境内地外面線の可能性も含めて検討すべき状況といえよう。

また、近世については18世紀以降の遺物が広範囲で出土している。遺構によっては幕末から明治前半期にまたがる時間幅を持つ遺物群が廃棄されたものがあり、江戸から明治に移行した時期に大量廃棄を前提とする生活空間が拡大したことを示している。このことは新政府の宗教施策により社家が解体していく中で、広大な屋敷地が小規模な区画に分割使用されたことを想定させる。種々の制約があり現在の敷地境の発掘調査が不可能な状況ではこの敷地分割についてはすべてを理解するには至らなかった。

近世から近代にかけての建物には連歌屋2次の2SB010と8次の8SB030.050が挙げられる。前者の建物の振れはN-6° 0′ -Eで北に対し東に振れており、後者は振れが0°に近い。前者は平安時代の土地区画のラインを踏襲したと考えられる小島居小路に面しており、この小路の振れに近い数値を持ち、後者は現参道の北150mの位置でそれと平行に走る東西道路に面しており、この道がほぼ正方位をとっていることと関連して、建物の振れが正方位をなすものと理解される。この正方位の振れは現状では古代の区画や方向性にかかわる遺構には見られないため、それ以降の所産であることも考えられる。現参道の設定時期の考察と絡み、今後の当該地域における都市構造の形成における画期を成す事象の一つといえる。

1. 調査の経緯

調査地は、太宰府市坂本1丁目1001番地に所在する。この場所は博多と太宰府とを結ぶ旧道にあたり、明治期の国道開設以前までは、博多からの往来が太宰府と二日市方面に分岐する地点であった。関谷の名称があり、かつて関所が置かれたという話が伝わっている。御笠川の方位を変える変換地点にあたり、天満宮への参拝者がこの場所で河川の砂を身に振り掛けて禊をおこなった場所でもある。境界との認識があったためここに石鳥居と石灯籠が建立されている。

平成8(1996)年5月24日に鳥居を通過していたトラックがこの石鳥居の中貫に接触し、中貫が中央部分から折損、落下する事故が発生した。鳥居は文久2(1862)年の銘を持つもので、建立から解体修理された経緯がなく、解体修理に伴って立会調査を実施した。調査は解体、路面の掘削と基礎工事、再建の各段階で実施した。対象面積は約54平方メートルであった。

調査は解体立会が1996年6月4日、同年10月24日、同月31日、路面掘削立会が1997年2月3日、再建立会、測量は同年6月21日に実施した。

調査は狭川真一、城戸康利、中島恒次郎、高橋学、宮崎亮一、山村信榮、上村英士(現筑後市教育委員会)が担当した。

2. 調査の概要

鳥居を構成する部材は笠木、額、中貫、左右外貫、左右2対の楔石、左右柱、礎石、各2枚セット、総4枚の礎石を被覆する板状の石材、鳥居下の路面を覆う板状の石材などからなる。笠木は3分割される。路面を覆う板状の石材は現道の舗装の下に埋められていた。

部材から復元される鳥居の法量は高さ(礎石の被覆石上面から笠木の反り増し頂点まで)6.9m、柱根元の芯心間は5.2m、柱上部の芯心間は4.9m、笠木幅は9.4mである。石材は花崗岩で、部材の重量はクレーンで測定した数値では、笠木中央が3.1t、左右笠木が4.1t、南柱と外貫が8.3t、北柱と外貫が8.6tであった。柱には博多(西)側に銘があり、北柱には「文久二年歳在壬戌五月穀旦」とあり、南柱には「筑前国主左近衛権中将従四位下源朝臣斎博建」と彫られる。

石材表面は成形時の粗い凹凸を若干残したもので、明治期以降の鳥居に採用された部材表面の研磨は施されていない。

事故により折れた中貫は、今回の修理によって新規に制作されたものと差し替えられた。

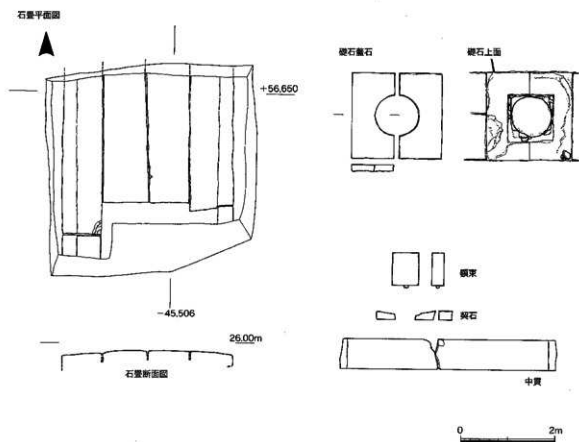
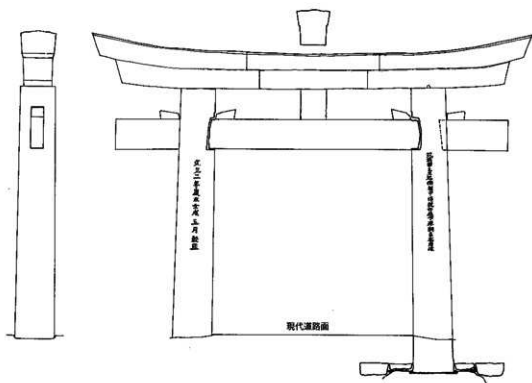


fig106 太宰府天満宮参道6次調査鳥居実居実測図 (1/40)

写 真 图 版

連歌屋 1 次

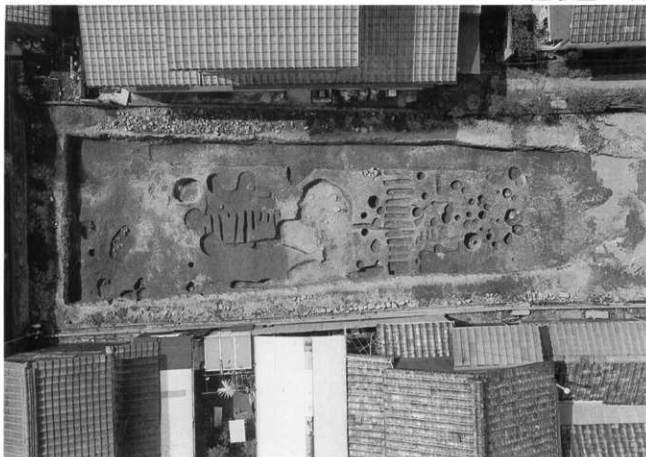


Pla1-1 連歌屋遺跡第 1 次調査 調査区上空より南を望む

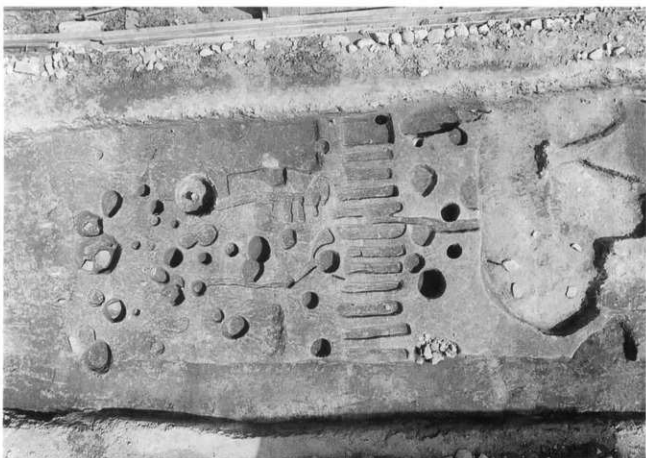


Pla1-2 連歌屋遺跡第 1 次調査 調査区俯瞰（上が北）

連歌屋 1 次



Pla2-1 連歌屋遺跡第 1 次調査 調査区東側第 1,2 面 (下が北)



Pla2-2 連歌屋遺跡第 1 次調査 調査区中央第 1,2 面 (上が北)

連歌屋 1 次



Pla3-1 連歌屋遺跡第 1 次調査 調査区西側第 2 面（東側）



Pla3-2 連歌屋遺跡第 1 次調査 調査区第 3 面（東側）

連歌屋 1 次



Pla4-1 1SX016(南より)



Pla4-2 連歌屋遺跡第1次調査 調査区第1,2面(西側)

連歌屋 1 次



Pla5-1 1SD005 (西より)



Pla5-2 1SD200,240 (西より)



Pla6-1 1SK024 (東より)

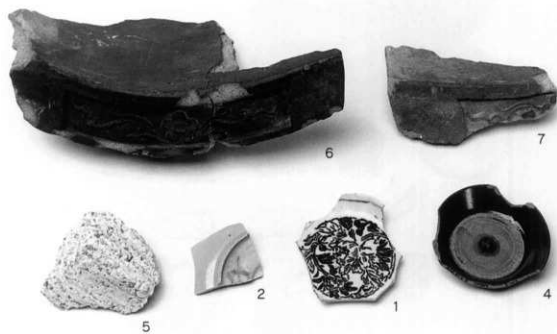


Pla6-2 1SK007 出土遺物 1

連歌屋 1 次



Pla7-1 1SK007 出土遺物2

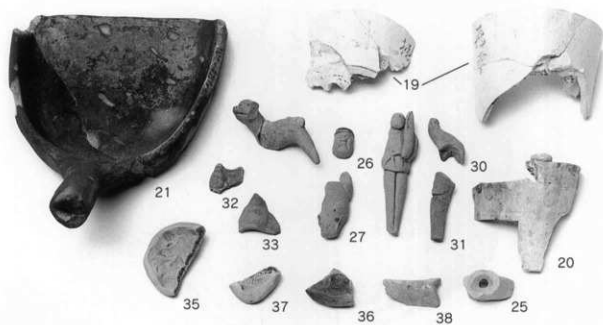


Pla7-2 1SK008 出土遺物

連歌屋 1 次

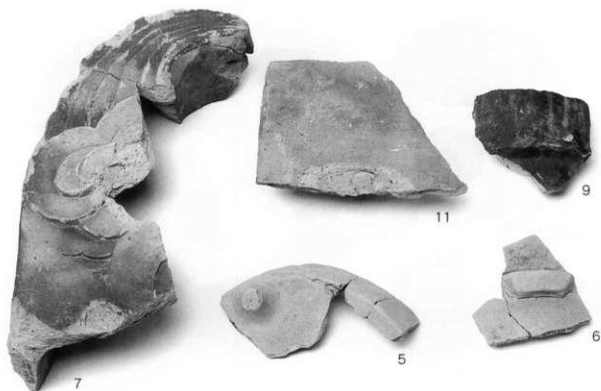


Pla8-1 1SK009 出土遺物 1



Pla8-2 1SK009 出土遺物 2

連歌屋 1 次



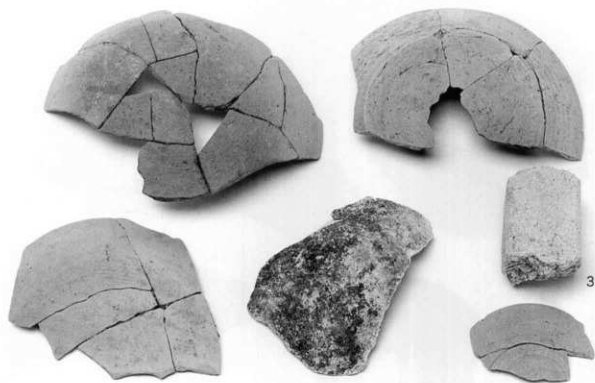
Pla9-1 1SK022 出土遺物



Pla9-2 1SK024 出土遺物



Pla10-1 1SD005 出土遺物



Pla10-2 1SD230 出土遺物

連歌屋 1 次



Pl11-1 暗灰土出土遺物



Pl11-2 淡灰土出土遺物



Pl12-1 連歌屋遺跡第2次調査 東区上面 (北西より)



Pl12-2 連歌屋遺跡第2次調査 東区上面 (西より)

連歌屋 2次



Pla13-1 連歌屋通跡第2次調査 東区下面 (北西より)



Pla13-2 連歌屋通跡第2次調査 東区下面 (南西より)

連歌屋 2次



Pl14-1 連歌屋遺跡第2次調査 西区第1面(北より)



Pl14-2 連歌屋遺跡第2次調査 西区第1面中央付近(北より)

連歌屋 2 次



Pla15-1 連歌屋遺跡第2次調査 西区第2面（北より）



Pla15-2 連歌屋遺跡第2次調査 西区第2面中央付近（北より）

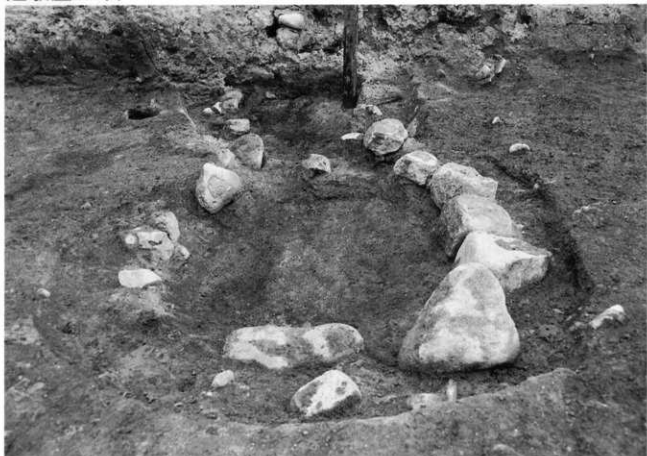


Pla16-1 連歌屋遺跡第 2 次調査 西区第 3 面 (北より)



Pla16-2 連歌屋遺跡第 2 次調査 西区第 3 面中央付近 (北より)

連歌屋 2次



Pl17-1 2SX001 (南より)



Pl17-2 2SX001 (西より)

連歌屋 2次



Pl18-1 2SD035 (北・上)



Pl18-2 2SE015 (南・下)

連歌屋 2次



Pla19-1 2SE015 完掘時 (南西より)



Pla19-2 2SK020 (南より)

2SB010g



2SB010g



2SB010 ピットdウラゴメ



2SB010g



2SB010g



2SB010 赤茶色粘土



Pla20-1 2SB010 出土遺物



14



13



15



23



18



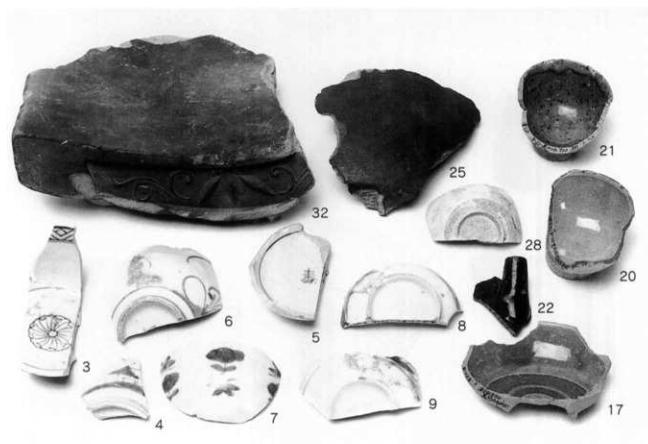
22

Pla20-2 2SK015 黒褐土出土遺物 1

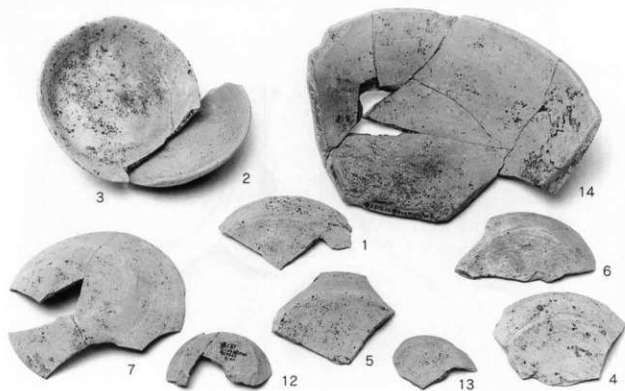
連歌屋 2次



Pla21-1 2SK015 黒褐土出土遺物 2

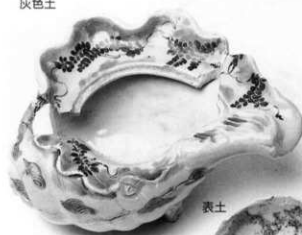


Pla21-2 2SK020 黒褐土出土遺物



Pla22-1 2SK020 暗褐色土出土遺物

灰色土



表土



表土

3

1

2

Pla22-2 灰色土、表土出土遺物

連歌屋 2 次

灰色土



3

表土



2

表土



1

Pla23-1 灰色土、表土出土遺物



2

Pla23-2 表土出土遺物

連歌屋 3 次



Pla24-1 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区遠景 (北西から撮影)

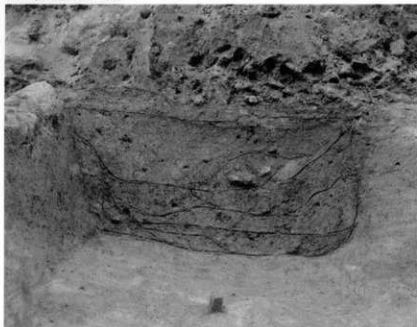


Pla24-2 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区全景 (北から撮影)



Pla24-3 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区全景 (南から撮影)

連歌屋 3 次



Pla25-1 3SX053・3SD054 土層観察 (東から撮影)



Pla25-2 3SX005 土層観察 (東から撮影)



Pla25-3 3SX005 第1層除去状況 (東から撮影)

連歌屋 3 次



Pla26-1 連歌屋遺跡第3次調査 調査区東壁北側土層状況 (西から撮影)



Pla26-2 連歌屋遺跡第3次調査 調査区東壁中央北側土層状況 (西から撮影)



Pla26-3 連歌屋遺跡第3次調査 調査区東壁中央部土層状況 (西から撮影)

連歌屋 3 次



Pla27-1 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区東壁中央南側土層状況 (西から撮影)



Pla27-2 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区東壁南側土層状況 (西から撮影)



Pla27-3 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区南壁東側土層状況 (北から撮影)



Pla28-1 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区南壁中央東側土層状況 (北から撮影)



Pla28-2 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区南壁中央西側土層状況 (北から撮影)



Pla28-3 連歌屋遺跡第 3 次調査 調査区南壁西側土層状況 (北から撮影)

連歌屋 4 次



Pla29-1 連歌屋遺跡第4次調査 調査区東部第I,II遺構面 全景（北から撮影）



Pla29-2 連歌屋遺跡第4次調査 調査区東部第III遺構面 全景（北から撮影）



Pla29-3 連歌屋遺跡第4次調査 調査区西部第I遺構面 全景（北から撮影）



Pla30-1 連歌屋遺跡第 4 次調査 調査区西部第 II 遺構面 全景 (北から撮影)

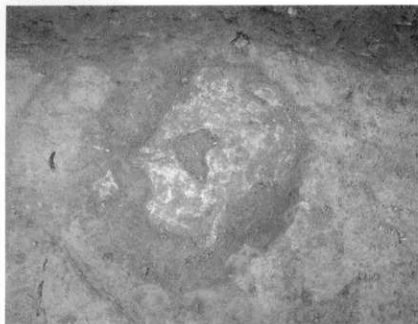


Pla30-2 連歌屋遺跡第 4 次調査 調査区西部第 III 遺構面 全景 (北から撮影)



Pla30-3 4SX020 銭検出状況 (東から撮影)

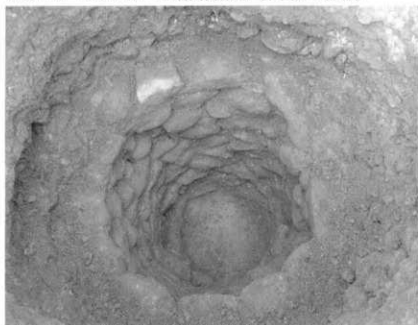
連歌屋 4次



Pla31-1 4SX045 検出状況（北から撮影）



Pla31-2 4SX045 土層断割観察（北西から撮影）



Pla31-3 4SE105 枠内完掘状態（北から撮影）

4SD050



3

Pla32-1 4SD050 出土遺物 瓦質火鉢

4SE105 暗黄茶粘質土

4SE105 明茶褐色土

4SX120



10

14

21

茶色土

4SX105 暗黄茶粘質土



6

9

4SK025

4SX060

4SE105 明茶褐色土

8

3

Pla32-2 4SK025、SX060、SE105、SX120、茶色土出土遺物

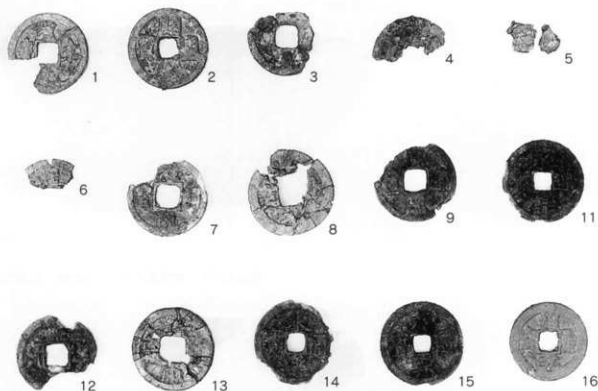
4SK025

4SD050

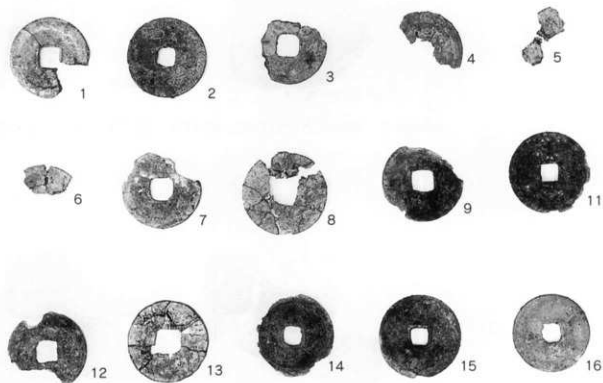


Pla32-3 4SK025、SD050 出土土師器杯・皿

連歌屋 4 次



Pl33-1 連歌屋遺跡第 4 次調査 出土銭貨 (表)



Pl33-2 連歌屋遺跡第 4 次調査 出土銭貨 (裏)

連歌屋 6 次



Pla34-1 連歌屋遺跡第6次調査 第1面(東より)

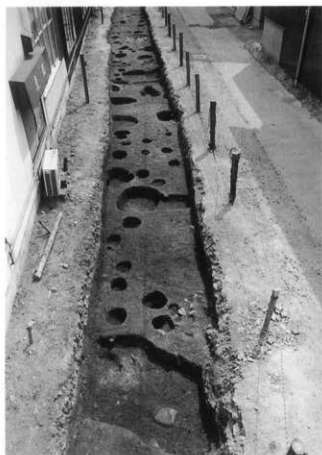


Pla34-2 連歌屋遺跡第6次調査 第3面(東より)



Pla34-3 連歌屋遺跡第6次調査 第4面(東より)

連歌屋 6次



Pla35-1 連歌屋遺跡第6次調査 第1面（西より）



Pla35-2 連歌屋遺跡第6次調査 第3面完掘時（西より）



Pla35-3 連歌屋遺跡第6次調査 第4面（西より）

連歌屋 6 次

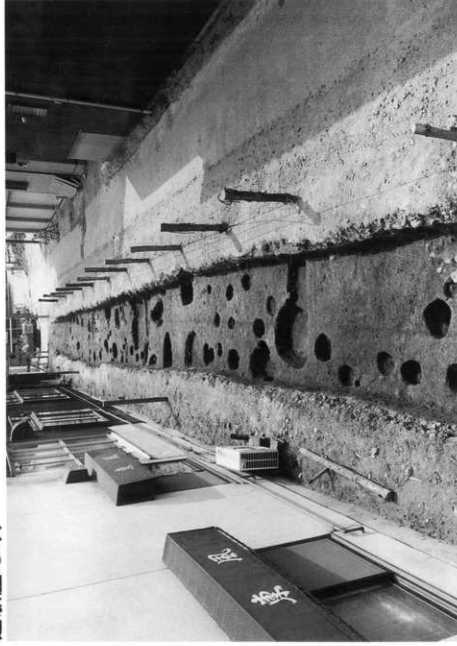


Pla36-1 連歌屋遺跡第6次調査 第1面(東より)



Pla36-2 連歌屋遺跡第6次調査 第4面(東より)

連歌屋 6次



Pl37-1 連歌屋遺跡第6次調査 第1面 (西より)



Pl37-2 連歌屋遺跡第6次調査 第4面 (西より)



Pla38-1 連歌屋遺跡第 6 次調査 第 4 面中央付近 (南西より)



Pla38-2 連歌屋遺跡第 6 次調査 第 3 面東側 (東より)

連歌屋 6次



Pla39-1 連歌屋遺跡第6次調査 第1面西側(東より)



Pla39-2 連歌屋遺跡第6次調査 第4面西側(東より)



Pla40-1 連歌屋遺跡第6次調査 B10区北壁土層 (南より)



Pla40-2 連歌屋遺跡第6次調査 11,12区北壁土層 (南より)

連歌屋 6 次



Pla41-1 連歌屋遺跡第 6 次調査 B8.9 区北壁土層 (南より)



Pla41-2 連歌屋遺跡第 6 次調査 B9.10 区北壁土層 (南より)

連歌屋6次



Pla42-1 連歌屋遺跡第6次調査 B7.8区北壁土層(南より)



Pla42-2 連歌屋遺跡第6次調査 B6区北壁土層(南より)

連歌屋 6次



Pla43-1 6SD005 (西より)



Pla43-2 6SD080.095 (西より)



Pla44-1 6SD080 (東より)



Pla44-2 6SD080 北壁土層 (南より)

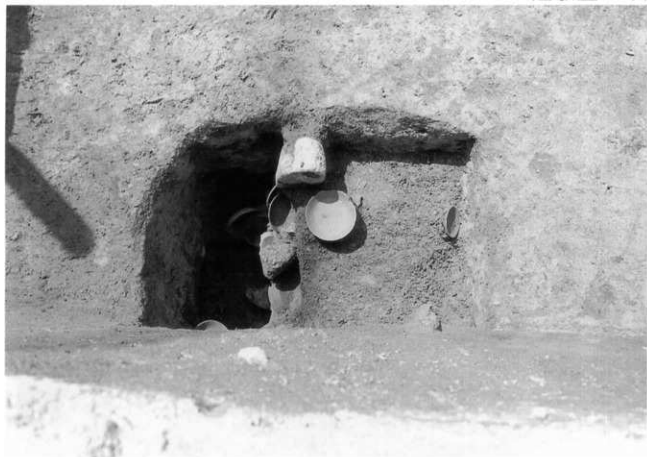
連歌屋 6次



Pla45-1 6SK035 (北より)



Pla45-2 6SK025 (北より)



Pla46-1 6SK105 (東より)



Pla46-2 6SK105 (南より)

連歌屋 6次



Pla47-1 6SK057 (南より)



Pla47-2 6SK057 完掘時 (南より)



Pla48-1 6SK010 (北より)



Pla48-2 6SK010 断面 (北より)

連歌屋 6次

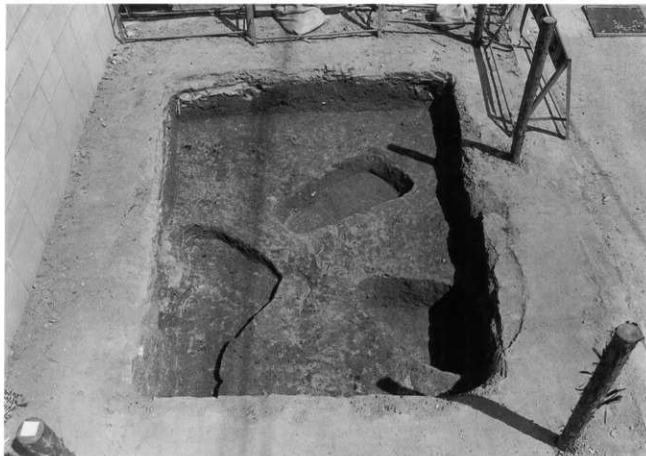


Pla49-1 6SK010 完掘時 (北より)



Pla49-2 6SK105 (西より)

連歌屋 6 次



Pla50-1 連歌屋遺跡第6次調査 B2区第1面(西より)



Pla50-2 連歌屋遺跡第6次調査 B2区第3面(西より)

連歌屋 6 次



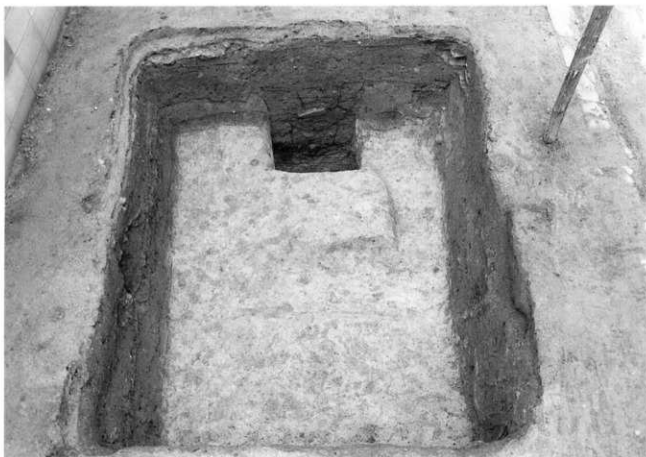
Pla51-1 連歌屋遺跡第6次調査 B2区第4面(西より)



Pla51-2 連歌屋遺跡第6次調査 B2区第5面(西より)



Pla52-1 連歌屋遺跡第 6 次調査 B2 区第 6 面 (西より)

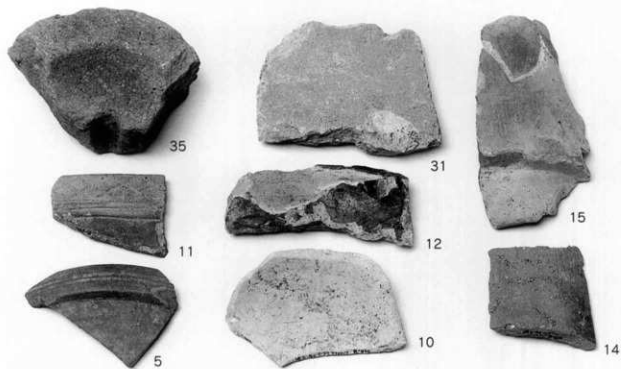


Pla52-2 連歌屋遺跡第 6 次調査 B2 区完掘時 (西より)

連歌屋 6 次



Pla53-1 6SD050 出土遺物



Pla53-2 6SK057 出土遺物

連歌屋 7 次



Pla54-1 連歌屋遺跡第 7 次調査 全景 (東より)

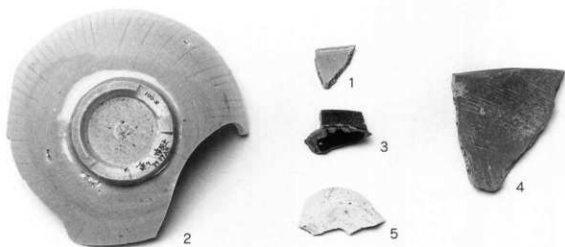


Pla54-2 連歌屋遺跡第 7 次調査 北壁土層 (南東より)

連歌屋 7 次



Pla55-1 連歌屋遺跡第7次調査 北壁土層狀況



Pla55-2 暗灰土出土遺物

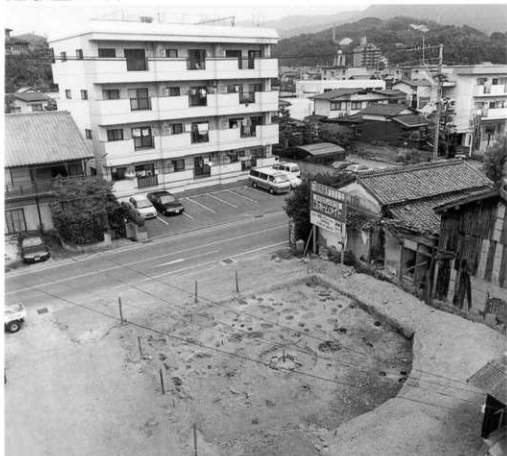


Pla56-1 連歌屋遺跡第 8 次調査 調査区周辺 (現場上空より東の天満宮を望む)



Pla56-2 連歌屋遺跡第 8 次調査 調査東区俯瞰 (上が北)

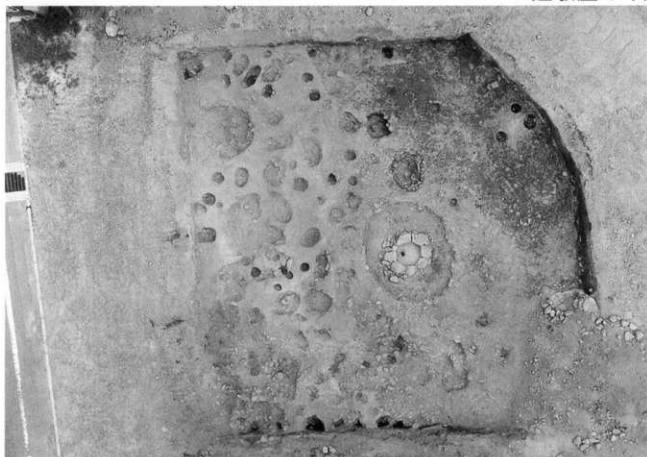
連歌屋 8 次



Pla57-1 連歌屋遺跡第 8 次調査 東区全景 (南西より)



Pla57-2 連歌屋遺跡第 8 次調査 東区全景 (南西より)



Pla58-1 連歌屋遺跡第 8 次調査 東区俯瞰 (下が北)

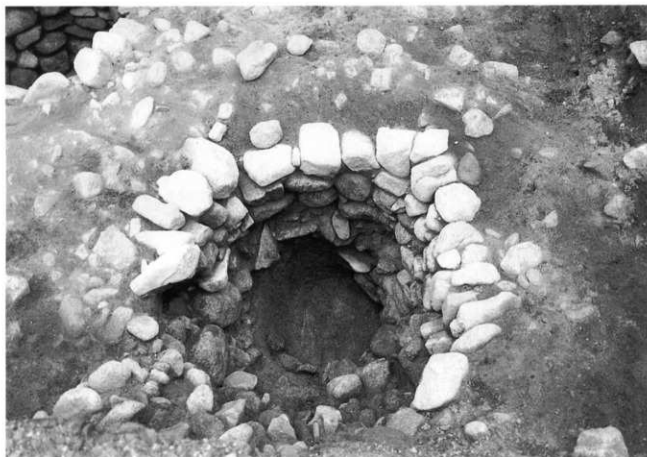


Pla58-2 連歌屋遺跡第 8 次調査 西区全景 (北より)

連歌屋 8 次



Pla59-1 SE001 検出時 (西より)



Pla59-2 8SE001 (東より)



Pla60-1 8SE001 完掘時 (北より)

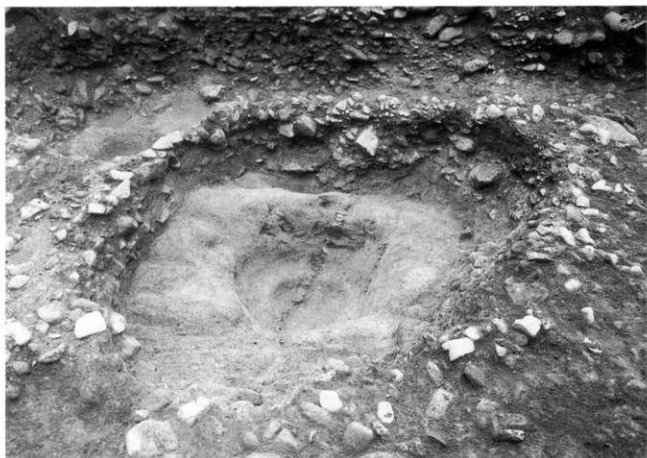


Pla60-2 8SE005 (東より)

連歌屋 8 次



Pla61-1 8SE010 (東より)



Pla61-2 8SE010 完掘時 (東より)



Pl62-1 8SX004 断面 (東より)

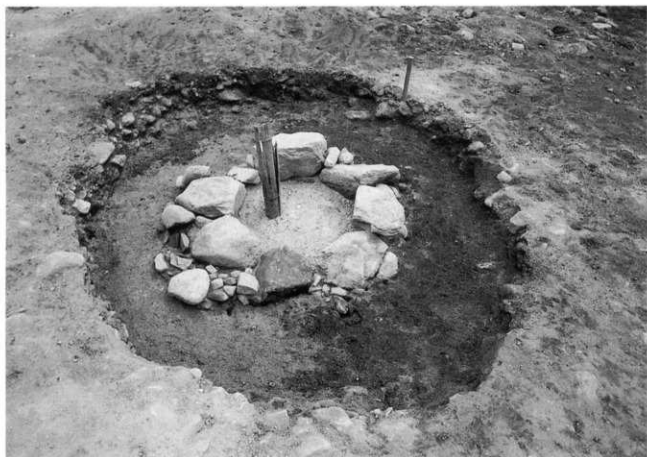


Pl62-2 8SK025 検出時 (北より)

連歌屋 8 次



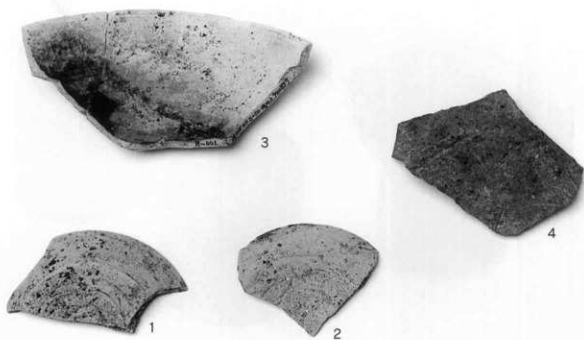
Pla63-1 8SX004



Pla63-2 8SE035 (西より)

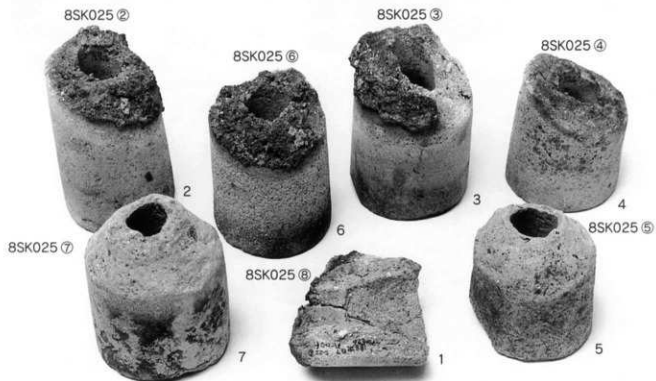


Pla64-1 8SK020 断面 (西より)

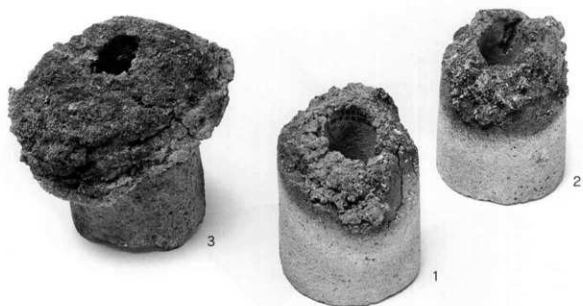


Pla64-2 8SK020 暗灰土出土遺物

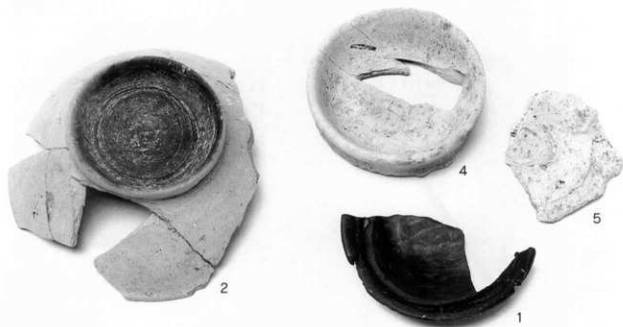
連歌屋 8 次



Pl65-1 8SK025 出土遺物



Pl65-2 8SX028 出土遺物

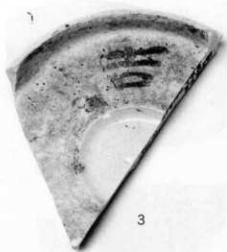


Pl66-1 8SX061 出土遺物



Pl66-2 8SX063 出土遺物

連歌屋 8 次



Pla67-1 黒灰土出土遺物

8SX063



黒灰土



黒灰土



黒灰土



黒灰土



黒灰土



Pla67-2 8SX063・黒灰土出土遺物



Pla68-1 大町遺跡第 2 次調査 調査区全景 (西より)



Pla68-2 大町遺跡第 2 次調査 北壁土層 (南東より)

大町 2 次



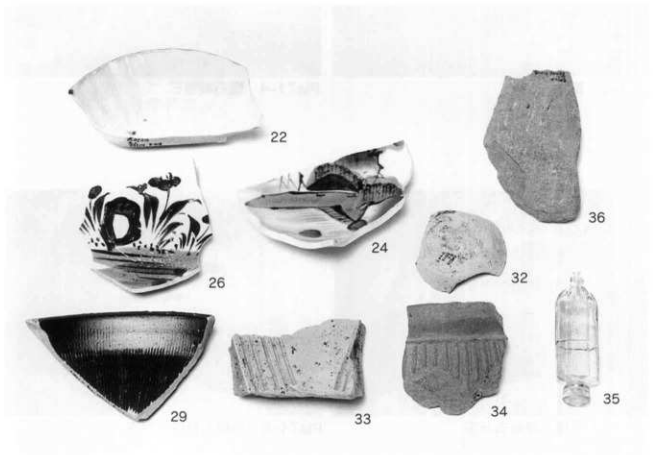
Pla69-1 大町遺跡第 2 次調査 南壁土層 (北東より)



Pla69-2 大町遺跡第 2 次調査 南壁中央部土層 (北より)



Pl70-1 表土出土遺物 1



Pl70-2 表土出土遺物 2

参道 6 次



Pla71-1 工事施工前



Pla71-2 西柱撤去時



Pla71-3 東柱下



Pla71-4 礎石被覆石



Pla71-5 東礎石柱除去状況

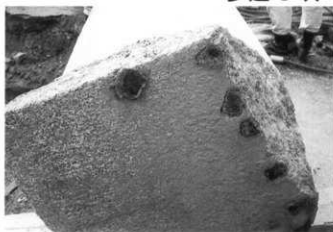


Pla71-6 西礎石柱除去状況

参道 6 次



Pla72-1 東柱撤去時 (西より)



Pla72-2 西柱下面



Pla72-3 鳥居下石敷き (南より)



Pla72-4 鳥居下石敷き (西より)



Pla72-5 改修前鳥居 (北より)



Pla72-6 改修後鳥居 (北より)

報告書抄録

ふりがな	れんがやいせき
書名	連歌屋遺跡 1
副書名	連歌屋遺跡第 1, 2, 3, 4, 6, 7, 8 次調査, 大町遺跡 2 次調査, 天満宮参道 6 次調査
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	68 集
編著者	山村啓隆, 高橋亨, 井上信正, 南江晴子, 坂本謙介
編集機関	太宰府市教育委員会
所在地	福岡県太宰府市観世音寺 1 丁目 1 番 1 号
発行年月日	2003 (平成 15) 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード	座標		調査期間		調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了	㎡	
れんがやいせき	太宰府市宇府 3 丁目 1179-2 地	402214		57040.000	-43190.000	199004	199809	676.9 (尾 1300.2)	宅地建設, 公共工事
所収遺跡名	遺跡種類	時代	主要遺構	主要遺物		特記事項			
連歌屋遺跡 第 1 次	集落	古代, 中世, 近世	竪立柱建物, 溝, 柱穴	土師器	陶磁器	瓦	平安後期に造成開始		
連歌屋遺跡 第 2 次	集落	古代, 中世, 近世	竪立柱建物, 溝, 井戸	土師器	陶磁器	瓦	近世に土圍り建物		
連歌屋遺跡 第 3 次	集落	古代, 中世, 近世	溝, 溝, 柱穴	土師器	陶磁器	瓦	平安後期の遺物出土		
連歌屋遺跡 第 4 次	集落	古代, 中世, 近世	井戸, 溝, 柱穴	土師器	陶磁器	瓦	鎌倉後期に土圍り造成		
連歌屋遺跡 第 6 次	集落	古代, 中世, 近世	土坑, 溝, 柱穴	土師器	陶磁器	瓦	平安後期に造成開始		
連歌屋遺跡 第 7 次	集落	中世, 近世	溝	土師器	陶磁器	瓦	鎌倉時代の落ち状遺構あり		
連歌屋遺跡 第 8 次	集落	古代, 中世, 近世	竪立柱建物, 塀, 柱穴	土師器	陶磁器	瓦	平安後期に造成開始		

ふりがな	ふりがな	コード	座標		調査期間		調査面積	調査原因		
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了	㎡		
おおまいせき	太宰府市									
大町遺跡	宇府 3 丁目 2265-1 地	402214		57390.000	-43300.000	19980116	19980130	45.3	集合住宅建設	
所収遺跡名	遺跡種類	時代	主要遺構	主要遺物		特記事項				
大町遺跡 第 2 次	集落	中世, 近世, 近代	遺物倉庫			石器	土師器	陶磁器	瓦	縄文の遺物出土

ふりがな	ふりがな	コード	座標		調査期間		調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了	㎡	
だがいよてんまんぐうざんどう	太宰府市								
太宰府天満宮参道	坂本 1 丁目 1001 地	402214		56550.000	-45506.000	19960604	19970621	68	解体修理
所収遺跡名	遺跡種類	時代	主要遺構	主要遺物		特記事項			
太宰府天満宮参道 第 6 次	建造物	近代	石鳥居			破壊による解体修理			

太宰府市の文化財 第 68 集

連歌屋遺跡 1

連歌屋遺跡 1・2・3・4・6・7・8 次調査
大町遺跡 2 次調査
天満宮参道 6 次調査

平成 15 年 (2003) 年 3 月

編集 太宰府市教育委員会
発行 〒 818-0198
福岡県太宰府市観世音寺 1 丁目 1-1
印刷 株式会社 三光
〒 812-0015
福岡市博多区山王 1 丁目 14-4

印刷仕様:
画像スクリーン線数 250 線
アルミ PS 版使用
CD-ROM 仕様:
Macintosh/Windows ハイブリット版
画像データ書き込みは Acrobat Reader 4.0 を使用



その
まじり
し